2021年度
キャリアデザイン学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2021/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

基幹科目_必修【C7040】キャリアデザイン学入門［梅崎　修、寺崎　里水、荒川　裕子］春学期 1
基幹科目_必修【C7001】【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（A-H）［仲　修平］秋学期 2
基幹科目_必修【C7002】【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（I-P）［大倉　韻］秋学期 3
基幹科目_選択必修（調査法）【C7003】キャリア研究調査法（質的調査）［池田　心豪］春学期 4
基幹科目_選択必修（調査法）【C7004】キャリア研究調査法（質的調査）［濱中　義隆］春学期 5
基幹科目_選択必修（調査法）【C7005】キャリア研究調査法（質的調査）［佐藤　恵］春学期 6
基幹科目_選択必修（調査法）【C7006】キャリア研究調査法（質的調査）［田中　研之輔］春学期 7
基幹科目_選択必修（調査法）【C7007】キャリア研究調査法（質的調査）［西村　純］春学期 8
基幹科目_選択必修（調査法）【C7008】キャリア研究調査法（質的調査）［前浦　穂高］春学期 9
基幹科目_選択必修（調査法）【C7009】キャリア研究調査法（質的調査）［徳安　慧一］春学期 10
基幹科目_選択必修（調査法）【C7010】キャリア研究調査法（質的調査）［井上　公人］春学期 11
基幹科目_選択必修（調査法）【C7011】キャリア研究調査法（質的調査）［山﨑　正枝］春学期 12
基幹科目_選択必修（調査法）【C7012】キャリア研究調査法（量的調査）［安田　節之］春学期 13
基幹科目_選択必修（調査法）【C7013】キャリア研究調査法（量的調査）［濱中　義隆］春学期 14
基幹科目_選択必修（調査法）【C7014】キャリア研究調査法（量的調査）［井上　公人］春学期 15
基幹科目_選択必修（調査法）【C7015】キャリア研究調査法（量的調査）［熊谷　智博］春学期 16
基幹科目_選択必修（調査法）【C7016】キャリア研究調査法（量的調査）［伊藤　慎悟］春学期 17
基幹科目_選択必修（調査法）【C7017】キャリア研究調査法（量的調査）［齋藤　嘉孝］春学期 18
基幹科目_選択必修（調査法）【C7018】キャリア研究調査法（量的調査）［長瀬　毅］春学期 19
基幹科目_選択必修（調査法）【C7019】キャリア研究調査法（量的調査）［坂爪　洋美］春学期 20
基幹科目_選択必修（調査法）【C7020】キャリア研究調査法（量的調査）［坂田　哲人］春学期 21
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7050】発達・教育キャリア入門Ａ［大塚　類］春学期 22
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7051】発達・教育キャリア入門Ｂ［田澤　実］秋学期 23
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7052】発達・教育キャリア入門Ｃ（生涯学習入門Ⅰ）［久井　英輔］春学期 24
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7053】発達・教育キャリア入門Ｃ（生涯学習入門Ⅰ）［朝岡　幸彦］春学期 25
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7055】発達・教育キャリア入門Ｄ（生涯学習入門Ⅱ）［久井　英輔］秋学期 26
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7056】発達・教育キャリア入門Ｄ（生涯学習入門Ⅱ）［朝岡　幸彦］秋学期 27
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7058】ビジネスキャリア入門Ａ［妹尾　渉］秋学期 28
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7059】ビジネスキャリア入門Ｂ［湯川　志保］春学期 29
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7060】ビジネスキャリア入門Ｃ［中野　貴之］春学期 30
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7061】ビジネスキャリア入門Ｄ［藤井　辰紀、合田　剛、北原　成憲］秋学期 31
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7062】ライフキャリア入門Ａ［田中　研之輔］春学期 32
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7063】ライフキャリア入門Ｂ［齋藤　嘉孝］秋学期 33
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7064】ライフキャリア入門Ｃ［安田　節之］春学期 34
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7065】ライフキャリア入門Ｄ［金山　喜昭］秋学期 35
基幹科目_選択 【C7080】労働法［砂押　以久子］秋学期 36
基幹科目_選択 【C7081】ファシリテーション論［鈴木　まり子］春学期 37
基幹科目_選択 【C7082】若者の自立支援［大山　宏］秋学期 39
基幹科目_選択 【C7083】職業選択論Ⅰ［上西　充子］春学期 40
基幹科目_選択 【C7084】ライフコース論［髙崎　美佐］秋学期 41
基幹科目_選択 【C7085】生活設計論Ⅰ（社会保障）［上田　将史］春学期 42
基幹科目_選択 【C7086】生活設計論Ⅱ（生活設計）［林　奈生子］秋学期 43
基幹科目_選択 【C7087】キャリアモデル・ケーススタディ［熊谷　智博］秋学期 44
基幹科目_選択 【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ［梅崎　修］春学期 45
展開科目_選択必修（体験型）【C7100】キャリアサポート事前指導［廣川　進］春学期 46
展開科目_選択必修（体験型）【C7102】キャリアサポート事前指導［児美川　孝一郎］春学期 47
展開科目_選択必修（体験型）【C7103】キャリアサポート事前指導［荒川　裕子］春学期 48
展開科目_選択必修（体験型）【C7104】キャリアサポート事前指導［田澤　実］春学期 49
展開科目_選択必修（体験型）【C7106】キャリアサポート実習［児美川　孝一郎］秋学期 50
展開科目_選択必修（体験型）【C7107】キャリアサポート実習［田澤　実］秋学期 51
展開科目_選択必修（体験型）【C7108】キャリアサポート実習［荒川　裕子］秋学期 52
展開科目_選択必修（体験型）【C7109】キャリアサポート実習［廣川　進］秋学期 53
展開科目_選択必修（体験型）【C7114】キャリア体験事前指導（A・B コース）［中野　貴之］春学期 54

展開科目_選択必修（体験型）【C7115】キャリア体験事前指導（A・B コース）［酒井　理］春学期 55
展開科目_選択必修（体験型）【C7116】キャリア体験事前指導（A・B コース）［田中　研之輔］春学期 56
展開科目_選択必修（体験型）【C7117】キャリア体験事前指導（A・B コース）［松浦　民恵］春学期 57
展開科目_選択必修（体験型）【C7118】キャリア体験事前指導（C コース）［山岡　義卓］春学期 58
展開科目_選択必修（体験型）【C7119】キャリア体験学習（A・B コース）［中野　貴之］秋学期 59
展開科目_選択必修（体験型）【C7120】キャリア体験学習（A・B コース）［野中　利明］秋学期 60
展開科目_選択必修（体験型）【C7121】キャリア体験学習（A・B コース）［田中　研之輔］秋学期 61
展開科目_選択必修（体験型）【C7122】キャリア体験学習（A・B コース）［松浦　民恵］秋学期 62
展開科目_選択必修（体験型）【C7123】キャリア体験学習（C コース）［山岡　義卓］秋学期 63
展開科目_選択必修（体験型）【C7124】キャリア体験事前指導（国際）［御園生　純］春学期 64
展開科目_選択必修（体験型）【C7125】キャリア体験学習（国際）［御園生　純］秋学期 65
展開科目_選択必修（体験型）【C7126】キャリア体験事前指導（国際）［松尾　知明、郭　艶娜］春学期 66
展開科目_選択必修（体験型）【C7127】キャリア体験学習（国際）［松尾　知明、郭　艶娜］秋学期 67
展開科目_選択必修（体験型）【C7128】メディアリテラシー実習Ⅰ［坂本　旬］春学期 68
展開科目_選択必修（体験型）【C7129】メディアリテラシー実習Ⅱ［坂本　旬］秋学期 69
展開科目_選択必修（体験型）【C7130】地域学習支援Ⅰ［寺崎　里水］春学期 70
展開科目_選択必修（体験型）【C7131】地域学習支援Ⅱ［寺崎　里水、田澤　実、金山　喜昭、児美川　孝一郎、坂本　旬、久井　英輔、熊谷　智博］秋学期 71
展開科目_選択必修（体験型）【C7134】多文化教育Ⅰ［村田　晶子］春学期 72
展開科目_選択必修（体験型）【C7135】多文化教育Ⅱ［村田　晶子］秋学期 73
【C7189】【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅠ［福島　真治］春学期 74
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7189】【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅠ［福島　真治］春学期 75
【C7270】【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］春学期 76
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7270】【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］春学期 77
【C7271】【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］秋学期 78
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7271】【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］秋学期 79
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7151】キャリア研究調査実習 B（恋愛の質的研究）［大森　美佐］秋学期 80
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7152】外書講読A（発達・教育）［福田　紀子］春学期 81
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7153】外書講読B（発達・教育）［長岡　智寿子］春学期 83
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7154】生涯発達心理学Ⅰ［松浦　千春］春学期 84
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7155】生涯発達心理学Ⅱ［廣川　進］秋学期 85
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7156】臨床教育相談論Ⅰ［飯野　雄大］春学期 86
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7157】臨床教育相談論Ⅱ［飯野　雄大］秋学期 87
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7158】キャリアカウンセリングⅠ［廣川　進］春学期 88
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7159】キャリアカウンセリングⅡ［高橋　浩］秋学期 89
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7160】キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）［宮脇　優子］秋学期 90
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7161】教育相談［田澤　実］春学期 91
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7162】教育相談［児玉　茉奈美］春学期 91
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7163】教育相談［土屋　弥生］秋学期 92
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7164】教育相談［山上　真貴子］秋学期 94
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7165】教育相談［遠藤　裕子］秋学期 95
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7166】教育相談［土屋　弥生］春学期 96
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7167】教育心理学［田澤　実］秋学期 97
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7168】教育心理学［輕部　雄輝］秋学期 98
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7169】教育心理学［児玉　茉奈美］春学期 99
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7170】教育心理学［山上　真貴子］春学期 100
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7171】教育心理学［遠藤　裕子］春学期 101
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7172】教育心理学［児玉　茉奈美］秋学期 102
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7173】学校論Ⅰ（キャリア形成）［松尾　知明］春学期 103
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7174】学校論Ⅱ（キャリア形成）［大塚　類］秋学期 104
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7175】学校論Ⅲ（キャリア教育）［児美川　孝一郎］春学期 105
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7176】学校論Ⅳ（キャリア教育）［寺崎　里水］秋学期 106
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7177】生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）［久井　英輔］春学期 107
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7178】生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）［朝岡　幸彦］春学期 108
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7179】生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）［久井　英輔］秋学期 109

展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7180】生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）［朝岡　幸彦］秋学期 111
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7181】図書館情報学概論Ⅰ［村上　郷子］春学期 112
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7182】図書館情報学概論Ⅰ［原田　隆史］春学期 113
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7183】図書館情報学概論Ⅱ［丹　一信］秋学期 114
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7184】図書館情報学概論Ⅱ［原田　隆史］秋学期 115
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7185】図書館情報学概論Ⅱ［菅原　真悟］秋学期 116
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7186】図書館情報学概論Ⅱ［丹　一信］春学期 117
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7187】メディア教育論Ⅰ［村上　郷子］春学期 118
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7188】メディア教育論Ⅱ［村上　郷子］秋学期 119
【C7190】【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅡ［福畠　真治］秋学期 120
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7190】【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅡ［福畠　真治］秋学期121
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7191】教育政策［村上　純一］秋学期 122
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7192】現代教育思想［岩本　俊一］秋学期 123
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7193】生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ）［森本　扶］春学期 124
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7194】生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ）［朝岡　幸彦］秋学期 125
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7195】学習の社会史Ａ［山口　真里］秋学期 126
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7196】学習の社会史Ｂ［寺崎　里水］春学期 127
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7197】教育社会学Ⅰ［筒井　美紀］春学期 128
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7198】教育社会学Ⅱ［筒井　美紀］秋学期 129
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7199】教育経済学［荒木　宏子］秋学期 130
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7250】キャリア研究調査実習 C(データで語るキャリア）［久保田　貴文］
秋学期 131
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7251】キャリア研究調査実習 D（仕事とビジネスの質的研究）［山口
塁］秋学期 132
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7252】外書講読Ａ（ビジネス）［中野　貴之］秋学期 133
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7253】外書講読Ｂ（ビジネス）［杉原　弘恭］春学期 134
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7254】職業選択論Ⅱ［上西　充子］秋学期 135
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7255】人材育成論Ⅰ［西村　純］春学期 136
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7256】人材育成論Ⅱ［池田　心豪］秋学期 137
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7257】産業・組織心理学Ⅰ［坂爪　洋美］春学期 138
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7258】産業・組織心理学Ⅱ［坂爪　洋美］秋学期 139
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7259】キャリア開発論［武石　恵美子］春学期 140
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7260】リーダーシップ論［佐野　達］秋学期 141
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7261】経営統計論 A（心理データ）［北村　康宏］春学期 142
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7262】企業会計論［松本　徹］春学期 143
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7263】経営統計論 B（企業データ）［中野　貴之］秋学期 144
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7264】経営組織論Ⅰ［梅木　眞］春学期 145
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7265】経営組織論Ⅱ［梅木　眞］秋学期 146
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7266】戦略経営論Ⅰ［木村　琢磨］春学期 147
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7267】戦略経営論Ⅱ［堀田　治］秋学期 148
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7268】経営分析論Ⅰ［中野　貴之］春学期 149
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7269】経営分析論Ⅱ［中野　貴之］秋学期 150
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7272】職業キャリア論［松浦　民恵］春学期 151
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7273】労働経済学［梅崎　修］春学期 152
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7274】シティズンシップ論［榎並　利博］春学期 153
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7275】生産システム論［小林　哲也］秋学期 154
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7276】国際経営論［森　直子］春学期 155
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7277】日本経済論秋学期 156
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7278】産業論［青木　成樹］秋学期 157
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7279】広告ビジネス論［宮坂　昭こ］春学期授業/Spring 159
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7280】マーケティング論［酒井　理］春学期 160
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7281】流通・マーケティング戦略論［小川　浩孝］春学期 161
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7282】流通・サービスビジネス論［酒井　理］春学期 163
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7283】就業機会発見実務［田辺　康広］春学期 164
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7300】キャリア研究調査実習 E（幸福論）［小塩　靖崇］春学期 165
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7301】キャリア研究調査実習 F（まちづくり論）［大西　未希］春学期 ... 166
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7302】外書講読Ａ（ライフ）［門脇　仁］春学期 167

展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7303】外書講読B（ライフ）［門脇　仁］秋学期 168
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7304】コミュニティ社会論Ⅰ［佐藤　恵］春学期 169
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7305】コミュニティ社会論Ⅱ［佐藤　恵］秋学期 170
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7306】家族論［齋藤　嘉孝］春学期 171
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7307】若者文化論［玉川　博章］春学期 172
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7308】世代間交流論［安田　節之］秋学期 173
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7309】身体表現論［叶　雄大］春学期授業/Spring 174
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7310】地域文化論［緑川　岳志］秋学期 175
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7311】アイデンティティ論［熊谷　智博］春学期 176
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7312】余暇集団論［熊谷　智博］春学期 177
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7313】ＮＰＯ論［山口　佳子］秋学期 178
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7314】公共サービス論［前浦　穂高］秋学期 179
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7315】アート・マネジメント論［山口　佳子］春学期 180
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7316】文化経営論［武田　知也］秋学期 181
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7317】メディア文化論［堤　信子］秋学期 182
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7318】文化マーケティング論［横石　崇］春学期 183
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7319】ブランド創造論［石原　篤］春学期 184
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7320】産業文化論［上原　義子］秋学期 185
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7321】ミュージアム概論［金山　喜昭］春学期 186
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7322】ミュージアム経営論［杉長　敬治］秋学期 187
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7323】ミュージアム経営論［金山　喜昭］春学期 188
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7324】多文化社会論Ⅰ［小田　昌教］春学期 189
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7325】多文化社会論Ⅱ［金　泰植］春学期 191
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7326】多文化社会論Ⅲ［加藤　丈太郎］春学期 192
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7327】アジア社会論Ⅰ［趙　宏偉］春学期 194
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7328】アジア社会論Ⅱ［趙　宏偉］秋学期 195
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7329】国際関係論Ⅰ［趙　宏偉］春学期 196
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7330】国際関係論Ⅱ［趙　宏偉］秋学期 197
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7331】国際地域研究Ⅰ［福井　令恵］春学期 198
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7332】国際地域研究Ⅱ［福井　令恵］秋学期 199
【C7351】【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ［島村　泰子］春学期 200
展開科目_総合【C7351】【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ［島村　泰子］春学期 201
【C7352】【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ［島村　泰子］秋学期 202
展開科目_総合【C7352】【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ［島村　泰子］秋学期 203
演習科目【C7400】演習（発達・教育）2 年生［遠藤　野ゆり］秋学期 204
演習科目【C7401】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［遠藤　野ゆり］春学期 205
演習科目【C7402】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［遠藤　野ゆり］秋学期 206
演習科目【C7403】演習（発達・教育）2 年生［松尾　知明］秋学期 207
演習科目【C7414】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［松尾　知明］春学期 207
演習科目【C7415】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［松尾　知明］秋学期 208
演習科目【C7405】演習（発達・教育）2 年生［児美川　孝一郎］秋学期 208
演習科目【C7406】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［児美川　孝一郎］春学期 209
演習科目【C7407】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［児美川　孝一郎］秋学期 210
演習科目【C7408】演習（発達・教育）2 年生［坂本　旬］秋学期 211
演習科目【C7409】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［坂本　旬］春学期 212
演習科目【C7410】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［坂本　旬］秋学期 213
演習科目【C7411】演習（発達・教育）2 年生［久井　英輔］秋学期 214
演習科目【C7417】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［高野　良一］春学期 215
演習科目【C7418】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［高野　良一］秋学期 216
演習科目【C7419】演習（発達・教育）2 年生［田澤　実］秋学期 217
演習科目【C7420】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［田澤　実］春学期 218
演習科目【C7421】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［田澤　実］秋学期 219
演習科目【C7422】演習（発達・教育）2 年生［筒井　美紀］秋学期 220
演習科目【C7423】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［筒井　美紀］春学期 221
演習科目【C7424】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［筒井　美紀］秋学期 222
演習科目【C7425】演習（発達・教育）2 年生［寺崎　里水］秋学期 223
演習科目【C7426】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［寺崎　里水］春学期 224

演習科目【C7427】演習（発達・教育）3・4年生（秋）［寺崎　里水］秋学期 224
演習科目【C7428】演習（発達・教育）2年生［廣川　進］秋学期 225
演習科目【C7429】演習（発達・教育）3・4年生（春）［廣川　進］春学期 226
演習科目【C7430】演習（発達・教育）3・4年生（秋）［廣川　進］秋学期 227
演習科目【C7452】演習（ビジネス）2年生［上西　充子］秋学期 228
演習科目【C7475】演習（ビジネス）3・4年生（春）［上西　充子］春学期 229
演習科目【C7476】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［上西　充子］秋学期 230
演習科目【C7453】演習（ビジネス）2年生［梅崎　修］秋学期 231
演習科目【C7454】演習（ビジネス）3・4年生（春）［梅崎　修］春学期 232
演習科目【C7455】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［梅崎　修］秋学期 233
演習科目【C7456】演習（ビジネス）2年生［木村　琢磨］秋学期 234
演習科目【C7457】演習（ビジネス）3・4年生（春）［木村　琢磨］春学期 235
演習科目【C7458】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［木村　琢磨］秋学期 236
演習科目【C7462】演習（ビジネス）2年生［酒井　理］秋学期 236
演習科目【C7463】演習（ビジネス）3・4年生（春）［酒井　理］春学期 237
演習科目【C7464】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［酒井　理］秋学期 238
演習科目【C7465】演習（ビジネス）2年生［坂爪　洋美］秋学期 239
演習科目【C7466】演習（ビジネス）3・4年生（春）［坂爪　洋美］春学期 240
演習科目【C7467】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［坂爪　洋美］秋学期 241
演習科目【C7468】演習（ビジネス）2年生［武石　惠美子］秋学期 242
演習科目【C7469】演習（ビジネス）3・4年生（春）［武石　惠美子］春学期 243
演習科目【C7470】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［武石　惠美子］秋学期 244
演習科目【C7471】演習（ビジネス）2年生［中野　貴之］秋学期 245
演習科目【C7472】演習（ビジネス）3・4年生（春）［中野　貴之］春学期 245
演習科目【C7473】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［中野　貴之］秋学期 246
演習科目【C7474】演習（ビジネス）2年生［佐藤　厚］秋学期 246
演習科目【C7450】演習（ビジネス）3・4年生（春）［佐藤　厚］春学期 247
演習科目【C7451】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［佐藤　厚］秋学期 248
演習科目【C7477】演習（ビジネス）2年生［松浦　民恵］秋学期 249
演習科目【C7478】演習（ビジネス）3・4年生（春）［松浦　民恵］春学期 250
演習科目【C7479】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［松浦　民恵］秋学期 251
演習科目【C7500】演習（ライフ）2年生［荒川　裕子］秋学期 252
演習科目【C7501】演習（ライフ）3・4年生（春）［荒川　裕子］春学期 253
演習科目【C7502】演習（ライフ）3・4年生（秋）［荒川　裕子］秋学期 254
演習科目【C7503】演習（ライフ）2年生［福井　令恵］秋学期 255
演習科目【C7504】演習（ライフ）3・4年生（春）［福井　令恵］春学期 256
演習科目【C7505】演習（ライフ）3・4年生（秋）［福井　令恵］秋学期 257
演習科目【C7506】演習（ライフ）2年生［金山　喜昭］秋学期 258
演習科目【C7507】演習（ライフ）3・4年生（春）［金山　喜昭］春学期 259
演習科目【C7508】演習（ライフ）3・4年生（秋）［金山　喜昭］秋学期 260
演習科目【C7509】演習（ライフ）2年生［齋藤　嘉孝］秋学期 261
演習科目【C7510】演習（ライフ）3・4年生（春）［齋藤　嘉孝］春学期 262
演習科目【C7511】演習（ライフ）3・4年生（秋）［齋藤　嘉孝］秋学期 263
演習科目【C7512】演習（ライフ）2年生［佐藤　恵］秋学期 264
演習科目【C7513】演習（ライフ）3・4年生（春）［佐藤　恵］春学期 265
演習科目【C7514】演習（ライフ）3・4年生（秋）［佐藤　恵］秋学期 266
演習科目【C7515】演習（ライフ）2年生［田中　研之輔］秋学期 267
演習科目【C7516】演習（ライフ）3・4年生（春）［田中　研之輔］春学期 268
演習科目【C7517】演習（ライフ）3・4年生（秋）［田中　研之輔］秋学期 269
演習科目【C7519】演習（ライフ）3・4年生（春）［趙　宏偉］春学期 270
演習科目【C7520】演習（ライフ）3・4年生（秋）［趙　宏偉］秋学期 271
演習科目【C7521】演習（ライフ）2年生［安田　節之］秋学期 272
演習科目【C7522】演習（ライフ）3・4年生（春）［安田　節之］春学期 273
演習科目【C7523】演習（ライフ）3・4年生（秋）［安田　節之］秋学期 274
演習科目【C7524】演習（ライフ）2年生［熊谷　智博］秋学期 275
演習科目【C7525】演習（ライフ）3年生（春）［熊谷　智博］春学期 276
演習科目【C7526】演習（ライフ）3年生（秋）［熊谷　智博］秋学期 277

演習科目【C7600】卒業論文（発達・教育）［遠藤　野ゆり］年間 278
演習科目【C7602】卒業論文（発達・教育）［児美川　孝一郎］年間 279
演習科目【C7603】卒業論文（発達・教育）［坂本　旬］年間 280
演習科目【C7605】卒業論文（発達・教育）［高野　良一］年間 281
演習科目【C7606】卒業論文（発達・教育）［田澤　実］年間 282
演習科目【C7607】卒業論文（発達・教育）［筒井　美紀］年間 283
演習科目【C7608】卒業論文（発達・教育）［寺崎　里水］年間 284
演習科目【C7609】卒業論文（発達・教育）［廣川　進］年間 285
演習科目【C7610】卒業論文（発達・教育）［松尾　知明］年間 286
演習科目【C7620】卒業論文（ビジネス）［上西　充子］年間 287
演習科目【C7622】卒業論文（ビジネス）［梅崎　修］年間 288
演習科目【C7624】卒業論文（ビジネス）［木村　琢磨］年間 289
演習科目【C7626】卒業論文（ビジネス）［酒井　理］年間 290
演習科目【C7627】卒業論文（ビジネス）［坂爪　洋美］年間 291
演習科目【C7628】卒業論文（ビジネス）［佐藤　厚］年間 292
演習科目【C7629】卒業論文（ビジネス）［武石　恵美子］年間 293
演習科目【C7630】卒業論文（ビジネス）［中野　貴之］年間 294
演習科目【C7631】卒業論文（ビジネス）［松浦　民恵］年間 295
演習科目【C7640】卒業論文（ライフ）［荒川　裕子］年間 296
演習科目【C7641】卒業論文（ライフ）［金山　喜昭］年間 297
演習科目【C7642】卒業論文（ライフ）［齋藤　嘉孝］年間 298
演習科目【C7644】卒業論文（ライフ）［佐藤　恵］年間 299
演習科目【C7645】卒業論文（ライフ）［田中　研之輔］年間 300
演習科目【C7646】卒業論文（ライフ）［趙　宏偉］年間 301
演習科目【C7648】卒業論文（ライフ）［安田　節之］年間 302
演習科目【C7650】卒業論文（ライフ）［福井　令恵］年間 303
演習科目【C7651】卒業論文（ライフ）［熊谷　智博］年間 304
演習科目【C7660】キャリアデザイン学総合演習［坂本　旬］秋学期 305
関連科目【C7700】国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）［Robert　Durham］春学期 306
関連科目【C7701】国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）［Robert　Durham］秋学期 308
関連科目【C7702】国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）/Foreign　Language　Exercise　（English　Ⅲ）
※ GO 科目［Kregg　Johnston］春学期 309
関連科目【C7703】国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）/Foreign　Language　Exercise　（English　Ⅳ）
※ GO 科目［Kregg　Johnston］秋学期 310
関連科目【C7704】国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）/Foreign　Language　Exercise　（English　V）
※ GO 科目［Kregg　Johnston］春学期 311
関連科目【C7710】就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- ［梅崎　修、上西　充子］秋学期 312
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ ［鈴木　美伸］春学期 313
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ ［鈴木　美伸］秋学期 315
関連科目【C7800】教職入門［児玉　洋介］秋学期 316
関連科目【C7801】教職入門［天野　一哉］春学期 317
関連科目【C7802】教職入門［高野　良一］秋学期 318
関連科目【C7803】教職入門［寺崎　里水］春学期 319
関連科目【C7804】教育原理［筒井　美紀］秋学期 320
関連科目【C7805】教育原理［天野　一哉］秋学期 321
関連科目【C7807】教育原理［飯窪　真也］秋学期 322
関連科目【C7808】教育原理［澤里　翼］春学期 323
関連科目【C7809】教育の制度・経営［植竹　丘］秋学期 324
関連科目【C7811】教育の制度・経営［植竹　丘］春学期 325
関連科目【C7812】教育の制度・経営［仲田　康一］秋学期 326
関連科目【C7813】教育の制度・経営［高野　良一］秋学期 327
関連科目【C7814】教育課程論［飯窪　真也］春学期 328
関連科目【C7815】教育課程論［黄　郁倫］秋学期 329
関連科目【C7816】教育課程論［飯窪　真也］春学期 330
関連科目【C7817】教育課程論［飯窪　真也］秋学期 331
関連科目【C7818】教育課程論［川津　貴司］春学期 332
関連科目【C7819】教育方法論［岩本　俊一］春学期 333

関連科目【C7820】教育方法論［松尾　知明］春学期 334
関連科目【C7821】教育方法論［黄　郁倫］春学期 334
関連科目【C7822】教育方法論［黄　郁倫］秋学期 335
関連科目【C7823】教育方法論［川津　貴司］秋学期 335
関連科目【C7900】図書館演習［坂本　旬］年間 336
関連科目【C7901】図書館演習［村上　郷子］年間 337
関連科目【C7902】図書館演習［丹　一信］年間 338
関連科目【C7903】図書館演習［丹　一信］年間 339
関連科目【C7905】図書館サービス概論［丹　一信］春学期 340
関連科目【C7908】情報サービス演習【通年】［田中　順子］年間 341
関連科目【C7909】情報サービス演習【通年】［田中　順子］年間 342
関連科目【C7910】情報サービス演習［菅原　真悟］年間 343
関連科目【C7911】図書館情報資源概論［小黒　浩司］春学期 344
関連科目【C7912】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期 345
関連科目【C7913】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期 346
関連科目【C7914】図書館情報資源特論［小黒　浩司］秋学期 347
関連科目【C7915】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期 348
関連科目【C7916】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期 349
関連科目【C7924】読書と豊かな人間性［有吉　末充］秋学期 350
関連科目【C7925】情報メディアの活用［坂本　旬］秋学期 351
関連科目【C7926】情報メディアの活用［村上　郷子］秋学期 352
関連科目【C7928】ミュージアム資料論［田中　裕二］秋学期 353
関連科目【C7929】ミュージアム教育論［渡邊　祐子］秋学期授業/Fall 354
関連科目【C7930】ミュージアム教育論［山下　治子］秋学期 355
関連科目【C7943】社会教育演習［久井　英輔］年間 356
関連科目【C7948】現代生活・文化と社会教育Ⅰ［鈴木　悌遍］春学期 358
関連科目【C7949】現代生活・文化と社会教育Ⅱ［佐々木　美貴］秋学期 359

BSP100MA

キャリアデザイン学入門　基幹科目

梅崎　修、寺崎　里水、荒川　裕子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3　｜　配当年次：1〜2 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインとは何かを本学部の三領域（発達・教育キャリア，ビジネスキャリア，ライフキャリア）の視点から提示し、キャリアデザイン学の基礎概念を講義します。併せて，これらによりキャリアデザイン学の確立を目指す一員として学生の自覚を高め，キャリアデザインを考える能力を養成します。

【到達目標】
キャリアデザイン学部の専門科目やゼミナールでの学習のための準備としてキャリアデザイン学の基礎的な概念を理解すること、また激動する現代社会を生きるためのキャリアデザイン学を学び、研究することの意義を見付けることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学部の三領域（発達・教育キャリア，ビジネスキャリア，ライフキャリア）の教員３名によるオムニバス授業です。毎回授業では、それぞれの分野の基礎概念を学んだ後に、それぞれの分野における具体的テーマを学生たちと議論します。1 回 100 分の授業を以下の三つに分けて講義します。オンデマンド型オンライン授業で、毎回の授業を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	キャリアデザイン学とは何かを学び、講義内容の構成を理解する。(梅崎)
第 2 回	自立と自律	ビジネスキャリアの選択行動を学ぶ。合理的期待形成、限定合理性、リスクと不確実性（uncertainty）、デザインとドリフト、トランジションなどの基礎概念を理解する。(梅崎)
第 3 回	経営戦略とリーダーシップ	企業組織の経営戦略を学び、組織内における活性化する優れたリーダーの役割とそのようなリーダーの育成を考察する。(梅崎)
第 4 回	経済構造と職業構成	工業化、ポスト工業化という経済成長に伴う経済構造の変化を学び、その変化の中で求められる雇用される能力の変化を考察する。(梅崎)
第 5 回	雇用政策と企業内キャリア支援	仕事を生み出す雇用政策と、企業が従業員に対して行う企業内キャリア支援を学ぶ（梅崎）
第 6 回	学ぶ主体	「勉強する」と「学ぶ」とは何が違うのか、「わかる」とはなにか、nature と nurture、所得に影響を与えるのはどちらか、といったことについて考える。(寺崎)
第 7 回	家庭・学校の環境と発達・教育	発達に課題のある子ども、教育達成と社会的地位達成、学歴主義、格差と不平等などについて学び、学校や教育の問題を扱う学問領域の多様さを考える。(寺崎)
第 8 回	学習機会の時間的・空間的広がり	キャリア教育、就労支援、コミュニティ、地域移動などについて学び、働くこと、生活することと学ぶこととの関連について考察する。(寺崎)
第 9 回	価値的主体性を育てる	社会への「適応」と望ましい社会を「創造」することについて学ぶ。(寺崎)
第 10 回	ライフキャリアとは何か	ライフ・キャリア・レインボーやライフ・ロールといった考え方を手掛かりに、人の生（ライフ）を主体的にデザインすることの意味を考える。(荒川)
第 11 回	個人のウェルビーイング	個人の多様なアイデンティティや主観的幸福感の視点から、キャリアデザインの目的としてのウェルビーイングについて考える。(荒川)
第 12 回	文化と人間形成	個人や地域のアイデンティティをかたちづくるものとしての文化に注目し、その多様性や多文化共生の意義について考える。(荒川)
第 13 回	地域社会と文化創造	マクロな視点から社会やコミュニティと個人のかかわりを考え、まちづくりや地域創生をめぐる政策や文化産業の推進などについて学ぶ。(荒川) .
第 14 回	キャリアデザイン学の展望	. これまでの授業を振り返りつつ、ビジネスキャリア・ライフキャリア・発達教育キャリアが相互に関連する領域について議論する。(荒川)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
定期的に授業の振り返りのための課題を出しますので、課題文書、講義内容、参加した議論を振り返り、課題レポートを作成します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。

【参考書】
金山善昭，児美川孝一郎，武石恵美子編著 2013『キャリアデザイン学への招待』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（出席と課題の提出等）50 %，期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
三分野の繋がりを意識して事例紹介をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In this class, we will present something about career design from the viewpoints of the three areas of our faculty - development and education career, business career, life career - and give lectures on basic concepts of career design studies.
Through these activities, we will raise students' awareness as a member who aims to establish career design studies and foster their abilities to think career design.

BSP100MA

【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（A-H）

基幹科目

仲　修平

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：1〜2 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。
・各講義の最後は、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する——カット&ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第 8 回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第 9 回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3〜4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1 ——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第 13 回	観察法：その 2 ——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第 14 回	質的調査のまとめ 総括	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。 2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示

【参考書】
マシュー・J. サルガニック,2019,『ビット・バイ・ビット – デジタル社会調査入門』有斐閣.
仲修平,2018,『岐路に立つ自営業』勁草書房.

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容と個人・ペア・グループによる活動を連動する取り組みを導入した.
各講義でポイントになる点をいくつかの演習にわけて理解を深めるように努めた.
オンライン授業を実施する際には，小グループで議論する時間を設けるように心がけた.

【Outline and objectives】
Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.

BSP100MA

【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（I-P）

基幹科目

大倉　韻

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・4　｜　配当年次：1〜2 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各講義の最後に、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する——カット&ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第 8 回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第 9 回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3〜4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1 ——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第 13 回	観察法：その 2 ——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第 14 回	質的調査のまとめ 総括	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。 2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示

【参考書】
マシュー・J. サルガニック,2019,『ビット・バイ・ビット – デジタル社会調査入門』有斐閣.
原純輔,2016,『社会調査　しくみと考えかた』左右社.

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
オンライングループワークでは人数・組み合わせを調整し，議論がしやすい環境づくりを心がけた.
オンライン授業であることを活かし，パソコンの操作に習熟するための時間を設けた.

【Outline and objectives】
Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

池田　心豪

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

濱中　義隆

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

佐藤　恵

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

田中　研之輔

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

西村　純

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

前浦　穂高

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

徳安　慧一

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査）　基幹科目

井上　公人

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

山﨑　正枝

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０%）、平常点（５０%）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

安田　節之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

濱中　義隆

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

井上　公人

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

伊藤　慎悟

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

齋藤　嘉孝

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

長瀬　毅

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

坂爪　洋美

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

坂田　哲人

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」：50%
「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門A　基幹科目

大塚　類

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：1〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】
発達・教育に関する 10 のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。
自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。
自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
事態が大きく変わらない限り、初回からすべて対面授業です。
授業の資料は毎回出席者に配布します。
本授業では 10 の教育問題（トピック）を取り上げます。各自教科書の第 1 節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストと授業時間内のリアクションペーパー記入を実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える観点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
授業のまとめである最終回でも、リアクションペーパーのコメントについての総括を行います。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（枠組みとしてのあたりまえ） テキスト序章	授業の内容、進め方の説明 「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
2	家族の形 テキスト第 1 章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
3	家庭教育 テキスト第 2 章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
4	児童虐待 テキスト第 3 章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。 虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識手見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。
5	つながり孤独 テキスト第 4 章	若者の SNS の問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
6	いじめ テキスト第 5 章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。"
7	恋愛 テキスト第 6 章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
8	カウンセリング テキスト第 7 章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
9	不登校 テキスト第 8 章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
10	発達障害 テキスト第 9 章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
11	キャリア教育 テキスト第 10 章	おとなになることとは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
12	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ。
13	テキスト全体のまとめ	講義で使用したテキスト全体についてまとめる。
14	授業全体のまとめ	講義全体についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストはすべて 1 章が 3 節構成になっています。各章の第 1 節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠藤野ゆり・大塚類（2020）『さらにあたりまえを疑え！　臨床教育学 2』新曜社

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストと課題 50 %、期末レポート 50 %（受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援システムを通じて受講生にお知らせします。）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
授業内で授業支援システムにログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンや PC などの機器を持参してください（事前に連絡します）

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて若干の内容調整をすることがあります。

【Outline and objectives】
We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門B　基幹科目

田澤　実

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・4　｜　配当年次：1〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人の学びや発達に視点を置く事柄について基礎的な内容を学ぶ。個人の生き方や社会の在り方について考察する。

【到達目標】
・発達および教育が関連するキャリアデザインにかかわる各トピックについての基礎的な知識を身につける。
・キャリアデザインに関わる社会現象についてデータに基づいて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義の初めに、前回の講義で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の枠組や評価方法等を説明する。
第 2 回	大学へ進学する	日本の高校卒業者の進路の内訳や学生生活で重視する事柄の時系列的な変化を概観し、現代社会における青年期の諸問題との関連を説明する。
第 3 回	企業に就職する	日本の大学卒業者の進路の内訳や時系列的な変化を概観する。民間企業への就職を例に取り上げ、大学での学びが与える影響について説明する。
第 4 回	選択肢を拡げる／絞る	「複数の選択肢があればそこから何を選ぶのか」は個人が生き方を選ぶことと関連する。心理学の観点からキャリア発達、意思決定モデルについて説明する。
第 5 回	地域を移動する	日本では、高校卒業後および大学卒業後に都道府県間移動をする若者が多いことが知られている。このような地理的な移動を題材に、個人の生き方と社会の在り方の関連を考える。
第 6 回	家族を形成する	近年では、個人が仕事役割と家族役割のバランスをどのように取るのかが注目されることがある。このことについて成人期の発達課題との関連を説明する。
第 7 回	地域で支える	学校という空間の外側には家庭や地域社会がある。地域の支えを得ながら社会へ移行する若者の事例を紹介し、包括的な若者支援について説明する。
第 8 回	コミュニケーションする	個人の生き方を考える際に、他者とのコミュニケーションは不可欠である。情報の発信と受信、メリットとデメリットの比較から、その多義性を説明する。
第 9 回	自信を持つ	個人の行動の原動力を考える。自己効力、学習性無力感、自尊感情について説明する。
第 10 回	将来を見通す	個人の生き方や社会の在り方を考える際に、将来を見通すことは不可欠である。個人および組織の見通しに関連した概念について説明する。
第 11 回	体験から学ぶ	経験学習について説明する。自らの経験から学びを得るプロセスだけでなく、社会人講話などから学びを得るプロセスについて考える。
第 12 回	知識を紡ぐ	ワークショップによる学びに注目する。共に参加したメンバー間で知識はいかにして紡がれていくのか、ワークショップに関連した学習理論を説明する。
第 13 回	次世代に伝える	「発達」の概念は、個人の人生の始まりから終わりまでを指し示すこともあるが、世代を超えたサイクルも含むことがある。住民による防災情報の伝達を事例にして、「次世代に伝える」ことの効果について考える。
第 14 回	２つ以上のものをつなげる	上記までに扱ったトピックの関連性について考えるための補足を加える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。レジュメを配布する。

【参考書】
e-Stat (日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト)
https://www.e-stat.go.jp

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度は「ICT を活用する」を含んでいたが、昨年度より活用を当然とする動きがでたため、この回のみ変更を加えた。授業の感想および論述試験での回答傾向を総合的に判断して、扱う内容も部分的な変更を加えた。

【Outline and objectives】
This course introduces lifelong learning, developmental stage theories and decision-making to students taking this course.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）

基幹科目

久井　英輔

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：1〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(授業の概要)
生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。
(授業の目的・意義)
授業内容をとおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】
生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動（多様なノンフォーマル教育）の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育の多様性と生涯学習の理念	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第 2 回	社会教育行政の事業①	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第 3 回	社会教育行政の事業②	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第 4 回	社会教育行政の事業③	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設（社会教育施設）の基本的役割と実態について解説する。
第 5 回	社会教育行政の事業④	社会教育施設以外で展開される社会教育行政事業について解説する。
第 6 回	職業訓練としての社会教育	職業能力開発校などで行われる職業訓練について概観するとともに、社会教育行政との関連について解説する。
第 7 回	民間の社会教育事業	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間の社会教育事業の歴史的展開と現状について解説する。
第 8 回	子ども、若者、学校と社会教育①	「子ども、若者対象」という観点から、行政、民間の社会教育事業の現在における動向を整理して解説する。
第 9 回	子ども、若者、学校と社会教育②	学校教育と社会教育の連携、および、学校と地域社会の連携に関する現在の動向について解説する。
第 10 回	近現代日本の社会教育史①	日本における近代以降（第二次世界大戦まで）の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 11 回	近現代日本の社会教育史②	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 12 回	社会教育の国際比較	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第 13 回	「成人の学力」をめぐって	PIAAC（国際成人力調査）の調査概要とデータをふまえて、「成人の学力」について論じることの意味を解説する。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習は特に必要ない。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・中間レポート、期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎（シリーズ　転形期の社会教育 1）』学文社、2015 年

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート　50 %
中間レポート　25 %
期末レポート　25 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】
This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）

基幹科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：1〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門 I) では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】
生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。
毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第 3 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設（図書館・公民館など）の無償制原則について理解する。
第 4 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と制度の特徴を理解する。
第 5 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について、公民館を中心に理解する。
第 7 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第 10 回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第 11 回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の政策と制度④	長野県飯田市及び伊那地方を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の特徴と課題を学ぶ。
第 13 回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs 及び ESD の時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年

【参考書】
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所　2017 年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】
Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）

基幹科目

久井　英輔

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：1〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習、社会教育に関する事項について、基本的な文献の講読、学生による発表と討論をふまえて検討する。

【到達目標】
生涯学習の理念、社会教育に関する制度、実際に行われている各種の事業・実践について、それらを論じる際に不可欠な視点、また現実に課題となっている点を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初の数回は、生涯学習、社会教育に関する基本的知識・視点を講義形式で復習する。その後、受講生の各グループが、授業 1 回分の講読文献の発表を担当し、各回とも、その発表をふまえたディスカッションを中心に進める。授業終了時に、各回の文献で示された論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育・生涯学習における基本事項①	授業全体の進め方について説明した上で、教育・受講者間で社会教育・生涯学習に関する問題関心を共有する。
第 2 回	社会教育・生涯学習における基本事項②	文献講読の前提となる基本知識、特に社会教育の実践・制度に関わる基本的事項を概観する。
第 3 回	社会教育・生涯学習における基本事項③	文献講読の前提となる基礎知識、特に社会教育の歴史、生涯学習の理念、学習者支援や学習関心・行動の理論に関わる基本的事項を概観する。
第 4 回	子ども・若者と社会教育	文献講読及び討論を通じて、子ども・若者が対象となる社会教育事業を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 5 回	家庭教育支援と社会教育	文献講読及び討論を通じて、家庭教育支援事業を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 6 回	学校教育と社会教育	文献講読及び討論を通じて、学校教育・社会教育の連携を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 7 回	高齢者と社会教育	文献講読及び討論を通じて、高齢者対象の社会教育を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 8 回	職業・労働と社会教育	文献講読及び討論を通じて、職業・労働と社会教育の関連を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 9 回	成人の学習関心・行動の実態	文献講読及び討論を通じて、（特に成人の）学習関心・行動を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 10 回	社会教育行政の意義と課題①	文献講読及び討論を通じて、社会教育行政に求められる理念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 11 回	社会教育行政の意義と課題②	文献講読及び討論を通じて、社会教育行政の制度を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 12 回	生涯学習・社会教育の概念①	文献講読及び討論を通じて、「ノンフォーマル教育」という概念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 13 回	生涯学習・社会教育の概念②	文献講読及び討論を通じて、社会教育に関わる理念を論じる上で重要な観点、現実に課題となっている点について理解を深める。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの発表とディスカッションについて、各グループでの議論をふまえて論点を提示してもらい、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の文献講読、（発表担当の場合）文献の要約とコメントが、予習として必要である。
・各回の授業後、文献および発表レジュメを読み直すこと。また、前回の授業のコメントシートに書かれた内容については、教員が適宜授業内で抜粋して配布し、リプライするので、そこで配布された自分以外のコメントについても目を通しておくこと
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講読文献は多岐にわたるため、授業内で紹介する。なお講読文献は基本的に PDF ファイル化して、受講者に配布する。

【参考書】
香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016 年
松岡広路、松橋義樹、鈴木眞理編『社会教育の基礎（シリーズ　転形期の社会教育 1）』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】
グループでの文献発表　30 %
各回のコメントシート　40 %
各回のディスカッションへの貢献度　30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】
In this course we examine major issues on lifelong learning and social education by text reading, presentation, and discussion. This course aims to help students understand the viewpoints indispensable to discussing lifelong learning and social education, and to widen students' perspective on education and learning.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）

基幹科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：1〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門 II) では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】
生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。
毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第 2 回	社会教育・生涯学習の現代的課題	社会教育と生涯学習と ESD の関係を通して、現代的な課題について考える。
第 3 回	戦後日本社会教育の流れ①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開、公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第 4 回	戦後日本社会教育の流れ②	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第 5 回	戦後日本社会教育の流れ③	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第 6 回	戦後日本社会教育の流れ④	21 世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990 年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第 7 回	戦後日本社会教育の流れ⑤	近年の教育政策の動向を踏まえて、社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の実践①	日本の農業と近代化という視点から農業・農民・食に関わる学習運動について学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の実践②	公害教育を手がかりに環境問題に関わる学習運動について学ぶ。
第 10 回	社会教育・生涯学習の実践③	巻原発住民投票における住民の学習を事例に地域づくり学習のあり方を考える。
第 11 回	社会教育・生涯学習の実践④	公民館における「地域づくり学習」の事例をもとに、公民館と地域課題との関係を考える。
第 12 回	社会教育・生涯学習の実践⑤	公民館における講座やサークルの活動を事例に、公民館の特徴と役割を学ぶ。
第 13 回	社会教育・生涯学習の過去から未来へ	戦後社会教育・生涯学習における学習運動の地下水脈として、自由民権運動や憲法起草運動の意味について考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの購読。
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年

【参考書】
千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育　増補版』エイデル研究所　2015 年

【成績評価の方法と基準】
テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業で紹介した資料は Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline and objectives】
Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門A　　基幹科目

妹尾　渉

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・2　｜　配当年次：1〜4 年
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「一国の経済活動」について、マクロ経済学の理論に基づいて理解する。まず最初に、一国の経済活動を測るための指標（GDP、物価、失業率）について学ぶ。次に、それらが、消費・投資活動、財・サービス市場、労働市場、金融（資金）市場、貿易、政府の介入、などを通じて決定される仕組みについて学ぶ。最後に、最近の世界経済、日本経済が直面している課題について考える。

【到達目標】
①一国の経済活動について、マクロ経済学の理論に基づいて理解できること。②①で学んだ理論を通して、日本経済の現状についての解説ができること。③①②の作業を通して、社会科学の思考法（仮説の立案 → データ・実例による仮説検証 → 仮説の再考）を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
指定するテキストに沿って授業を行い、課題を掲示する。
提出課題については解説および講評を行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学で何を学ぶのか
2	経済活動の尺度①：GDP とは	GDP は何を測ろうとしているか
3	経済活動の尺度②：労働、物価水準とは	労働に関係する用語、物価水準に関する指標
4	GDP はどのように決まるのか①	短期と長期：総需要の 4 項目
5	GDP はどのように決まるのか②	総生産の決まり方
6	景気がよくなるとき、悪くなるとき①	財政政策とは
7	景気がよくなるとき、悪くなるとき②	総生産に対する効果
8	日銀が行う景気対策①	金融政策とは
9	日銀が行う景気対策②	金融要因と総生産の変動
10	円安・円高と景気の波①	為替レートとは
11	円安・円高と景気の波②	為替レートの決まり方
12	景気の波を越えて-行きつく先の経済の姿①	企業の価格決定
13	景気の波を越えて-行きつく先の経済の姿②	金融政策・財政政策の失敗
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日本経済新聞出版社

【参考書】
講義を通して適宜紹介

【成績評価の方法と基準】
【通常授業を実施できた場合】
　期末テストで評価（100 %）
【コロナ禍においてオンライン授業の場合】
　最終レポート評価（50 %）、課題提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
リアクション・ペーパーの導入

【Outline and objectives】
Understand "economic activities of one country" based on the theory of macroeconomics. First of all, we learn about indices (GDP, price, unemployment rate) to measure the economic activity of a country. Next, we learn about the mechanisms that are determined through consumption and investment activities, goods and services markets, labor markets, financial markets, trade, government intervention, Finally, we think about the recent world economy.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門B　基幹科目

湯川　志保

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・2 ｜ 配当年次：1〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ミクロ経済学の基礎について学んでもらいます。講義で扱う主な内容は、市場メカニズムの基礎、個人や企業の行動に関する理論になります。

【到達目標】
・ミクロ経済学の基本概念と考え方を習得し、社会に出た際にビジネスで活用できる基礎知識を養う。
・経済学的な考え方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　スライドと板書を用いた講義を行う。また、受講者の理解度を確認する小テストやレポートを実施する予定である。また、小テストやレポートを実施した場合は、授業内で解説を行う。授業計画等の変更については、適宜、学習支援システムで連絡する。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要について説明します。
第 2 回	経済学の 10 大原理	経済学を学ぶ上で重要な 10 の原理について概観します。
第 3 回	経済学者らしく考える	経済学の考え方について概観します。
第 4 回	需要曲線と供給曲線（1）	消費者の行動原理について説明を行います。また、財の需要量と価格の関係を表す需要曲線を導出します。
第 5 回	需要曲線と供給曲線（2）	生産者の行動原理について説明を行います。また、財の供給量と価格の関係を表す供給曲線を導出します。
第 6 回	需要曲線と価格弾力性 (1)	需要曲線と供給曲線を用いて、商品の価格や取引量がどのように決定するかについて解説します。
第 7 回	需要曲線と価格弾力性 (2)	価格弾力性とはなにかについて解説を行うとともに価格弾力性の計算方法について説明します。
第 8 回	まとめ (1)	第 1 回から 7 回までの内容のまとめを行います。
第 9 回	買い手と売り手の行動をシミュレートする	買い手の行動と売り手の行動について解説します。
第 10 回	買い手と売り手の取引による利益	余剰という概念を用いて、市場取引の利益について解説します。
第 11 回	ゲーム理論から経済行動を学ぶ（1）	ゲーム理論における戦略について説明を行います。
第 12 回	ゲーム理論から経済行動を学ぶ（2）	ゲーム理論における均衡について説明を行います。
第 13 回	ゲーム理論から経済行動を学ぶ（3）	ゲーム理論で現実の問題を分析します。
第 14 回	まとめ (2)	第 9 回から第 12 回までの内容のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料を見直し、要点をノート等にまとめる。
課題として出された練習問題を解いて授業内容の復習を行う。

【テキスト（教科書）】
小島寛之『世界一わかりやすいミクロ経済学入門』講談社

【参考書】
N. グレゴリー マンキュー [著] 足立ほか [訳]『マンキュー経済学Ⅰミクロ編 (第 4 版)』東洋経済新報社
ジョセフ・E・スティグリッツ／カール・E・ウォルシュ [著] 藪下ほか [訳]『スティグリッツ　ミクロ経済学（第４版）』東洋経済新報社
柳川隆・町野和夫・吉野一郎『ミクロ経済学・入門　ビジネスと政策を読み解く』有斐閣アルマ
吉本 佳生 [著]『出社が楽しい経済学』 日本放送出版協会

【成績評価の方法と基準】
原則、定期試験 70 %と提出物 30 %で評価を行う予定である。教室での試験が不可能である場合には、代替手段について別途学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
講義の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学を初めて学ぶ人にもわかりやすい説明を心がけますので、積極的に講義に参加してください。わからないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。
受講者の状況をみて、授業内容を変更する場合もあります。

【Outline and objectives】
In this class, we study the essence of micro economics.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門C　基幹科目

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・1**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ビジネスキャリア入門として、とくに経営学の基礎を学んでいきます。ビジネスが行われる場は、「株式会社」といわれる組織です。この講義では、株式会社の仕組みについて歴史を踏まえながら平易に講義します。

【到達目標】
株式会社をはじめ企業に関する基礎知識について、歴史を踏まえつつ総合的に理解することを目標とします。歴史的な文脈を押さえることにより、今日の企業活動をより正確に理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、対面の講義形式で実施します。なお、COVID-19 の感染拡大によりオンライン授業を行う必要がある場合など、適宜、Hoppi により連絡します。また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	株式会社の仕組み	事例により現在の株式会社の特徴を理解します。
3	世界経済史・経営史 (1)	ルネッサン期のイタリアにおいて企業活動が勃興するプロセスについて学びます。
4	世界経済史・経営史 (2)	16 世紀〜19 世紀に、オランダおよび英国のおいて企業活動が促進されるプロセスについて学びます。
5	世界経済史・経営史 (3)	20 世紀初頭以来の米国企業の台頭の要因について学びます。
6	経営学説 (1)	米国企業隆盛は「科学」の存在が不可欠でした。科学的管理法といわれる理論・方法等について学びます。
7	経営学説 (2)	人が働く動機に関する理論について学びます。
8	経営学説 (3)	集団の心理に関する基礎理論について学びます。
9	中間レビュー	中間レビューを行います。
10	日本経済史・経営史 (1)	明治時代の初頭における日本経済・経営の状況について学びます。
11	日本経済史・経営史 (2)	戦間期および戦時期の日本経済・経営の状況について学びます。
12	日本経済史・経営史 (3)	戦後の日本経済・経営史を鳥瞰します。
13	日本経済史・経営史 (4)	日本的な経営システムについて詳しく議論します。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事を読むなど、企業をめぐる動向に関心をもってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価は次のとおりです。
①平常点 10%（授業内の Quiz、レポートの得点）
②定期試験 90%

【学生の意見等からの気づき】
良いレポートをより積極的に紹介して、受講者のレポート作成に役立つ情報を提供します。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn the basics of business science, especially as an introduction to business career. The place where business is done is an organization called "corporation". In this lecture, we will give a lecture on the structure of the company with ease as it takes history.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門D　基幹科目

藤井　辰紀、合田　剛、北原　成憲

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3　｜　配当年次：1〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。
本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】
本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。
①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点を持つこと
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解すること
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができること以上、3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
14 回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく３つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいなから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート (1-1 〜 1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート (2-1 〜 2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート (3-1 〜 3-4)、です。それを 3 名の講師が順に担当して授業を進めます。講師はそれぞれ実際の社会で活躍している実践家です。クラウドファンドビジネスで日本のトップを走る”Makuake”、政府系の金融機関でスタートアップを支援している” 日本政策金融公庫”、スタートアップ企業と大企業を結びつけて成長を図るアクセラレーターの” ゼロワンブースター” から３人の講師が 4 回ずつ順番に担当します。受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、オンデマンド資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムースに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。
課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をきいてアドバイスや相談を行って、講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。
楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。 キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのについて話します。 学びに先行して、まず体験からはじめる意義について説明します。
2	(1-1) キャリアデザインを考えるセッション	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをテーマにディスカッションします。
3	(1-2) ビジネスアイデアの創出	やりたいことをビジネスにすることを考えます。 課題の提示：学生生活をもっと楽しく、エキサイティングなものにするサービスを考えます。<エナジードリンクのメーカー Red Bull さんとのコラボレーションを予定しています> グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
4	(1-3) ビジネスアイデアのブラッシュアップ	課題の途中経過をみながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをおこないます。 学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
5	(1-4) ビジネスアイデアに関するアドバイス	ビジネスアイデアの課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 提出されたビジネスアイデア課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
6	(2-1) アントレプレナーシップを考えるセッション	日本におけるスタートアップ企業、アントレプレナーシップをテーマに、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。 起業の実際、経営の実際を知る機会を提供します。
7	(2-2) ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート１で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。 競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略について解説します。
8	(2-3) ビジネスモデルと戦略に関するブラッシュアップ	課題の途中経過をみながら、いくつかの課題を取り上げてアドバイスをおこないます。 学生がお互いに協力して自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
9	(2-4) ビジネスモデルと戦略に関するアドバイス	ビジネスモデルと戦略の課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 提出された中間課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
10	(3-1) ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。 ビジネスプランをどのようにつくっていくかを解説します。
11	(3-2) ビジネスプランを作る	課題の途中経過をみながら、いくつかの課題を取り上げてアドバイスをおこないます。
12	(3-3) ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
13	(3-4) ビジネスプランの講評	パート１のアイデア創出、パート２のビジネスモデルと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。 提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
14	web 試験・まとめと解説	ここまでの総括として web 試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。 まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。

【参考書】
特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらうといいと思います。
フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。
(『Principles of Marketing 14th edition』)
和田充夫他『マーケティング戦略 第４版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。
石井淳蔵他『１からのマーケティング（第 4 版)』2019、碩学舎。

スタンフォード大学ハッソ・プラットナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の 38 の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。
デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済，
沼上幹『新版わかりやすいマーケテイング戦略』有斐閣，2000 年。
伊丹敬之『経営戦略の論理 3 版』日本経済新聞社，2003 年。
エーベル『事業の定義』千倉書房，1992 年。
H. ミンツバーグ『戦略計画　創造的破壊の時代』産業能率大学出版部, 1997 年。
梶井厚志『戦略的思考の技術　ゲーム理論を実践する』中公新書，2002 年。
森岡毅，今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA,2016 年。

【成績評価の方法と基準】
①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点が備わったか
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解できたか
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができたか
以上 3 点を Web 試験、ビジネスアイデア課題、ビジネスモデル課題、ビジネスプラン課題によって評価します。
web 定期試験 40%、ビジネスアイディア課題 20%、ビジネスモデル課題 20%、ビジネスプラン課題 20%の割合で評価します。
成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppii、googleclasroom などを使用します。
クリッカー、web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。

【Outline and objectives】
Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow.
Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.
In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

BSP100MA

ライフキャリア入門A

基幹科目

田中　研之輔

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生 100 年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。＊理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】
①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる。
②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる。
③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。
＊コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
2	人生 100 年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生 100 年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
3	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
4	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の＜外＞の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学の＜外＞の学びについて考える
5	人生 100 年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生 100 年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
6	人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生 100 年時代のコミュニティの多様性を確認する
7	人生 100 年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生 100 年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する
8	人生 100 年時代のライフキャリア：野宿生活とコミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、野宿者コミュニティを学ぶ
9	人生 100 年時代のライフキャリア：福祉・介護コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、福祉・介護コミュニティについて考える
10	人生 100 年時代のライフキャリア：災害とコミュニティ ボランタリズムの可能性	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、災害とコミュニティ・ボランタリズムについて学ぶ
11	人生 100 年時代のライフキャリア：若年層のストリート・コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、若者のストリートコミュニティについて学ぶ
12	人生 100 年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生 100 年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
13	人生 100 年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生 100 年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ

14	人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリア	人生 100 年時代のライフキャリアの視点からコミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義のポイントを復習しておく本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔『プロティアン』(2020 日経 BP)

【参考書】
田中研之輔『先生は教えてくれない就活のトリセツ』(2018 ちくまプリマー新書)

【成績評価の方法と基準】
① 授業時の感想メモと平常点　50 %
② 期末レポート、もしくは、期末試験を実施します。 50 %

【学生の意見等からの気づき】
双方型教育にむけて、積極的にソーシャルメディアを授業支援に活用していく。

【その他の重要事項】
例年、大人数での受講となりますが、受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline and objectives】
Life Career (community) is a course designed to assist students with the lifelong process of career development. Students will participate in a variety of experiences as a group and individually. This coursework is designed to help students identify and examine their interests, personality, values, self-esteem, critical thinking skills and to use this increased self-awareness to make decisions about majors and careers. This course will emphasize that making an occupational career choice and life planning is a never-ending process subject to and affected by one's personal maturity and environmental changes.

BSP100MA

ライフキャリア入門B

基幹科目

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活におけるキャリアについて。とりわけ家族生活と関係した夫婦や親子の関係性に関するキャリアを扱う。夫婦になる前の男女の関係性や経験も視野に入れる。それらが、時代背景や社会文化背景のなかからいかに個人のキャリアの形成と関係しているかを学ぶ。

【到達目標】
履修前までに意識したことのなかった側面を含めて、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。職業や業績達成だけでない部分において、家族やパートナーとの関係においても、自己の将来について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に、10 代後半から 20〜30 代ぐらいの年齢段階を、授業で扱う対象とする。履修者にとっての現在のステージや近未来的なライフキャリアに注目することで、より現実的・実践的・当事者的な内容になると考えられる。各回においては、ＰＰＴを用いた講義や事例紹介と、それに対しての履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料等も利用する。くわえて、私自身の実施した学生調査の結果なども含め、具体的なデータも示し、そうすることで同時期に生活する人たちが実際にどう考え、行動しているか（してきたか）をより実感してほしい。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。なお社会情勢等によりオンライン形式もありえるが、その際は追ってアナウンスするので、初回から学習支援システムを確認すること（リモートの場合はオンデマンドとリアルタイムの併用）。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	交際と結婚①	交際の現状、時代の変遷
3	交際と結婚②	交際と結婚の違いに関する意識、国際比較、男女差等
4	結婚生活①	意識や現状に関する統計・事例
5	結婚生活②	かつてと現在、近代家族
6	結婚生活③	夫婦の生活、働くということ、国際比較等
7	実家との関係①	量的・質的側面、同居・隣居・近居・遠居
8	実家との関係②	嫁姑、自立、親離れ／子離れ、昨今の親役割
9	妊娠・出産①	妊娠生活、その現状
10	妊娠・出産②	里帰り出産、立ち会い出産
11	妊娠・出産③	男性の役割
12	浮気	現状、意識、別居、影響等
13	婚前の男女関係	でき婚、その影響等
14	まとめ	キャリアと家族生活について考えること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定された課題を遂行すること（例：読書課題によるレポート、等）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『親になれない親たち』（斎藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】
必要に応じて適宜解説する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度と小レポート（50 %）、期末試験（50 %）などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【Outline and objectives】
This course deals with people's careers in everyday life, especially, family life and marital relationship and parent-children relationship. Relationship between men and women before marriage is also discussed. Students think of how these relationships are related with individuals' careers in historical contexts and social and cultural backgrounds.

BSP100MA

ライフキャリア入門C　　基幹科目

安田　節之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフキャリアは，集合的には，職業キャリア以外のすべてであるため，学びや研究の幅が広くなる。一方，多様なライフキャリアの学びの最終ゴールは，より良く生きる，つまりウェルビーイング（well-being）を高めるという点で一致している。この授業では，コミュニティ心理学（community psychology）における教育研究の視座に基づきライフキャリアの考え方や質向上の方法について考える。

【到達目標】
・現代社会を生きるうえでのライフキャリアについて，幅広い視点から捉えることが出来る。
・コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの理論や方法について知り，ウェルビーイング向上のために必要な行動や支援について理解する。
・ライフキャリア支援のためのプログラムを計画・評価することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では，現代社会で「よく生きる」，即ちウェルビーイング（well-being）を高めることの意義やそのような生き方を下支えする社会のあり方についてコミュニティ心理学の理論と方法に基づいて考える。生活観やライフスタイルは人それぞれ違い，今後その違いはより一層強まると予想される。そこで，自分自身にフィットする人間・社会環境（コミュニティ）や価値観，アイデンティティの多様性を踏まえたライフキャリアのあり方を学ぶ。この授業では特にコミュニティ心理学（community psychology）の理論と方法をライフキャリアの学びの柱とする。
まずウェルビーイングの考え方を確認し，よく生きるとは何か，どう定義・測定されるのか，さらにウェルビーイングの規定要因は何かなどについて理論や実証研究の知見をもとに考える。そのうえで，コミュニティ心理学における鍵概念とされるエンパワメント（empowermnt）や心理的コミュニティ感覚（psychological sense of community）の役割や効果をライフキャリアの質向上の観点から掘り下げていく。さらに予防科学（prevention science）の考え方をもとに，様々な生活場面や社会的環境におけるストレスやリスクを予防・回避することの重要性について学ぶ。
またグループ演習として，ライフキャリア支援のあり方について考え、組織やコミュニティといったメゾ・マクロレベルでの実施を想定した介入プログラムを設計する。授業全体を通して，リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し，更なる議論に活かすことにする。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要，成績評価等に関する説明を行う。
第 2 回	コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの学びとは何か	コミュニティ心理学の理論と方法に基づき，現代社会でよく生きるとは何か，それを支えるより良い社会とは何かについて考える。
第 3 回	コミュニティ心理学の価値観	ライフキャリアの質向上に関連するコミュニティ心理学の概念や価値観について学ぶ。
第 4 回	ウェルビーイング①	よく生きる，在る（being well）とはどのようなことを指しているのか。理論的背景を確認する。
第 5 回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングの測定方法や規定要因について学ぶ。
第 6 回	ウェルビーイング③	ウェルビーイングの効果について研究結果・事例をもとに学ぶ。
第 7 回	エンパワメント①	エンパワメントの定義および役割を考える。事例として高齢者の社会参加を挙げる。
第 8 回	エンパワメント②	大学における組織やコミュニティのエンパワメントの応用方法を模索する（演習）。
第 9 回	コミュニティ感覚①	コミュニティ感覚の定義や理論的背景を確認し，コミュニティを心理学的に掘り下げるとはどういうことかを学ぶ。

第 10 回	コミュニティ感覚②	コミュニティ感覚の醸成や効果について，学校・企業組織・地域コミュニティを例にとって考える。
第 11 回	ライフキャリアの質向上①	現代社会におけるライフキャリアに関する課題を取り上げ、課題・問題分析を行う。
第 12 回	ライフキャリアの質向上②	ライフキャリア支援に向けた活動の方針とゴールの検討を行う。
第 13 回	ライフキャリアの質向上③	メゾ・マクロレベルの介入プログラムの設計を行う（例：ロジックモデル）。
第 14 回	成果発表	ライフキャリア支援の概要および介入プログラムに関する発表を行う (グループ発表)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
※授業内のディスカッションのため，配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習 (3 時間)・復習時間 (1 時間) を標準とします。特に事前学習（配布資料の通読）に時間を費やしてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず，配布プリント，関連資料，演習用ワークシートを使用する。

【参考書】
授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 (50 %)，グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30 %)，授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)(20 %) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
継続的に分かり易い授業を行う。大教室内でのグループワークにおけるより効率的な運営方法を検討する。

【Outline and objectives】
Life-designing processes and outcomes involve with many aspects of one's lives, and as such there is a whole spectrum of relevant training and research relating to the fields. The goal of the fields, however, is one thing in common – maximizing one's well-being. In this class, students will learn how to manage issues about their life-designing processes, so that their well-being can be maximized. Specifically, we accomplish this goal by acquiring knowledge concerning theories and methods of community psychology.

BSP100MA

ライフキャリア入門D　　基幹科目

金山　喜昭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、マスコミなどでも「地域の衰退化」「都市の空洞化」などが話題になる。地域や都市を活性化するためには、そこで生活や仕事をする人たちなどが、生きがいをもち、その土地の一員としての役割を果たすことが大切である。人の生き方（ライフキャリア）は、地域と密接に関係している。そのことを理解し考えるために、地域において個人が市民としてキャリア形成をはかることをテーマにする。

【到達目標】
具体的には、「まちづくり」や「市民のキャリアデザイン」の考え方や、各々の実情を理解するとともに、そのあり方について具体的にみる。将来、文化、教育、福祉、ビジネス方面から「まちづくり」に関心のある人たちにとって基礎的知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「まちづくり」に関する基礎的な知識を習得することをはじめ、各地の「まちづくり」の実例をみることや、さらに文化をもちいた取り組みについても紹介する。授業は、講義・ワークショップ・現地見学などからなる。
最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する
2	民主主義と市民のキャリアデザイン	地域コミュニティや市民のキャリアデザインの考え方を説明する
3	市民活動とまちづくり	NPO について取り上げる
4	市町村合併とまちづくり	平成大合併について取り上げる
5	都市の経営とまちづくり	急速な少子高齢現象が進む地方の現状と取り組みをみる
6	行政改革とまちづくり	現職市長の講演（映像）
7	エコミュージアムとまちづくり	山形県朝日町、長野県大鹿村を事例に説明する
8	観光とまちづくり	住民と行政の協働による地域の活性化（大分県湯布院町を事例にする）を説明する
9	世界遺産とまちづくり	特に石見銀山を事例に取り上げる
10	市民による公立博物館の運営とまちづくり	指定管理者制度の考え方や仕組みとともに、市民が公共施設を運営する特性について説明する
11	「まちづくりとキャリアデザイン」	外部講師講演
12	市民のキャリアデザイン Ⅰ	文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する
13	市民のキャリアデザイン Ⅱ	文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する
14	試験（総括を含む）	試験（総括を含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各地のまちづくりの事例や文化施設を見学する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山 喜昭『公立博物館を NPO に任せたら-市民、自治体、地域の連携-』（同成社、2012 年）

【参考書】
適宜授業内にて資料を配布。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)
課題レポート（20%）
試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
テーマにもとづき系統的に授業を展開する。

【Outline and objectives】
In recent years, “declination of society” and “donut phenomenon” have been coming up in the media.In order to revitalize locals and cities, it is important for the people living and working there to have something to live for and play a role as each member of the areas. The theme of this course is to make a career development as a citizen in the living area in order to understand and consider that way of living (life career) is closely related to each living area.

CAR100MA

労働法

基幹科目

砂押　以久子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な知識を習得することを目的とします。

【到達目標】
　現在、雇用をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、長時間働くことで健康を害するばかりでなく、人としてのプライベートライフをもちにくくさせたり、家庭等の事情で長時間労働を行うことができない一定の労働者をキャリアシステムから排除してしまうなど、さまざま問題が引き起こしています。近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において「働き方改革」が推し進められています。
　また、非正規雇用の問題も近時意識されている問題です。非正規従業員のデメリットは、単に賃金が安いというだけにとどまらず、仕事を通してスキルアップするという重要な機会を逸することでもあります。スキルアップはキャリアアップの前提となるので、この状況が経済的格差をより一層助長しているといえます。このような非正規従業員の問題は看過しえない問題といえます。現在、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされています。
　この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学びつつ、上記のような雇用をめぐる問題がいかに解決が図られるべきか検討し、今後のわが国の雇用のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。
テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次回の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働法とは何か	雇用に関する大まかなルールを示します。働く上での疑問点について考えてもらいます。
2	労働法はどのように労働者を保護しているのか	働く上での疑問点について、労働法がどのような制度を用意しているかについて示します。
3	労働法が誕生した経緯と現代に残された問題	戦前の雇用における弊害はいかなるものであったか、戦後労働者はどのように保護されるようになったか、現在においても同様の問題は本当に生じていないのか検討します。
4	労働契約の成立	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
5	賃金・労働時間法制（1）	賃金保障がどのように図られているか学びます。労働規制に関して具体的な問題を検討します。
6	労働時間法制（２）	長時間労働によりどのような問題が生ずるかについて学びます。
7	労働時間法制（３）	長時間労働はどうしたら改善できるかについて考えます。
8	労働時間法制（４）	残業代が支払わない人たちについて考えます。
9	ワーキングライフとプライベートライフ	仕事と生活の調和を図るため、どのような制度が設計されているのかについて学びます。
10	男女平等	男女差別のない職場とはどのようにしたら構築されるかについて検討します。
11	懲戒制度	会社の秩序を乱した場合の制裁措置について学びます。
12	正規雇用と非正規雇用	いわゆる正社員と有期雇用契の違い及びその問題について検討します。
13	セイフティーネット	わが国のセイフティーネットの在り方と問題について検討します。
14	まとめ	授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第６版〕』有斐閣アルマ

【参考書】
菅野和夫『労働法〔第１２版〕』弘文堂
別冊ジュリスト『労働判例百選〔第９版〕』有斐閣
『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を実施します。
平常点（授業内発言・リアクション・ペーパーなど３０％）と試験の点数（７０％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を用いるとともに、内容をより理解しやすいようにプリント等の資料を配布するなどして、授業を進めていきます。あまりテーマが多岐にわたりすぎないよう、中心的テーマに絞り授業を展開したいと考えています。取り上げるテーマに関しては、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題となっているか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じ DVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】
授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々の雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があることを予め了承いただきたいと思います。

【Outline and objectives】
The obfectives of this class is to focus on getting the fundamental and useful legal knowledges - especialy labor law related mattes - in real business world.

BSP100MA

ファシリテーション論　　基幹科目

鈴木　まり子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・6**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　**グローバル：**　**成績優秀：○**　**実務教員：○**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】
この授業では、会議、話し合いなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができる対話や議論のスキルを身につけることができます。また、話し合いのファシリテーションにとどまらず、社会的課題の解決に向けた事業や組織の支援・促進において、どのような知恵と技術が必要となるのか事例を通して理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
リアルタイムでのオンラインでの開講となる。指定した教科書に従って、講義と演習を組み合わせて進む。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。リアクションペーパー等における気づきや問いかけは授業内で共有し、お互いから学べるプロセスをつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方	オリエンテーション（授業の進め方）【講義】オンラインで参加型の場が求められる背景。ファシリテーションとは。 【演習】チェックイン
2	「ともに社会をつくる関係」を育むソーシャル・ファシリテーションとは	【講義】ソーシャル・ファシリテーションについて。 【演習】 ファシリテートされた体験を振り返る
3	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」空間のデザイン：「しつらえ」を意識し、工夫する	【講義】空間のデザイン：フォーメーションン、グループサイズ 【演習】 多様な場づくりから学ぶ
4	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」オリエンテーション、チェックイン	【講義】オリエンテーション：話し合いを方向づける 【演習】 事例をもとに、オリエンテーションを考える

5	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」発問	【講義】発問：「答え」ではなく「問い」を考える 【演習】 考えを深める/広める「問いかけ」をし合う
6	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」可視化	【講義】可視化：書きながら、見ながら話し合う 何をどう可視化するのか 【演習】 議論を可視化する
7	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」意見の吟味を促す	【講義】意見の吟味：合意形成に向けての基本的な働きかけ 【演習】 グループでの合意形成を体験
8	話し合いのファシリテーション：オンライン・ファシリテーション	【講義】オンラインならではの特徴を理解したうえでのスキルとは 【演習】オンライン・ファシリテーター体験
9	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】プログラムデザインとは 【演習】プログラムデザインを考えるワーク①
10	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン③ ワークショップを開催する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク③ グループで考えたワークショップを実践する
12	ソーシャル・ファシリテーションに必要な働きかけ	【講義】ソーシャル・ファシリテーションに必要な「話し合いのファシリテーション」以外の働きかけとは
13	キャリア・デザインとファシリテーション：実践事例から学ぶ	【講演と質疑応答】 ソーシャル・ファシリテーターからリアルに実践事例を学ぶ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）また、授業で学んだファシリテーションのスキルと考え方を実践し、その気づきや疑問を次の授業に持ってきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ソーシャル・ファシリテーション「ともに社会をつくる関係」を育む技法
共著：徳田太郎、鈴木まり子
北樹出版
2021 年
1600 円（消費税別）

【参考書】
「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」　共著鈴木まり子他　岩波書店
「深い学びを促進する：ファシリテーションを学校に！」青木将幸　ほんの森出版、2018 年
「はじめてのファシリテーション」鈴木康久他、昭和堂、2019 年
「オンライン会議の教科書：意思決定のスピードをあげるファシリテーション・スキル」朝日新聞出版、2020 年

【成績評価の方法と基準】
演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。
　演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
　実際にゼミやサークル活動、就職活動などでのファシリテーションの実践から生まれた疑問にもテキストと照らし合わせながら解決策を探る時間も確保する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
リアルタイムのオンライン事業を予定しているので、通信環境が良いことが望ましい。また、グループでの話し合いが多いため、講義以外はカメラ on、マイク on を求めるため、PC の場合もカメラ（外付けウェブカメラなど）機能が必要である。

【その他の重要事項】
◎演習を中心にした授業です。オンラインでリアルタイムに開催します。
◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】
Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

BSP100MA

若者の自立支援

基幹科目

大山　宏

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・5　｜　配当年次：1〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】
1．若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2．若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3．若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態については基本的に対面で行うことを想定するが、コロナの影響を受けての大学の方針等によってオンライン形式になることも考えられる。
その場合、授業で使用する URL 等は別途連絡をする。
また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。
提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。
授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性があるが、これはオンラインでの授業環境を含め、授業の様子を見ながら判断する。
この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。
その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第 2 回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第 3 回	若者の生きづらさ	若者の生きづらさの諸相
第 4 回	生きづらさの構造	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第 5 回	生きづらさの根幹	生きづらさについての具体的検討
第 6 回	支援対象の設定	支援の対象をどのようにとらえるか
第 7 回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第 8 回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第 9 回	若者による支援	若者自身による取り組みの位置づけ
第 10 回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第 11 回	若者支援の実践	事例を用いた具体的検討
第 12 回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第 13 回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第 14 回	総括 若者の自立支援とは	自立の要件 若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。
参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロング/フレッド・カートメル・大月書店
など。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：４０％
レポート：６０％

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を元にした検討等、イメージしやすいよう伝えていく。
また、前年度は毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【Outline and objectives】
The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".
In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

CAR100MA

職業選択論 I

基幹科目

上西　充子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：1〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。
なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。
大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	各自の問題意識の共有	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
3	大卒労働市場の現状	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
4	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	それぞれの特徴とワークライフバランス上の課題
5	キャリア教育とインターンシップ	キャリア教育と職業希望／インターンシップの目的・現状・課題
6	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
7	アルバイトから働き方を考える	アルバイト就労の現状、アルバイトと労働法
8	職場の問題への向き合いかた	アルバイト職場の改善に向けて／労働組合とは
9	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
10	「まともな働き方」とワーク・ライフ・バランス	長時間労働問題への視点
11	労働条件と労働契約	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
12	就職活動における客観情報の活用（1）	「就職四季報」の活用
13	就職活動における客観情報の活用（2）	各種データベースの活用
14	初期キャリアとリアリティ・ショック／セーフティネットと転職	初期キャリアの課題／社会保障／転職状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。
授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。
課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社
・東洋経済新報社編『就職四季報　総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0〜2回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは学習支援システムに事前に掲載する。各自、プリントアウトするなどして準備すること。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。

【Outline and objectives】
This course has been designed to provide a basic understanding of the School-to-Work transition. Main topics are characteristics of Japanese School-to-Work transition, career decision, labor problems and labor laws.

CAR100MA

ライフコース論

基幹科目

髙崎　美佐

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアをデザインするためには、一般的な人生の段階と各段階における課題を知る必要があります。この授業では、ライフコースの概念を学んだうえで、就学、就職、結婚、子育て等を経て高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、①個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、②個人の生き方やそれに影響を及ぼす社会システムを検討することを目的とします。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の１～３です。
1. ライフコースの変化を時代背景と関連させて、説明できるようになる
2. 日本のライフコースの特徴を社会システムと関連させて説明できるようになる
3. ライフコースの視点から日本の社会問題について考察できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＜授業形態＞
この授業は、対面で行うことを想定しています。
＜授業の進め方＞
講義を中心としますが、受講者のみなさんからトピックを提供してもらったり、発表をしてもらったりします。
＜授業後＞
リアクションペーパーの提出を求めることがあります。
＜課題等に対するフィードバック方法＞
課題やリアクションペーパーに記載された内容・コメントを次の授業内で取り上げ、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ライフコースとは	・授業の概要や進め方についての説明 ・ライフコースの概念
2	ライフサイクルからライフコースへ	・ライフサイクルと発達段階モデル ・ライフコースを捉える背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコースを捉える視点：ライフコースへのアプローチ方法
4	児童期から青年期	児童期から青年期に関する変化と課題
5	青年期から成人期	学校から職業への移行とその変化
6	成人期（家族形成）①	結婚と結婚をめぐる変化
7	成人期（家族形成）②	出産行動の変化とその背景
8	ジェンダーとライフコース	ジェンダーによるライフコースの特徴
9	雇用システムと働き方	・雇用システムの特徴 ・働き方と雇用システム
10	女性の就業	女性の働き方の現状とその背景
11	男性の就業	男性の働き方の現状とその背景
12	就業形態とライフコース	正規・非正規といった就業形態の違いによるライフコースの特徴
13	高齢期	高齢期の就業 就業から引退へ
14	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
ライフイベントやライフコースについての知識を得たり考えさせられたりするようなニュース、新聞・雑誌の記事、書籍などを見つけられるようアンテナをはってください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
安藤由美（2003）『現代社会におけるライフコース』日本放送出版協会
嶋崎尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社
岩上真珠（2013）『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣
武石恵美子（2016）『キャリア開発論』中央経済社
その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、以下の 3 つで行います。
①授業参加度（発言とクラスへの貢献）30 %
②リアクションペーパーなどの提出　　30 %
③最終課題（レポート 1000〜2000 字程度を想定）　　40 %

①発言や資料提供などによるクラス全体の学びへの貢献を指します。
②授業後のリアクションペーパーなどの提出状況を指します。
③最終課題のテーマは 12 回の授業中に提示します。
※②③は期限厳守です。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する連絡、授業資料の提示は学習支援システムにて行う予定です。連絡事項がある場合は、講義前日（火曜日）午前中を目途に授業に関する連絡を行います。確認の上、授業に臨むようお願いします。

【その他の重要事項】
進捗状況によって授業計画を調整する可能性があります。

【Outline and objectives】
For designing our career, it is necessary to know the factors that influence the career. In this course, we will focus on major life events and consider that factors through the perspective of a life course.
The purpose of this class is following two points.
1. To learn concept of life course
2. To think and learn about what affect individuals life course

CAR100MA

生活設計論Ⅰ（社会保障）　基幹科目

上田　将史

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・5 ｜ 配当年次：1〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生には“想定外”がつきものであり、これがスパイスとなり、人生がより豊かなものとなることも珍しくありません。しかしながら、病気や怪我・ハイリスク妊娠・障害・老化・失業・死別などの生活上のリスクについては、一定の知識や備えが必要となります。
我が国の社会保障は、生活の安心や安定のために、各種制度等でリスクを相互に分散し (共助)、さらに対応困難な困窮などの状況に対して受給要件を定め生活保障を行う (公助) ことで、個人の努力 (自助) を補完する仕組みを持っています。
昨今の災害や新型コロナの感染拡大等により、日常がリスクと隣り合わせであることをあらためて感じている方も多いのではないでしょうか。本講義では、代表的な社会保障についての基本的な知識を身に着けるとともに、事例等を踏まえながら、困難な問題を抱える方々への支援を行うソーシャルワークやコミュニティ心理学の価値や方法論について学びます。
とりわけ心の問題については、社会的認知こそ広がってきたものの、偏見や差別等も背景にあり、他の障害等に比べ福祉施策が遅れていると言われます。この精神保健の課題についても理解を深めるとともに、少子高齢化による社会保障費の増大を抑制し、複雑化・多様化する福祉ニーズに対応するために国が進める地域包括ケアシステムの構築についてもふれ、誰もが暮らしやすい社会について考えます。

【到達目標】
・リスクに耐え得る生活設計を立てるための手がかりを得る。
・社会保障制度の目的や機能を理解し、人に説明できるようになる。
・ソーシャルワークやコミュニティ心理学の基本的な価値や方法を学び、困難な問題への対処方法の幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・この授業は講義形式と演習形式を組み合わせて実施する。
・講義形式での情報提供と問題提起などを行い、これを踏まえ、グループディスカッション等を行う。講義内容の理解を深め、実際の生活に関連付けて考えられるよう、適宜ワークや動画視聴の時間なども設ける予定である。
・リアクションペーパー等における示唆に富んだコメントや質問については、授業の冒頭等で、適宜、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等に関する説明を行う。
第 2 回	社会構造とライフスタイルの変化	少子高齢化、情報化等を背景にした社会構造とライフスタイルの変化について考察する。
第 3 回	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要、民間保険との違い等を確認し、本講義のテーマを概観する。
第 4 回	生活保護	最低限度の生活を維持できなくなった場合の扶助について理解する。
第 5 回	生活困窮者自立支援制度	生活保護に至る前段階の自立支援策の意義と課題を考察する。
第 6 回	障害者福祉①	障害者総合支援法、障害福祉サービスの概要を理解する。
第 7 回	障害者福祉②	自立支援医療、障害年金、障害者手帳など、心身の不調により障害を抱えた場合の制度を理解する。
第 8 回	介護保険制度①	介護保険制度の概要と、介護保険サービスの概要を理解する。
第 9 回	介護保険制度②	育児・介護休業法で定められた仕事と介護の両立のための制度等を理解する。
第 10 回	医療保険制度	医療保険制度の概要、高額療養費制度、保険外併用療養費制度など、医療費の負担軽減に関する制度を理解する。
第 11 回	年金制度	「老齢」、あるいは「死亡」「障害」など万一に備える年金制度の概要を理解する。
第 12 回	雇用保険制度、労働者災害補償保険	失業・雇用継続等に関する保険制度について理解する。
第 13 回	権利擁護	高齢者・障害者虐待、悪徳商法・特殊詐欺等にかかる制度、成年後見制度など、主に社会的弱者の権利を擁護するための制度を理解する。
第 14 回	地域包括ケア、地域共生社会	「4 つの助（自助・互助・共助・公助）」の基本的な考え方とそれぞれの関係性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

事前学習：シラバスで次回のテーマを確認し、そのテーマに関する最近の話題を調べる。
事後学習：講義で学んだことが、社会の中でどのように位置づけられ、どのような課題を持っているかについて考察する。また、提示された参考文献等に目を通す。

【テキスト（教科書）】
パワーポイント等で作成した資料を配布する。

【参考書】
適宜、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（30 %），期末レポート（30 %），各回の課題への取り組み（40 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の感想・要望、社会情勢を見ながら講義内容を調整していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
講義形式については、新型コロナ感染予防対策等を踏まえ、調整していきます (ディスカッションは行わない、ソーシャルディスタンスを保ち、最低限のやり取りにする等)。

【Outline and objectives】
Japan’s social security has a mechanism to complement individual efforts (Self-help) by dispersing risks with each other through various systems for the security and stability of life (mutual assistance) and providing livelihood security for situations that are difficult to deal with, such as poverty (public help).
In this lecture, students will acquire basic knowledge about representative social security systems and learn about the values and methodologies of social work and community psychology to support people with problems based on actual case examples.
It is said that welfare measures for mental disorders are behind those for other disorders. We will deepen our understanding of these mental health issues and the construction of a comprehensive community care system and think about a society where everyone can live comfortably.

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計）　基幹科目

林　奈生子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3　｜　配当年次：1〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生 100 年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道のりで重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の想像する未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大です。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのようにライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのかを考えます。

【到達目標】
本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために、①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義　②それらと「お金」の関係性　③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識　④仕事を選ぶ際の留意事項　⑤未来社会の予測 ― などについて考え学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
＊授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。
＊学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。
＊第 12 回の研究課題については第 13 回のプレゼンテーションにて学生同士の意見交換を行います。
＊オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
＊授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション〜キャリアデザイン学部卒に期待されること〜	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、キャリアデザイン学部の皆さんに学んでもらいたいことについてコンサルタントの視点から話します。
2	生活設計の考え方と必要性	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
3	ライフプランとファイナンシャルプランの関係	人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
4	お金の使い方と価値観の関係性	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にして行動しているのか、価値観がどのようにお金の使い方に反映されるのかを知る。
5	予算の立て方	予算を立てることの意義と具体的な予算の立て方について学ぶ。
6	お金の基本知識	お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際の留意事項を知る。
7	貯蓄型金融商品	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。
8	リスクとリターン	具体的な金融商品を通してリスクとリターンの基礎知識を学ぶ。
9	ポートフォリオの考え方	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法などについて学ぶ。
10	企業活動と消費者	企業活動と消費者の関係を整理し、「働くとは何か」「消費するとは何か」について考える。
11	仕事の選び方と生活設計	「組織・マネジメント・求められる人材」について学び、仕事をどのように選ぶべきかを考える。
12	研究課題「未来予測と自身のライフプラン」	いくつかの未来社会を予測するなかから、自身が目指すべきライフプランを考える。
13	研究課題のプレゼンテーション	第１２回の研究結果を発表し意見交換をする。
14	まとめとレポート提出の説明	本授業全体の総括を行う。また、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
必要な場合は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート提出： 70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）： 30 %とします。
レポート提出の詳細は次の通りです。
1．レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。
2．言語：日本語
3．字数、フォント、ポイント： 400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5
4．提出期間： 2022 年 1 月 13 日 14 時 50 分から 2022 年 1 月 20 日 14 時 50 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5．提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出
6．留意事項
（1）レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（2）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（3）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（4）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（5）レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の「生活設計論Ⅱ」の全授業終了後、受講生にアンケートをとり本授業への率直な意見を述べてもらいました。それらをまとめた結果が以下です。
1．ライフデザインと「お金」について
「初めて自分が将来目指している生活を真剣に考えることができた」「今後の人生に思っていたよりもお金が必要だということが自覚できた」「将来どのくらいお金が必要なのか、どのくらい稼ぐことができるのかを考えることができて良かった。そのために今どのくらい貯蓄すべきか、どのくらい使っていいのかなど、お金についていろいろ考えるきっかけとなった」「今後生きていくうえで自分がどんな人間になりたいのか、どんな人生を歩みたいのかといったことはお金と深くかかわると思った」「満足度の高い生活を送るためにはライフプランが重要であると感じた」
2．「お金」や金融商品の知識について
「金融商品の授業が印象的だった。しっかりと勉強を重ねないと損失につながるという考えに変わった」「お金の知識を身につけることは、お金のリスクや問題から自分を守ることにつながるためとても大切なことだと感じた」「資産運用について自分で調べると情報量が多くてわからなくなってしまうが、今回自分の中で情報をシンプルに整理することができた」「金融商品に関しては興味があっても他人に気安く聞けるものでもないので今回学べてよかった」
3．仕事の選び方について
「商品にもライフサイクルがあることが印象的だった」「自分の価値観と企業目的の関係を考えたことで、就職するにあたり新しい観点を得たような気がした」
4．未来予測と自身のライフプランについて
「人前で発表するのは非常に緊張したが、自分を成長させるいい機会になった」「自分の考え方とは違う考え方を聞くことで、自分には思いつかなかった、知らなかった事柄について考えることができた」「自分の未来について大枠は考えていたが、〝未来の社会で生活する"という条件が抜けていた将来像であったことが分かった。貴重な経験になった」「自分の考えていることを発表するために文章化することが難しかった」
5．授業運営や改善点について
「対面授業でないことが残念だった」「学生同士で話し合う機会があると意見交換もでき面白いと感じた」「ストレスのない授業だった」「オンライン授業ではそれぞれの環境で受講中の応答に難しい場合があるため、学習支援システムを活用したほうがいいと思った」「対面授業でいろいろな話をしながら進めたかった」「他の講義と違って〝ザ・キャリアデザイン学部の講義"という感じだった」「オンライン授業でも前のめりで受講できた」

アンケートに答えて頂いた学生の皆さんありがとうございました。大変貴重な意見を聞かせていただきました。本アンケート結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそうような授業内容、運営にしたいと考えています。具体的には、オンライン授業での　①受講生同士の意見交換や交流ができるような運営方法　②それぞれの環境に合わせた対応－を工夫していきたいと考えています。対面授業では、従来にも増してグループワーク、意見交換、受講生同士の交流を図ります。いずれにしても、今後も受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline and objectives】
In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture will focus on the significance and importance of life design in this era, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. We discuss issues of corporate activities, job selection, teamwork, and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

CAR100MA
キャリアモデル・ケーススタディ　基幹科目

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な人のキャリア形成過程の実例を元に、各個人のキャリア形成について考える機会を提供する。また複数のキャリアモデルを知ることを通じて、キャリア形成とは何かという問題についても学ぶ。本講義では特に、いわゆるビジネス「以外」の職業人を重点的にケーススタディを行う予定である。

【到達目標】
多様な社会人のキャリアに関するケースを聞く事を通じて、キャリア形成の過程について学ぶことを目標とする。合わせて単に話を聞くだけでは無く、その話にいかに解釈すべきか、予備情報としてどのような情報を予め入手しておくべきかなどを解説する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初の 3 回でインタビュー法などのケーススタディの聞き方についての講義を行う。そのため履修を希望する者は必ず初回から出席すること。初回〜 3 回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、これらを受けていない場合は単位を取得が不可能となる。その後でゲストによるキャリアモデルの話を聞いた上で、その振り返りを通じてキャリア形成に関する理解を深める。なお、ゲストの講演の回も含め、各回に内容に関する小レポートを課す予定なので、その覚悟を持って受講すること。また下記の授業計画はゲストのスケジュールによって変更の可能性があるので注意すること。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	ケーススタディとは	研究法の 1 つとしてのケーススタディとは何か、その特徴と意義について解説する。
第 3 回	下調べの方法	インタビューを実施する前に必要な調査について解説する。
第 4 回	インタビュー術	インタビューとは何か、どのようなスキルが必要かについて解説する。
第 5 回	ゲスト講師①	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 8 回	ゲスト講師③	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでの講演内容をケーススタディとして活用する方法について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。またゲスト講師を相手にインタビュー役を全員にやって貰う予定なので、その覚悟を持つ者のみ受講するように。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメを配布する。

【参考書】
特になし。必要な場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題レポート (70%) と授業への参加度 (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中のリアクションペーパーを通じて学生の要望を反映させる。

【その他の重要事項】
履修希望者は必ず初回から出席すること。初回～ 3 回までも欠席した場合は、単位の取得は不可となる。

【Outline and objectives】
Students will learn various careers and how to conduct interview. Especially, it is focused on the methods of case study and practice of interview.

CAR100MA
キャリアモデル・ケーススタディ　基幹科目

梅崎　修

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**1～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々を教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】
ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。課題等の配布は「学習支援システム」、提出は授業内で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。現在、対面での授業を予定していますが、コロナの感染状況やゲスト講師の方の基礎疾患などを踏まえてオンラインで講義することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第 3 回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第 4 回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第 5 回	ゲスト講師①	NPO 分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第 8 回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメを配布する。

【参考書】
永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）
阿川佐和子『聞く力　心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）
マルコ社『プロカウンセラーの聞く技術・話す技術』（サンクチュアリ出版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（50 %）と最終講義日に提出するレポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
振り返りなど、業界や職業知識の解説を適宜行い、理解を深められるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。PC の持ち込みは可能

【その他の重要事項】
。

【Outline and objectives】
To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.
Making an image of your career is an effective way to career design.
In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).
From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

廣川　進

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
詳しくは，学習支援システムの本授業ページをご覧ください。「お知らせ」および「授業内掲示板」の「授業用のお知らせ」トピックなどをチェックしてください。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。 ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部１年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる。
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる。
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる。
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる。
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義，受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部１年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
履修に際しては、必ずガイダンスに出席しておくこと。また、掲示等にも注意すること。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部１年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

田澤　実

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部１年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生・高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして生徒とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の中学・高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
・実習時に中学生・高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
・中学生・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
・中学・高校には様々な文化があり、様々な考え方をする生徒がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクション ペーパー提出など。提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	２つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	２つ目の校外実習
13	実習報告	２つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがある。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件となる。学期初めの掲示等に注意すること。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:

· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

田澤　実

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして中学生および高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の中学校および高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
· 実習時に中学生および高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
· 中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
· 中学校および高校には様々な文化があり、様々な考え方をする中学生および高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	２つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	２つ目の校外実習
13	実習報告	２つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:

· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

荒川　裕子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学生および高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして中学生および高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の中学校および高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
· 実習時に中学生および高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
· 中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
· 中学校および高校には様々な文化があり、様々な考え方をする中学生および高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	２つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムの発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	２つ目の校外実習
13	実習報告	２つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:

· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
· 実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
· 高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
· 高校には様々な文化があり、様々な考え方をする高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2つ目の校外実習
13	実習報告	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA
キャリア体験事前指導（A・Bコース）
展開科目

中野　貴之

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、キャリア体験（インターンシップ）に先立って、働くことに対する意識と理解を高めることを目的とします。グループワークを重ねることにより、自己理解、他者理解、社会経済事象に対する分析力や表現力を養い、社会人基礎力を身につけていきます。

【到達目標】
次の項目を達成することが目標です。
＜実習準備期間＞
(1) 他者との協働により成果を獲得するチームプレーの経験を積むとともに、他者の前で自分の考えを、口頭、文章により適切に表現できる能力を身に着ける。
(2) 実習先の概要を理解し、働く場に対して自分なりの考えをもつ。
(3) 学部の授業で得た理論・知見と、働くという実践とをつないで考える習慣を身に着ける。
＜実習中＞
(1) 自分の関心の強い業界・仕事に対する理解を深める。
(2) 実習先（企業、NPO、および、公共機関等）に対する理解を深める。
(3) 自分の適性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＜授業形態＞
1. 本講義は、夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものである。選択必修科目である体験型科目の履修は、本科目、および、秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもっては終了する。
2. 実習先は基本的に夏休みまでに自分で開拓する。ただし、数は多くはないが、大学で用意した実習先もあり、当該派遣者は本人の適性および希望を勘案して決める。
3. 希望者の数が多い場合には選抜を行う。
4. 実習先、実習期間は多様である。6、7 月に実習先にコンタクトし、原則として実習は夏休みに行うが、例外もある。
5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談により行う。
＜授業の進め方＞
グループディスカッションを行っていく。4〜5 名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返し行うとともに、適宜、グループの変更を行う。また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス: 授業の概要、評価方法等について説明
第 2 回	グループワークⅠ（ディスカッション）	「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマに討議
第 3 回	グループワークⅠ（プレゼンテーション）	①「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマについて発表する。 ②希望先聴取と実習先調整
第 4 回	グループワークⅡ（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマに討議
第 5 回	グループワークⅡ（プレゼンテーション）	①「あなたは何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 6 回	企業研究・業界研究の進め方	①業界、企業の見方をレクチャー ②基礎的な知識 ③企業業績、業界の特徴
第 7 回	グループワークⅢ（ディスカッション）	「5 年後、10 年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」についてディスカッション
第 8 回	グループワークⅢ（プレゼンテーション）	「5 年後、10 年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」について発表
第 9 回	ゲスト講師との対話①	ゲスト講師との対話①
第 10 回	ゲスト講師との対話②	ゲスト講師との対話②
第 11 回	グループワークⅣ（ディスカッション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてディスカッション

第 12 回	グループワークⅣ（プレゼンテーション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてプレゼンテーション
第 13 回	インターンシップに向けたグループワーク①前半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆
第 14 回	インターンシップに向けたグループワーク②後半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをとる。
・プレゼンテーションの準備には、授業外の時間を割く必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『キャリア体験学習の手引き』

【参考書】
授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワーク等への取組み姿勢（60%）
②インターンシップ先に対する適切な対応姿勢（10%）
③各種レポートの提出状況、内容（30%）

【学生の意見等からの気づき】
熱心に取り組むことができたとの意見が多かったので、本年度も同様のスタンスで進める。

【その他の重要事項】
・積極的、主体的に取り組むことが要求される。

【キャリアデザイン学部より】
ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要がある。掲示で詳細を確認すること。

【Outline and objectives】
This lecture aims to increase the motivation for working. You will develop some analytical skills and expressive power, understand social and economic phenomena, and acquire core skills for business persons.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・B コース）

展開科目

酒井　理

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア体験事前指導は、キャリア体験（インターンシップ）の学習効果を高めるために行います。授業は、働くことに対する意識や考え方を深めることを目的としています。
具体的には、他の学生の考え方を知る、自分を知ることを狙いにディスカッション、グループワークをおこないます。また、職業、働くことを深く考えることにより、働くことに対する意識を高めます。また、普段あまり考えたことがない「働く」ということについて、様々な意見のなかで、今の自分の考えをまとめます。
さらに、就業体験に臨み、必要となる基礎知識や考え方を提供します。

【到達目標】
（実習準備期間）以下３つの項目を目標とします。
1. キャリアをデザインするという意味を学習しキャリア体験学習の意義を自覚すること。
2. 実習先の概要を理解し、働く場である組織について自分なりの考え方を持つこと。
3. 学生モードから社会人モードへの切り替えを図ること。
（実習中）以下３つのことを目標とします。
1. 自ら動くことの重要性を実感し実践すること。
2. 実習先の人たちとの人間関係を構築すること。
3. 新しい事象に対する感性を磨き、現場の状況の把握力を高め、同時に現場での問題発見能力とそれを解決する能力の重要性を実感すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
(授業の形態)
1. この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了とします。
2. インターン先は、教員がアドバイスを行いつつ自分で開拓しますが、教員が紹介できるインターンが 10 名分程度あります。全員がいけるわけではありませんが、本人と相談しつつマッチングをおこないます。
3. 希望者の数が多い場合には選抜します。
4. 実習先は多様です。実習期間についても開始・終了時期が異なります。通常 6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行いますが、例外も多々ありますのであらかじめ了解しておいてください。
5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談などでおこなっていきます。
(授業の進め方)
グループディスカッションを繰り返し行います。テーマは授業計画に示してあります。クラスの人数によりますが、3-4 名あるいは 5-6 名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返しおこなっていきます。グループは頻繁に組み替えます。
グループディスカションを効果的に実施するために事前の準備としての課題、ディスカッション後の感想コメントを求めることがあります。書き方や内容に関するアドバイスについては、授業はじめあるいは終わりに全体に対してフィードバックを行います。
面談前の課題については、課題内容に基づいて個別の面談をおこなうことでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、実習先の概要	目的、キャリアデザインと体験学習、受講の心構え、社会人モード、実習先の概要、評価の仕方などの説明
第 2 回	グループワークⅠ（ディスカッション）	「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマにグループ討議
第 3 回	グループワークⅠ（プレゼンテーション）	①「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマに発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 4 回	グループワークⅡ（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマにディスカッション

第 5 回	グループワークⅡ（プレゼンテーション）	①「何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 6 回	グループワークⅢ（ディスカッション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？ 」についてグループワーク
第 7 回	グループワークⅢ（プレゼンテーション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？ 」についてグループワーク
第 8 回	グループワークⅣ（ディスカッション）	「あなたが生きる 10 年後の社会がどのようになっているのか？ どのようなキャリアデザインをしようとするのか？」をテーマにディスカッション
第 9 回	グループワークⅣ（プレゼンテーション）	「あなたが生きる 10 年後の社会がどのようになっているのか？ どのようなキャリアデザインをしようとするのか？」をテーマに発表
第 10 回	社会人からみたキャリアデザイン	社会人ゲストを招いて、キャリアデザイン、就職活動など幅広く話をお聞きします（リクルートキャリア）
第 11 回	業界研究ワーク 1	関心のある業界を定めて情報を集めます
第 12 回	業界研究ワーク 2	特定の業界について分析を深めます
第 13 回	企業研究ワーク 1	関心のある企業を定めて情報を集めます
第 14 回	企業研究ワーク 2	特定の企業について分析を深めます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをおこなってもらいます。先方に出向いて面接を受ける場合もあります。「組織とは何か」あるいは「実習先の業界」について調査研究を行ってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業課題 60%、業界・研究課題 40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、体験、後期の授業の一貫性を持たせる流れを意識して授業を構成しています。

【その他の重要事項】
この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。まわりのできごとに気がつき、気をくばり、気がきく人材をめざして欲しいと思います。実習でセンスを磨いてください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜で履修を許可される必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This is a lecture to enhance the learning effect of employment experience. The purpose is to deepen your awareness and thinking about work by discussing with others.Group work is done with the aim of knowing the way of thinking and values of others and getting used to collaborative work.

Through this lesson, you will increase your awareness of working by deeply thinking about your occupation and working. By knowing various opinions, you will be able to put together your ideas.

BSP200MA
キャリア体験事前指導（A・B コース）
展開科目

田中　研之輔

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、働き方をインタラクティブなグループワークと、学外でのインターンシップ経験（短期、中期、長期）を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。就職活動の内定を狙いとしたものではなく、卒業後社会人として生きていく為の基礎力を身につけていきます。

【到達目標】
① 毎回のグループワークとプレゼンテーションにより、考える力、伝える力、まとめる力を養います。
② 企業分析、市場分析、自己分析、などの多角的な分析手法をみにつけ、社会洞察力と適応力を磨いていきます。
③ インターンシップを通じて、働き方の基礎を学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義はインターン実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了する。
○ A、B コースの二種類がある。A コースは大学が実習先を準備するもの、B コースは教員の指導のもと自ら期間内に希望する実習先を開拓するものである。＊本講義は B コースで実施する。実習先が面接試験を必須としているところも多い。体験することに価値がある。
○実習先は多様である。実習期間も、開始・終了時期も異なる。通常 6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行う。
授業の密度を高め効率化を図り授業成果を高めるために共同授業の形式も多用する。クラス分けは実習先により決定する。実習先の決定及び実習後の報告は個別に時間をとり面談を実施する。
(授業の概要)
○実習先は教員との面談により決定するが、実習先へのコンタクトや事務手続きは学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。
○実習先を事前に調べ社会人マナーについても基礎的な知識を身につける。
○体験学習を履修した先輩からの話を聞く機会を設ける。
○また君たちが働くことになる日本社会について考える場も提供したいと考えている。
(手続き)
○在学生向け履修ガイダンス後速やかに事前申込書・志望理由書・自己 PR など（予定）の書類の提出が必要である。煩瑣となるが、就活の予行だと考えてほしい。
○なお、キャリア体験学習（C コース）及びキャリア体験学習（国際）との並行履修はできない。
フィードバックは、リアクションペーパーや課題の全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学から社会への移行の基礎理解	大学から社会への移行の基礎理解を深める
2	自己分析とインターンシップ先選定	自己理解ワークを実施するとともに、インターンシップ先を選定する。
3	前半メンバーの面談と実習先の仮決定、インターンシップ先と関連業界の調査、グループワーク	①前半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
4	後半メンバーの面談と実習先の仮決定、実習先と関連業界の調査、グループワーク	①後半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
5	グループワーク発表会①	自己理解での気づきを発表し、議論する。
6	グループワーク発表会②	業界研究での気づきを発表し、議論する。
7	異業種の業界分析①	異業種の業界研究を行う。
8	インターンシップ先外部講師招聘	体験学習を履修した先輩からの話を聞いて質疑応答

9	事前調査のグループ内発表・教員との前半メンバーの個別打合わせ　Ⅰ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との前半メンバーの打合せ
10	事前調査のグループ内発表・教員との後半メンバーの個別打合わせ　Ⅱ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との後半メンバーの打合せ
11	社会人基礎力を培う①	「社会で働くということ」（外部講師の予定）
12	社会人基礎力を培う②	心構え、マナー、電話のかけ方など
13	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワーク	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワークを行う
14	IT・通信関連の業界分析のグループワーク	IT・通信関連の業界分析のグループワークを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の情報収集や実習先へのコンタクト。実習先に関連して民間企業、NPO、公共団体などについて情報の収集と整理。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　『先生は教えてくれない就活のトリセツ』（2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】
必要資料は適宜、講義内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、報告書（講義内発表）20 %、実習に係わる書類作成能力 10 % などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は働き方に特化したきわめて実践的な学びの場です。インターンに採用されない経験、インターン先での失敗、上手く行かずに悩む学生もいます。失敗は成長のエンジンです。他の受講者と失敗経験も共有しながら、そこでの打開策も練り上げていきますので、働き方を学びたい学生はぜひ、受講してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・Bコース）

展開科目

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験（インターンシップ）に向けた皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

【到達目標】
（インターンシップ準備期間）
①インターンシップの意義や目的の理解
②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
③インターンシップのための事前準備
（インターンシップ中）
①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること（働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等）
③経験を振り返り、教訓にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、教員の指導のもとで、インターンシップ先を原則として自分自身で開拓する「Bコース」（国内）のみを募集します。インターンシップは5日以上、原則として夏休み期間中に体験して頂きます。
開拓に向けた支援（ヒントとなる情報の提供や選考に向けたアドバイス等）は惜しみませんので、この機会に是非、自分自身で未知の世界に踏み込み、新しい出会いや経験を獲得する醍醐味を味わってみてください。なお、応募人数等によっては選考する場合がありますので、予めご了承ください。
グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング等を織り交ぜた実践的な参加型授業です。主体的、積極的な参加が必須条件だとお考え下さい。
受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。
課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と概要、インターンシップとは
第 2 回	インターンシップ先開拓経路に関する情報の共有と交換	①インターンシップ先開拓経路（インターンサイト等）に関する情報の共有と交換 ②インターンシップのマッチングに関する理解
第 3 回	自己分析の実践	自己分析の実践、ES の書き方
第 4 回	先輩の事例発表	先輩のインターンシップ開拓事例の紹介
第 5 回	企業や仕事に関する基礎知識〜企業・業界・ビジネスと仕事	①企業の成り立ち、業界の概要、ビジネスと仕事に関する解説 ②グループワークの目的の共有、グループ分け
第 6 回	インターンシップ先開拓に向けたグループワーク〜意見交換と資料作成	インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換、自身の方針の決定、プレゼン資料の作成
第 7 回	インターンシップ先開拓に向けたグループワーク〜発表	①グループメンバーそれぞれの方針と、グループワークでの気付きや考察に関する発表 ②意見交換
第 8 回	インターンシッププログラムの提案・グループワーク〜提案資料の作成	①グループワークの目的の共有とグループ分け ②提案資料の作成 ③開拓の進捗確認
第 9 回	模擬面接	インターンシップ先開拓に向けた模擬面接
第 10 回	インターンシッププログラムの提案・グループワーク〜中間報告	インターンシッププログラム提案の中間報告

第 11 回	インターンシッププログラムの提案資料の改訂と最終報告準備	①資料の改訂と最終報告準備 ②開拓の進捗確認
第 12 回	インターンシッププログラムの提案・グループワーク～最終報告	最終報告と講評
第 13 回	振り返りと所信表明	①開拓の振り返りとインターンシップに向けた所信表明 ②開拓の進捗確認
第 14 回	インターンシップに向けて	①社会人としての礼儀作法・ビジネスマナー ②インターンシップに向けた留意点 ③開拓の進捗確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターンシップの候補となる企業・団体等の情報収集や、企業・団体等へのコンタクト・やりとりが必要になります。インターンシップは、基本的には申込みだけではなく選考を伴いますので、企業・団体等に出向いて面接等を受けることになります。加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。特にインターンシッププログラムの提案に関するグループワークは最終プレゼン（外部の有識者も招聘予定）に向けて入念な準備が必要となります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料はコピー配布か投影により、必要に応じて学習支援システムにアップします。

【参考書】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出、インターンシップ先の開拓の進め方等）、グループワークの発表により評価します。発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。
平常点が 50 %、グループワークの発表が 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。
原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】
この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）を受講条件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したこととなります。
この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓するＢコース（国内）の指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初のコンタクトからインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただきます。
相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにいかないケースもあり得ますので、予めご了承ください。
企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This course will support students'active preparation for their career experience (internship) and aid them to obtain better learning outcomes from the internship.
＜ Course Objectives ＞
1.Learn the significance and purpose of internships
2.Gain practical knowledge about choosing companies to apply for internship
3.Preparing for the internship

BSP200MA
キャリア体験事前指導（C コース）
展開科目

山岡　義卓

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・4**　｜　配当年次：**2～4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、本科目および秋学期に開講される「キャリア体験学習（C コース）」の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

【到達目標】
本授業の目標は次のとおり。
①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
②グループワークの進め方を身につける。
③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。
なお、「キャリア体験学習（C コース）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目および「キャリア体験学習（C コース）」を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点本科目を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第 2 回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法等を説明する。
第 3 回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第 4 回	演習①（課題抽出、整理）	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第 5 回	演習②（課題解決提案、発表）	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第 6 回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第 7 回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第 8 回	協力企業および業界に関する事前調査	担当企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。
第 9 回	実施計画の作成	企業担当者と情報交換のうえ実施テーマに合わせて実施計画を作成する。
第 10 回	実施計画の作成	テーマに合わせてプロジェクトの実施計画を作成する。
第 11 回	テーマに関する調査①	テーマに関して、担当企業における現状（商品ラインナップや技術、販路等）を調査する。
第 12 回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第 13 回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第 14 回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
14 回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、中間発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められるということに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。

【その他の重要事項】
「キャリア体験学習（Ｃコース）」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

BSP200MA

キャリア体験学習（A･B コース） 展開科目

中野　貴之

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、インターンの経験を振り返り、共有するとともに、さらに働くことに対する意識や理解を深めていくことも目的とします。また、広くキャリアをデザインする力を養います。

【到達目標】
「理論と経験」といわれるように、大学の授業で学んだことは実際の経験を積むことにより一層深まっていきます。実際に働いて得た経験値を軸に、働く場、さらには広く社会に対する理解を深め、人間形成の基礎を築くことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①グループで実践経験を振り返る。
②職場体験を振り返り、新たな実践課題に取り組む。
③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する
また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り ②秋学期授業の進め方の説明
第 2 回	グループワークⅠ（インターンシップ振り返り）	①グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート） ② (10 分間面談) 教員に実習先での経験を整理して話す
第 3 回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第 4 回	社会人との対話①	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論①
第 5 回	社会人との対話②	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論②
第 6 回	業界、企業分析の基礎	業界、企業分析について春学期よりも詳しく説明
第 7 回	グループワークⅡ①	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション①
第 8 回	グループワークⅡ②	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション②
第 9 回	グループワークⅡ③	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション③
第 10 回	グループワークⅡ④	発表資料の作成、最終調整
第 11 回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム１、２）
第 12 回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム３、４）
第 13 回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム５、６）
第 14 回	１年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備のため授業時間外に時間をとられることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
①授業におけるグループワーク等への取組み姿勢（70%）
②各種レポートの提出状況、内容（30%）

【学生の意見等からの気づき】
熱心に取り組んだとの意見が多かったので、本年度も同様のスタンスで進める。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～-C) した場合のみ履修可能

【Outline and objectives】
This lecture also aims to reflect on the experience of the intern, to share it, and to deepen the awareness and understanding about further work. You will develop the ability to design careers.

BSP200MA

キャリア体験学習（A･B コース） 展開科目

野中　利明

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4** ｜ 配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、「学び」と「働く場での実践」を PDCA のサイクルを実践することで、自分だけの学びの方法の構築、自分だけの学びの体系を獲得することを目的とします。
授業の中では、就業体験を振り返ることで、自分自身を深く分析し、自らの仕事に対する考え方を身につけます。未来志向の考えを学び、キャリアをデザインする力を身につけます。

【到達目標】
インターン経験 Do を振り返り、その経験を整理しながら改めて、Check:仕事とは何なのか、働くとはどういうことかについて、自分なりに整理することを目的にして、授業を進めます。Check および Act を一通り経験することで、実践を通した学びの方法をラフではありますが獲得してもらいたいと思います。また PDCA サイクルのうちに「学び」を取り入れていくことも重要です。経験を軸にした「学び」を行っていくことで、自分という人間を豊かにしていく方法論を身につけていくことが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①グループで実践経験の振り返りを行います（エッセイを書くための準備を行います）
②職場体験の振り返りを生かして、新たな実践課題に取り組みます
③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する。
エッセイ課題に関しては、第一次提出されたものに書き直しや修正を指示しますので、何回かのやりとりのあと最終提出となります。
グループ課題に関しては、プレゼンテーション時にそれぞれの課題に対する講評を授業時に行います。
授業の感想コメントについては、次の授業の冒頭で全体に対するフィードバックを行います。また、必要に応じて授業時に個別でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り（ショートスピーチ） ②秋学期授業の進め方の説明
第 2 回	グループワークⅠ-1（インターンシップ振り返り）	グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート）
第 3 回	グループワークⅠ-2（インターンシップ振り返り）	I-1 のグループとは異なるメンバーでもう一度グループワークを行います。できるだけ多くの経験をきくことで多面的な視点を身につけます。
第 4 回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第 5 回	社会人とのトーク①	10 年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト①（20 代の社会人）
第 6 回	社会人とのトーク②	10 年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト②（30 代の社会人）
第 7 回	グループワークⅡ①	10 年後の自分達が関わる社会における働き方、生き方を自分たちの考えで描き、そこで自分たちはどう働き、どう生きていくのか、どのように生きていくのかを考える。 あるいは、特定の業界にフォーカスして、その業界が 10 年後どのようになっていくかを考えて、そこでの働き方がどのようになるのかを考える、というテーマでディスカッション
第 8 回	グループワークⅡ②	資料収集、調査を実施してテーマ研究を進める。
第 9 回	グループワークⅡ③	チーム内でディスカッションをして、テーマに関する考え方を深める。
第 10 回	グループワークⅡ④	発表資料の作成、最終調整を行う。

第 11 回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム１、２）
第 12 回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム３、４）
第 13 回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム５、６）
第 14 回	１年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューや作品制作に時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房

【成績評価の方法と基準】
実習実績、実習関連書類の整備、平常点、報告書（エッセイ《予定》）により評価します。
実習実績（インターンの経験）は成績評価の前提条件です。実習関連書類の提出をもって実習をおこなったものと認めます。
そのうえで平常点、毎回の授業課題、報告書により評価します。
平常点 60%、授業の課題 30%、報告書（エッセイ）10%です。
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップ経験をしっかりと振り返ることのできる授業構成にしました。

【その他の重要事項】
この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This lesson is aimed at building your own way of learning and acquiring your own learning system by practicing the PDCA cycle by "learning" and "practicing in the workplace".
In class, by reviewing the employment experience, you deeply analyze yourselves and learn how to think about your future work.
And you will learn the future-oriented ideas and acquire the ability to design careers.

BSP200MA

キャリア体験学習（A･B コース） 展開科目

田中　研之輔

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4** ｜ 配当年次：**2～4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では働き方を実践的に学びながら、そこでの失敗経験を共有し、打開策を見つけ出していきます。本講義は大学内/外の相互補完的な学びに特徴があり、卒業後の生き方をデザインしていく力と方向性を学んでいきます。

【到達目標】
①働く場・働き方・働く人の多様性を認識する。
②実習を言語化する。
③働くとは何かを改めて考え、キャリアデザインする意識を明確化する。
④伝えるためのインタビューの仕方を学ぶ。
⑤キャリアデザインのドライバー（駆動力）を探索する。
⑥インターンシップの総括を行い、社会人としての基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
① 実習体験をグループワークにより共有し働く現場の多様性を認識し②体験を教員に対する報告（面接形式）・グループワークでの発言・スピーチ（個人発表）・エッセイ執筆（編集により文集の作成）により言語化し③働くことを講義やグループワークで改めて考察する。グループワークのテーマとしては「エッセイで何を伝えたいか」、「キャリアドライバーを探す」などを予定。④インタビューの仕方をプロから学んだ上で⑤実際にインタビューを行いチームで映像作品などを制作し⑥発表する。
グループワークが中心のプログラムである。外部講師の講義も予定するが、あくまでも君たちでつくりあげる授業にしたい。リーダーシップやフォロワーシップを学び、また聴き方、アサーションやファシリテーションなどのスキルを試す良い機会を提供する。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実習の進捗と振り返り	秋学期授業概要の説明と実習の振り返り。実習日誌などの書類作成・提出、グループワークの準備
2	○教員との個別面談（面接形式）Ⅰ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅰ	○３分間スピーチ（教員に実習先の話をまとめる） ○グループワーク「エッセイで何を伝えたいか」を予定
3	○教員との個別面談（面接形式）Ⅱ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅱ	同上 但し、エッセイのテーマを決める。
4	○教員との個別面談　Ⅲ ○グループ作品制作に向けて　Ⅰ	同上 ○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
5	実習発表会	エッセイを踏まえて実習報告（スピーチ）を行う。
6	グループ作品制作に向けて　Ⅱ	○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
7	講義「働くとは？」	現場で指導されている外部講師ををお迎えする（予定）
8	キャリアモデルに学ぶ	現場でインタビューを行い映像を制作されているプロをお迎えする（予定）。
9	新規事業の体験①	新規事業の開発手順・注意点を学ぶ。
10	新規事業開発の体験②	新規事業開発のモデルをつくる
11	新規事業開発の体験③	新規事業開発案を相互に検討し、練り上げる
12	新規事業発表会①	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施する
13	新規事業発表会②	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施し、フィードバックから再検討していく
14	インターンシップ報告会	インターンシップでの学びを報告し、総括していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューやインターンシップに時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　「先生は教えてくれない就活のトリセツ』（ちくまプリマー新書）

【参考書】
授業内で適宜、伝える

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、報告書（講義内発表）20 %、実習に係わる書類作成能力 10 % などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前期での実践的な学び、夏期休業期間中のインターンシップ経験を通じて、毎年、後期の本講座では飛躍的な成長をみせてくれます。少人数でインタラクティブに学べることの強みを最大限にいかしていきましょう。

【その他の重要事項】
〇大変な時代になっている。まずは自分のことを考える。それから他人のことを考えよ。自分のことは自分で決める。生きる覚悟と社会で役に立つという高い志を持たないといけない。
〇先が見えにくい時代だといわれている。
経済のグローバル化に加え、格差の拡大、地球環境の悪化など問題は数多い。
けれど、いつの時代も変わらないことがある。
それは、社会は人で成り立っているという事実だ。
キャリアデザイン学部では、人のエクスパートを育てている。
自分自身を磨き、人の活かし方を学び、人とともにある未来を考える。
人の専門家の視点から、さまざまなフィールドを見渡している。
ダイヤはダイヤでしか磨けないように、人は人でしか磨けない。
だから授業は座学にとどまらない。
フィールドワークや体験学習、インターンシップなど、学ぶ分野も幅広い。
物事を多角的に観る眼を鍛えるためだ。
人について深く学ぶことで、自分自身を客観視する力を身につける。
自分と向き合いながら「やれること」と「やれないこと」を見極める。
キャリアデザイン学部での学びは、生涯学習の第一歩であり、その積み重ねが、社会で通用する力となる（キャリアデザイン学部のパンフレットを引用）。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

BSP200MA

キャリア体験学習（A･B コース）　展開科目

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・3**　｜　配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）をさまざまな視点から振り返り、分析結果を教訓として整理し、これからのキャリアにつなげることです。キャリア体験について複数のテーマ（どのような開拓・選定が満足度の高いインターンシップにつながるか、キャリア体験の失敗から何を学ぶか、キャリア体験での気付きからこれからのキャリアについて考える等）を設定し、それぞれのテーマをグループで分担して分析を行い、クラス全体で共有します。また、業界研究を通じて業界に関する理解を深め、これからのキャリアを考える上での参考とします。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①キャリア体験を通じた気付きの分析
②キャリア体験から得られた教訓の整理
③キャリア体験を踏まえてこれからのキャリアについて考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は、春学期の「キャリア体験事前指導」の修得と所定のインターンシップ体験が受講の条件となります。
前半はキャリア体験の振り返りを共有します。後半には、業界研究の一環として、ゲストの招聘（業界は仮のものです）を予定しています。ゲストのスケジュールや受講の状況に応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。
課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明 ②グループワークにおけるコンテンツの決定とグループ分け
第 2 回	グループワーク①～コンテンツのフレームワーク決定	①グループワーク（フレームワークの決定と協力依頼事項の決定） ②協力依頼
第 3 回	キャリア体験の報告（IT 業界等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～IT 業界等を中心に
第 4 回	キャリア体験の報告（金融・製造業等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～金融・製造業等を中心に
第 5 回	キャリア体験の報告（サービス業等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～サービス業等を中心に
第 6 回	キャリア体験の報告（社会貢献・福祉等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～社会貢献・福祉業界等を中心に
第 7 回	グループワーク②～コンテンツの作成	調査結果の分析と発表資料の作成
第 8 回	グループワーク③～コンテンツの発表	各グループのコンテンツ発表と意見交換
第 9 回	業界研究のイントロダクション	①グループディスカッションの振り返り ②業界研究の目的、方法、スケジュール等に関する解説
第 10 回	業界研究～ショッピングセンター	企業の実務家の講話と質疑～ショッピングセンターに関わるさまざまな業界
第 11 回	業界研究～金融	企業の実務家の講話と質疑～生命保険業の現状と、自分自身のキャリア
第 12 回	業界研究～映像制作	企業の実務家の講話と質疑～映像制作業界の現状と、自分自身のキャリア
第 13 回	課題発表～IT 業界等	業界研究トライアルの発表～IT 業界等
第 14 回	課題発表～サービス業等	①業界研究トライアルの発表～サービス業等 ②エッセイのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターンシップに関する個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表、エッセイの執筆等、複数の課題への対応が必要になります。
インターンシップ終了後も、インターンシップ先とのやりとりが継続する場合もあります。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は必要に応じて学習支援システムにアップします。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出等）、発表（個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表）、エッセイにより評価します。
発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。
平常点が 20 %、発表が 50 %、エッセイが 30 %です。

【学生の意見等からの気づき】
課題は大変だったけれど有益だったというご意見が多かったので、続けていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。
原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】
春学期のキャリア体験事前指導を修得し、所定のインターンシップを完了したことが本授業の受講条件となります（やむを得ない事情により完了の時期が若干ずれ込む場合は個別にご相談ください）。
授業におけるグループワークや発表には、主体的、積極的に参加してください。
キャリア体験中にトラブルや先方への迷惑行為等があった場合は、極力早く個別に報告してください。相談のうえ、必要な対応を行って頂きます。
インターンシップ関連の書類（先方の確認印が必要なものを含む）の提出をもってインターンシップの実施を確認しますので、必ず提出してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を修得 (S～C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop career. Students will review their career experience (internship) they went to during summer vacation, organize results of analysis, and learn from them. First, students will make a theme: how you should look for or choose companies accept your internship, what you learned from your failure at the internship, or thinking your future career by reviewing what you realize at the internship etc. After making a theme, students will analyze each theme at each group and share the analysis. In addition, students will study industry and business; by doing so, you can think your future career more deeply.

BSP200MA

キャリア体験学習（C コース） 展開科目

山岡　義卓

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・4** ｜ 配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、春学期開講の「キャリア体験事前指導（C コース）」と本科目の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

【到達目標】
本科目の目標は次のとおり。
①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
③これまでの活動を取りまとめ発表する。
④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。
なお、「キャリア体験事前指導（C コース）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「キャリア体験事前指導（C コース）」および本科目を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。
本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第 2 回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第 3 回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第 4 回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第 5 回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第 6 回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第 7 回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。
第 8 回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第 9 回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションのつくり方について説明する。
第 10 回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第 11 回	成果報告会予行演習	成果報告会に向けて予行演習を行う。
第 12 回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第 13 回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第 14 回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、成果報告書および成果発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られたた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められるということに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。

【その他の重要事項】
この科目を履修するには、「キャリア体験事前指導（Ｃコース）」を履修していることが条件になります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を修得 (S～C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
In this course, we will conduct the project and present the results.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（国際） 展開科目

御園生　純

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2～4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア体験事前指導（国際）は、キャリア体験事前指導科目の 1 授業であり、海外で活躍する日本人を含む各国の人々のキャリアデザインを学び、キャリアデザインの国際性・国際化を理解することを授業の主眼とする。
ベトナム・ホーチミン市の提携先大学（ホーチミンテクノロジー大学）の学生との「異文化相互理解」を主たるテーマとし、オンラインミーティングをつうじて双方の文化理解を深める。
ベトナム文化・社会経済体制の調査研究を行い、発表する。(研究論文及びプレゼンテーション)
現地研修の具体的なテーマ：
1．ベトナムにおける大学生の就活事情及び日系企業等の対応 (同一性と異質性を中心に)
2．ベトナムにおける学校外教育の現状と課題（ブローバル社会との関連において）
3．日本文化から見たベトナム文化の同一性と異質性
4．ベトナムおよび日本の教育事情の現状と課題 (同一性と異質性を中心に)
5．ベトナムおよび日本の結婚及び育児の現状と課題 (同一性と異質性を中心に)

【到達目標】
・異文化理解・国際理解とは何か、について、自分なりの回答を見つけること。
・自分と異なるものを理解することについて文化・文化を中核に考察体験する。
・ベトナムの歴史的・国際関係や政治社会的状況の理解と基礎的ベトナム語の学習
・日本ベトナム両国の間の様々な問題や市民レベルのので交流のあり方について理解を深める。
・本研修ではベトナム・ホーチミン市の「ホーチミンテクノロジー大学」（Ho Chi Minh City University of Technology）の日本語学科の学生と異文化理解にかかわる共同テーマを設定し、双方で意識調査・聞き取り調査などを行うことで、これからの両国の市民レベルでの国際交流のあり方を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。
②教科書や調べ学習を通してベトナム・国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。
③ベトナム語の学習をする。
④ Zoom を活用して日本語を学ぶベトナムの大学生との交流。
⑤各自で研究調査テーマを設定し、報告書を作成する。
※課題等の提出とフィードバックは学習支援システムを利用する。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各自自己紹介と本授業履修の動機について履修者同士のディスカッション
2	ベトナムと日本を取り巻く国際情勢	研修の狙いと目的について
3	ベトナムの概要 ベトナム語学習①	ベトナムという国のイメージ・・・メディアをつうじて ベトナム語を学ぶ
4	ベトナム理解 (1) ベトナム語学習②	・ベトナムの歴史とベトナム戦争 ベトナム語を学ぶ
5	ベトナム理解 (2)～ことばと文化・ベトナム語を知る、理解する。 ベトナム語学習③	①ベトナムの固有文化 ②ベトナム語の特徴について ベトナム語を学ぶ
6	ベトナム理解 (3)～現代ベトナムを形作る歴史的経緯と社会・経済体制 ベトナム語学習④	メディアに描かれるベトナム～ベトナム戦争/ベトナムの食 ベトナム語を学ぶ
7	現地協力校とのディスカッション	協定校であるホーチミン工科大学日本語学部の学生との遠隔ミーティング
8	ベトナム語理解（４）会話 ベトナム語学習⑤	現地での生活に必要なベトナム語とは ベトナム語を学ぶ

9	研究テーマ設定（1） ベトナム語学習⑥	研究テーマについての決定に向けて～第 1 次発表 ベトナム語を学ぶ
10	研究テーマ設定（2） ベトナム語学習⑦	研究テーマについての決定と関連施設への訪問/ヒアリング先の選定 ベトナム語を学ぶ
11	ベトナム社会構造・文化理解（1） ベトナム語学習⑧	ベトナムの文化・宗教そして政治制度の理解 ベトナム語を学ぶ
12	ベトナム社会構造・文化理解（2） ベトナム語学習⑨	ベトナムの社会システム・教育制度の理解 ベトナム語を学ぶ
13	ベトナム戦争理解 ベトナム語学習⑩	ベトナム戦争とは？ 映像資料を通じての理解 ベトナム語を学ぶ
14	春学期授業のまとめ	前期まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示した個人毎の調査や情報収集については必ず授業前におえること。ベトナム語学習については毎回の授業で実施した内容を次回までに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
※ベトナムの基礎知識 (アジアの基礎知識)　メコン出版
※適時授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加度）　３０％
各課題の提出・プレゼンテーション　７０％

【学生の意見等からの気づき】
自主性と主体性を重視します。

【その他の重要事項】
【重要】履修にあたっての留意事項
・団体行動ではなく、個人を主体とした研修活動に耐えうること。
・最終目的は現地での研修後秋学期に着手する報告書の策定にある。
・IT 機器・モバイルコンピューティング・ネットワーク技術に対する習得意欲があること
・最新のプレゼンテーション技術の習得に対する意欲のがあること。
・欠席しないこと

【Outline and objectives】
The aims of this lecture is understand the history and current situation of career design and Intercultural understanding in Vietnam,(with students of Hochiminh Technology University),internationalization / internationalization of career design.

BSP200MA

キャリア体験学習（国際）　展開科目

御園生　純

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・4　｜　配当年次：2～4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①前期の国内調査で学んだことを各個人が整理しまとめ、発表する。
② 12 月に予定されている学内発表会に向けての準備
③研修報告書の作成

【到達目標】
・前期での調査活動を踏まえ、研究テーマについての報告書を作成する。
・異文化理解について、ベトナムでの体験を踏まえた総括。
・異文化理解教育についての先例と理論的土壌についての学習。
・年度末の報告会に向けての準備。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期での学びと現地での体験を振り返り、その成果について各自が発表する。報告書と学内報告会にむけて、自らの体験を言語化する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	後期授業の概要と各自の作業分担について
2	前期に学んだベトナムの状況の総括（1）	前期に収集した情報の整理と分類について
3	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（1）	日本とベトナムの間における様々な社会問題の整理
4	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（2）	各グループが現地での調査やヒアリングを通じて収集した情報を整理する。
5	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（3）	異文化体験についての整理と日越双方での比較検証を行う①
6	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（4）	異文化体験についての整理と日越双方での比較検証を行う②
7	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（5）	報告書の章立てと全体構成の骨子を検討する
8	レポート作成（1）	各ワークグループ毎に考えた全体構成案について発表～意見交換をする
9	レポート作成（2）	各グループ毎のレポート概要のプレゼンテーション
10	レポート作成（3）	各グループの執筆原稿をまとめ、最終報告書を完成させる
11	学内発表の準備（1）	発表の骨子と構成の検討
12	学内発表の準備（2）	期末の最終発表会で利用するポスタセッション用の掲示物の内容について検討～決定する
13	学内発表の準備（3）	発表の練習とポスターセッションに向けての準備
14	学内発表の準備（4）	聴衆に何を訴えるのか、またベトナムと日本・両国の交流の「光と影」についてのように紹介するのか、の検討と精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点及び授業への参加度　５０％
プレゼンテーション　　２５％
報告書作成　　２５％

【学生の意見等からの気づき】
学生の自主性を求める

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC　プレゼンテーションソフト、デジタルカメラ、情報端末

【その他の重要事項】
この科目は海外でのキャリアデザインの現状を学ぶことにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【履修条件】
本科目は「キャリア体験事前指導（国際）」を習得（S+～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
① Each individual organizes, summarizes, and presents what learned in Vietnam.
② Preparation for the on-campus poster session.
③ Preparation of training report

BSP200MA

キャリア体験事前指導（国際） 展開科目

松尾　知明、郭　艷娜

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・2** ｜ 配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインから検討することを目的としている。春学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④グローバルなキャリア（人生）のデザインについて考える。

【到達目標】
①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。② 交流で必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④台湾を事例に、国際的なキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書や調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④ Zoom や Line などを用いて、台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤日本国内の台湾関係の施設や機関のフィールドワークをする。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション 中国語学習①	自己紹介、概要説明 中国語を学ぶ
2 回	台湾事情①台湾の地理 中国語学習②	台湾を旅行するとしたら 中国語を学ぶ
3 回	台湾事情②台湾の大学生	元智大学学生との交流
4 回	台湾事情③台湾の歴史 中国語学習③	台湾の歴史を知ろう 中国語を学ぶ
5 回	台湾事情④台湾の政治 中国語学習④	台湾の政治を知ろう 中国語を学ぶ
6 回	台湾事情⑤ 台湾の経済 中国語学習⑤	台湾の経済を知ろう 中国語を学ぶ
7 回	台湾事情⑥ 台湾の社会 中国語学習⑥	台湾の社会を知ろう 中国語を学ぶ
8 回	台湾事情⑦ 台湾の文化 中国語学習⑦	台湾の文化を知ろう 中国語を学ぶ
9 回	台湾事情⑧ 台湾人のアイデンティティ	元智大学呉先生のお話
10 回	台湾事情⑨ 台湾と日本	台湾校友会役員のお話
11 回	東京フィールドワークの準備 中国語学習⑧	発表と討論 中国語を学ぶ
12 回	東京フィールドワーク	台北駐日経済文化代表処、台湾文化センター他
13 回	東京フィールドワークの振り返り 中国語学習 ⑨	発表と討論 中国語を学ぶ
14 回	前期のまとめ 中国語学習⑩	前期のまとめを行う 中国語を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの精読　・必要な資料収集　・本授業の準備学習　・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子、若松 大祐『台湾を知るための 60 章』明石書店

【参考書】
野島　剛　『台湾とは何か』 (ちくま新書)

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30 %）、課題の遂行（70 %）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生がこのプログラムの成果をまとめて報告書を作成しているので、報告書に記載された学生からの声を取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
・対象者は、2〜4 年生。
・この授業の受講希望者は、3 月末のガイダンスに参加し、学部窓口に参加希望を申請するものとする。
・参加者は、面接を経て決める。
・コロナの影響で、夏の現地研修については実施することができない。

【Outline and objectives】
This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwanese experience studies in the Spring Semester are ① understanding its history, society, culture and people, ② learning some basic Chinese, ③ meeting and interacting with Taiwanese people and college students, and ④ considering meaning of career design in a global and multicultural society.

BSP200MA

キャリア体験学習（国際）　展開科目

松尾　知明、郭　艷娜

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインについて検討することを目的としている。秋学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④ポスターと報告書を作成する、⑤グローバルなキャリア（人生）のデザインについて考える。

【到達目標】
①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。② 交流で必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムのポスターと報告書を効果的に作成することができる。⑤台湾を事例に、国際的なキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書やインターネットでの調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④ Zoom や Line などを用いて、台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤日本国内の台湾関係の施設や機関の訪問をする。⑥春学期と秋学期で学習した成果物をもとにポスター・報告書づくりを行う。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	秋学期の授業の見通し
2 回	日本と台湾 ポスター・報告書づくりの計画①	発表と討論 ポスター・報告書制作の計画、役割分担
3 回	横浜中華街フィールドワークの準備 ポスター・報告書づくりの計画②	発表と討論 ポスター・報告書制作の工程表の作成
4 回	横浜中華フィールドワーク（10 ／ 10 に実施）	建国記念の式典に参加、孫文ゆかりの中華街を散策
5 回	フィールドワークの振り返り ポスター・報告書づくり①	発表と討論 ポスター・報告書の構成、レイアウト等の決定
6 回	台湾の企業・事務所との交流への準備 ポスター・報告書づくり②	発表と討論 ポスター・報告書の骨格の決定
7 回	台湾の企業⑴ Ponddy Education、ポスター・報告書づくり③	Zoom を通して企業説明と質疑応答 ポスター・報告書の原稿の執筆
8 回	台湾の企業⑵日立ハイテク ポスター・報告書づくり④	Zoom を通して企業説明と質疑応答 原稿のチェック
9 回	台湾の事務所⑶茨城県笠間市台湾事務所 ポスター・報告書づくり④	Zoom を通して事務所説明と質疑応答 原稿の体裁の調整
10 回	ポスター・報告書づくり⑤	編集作業
11 回	ポスター・報告書づくり⑥	印刷しての校正
12 回	ポスター・報告書づくり⑦	印刷して完成
13 回	ポスター・報告書の合評会	完成したポスター・報告書をもとに学習の振り返り
14 回	プログラム全体の振り返りを行う	春学期、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料の整理と読み込み。参考文献の読み込み。 ポスター・報告書の原稿執筆、編集作業。 ポスター発表会への参加。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子, 若松 大祐『台湾を知るための 60 章』明石書店

【参考書】
野嶋　剛『台湾とは何か』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30 %）、課題、ポスター・報告書づくり（70 %）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生がこのプログラムの成果をまとめて報告書を作成しているので、報告書に記載された学生からの声を取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
・春学期に引き続き、授業は、松尾知明と郭艶娜が分担して担当する。

【Outline and objectives】
This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwanese experience studies in the Fall Semester are ① understanding its history, society, culture and people, ② learning some basic Chinese, ③ meeting and interacting with Taiwanese people and college students, ④ making a poster and a report and ⑤ considering meaning of career design in a global and multicultural society.

BSP200MA

メディアリテラシー実習 I　　展開科目

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディア・リテラシーのコア・コンセプトと映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディア・リテラシーの基本原理を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディア・リテラシーの基礎を実践的に身につける。新型コロナ感染症流行が続く場合、授業の詳細は授業の中で伝えます。

【到達目標】
・受講生はメディア・リテラシーの概念を理解し、メディア・リテラシーの概念を説明できる。
・メディア・リテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
・基本的な映像制作能力を身につけ、メディア・リテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
メディア・リテラシーの基礎概念（コア・コンセプト）を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディア・リテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは HOPS を通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面で実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および HOPS の使い方
2	メディア・リテラシーの基本	メディア・リテラシーの基礎概念を学ぶ
3	写真を考える	プロのカメラマンの撮影した写真を用いて、写真の技法を学ぶ
4	課題①発表会〜自己紹介を兼ねて	課題の発表と写真を用いた自己紹介を行う
5	映像のジャンル〜映像分析の方法	映像のジャンルと分析の方法を学ぶ
6	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
7	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ
8	課題②デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
9	現代社会の映像	広告や PV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ
10	広告映像とメディア・メッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
11	広告映像と表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
12	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
13	公共広告の政策	コンピュータを用いて公共広告を制作する
14	課題③公共広告発表会	課題の公共広告の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作と HOPS および OATube による情報共有を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業で用意する資料を教科書として用いる。

【参考書】
『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014 年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【成績評価の方法と基準】
★新型コロナ対応のため、評価方法の詳細は授業の中で伝えます。

小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディア・リテラシーの 5 つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
・映像制作における著作権の重要性をしっかり教える

【学生が準備すべき機器他】
CALS（キャリア・アクティブ・ラーニングスタジオ）と備え付けのパソコンを使用する。また、映像制作実習用にスマートフォンとスマートフォン用のマイクを使用する。必要に応じて教材作成スタジオ（富士見坂校舎）も使用する。また、授業では、情報共有や課題提出のために、HOPS および OATube を使用する。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】
本授業は本学情報メディア教育研究センターの支援を受けて、HOPS と OATube を使用し、学習歴及び作成した作品を掲載する。

【他の授業との関連】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、「坂本ゼミ（演習）」履修希望者は本授業を 2・3 年次に履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
To study the core concepts of media literacy
To explore how the media construct their messages
To learn how to make a Public Service Announcement

BSP200MA

メディアリテラシー実習Ⅱ　展開科目

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、メディア・リテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、キャリアヒストリーをテーマにしたショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】
・メディア・リテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
・メディア・リテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像制作を行い、基本的な映像制作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディア・リテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。また、新型コロナ感染症流行が続く場合、授業には Zoom を用いる。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは HOPS を通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面で実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の学び方や施設、スケジュールの解説。
2	ドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
3	ドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
4	テーマの設定と企画、絵コンテ	受講生ひとりずつがテーマについて考え、企画書の作成や絵コンテの描き方を学ぶ。
5	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
6	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
7	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
8	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
9	編集の仕方 (1) キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
10	編集の仕方 (2) 編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
11	編集の仕方 (3) 音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
12	編集の仕方 (4) 仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
13	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
14	発表会	制作映像のオンライン発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014 年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する

静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディア・リテラシーの 5 つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はオンライン授業により、大学の機材を使うことができず、学生所有の機材を活用せざるを得なかった。しかし、それでも作品を制作することができた。この経験を生かしたい。

【学生が準備すべき機器他】
CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）備え付けのパソコンおよび情報ルームのビデオカメラ、スマートフォンを使用する。スマートフォンを使う場合は必ずスマートフォン用の外付けのマイクを自分で用意しておくこと。映像編集ソフトは iMovie または Final Cut Pro を標準とする。また、必要に応じて、インタビュー収録用に教材作成スタジオ（富士見坂校舎）を使用する。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】
本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary
To study how to make and evaluate the documentary

BSP200MA

地域学習支援Ⅰ

展開科目

寺崎　里水

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は体験型選択必修科目として「地域学習支援Ⅱ（生涯学習コーディネーター論）」とあわせて履修する。「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」ではグローバル化、少子・高齢社会化のもとで、住民が自主的な問題解決能力を高め、地域づくりに参加するうえで求められる学習支援のあり方、コーデイネーターの役割、ネットワークの形成について学び、実習の準備をおこなうことをねらいとする。

【到達目標】
地域において学習支援が求められる事情、具体的な支援の方法、支援者に求められる専門性について理解する。また、実習にむけて実習先の現状、活動内容など具体的な事情を理解し、個々人の課題意識を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
地域社会において学習支援の専門性が求められる活動分野は、コミュニティビジネス、NPO・ボランティア団体の発展とともに広がりをみせている。地域課題の解決にむけた地域づくり学習、若者自立支援、外国人との多文化共生教育、文化施設が核となったまちづくり、コミュニティ・メデイアの活用などについて学び、コーデイネーターの役割や専門性について認識を深める。対面で授業を行います。前半は、各自で文献の講読を中心に、地域社会の現状について理解を深め、後半は、授業内掲示板などを活用し、グループディスカッションを取り入れながら、地域学習支援Ⅱに向けて学習課題を明確にします。
課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体験型選択必修科目としての「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」の内容と履修方法、評価についての説明
2	地域学習支援が求められる背景①コミュニティと学習	公共機関、NPO など加え、地場産業、国際機関などにおいてもコミュニティづくりと学習の必要性が高まっていることを理解する。
3	地域学習支援が求められる背景②支援	日本の政策などを踏まえながら、地域における学習を支援するニーズが高まっていることを理解する。
4	地域学習支援とはどのような仕事か	地域学習を支援するコーディネーターの役割、専門性について理解する。
5	実習指導教員との懇談	実習先の選定・プログラムについて実習指導教員と面談し、実習課題を導出する。
6	生涯学習コーディネーターの役割・地域文化の振興と文化施設	コミュニティの活性化にむけたネットワークづくりとコーデイネーターの役割、地域の振興における文化施設の役割について考える。
7	共生のまちづくりと多文化教育、若者の自立支援、コミュニティ・メデイアの活用	多文化理解、多文化教育の実態と課題を考える。また、学校から仕事への移行の支援や自立支援の活動の実態と課題を考える。さらに、自治体や自治会の広報、コミュニティメディアの多彩な方法と活用について考える。
8	グループの形成と課題の設定	学習してきたことについてレポートを提出し、自らの問題意識を深める。
9	質問する・観察する・記録する・まとめる技術	大学での学びと体験とを結びつける方法について学ぶ。質問したり観察したりしたことを利用可能な資源・データとして記録し、まとめる技術を学ぶ。
10	グループ別事例研究①	実習先に関連する社会的背景、政策、組織の概要など、基礎的な知識について調べる。
11	グループ別事例研究②	実習先に関連する基礎的な知識をもとに、自分たちの実習課題を明確にする。

12	グループ発表①	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（地域おこし、コミュニティメディア）
13	グループ発表②	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（若者自立支援、異文化交流、地域文化）
14	まとめと振り返り	全体の振り返りとまとめを行い、地域学習支援Ⅱへの意識を高める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域生涯学習支援のテーマに基づいてデータを収集し、グループでの発表準備をおこなう。分野を選択し、文献やデータを収集し、レポートにまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない

【参考書】
佐藤一子、2015、「序章　地域学習の思想と方法」佐藤一子編『地域学習の創造』東京大学出版会、pp.1-23
増田寛也・人口減少問題研究会、2013、「2040 年、地方消滅。「極点社会」が到来する」中央公論、2013 年 12 月号、pp.18-31
山浦晴男、2015、「第一章　分析」『地域再生入門』ちくま新書、pp.13-44
清水睦美、2006、「ニューカマーの子どもの青年期」『教育學研究』 73(4)、pp.457-269
坂本旬、2009、「メディア・リテラシー教育とドキュメンタリー制作」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』6、pp.121-138
樋田有一郎・寺崎里水、2018、「第 13 章　地域と学校の連携」植上一希・寺崎里水編『わかる・役立つ教育学入門』大月書店、pp.147-158

【成績評価の方法と基準】
個人レポート 50 %、授業内掲示板の内容 30 %、最終グループレポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】
学生はコミュニティとの接点をもつことが少ないので、ボランティア活動の体験や出身地・母校での子どもたちの支援など、意識的に関わることが必要である。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットが利用できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいため、推奨しません）。

【その他の重要事項】
学部認定資格「地域学習支援士」の必修科目に位置付けられています。
今年は社会状況に鑑み、予定した実習とは異なる形になる可能性があります。

【Outline and objectives】
In this class, students learn how to support learning-groups, the way of networking, and the role of coordinator.

BSP200MA

地域学習支援Ⅱ

展開科目

寺崎　里水、田澤　実、金山　喜昭、児美川　孝一郎、坂本　旬、久井　英輔、熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」で学んだことを土台としつつ、分野の選択に応じて地域づくり、多文化教育、若者自立支援、地域文化振興、コミュニティとメディアに関する実践的展開の場で実習をおこない、地域学習支援の意義・方法、コーディネーターに求められる能力、専門性について実践的に学ぶ。

【到達目標】
計画した実習プログラムに沿って実習をおこない、現場における学習支援の体験を通じて求められる専門性、プログラム作成やコーデイネート能力について習熟する。また実習の終了後、実践を振り返り、自分の役割やコミュニケーション能力の適切性、足りない点などを確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実習は地域の文化施設や学習組織、ＮＰＯなどへの訪問、行事・イベント等のサポート、遠隔地における滞在型実習、個々の学習者の支援、フィールド調査など、実習指導教員と現場職員・スタッフの協力によってプログラム作成がなされる。実習参加を通じて地域学習の現場で求められる支援のあり方を体験し、振り返りを通じて専門性について考察をおこなう。担当教員全員が等分に分担して授業を進める。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実習オリエンテーション	実習先や実習期間、実習の目的等について理解・確認する。（寺崎・金山）
2	実習先に関する事前学習①計画をたてる	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。（笹川・児美川）
3	実習先に関する事前学習②実習課題を明確にする	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。（田澤・熊谷）
4	実習先に関する事前学習③情報収集を行う	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。（坂本・荒川）
5	実習：地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。（笹川・寺崎）
6	実習：青年自立支援	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。（児美川・田澤）
7	実習：多文化理解、コミュニティ・メディア	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する（熊谷、坂本）。
8	実習：地域文化	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する（荒川・金山）。
9	実習のまとめと報告①地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。（寺崎、笹川）
10	実習のまとめと報告②青年自立支援	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。（児美川、田澤）
11	実習のまとめと報告③地域文化	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。（荒川、金山）
12	実習のまとめと報告④多文化理解、コミュニティ・メディア	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。（熊谷、坂本）
13	成果報告レポートの執筆	実習の成果について各自で課題を決定し、レポートを作成する。（寺崎、笹川、児美川、田澤）
14	全体の振り返り	地域学習支援の意義や課題、今後の学習課題などについてディスカッションを行う。（荒川、金山、熊谷、坂本）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習プログラムの作成、実習期間中の体験記録の作成、実習後の報告書作成など、授業時間外に多くの作業を行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
実習先の領域に即して適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習中の体験記録作成　50 %
実習後の報告作成　50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや授業のレポート内容などの情報を総合的に集約し、担当教員間で進行などを話し合う予定である。

【その他の重要事項】
本科目は「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」の単位を習得した場合のみ履修可能です。
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
Students go to practical training based on the studies in the spring semester. In the class, students are going to review their practical trainings and to prepare for the reports of the achievement.

BSP200MA

多文化教育Ⅰ

展開科目

村田　晶子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、海外留学や英語を学ぶことの意味を考えるとともに、国内に住む外国人を取り巻く様々な課題について学びます。そして、多様な言語・文化的な背景をもつ者同士が学び合い、協働するために何が必要なのかを考えます。本科目は講義、クラスディスカッション、グループでの事例発表から構成されます。

【到達目標】
本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。
・自分の異文化体験を批判的に省察し、言語化すること
・在留外国人の抱える問題を理解すること
・やさしい日本語、ピクトグラム、複言語、テクノロジーを用いた学習支援を理解し、実践すること
・多様な言語文化的な背景をもつ人々と協働する方法を考え、実践すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に対して発表します。
【課題等に対するフィードバック方法】
・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。
・課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第 2 回	概説１	大学のグローバル化の光と影
第 3 回	概説２	在留外国人の階層化、「内なる国際化」の問題
第 4 回	概説３	「やさしい日本語」は必要か（１）基礎編
第 5 回	概説４	「やさしい日本語」は必要か（２）応用編
第 6 回	概説５	外国人労働者をめぐる問題
第 7 回	概説６	ステレオタイプについて考える：＜ハーフ＞
第 8 回	概説７	ヘイトスピーチについて考える
第 9 回	プロジェクトのトピック選び	多文化体験・多文化共修の意義・プロジェクトのトピックを選ぶ
第 10 回	プロジェクトの準備	グループに分かれてプロジェクトの準備
第 11 回	プロジェクトの発表１	発表とディスカッション（グループ１）
第 12 回	プロジェクトの発表２	発表とディスカッション（グループ２）
第 13 回	プロジェクトの発表３	発表とディスカッション（グループ３）
第 14 回	教場試験	大学のグローバル化と多文化共生：自分達に何ができるのか 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は２単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合１回につき４時間以上の授業時間外の学習が必要となります。
学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んできてください。また、課外活動として、オンライン国際交流を行ないます（毎週 1 時間程度）。

【テキスト（教科書）】
村田晶子（編著）(2018)『大学における多文化体験学習・多文化共修への挑戦』ナカニシヤ出版
大学生協の教科書サイト： https://kyoukasho.univ.coop/321301/html/

【参考書】
村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）(2019 予定)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版
大学生協の教科書サイト： https://kyoukasho.univ.coop/321301/html/

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度 25%
・課題　25%

・最終発表　25%
・最終レポート 25%

【学生の意見等からの気づき】
Google Classroom で課題をアップする

【学生が準備すべき機器他】
・授業の連絡、宿題の提出は法政大学用の Google Classroom を用いるため、履修者は必ず Google Classroom に第２週目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。
・授業の出席のチェックに Google Classroom を用いるため、授業には毎回携帯端末か PC を持参すること。

【その他の重要事項】
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。１回目、2 回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育Ⅱ」をペアで履修することが単位取得の条件となります。
・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】
毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This course discusses topics regarding multicultural education in Japan to facilitate students' understanding of the significance of cultural diversity, mutual understanding, and initiatives to facilitate cultural-exchange activities.

BSP200MA

多文化教育Ⅱ

展開科目

村田　晶子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は春学期に学んだことを踏まえて、学内や学外の国際交流や支援活動にボランティアとして参加し、その実践を振り返ります。そして文化の多様性を社会の豊かさにつなげる「多文化共生」の在り方を考えます。

【到達目標】
本科目を通じて学生は多文化共生社会に貢献するために何が必要なのか考えを深め、今後の生活、勉学、将来に向けて、自分のボランティア経験をどのように生かすことができるのか、体験的な学びを言語化し、発信、共有することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＊授業は以下の流れで進めます。
1. 課題の説明
2. グループディスカッションを行なう。
3. Google Classroom から課題を提出する。
＊体験学習期間は参加者の活動報告、振り返り、ディスカッションが中心になります。
【課題等に対するフィードバック方法】
・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。
・課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第 2 回	概説	国際交流ボランティアとサービスラーニングの意義
第 3 回	交流活動計画	国際交流ボランティアの活動計画の作成
第 4 回	チュートリアル１	小グループに分かれてボランティア活動の初回の振り返りを行う
第 5 回	チュートリアル２	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりと、計画の調整を行う。
第 6 回	チュートリアル３	小グループに分かれてボランティア活動の課題を検討し、改善のための目標を設定する。
第 7 回	チュートリアル４	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりのサイクルか機能しているかチェックする
第 8 回	チュートリアル５	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物のテーマを決める。
第 9 回	チュートリアル６	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物の作成の準備をする。
第 10 回	チュートリアル７	小グループに分かれてボランティア活動の総括を行なう。
第 11 回	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて成果発表会の準備を行う
第 12 回	成果発表１	グループの活動報告（グループ１）
第 13 回	成果発表２	グループの活動報告（グループ２）
第 14 回	課外活動報告	各自が課外活動報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）(2019)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版
大学生協の教科書サイト： https://kyoukasho.univ.coop/321301/html/

【参考書】
村田晶子（編著）(2018)『大学における多文化体験学習・多文化共修への挑戦』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度 25%
・課題　25%
・最終発表　25%
・最終レポート 25%

【学生の意見等からの気づき】
オンラインの交流で時差があることを知らずに、相手と会えない学生がいたので、次回はオリエンテーションで確認をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の連絡、宿題の提出は法政大学用の Google Classroom を用いるため、履修者は必ず Google Classroom に第１週目の授業までに登録してください。
・オンラインでの国際交流がありますので、PC か携帯端末を準備してください。

【その他の重要事項】
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、2021 年度の春学期「多文化教育Ⅰ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。それ以外で履修できる学生は 2021 年 4 月の段階で秋学期の履修を許可している学生のみです。
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。第１回目、第２回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

【その他】
ボランティア活動は相手あっての活動です。遅刻やキャンセルは相手にとって大変失礼です。きちんと活動に取り組む時間が取れない学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「多文化教育Ⅰ」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This course aims to discuss the importance of multicultural learning through participants' projects chosen from the topics covered in the spring semester.

EDU200MA
【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅠ
EDU200MA
【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅠ

展開科目

福畠　真治

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本来、「教育」というものは、その対象や目的・手段すべてにおいて自由かつ多種多様であり、そこにただ一つの「正解」というものは存在しません。しかしながら、それは（特に学校現場において）教育活動が「何でもアリ」ということとも異なります。実際の教育活動の現場において、一貫した方針や計画を立てることなく行き当たりばったりのものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまいます。したがって、これまで教育学研究（特に教育経営学）の中で様々議論されてきたことや、現在の制度の意義や仕組みを学ぶことによって、学校組織の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目的の一つになります。
その際に、本講義ではその切り口として、マネジメント一般でよく用いられる「ヒト・モノ・カネ・情報」という視点を採用します。「ヒト＝教員」が学校組織の中でどのような役割を担いながら教育活動を行っているのか、それを「ヒト＝管理職・ミドルリーダー」がどのように支えているのか、そうしたヒトの集まりである組織の特徴や文化、組織活動の基盤となる「カネ＝資源」、そして学校組織内外に影響を及ぼす「情報」、それぞれについて互いに議論をしながら、理解を深め合っていきたいと考えています。
そしてもう一つの目的は、そうして得られた知見や自身の考えを、これまでの自身の経験と組み合わせることで、教育活動全体を「自分ごと」として捉えていく力を養うことです。その際に、本講義では「母校研究」を通じて、自身が学んできた事柄をこれまでの自身の経験と組み合わせ、「教育をマネジメントする」ことをより深く考察し、「自分ならではのアイディアや捉え方」を身に付けてもらいます。
そうして得られた自身の考え方や姿勢は、教育現場にとどまらず、あらゆる組織における活動にも役立てるものであると考えています。

【到達目標】
本講義では、主に学校経営に関する様々な事象を、「ヒト・モノ・カネ・情報」の視点で捉えた上で、そこで得られた知見や視角を、自身のこれまでの教育に関する経験と組み合わせることで、「自分ならではのアイディアや捉え方」を生み出すことを目指します。
　具体的には、本講義で提示された組織に関する様々な枠組みを基に、自身が選択した事例について必要な情報・データを収集・編集して、レポートにまとめることが求められます。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・本講義前半では、講義を中心として主に学校経営に関する学習を行い、後半に「母校研究」を通じてそれら理論・情報をこれまでの自身の経験と組み合わせて、より深い考察を進めていきます。個人の研究やスキル獲得は、各回におけるグループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行います。 また、内容によっては、さらなる議論につなげます。
・授業方法は、基本的には（1）Zoom を使用してのオンライン授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく予定です。
「（1）Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示します。
「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	学校組織の特徴	「組織」とは何か、一般的な組織と学校組織の違い
第 3 回	学校が直面している課題	いじめ問題、子どもの貧困、ICT 教育の推進など
第 4 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る	PISA 調査・TALIS 調査の結果からデータの読み取り
第 5 回	学校での「働き方」①	教員の職務内容、同僚性・「チーム学校」の考え方

第 6 回	学校での「働き方」②	教員の養成・研修と評価・職能成長
第 7 回	授業を「マネジメント」する	学習指導要領とカリキュラムマネジメント
第 8 回	学校の組織文化・リーダーシップ	組織文化・リーダーシップの類型やそれぞれの特徴
第 9 回	学校のモノとカネ	教育財政の仕組み、教員の給与、学校の資源管理
第 10 回	あらゆる変化・危機に対応する「組織」	学校安全・組織のレジリエンスについて
第 11 回	「母校研究」～自分の学校で考える～①	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 12 回	「母校研究」～自分の学校で考える～②	講義で得た知見等を用い、受講者と意見交換しながら、調査を進める
第 13 回	レポートの書き方	レポート課題の説明、レポートの書き方について
第 14 回	本講義のまとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「母校研究（調べ学習）」の準備と実施、指定された文献や資料などの読了、レポートの作成が求められます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献・資料などは、該当授業ごとに指定または配布します。

【参考書】
福澤一吉『議論のレッスン』生活人新書（NHK 出版）
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
アンドリュー・ゾッリ、アン・マリー・ヒーリー、須川 綾子（翻訳）『レジリエンス 復活力―あらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何か―』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
各授業におけるリアクション・ペーパー（30 %）、レポート提出（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために、学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
One of the objectives of this lecture is to gain a bird's eye view of the activities of school organizations by learning what has been variously discussed in pedagogical research (especially in educational management) and the significance and structure of current educational systems.
This lecture will adopt the perspective of "people, goods, money, and information," which is often used in management in general, as its starting point. And we will discuss the roles of "people (teachers)" in school organizations and how they are supported by "people (managers and middle leaders)," the characteristics and culture of the organization as a collection of people, "money (resources)" as the basis of organizational activities, and "information" that influences both inside and outside the school organization.
Another purpose is to develop the ability to view educational activities as a whole as "one's own affair" by combining the knowledge and ideas gained in this lecture with one's own experiences to date. Then you will combine what you have learned through "research on your alma mater" with your own past experiences, consider "managing education" more deeply, and acquire "ideas and ways of thinking that are unique to you". I believe that the ideas and attitudes you gain will be useful not only in the field of education, but also in the activities of any organizations.

EDU200MA
【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅠ
展開科目
EDU200MA
【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅠ

福畠　真治

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5** ｜ 配当年次：**2～4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本来、「教育」というものは、その対象や目的・手段すべてにおいて自由かつ多種多様であり、そこにただ一つの「正解」というものは存在しません。しかしながら、それは（特に学校現場において）教育活動が「何でもアリ」ということとも異なります。実際の教育活動の現場において、一貫した方針や計画を立てることなく行き当たりばったりのものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまいます。したがって、これまで教育学研究（特に教育経営学）の中で様々議論されてきたことや、現在の制度の意義や仕組みを学ぶことによって、学校組織の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目的の一つになります。
その際に、本講義ではその切り口として、マネジメント一般でよく用いられる「ヒト・モノ・カネ・情報」という視点を採用します。「ヒト＝教員」が学校組織の中でどのような役割を担いながら教育活動を行っているのか、それを「ヒト＝管理職・ミドルリーダー」がどのように支えているのか、そうしたヒトの集まりである組織の特徴や文化、組織活動の基盤となる「カネ＝資源」、そして学校組織内外に影響を及ぼす「情報」、それぞれについて互いに議論をしながら、理解を深め合っていきたいと考えています。
そしてもう一つの目的は、そうして得られた知見や自身の考えを、これまでの自身の経験と組み合わせることで、教育活動全体を「自分ごと」として捉えていく力を養うことです。その際に、本講義では「母校研究」を通じて、自身が学んできた事柄をこれまでの自身の経験と組み合わせ、「教育をマネジメントする」ことをより深く考察し、「自分ならではのアイディアや捉え方」を身に付けてもらいます。
そうして得られた自身の考え方や姿勢は、教育現場にとどまらず、あらゆる組織における活動にも役立てるものであると考えています。

【到達目標】
本講義では、主に学校経営に関する様々な事象を、「ヒト・モノ・カネ・情報」の視点で捉えた上で、そこで得られた知見や視角を、自身のこれまでの教育に関する経験と組み合わせることで、「自分ならではのアイディアや捉え方」を生み出すことを目指します。
　具体的には、本講義で提示された組織に関する様々な枠組みを基に、自身が選択した事例について必要な情報・データを収集・編集して、レポートにまとめることが求められます。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・本講義前半では、講義を中心として主に学校経営に関する学習を行い、後半に「母校研究」を通じてそれら理論・情報をこれまでの自身の経験と組み合わせて、より深い考察を進めていきます。個人の研究やスキル獲得は、各回におけるグループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行います。 また、内容によっては、さらなる議論につなげます。
・授業方法は、基本的には（1）Zoom を使用してのオンライン授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく予定です。
「（1）Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示します。
「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	学校組織の特徴	「組織」とは何か、一般的な組織と学校組織の違い
第 3 回	学校が直面している課題	いじめ問題、子どもの貧困、ICT 教育の推進など
第 4 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る	PISA 調査・TALIS 調査の結果からデータの読み取り
第 5 回	学校での「働き方」①	教員の職務内容、同僚性・「チーム学校」の考え方

第 6 回	学校での「働き方」②	教員の養成・研修と評価・職能成長
第 7 回	授業を「マネジメント」する	学習指導要領とカリキュラムマネジメント
第 8 回	学校の組織文化・リーダーシップ	組織文化・リーダーシップの類型やそれぞれの特徴
第 9 回	学校のモノとカネ	教育財政の仕組み、教員の給与、学校の資源管理
第 10 回	あらゆる変化・危機に対応する「組織」	学校安全・組織のレジリエンスについて
第 11 回	「母校研究」～自分の学校で考える～①	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 12 回	「母校研究」～自分の学校で考える～②	講義で得た知見等を用い、受講者と意見交換しながら、調査を進める
第 13 回	レポートの書き方	レポート課題の説明、レポートの書き方について
第 14 回	本講義のまとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「母校研究（調べ学習）」の準備と実施、指定された文献や資料などの読了、レポートの作成が求められます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献・資料などは、該当授業ごとに指定または配布します。

【参考書】
福澤一吉『議論のレッスン』生活人新書（NHK 出版）
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
アンドリュー・ゾッリ、アン・マリー・ヒーリー、須川 綾子（翻訳）『レジリエンス 復活力―あらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何か―』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
各授業におけるリアクション・ペーパー（30 %）、レポート提出（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために、学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
One of the objectives of this lecture is to gain a bird's eye view of the activities of school organizations by learning what has been variously discussed in pedagogical research (especially in educational management) and the significance and structure of current educational systems.
This lecture will adopt the perspective of "people, goods, money, and information," which is often used in management in general, as its starting point. And we will discuss the roles of "people (teachers)" in school organizations and how they are supported by "people (managers and middle leaders)," the characteristics and culture of the organization as a collection of people, "money (resources)" as the basis of organizational activities, and "information" that influences both inside and outside the school organization.
Another purpose is to develop the ability to view educational activities as a whole as "one's own affair" by combining the knowledge and ideas gained in this lecture with one's own experiences to date. Then you will combine what you have learned through "research on your alma mater" with your own past experiences, consider "managing education" more deeply, and acquire "ideas and ways of thinking that are unique to you". I believe that the ideas and attitudes you gain will be useful not only in the field of education, but also in the activities of any organizations.

MAN200MA
【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ
MAN200MA
【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ
展開科目

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5** ｜ 配当年次：**2～4 年**
他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目指している。
新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。
大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、
新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】
①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。
ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。
授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義１	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義２	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ１
第 4 回	ワークショップ１－１	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ１－２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り１	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義３	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ２
第 8 回	ワークショップ２－１	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ２－２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り２	社会人・起業家に対してアイディアを発表する２
第 11 回	講義４	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ３
第 12 回	ワークショップ３－１	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ３－２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする

第 14 回　発表・振り返り３　　社会人・起業家に対してアイディアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定です。

【学生が準備すべき機器他】
【履修の条件】
１：自分の PC を持っていること
　～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
２：自宅等で WiFi 環境があること
　～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
３： Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.
For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA
【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ　展開科目
MAN200MA
【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2～4 年**
他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目指している。
新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。
大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、
新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】
①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。
ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。
授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義１	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義２	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ１
第 4 回	ワークショップ１－ １	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ１－ ２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り１	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義３	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ２
第 8 回	ワークショップ２－ １	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ２－ ２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り２	社会人・起業家に対してアイディアを発表する２
第 11 回	講義４	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ３
第 12 回	ワークショップ３－ １	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ３－ ２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする

第 14 回	発表・振り返り３	社会人・起業家に対してアイディアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定です。

【学生が準備すべき機器他】
【履修の条件】
１：自分の PC を持っていること
　～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
２：自宅等で WiFi 環境があること
　～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
３： Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.
For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA
【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ
MAN200MA
【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ
展開科目

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5** ｜ 配当年次：**2～4 年**
他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目指している。コロナ後の世界で何が求められるのか新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。
大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】
①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
後期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。
ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。
授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義１	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義２	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ１
第 4 回	ワークショップ１－１	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ１－２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表する１
第 7 回	講義３	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ２
第 8 回	ワークショップ２－１	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ２－２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・考えを発表する
第 11 回	講義４	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ３
第 12 回	ワークショップ３－１	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ３－２	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする

第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定。

【学生が準備すべき機器他】
1：自分の PC を持っていること
　～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
2：自宅等で WiFi 環境があること
　～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
3： Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.
For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA
【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ
展開科目

MAN200MA
【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5** ｜ 配当年次：**2～4 年**
他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目指している。コロナ後の世界で何が求められるのか新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。
大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】
①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
後期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。
ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。
授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1－ 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1－ 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表する 1
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2－ 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2－ 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・考えを発表する
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3－ 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3－ 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする

第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定。

【学生が準備すべき機器他】
1：自分の PC を持っていること
　～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
2：自宅等で WiFi 環境があること
　～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
3： Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.
For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

EDU200MA

キャリア研究調査実習 B（恋愛の質的研究）

展開科目

大森　美佐

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4** ｜ 配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、「恋愛」についての各文献の講読を通じて、問いと調査方法（アプローチ）の関係や先行研究の用い方、調査をする上での倫理的配慮など、社会調査に必要な知識やマナーを学ぶこと目的とする。

【到達目標】
・研究テーマと調査方法（アプローチ）の関係を理解する。
・調査にあたっての配慮事項を知る。
・メディアなどを対象にした調査をデザインし、運用してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義と演習形式で進めていく。テキストは特に使用しない。第 4 回目からは、先行研究の講読を行う。方法については授業内で説明する。なお、毎回、授業の最後に意見や感想を書いて提出してもらい、終盤にはグループ・ワーク、グループ・プレゼンテーションを行ってもらう。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テーマとしての恋愛：授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	質的研究のフレームワーク	なぜ、いかに行うか。質的研究の意義、質的研究と量的研究の違い、質的研究の倫理と手続きなど
第 3 回	研究の視座と分析視覚	質的研究における文献の利用、理論的立場など
第 4 回	歴史から現在を考える①	『婦人公論』などの雑誌の言説分析
第 5 回	歴史から現在を考える②	民族史：当時のインタビュー（口頭データ）を読む
第 6 回	現代の恋愛を捉える①	漫画・雑誌分析
第 7 回	現代の恋愛を捉える②	ビジュアルデータ分析：写真、映画、ビデオ、ドラマなどの分析
第 8 回	現代の恋愛を捉える③	口頭データ分析 半構造化インタビュー、グループディスカッション、縦断調査など
第 9 回	現代の恋愛を捉える③ 恋愛・結婚の国際比較	社会・文化的差異の視点を用いた研究
第 10 回	研究デザイン①	グループワーク：先行研究を踏まえて研究計画を立てる
第 11 回	研究デザイン②	グループワーク： メディア分析の実践
第 12 回	研究デザイン③	グループワーク：プレゼンテーション資料の作成
第 13 回	学生グループプレゼンテーション①	グループワークの結果報告
第 14 回	学生グループプレゼンテーション②	グループワークの結果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した文献資料は事前に読んで講義に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
Uwe Flick, 2005, Qualitative Sozialforschung, Rowohlt Taschenbuch Verla（= 2011, 小田博志ほか訳 『質的研究入門− 人間の科学のための方法論　新版』春秋社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告・授業への感想文）（50 %）、グループ・プレゼンテーション（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【キャリアデザイン学部より】
この授業は，受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合，抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】
This course provides an introductory overview of qualitative methods with reading previous studies on “romantic love”(=ren-ai) . Through this course, students will be expected to learn methodological skills necessary to conduct their sociological research such as a relation of a question and method (approach), usage of the previous research, and ethical considerations.

EDU200MA

外書講読Ａ（発達・教育）　展開科目

福田　紀子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人権に基づいた社会のより良い変化 (開発) に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／ Sphere Standards)、SDGs のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した “価値観＝大切にしているもの” に近づきたいと思います。

特に世界で脅威となった「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」に私たち自身の生活が大きく影響される今、関連する「人道支援の国際基準　スフィア基準（Sphere Standards）を学ぶことから始めたいと思います。特にその中の Coor Humanitarian Standard から公共サービスの質と説明責任について人道支援のコンテキストから学びます。他にも参加とコミュニケーションに関するテキストを順次読んでいきます。
　また特に日本での参加の文化を阻害するものについては Conflict Resolution を学びながら考えます。

【到達目標】
１）国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワーメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
２）人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法（Governace と Accountability) に必要な思考と行動のスキルを 自分の生き方くらし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
３）参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。
授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。
その中でのディスカッション、フィードバックは日本語で行います。
課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation self-introduction Humanitarian-Standards-and-Coronavirus-2020-ONEPAGER	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。人権とは。人道支援の国際基準スフィア基準関連の文書を読みます
2	Disaster & Humanitarian Response Basic Concept and Background	災害とは何か 人道支援とは何か 人道支援の背景 〜歴史と国際基準
3	Sphere Standard 1 Sphere’s structure 4 Principles of Humanitarian Response	スフィアの構造と 前提となる人道支援の４原則について
4	What’s Sphere 〜 Vulnerability and Capacity	「スフィアとは」 〜脆弱性と能力について
5	Gnerder Issue 〜 Image and reality	人権問題の共通理解としてジェンダーの課題について
6	Sphere Handbook’ quality & Accountability with CHS ①	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と “アカウンタビリティ” を必須基準（CHS) から学びます。①〜③

7	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ②	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタビリティ”を必須基準（CHS) から学びます。④～⑥
8	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ③	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタビリティ”を必須基準（CHS) から学びます。⑦～⑨
9	Activity ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から CHS の課題と対応を考えます
10	Comunication & Participation ① w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考え方やスキルを学びます（前編）
11	Comunication & Participation ② w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考え方やスキルを学びます（中編）
12	Comunication & Participation ③ w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考え方やスキルを学びます（後編）
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について考えます
14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳• 整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。
国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】
The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
（参考）Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
Communication Tool Box ～ Practical Guidance for Program Managers to Improve Communication with participants and Community Members, Catholic Relief Service,2013
https://resourcecentre.savethechildren.net/node/13717/pdf/communication-toolbox.pdf
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズー教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える１２のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート• チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、各回授業のふりかえりシート４０％
翻訳課題２５％
発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など）１０％、
レポート２５％

【学生の意見等からの気づき】
参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行• 手法• 思考の枠組• 問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。
ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】
国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。Accountability など、慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。
また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【Outline and objectives】
The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.
Students are expected to
read the materials/assignments to translate/summary/analize/apply into your own situation.
Main text would be the Sphere Standards-Humanitarian Chater and Minimum Standards of Humanitarian Response.

EDU200MA

外書講読Ｂ（発達・教育）　展開科目

長岡　智寿子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2　｜　配当年次：2〜4 年
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会学的な視点から検討するものである。具体的には、本講義の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】
本講義では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習の活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、
全体に対してフィードバックを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらな
　る議論に活かします。
・授業内で求めた課題や小テストに対する講評や解説も行いま
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義全体の概要説明
第 2 回	Background ： data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第 3 回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第 4 回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会学的視点から理解
第 5 回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第 6 回	Stories of imagination（2） Life skill	Literacy and Life ｓ kills
第 7 回	Stories of imagination（3） human rights	About employment rights with literacy for poor women
第 8 回	Stories of imagination（4） Minority	Women and Literacy in post-conflict
第 9 回	Stories of imagination（5） Knowledge for safe	Children’s nutrition and literacy learning
第 10 回	Stories of imagination（6） Learning for life	Literacy and learning for young women
第 11 回	Stories of imagination（7） Learning for health	Learning reading, writing and health
第 12 回	Stories of imagination（8） Social empowerment	Community Empowerment
第 13 回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第 14 回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、授業の際に説明する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
・『Literacy and Women’s Empowerment: Stories of Success and Inspiration』,
UNESCO Institute for Lifelong Learning,2013
・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』,
Commonwealth of Learning, 2012

【成績評価の方法と基準】
試験（60 %）、授業内での課題（20 %）、出席（20 %）により、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を
整えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline and objectives】
In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today.　Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture.

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅰ

展開科目

松浦　千春

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、人は生まれてから死ぬまで生涯発達していくことを踏まえて、乳児期、幼児期、児童期、思春期、それぞれの発達特性について学ぶ。また、これまでの知見を、子育てや教育を含めた生活の中で、どのように活用していくことができるのか、事例を通して考える。

【到達目標】
（1）乳児期から思春期までの発達特性について、心理学的な視点から述べることができる。
（2）乳児期から思春期までの発達特性をもとに、子育てや教育上の事例への対応を考えることができる。
（3）自己理解、他者理解を含め、日常生活にどのように活用することができるかを意識しながら学び続ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・原則オンライン「リアルタイム型」で実施します。状況に応じて「オンデマンド型」を取り入れます。「オンデマンド型」になるときには学習支援システムを通して連絡をします。
・資料は学習支援システムを通して配布します。
・課題へのフィードバックは、提出された回答の中から複数取り上げ、全体へ行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発達とは	心理学よりみた人間の発達を概観する
第 2 回	新生児期・乳児期の発達①概要	新生児期・乳児期の発達特性について学ぶ。
第 3 回	新生児期・乳児期の発達②事例	新生児期・乳児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 4 回	幼児期の発達①概要	幼児期の発達特性について学ぶ。
第 5 回	幼児期の発達②事例	幼児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 6 回	児童期の発達①概要	児童期の発達特性について学ぶ。
第 7 回	児童期の発達②事例	児童期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 8 回	思春期の発達①概要	思春期の発達特性について学ぶ。
第 9 回	思春期の発達②事例	思春期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 10 回	発達障害①概要	発達障害の概念について学ぶ。
第 11 回	発達障害②事例	発達障害の事例に触れる。
第 12 回	幼児期・児童期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、幼児期・児童期の事例について、背景や対応を考える。
第 13 回	思春期・青年期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、思春期・青年期の事例について、背景や対応を考える。
第 14 回	まとめ・試験	授業内試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容、配付された資料、紹介された資料と、自分自身の興味関心とを繋げながら、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】
指定のテキスト（教科書）はありません。

【参考書】
必要な資料、参考になる資料などは、授業の中で配布したり、紹介したりします。可能な限り学習支援システムを通して配付可能なもの、ウェブ上で閲覧可能なものを選択します。

【成績評価の方法と基準】
授業ごとの課題提出（11 回・55 %）・試験あるいはレポート（1 回・45 %）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度同様、動画、音声などの視聴覚教材を用います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料の配布、課題の提出には、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
・授業を受けるにあたり、情報保障をはじめ、何らかの支援が必要な場合には、適宜申し出てください。事前に記録してある動画には字幕あるいは書き起こしを添える予定です。
・授業者は発達支援の臨床が専門のフリーランスです。私設の支援室を設け、0 歳から 15 歳の子どもたちに携わっています。また、都内の小中学校を訪問し、支援者への助言をしたり保護者向の方向けの講演会などで家庭内での具体的な関わり方について提案したりしています
・授業がどのような形態で実施されても、この授業の到達目標に変更はありません。理解を深め、知識の活用の幅を拡げてください。

【Outline and objectives】
In this class, we will learn about the developmental characteristics of infancy, early childhood, childhood, and adolescence, based on the fact that people develop throughout their lives from birth to death. We will also consider through case studies how we can apply the knowledge we have gained so far in our daily lives, including child rearing and education.

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するのか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。
秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】
学生がその青年期から死にいたるまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。
生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。
コロナの状況を踏まえて、当面の授業はオンデマンド形式で行う。パワポを説明する講師の動画を視聴して、毎回４００字程度の簡単な感想・レポートを提出する形式が中心となる。詳しくは HOPPII をご参照ください。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第 2 回	アイデンティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモラトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第 3 回	思春期青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、ブロスの分離個体化などを学ぶ
第 4 回	ひきこもりについて	ひきこもりの実態をデータから把握し、事例からその要因についてさまざまな観点から検討する
第 5 回	精神分析と心理テスト	心理テスト　エゴグラムを自らやって自己理解を深める
第 6 回	男性の発達、父性の観点	「鬼滅の刃」から父性について考える
第 7 回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第 8 回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの２つの軸、個としての達成／関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ
第 9 回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第 10 回	成人期の発達とキャリア発達 初期～中期キャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第 11 回	中年、老年期の発達とキャリア発達 生涯キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアにつて考える
第 12 回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第 13 回	人間の死とその心理学的特性　死の意味	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 14 回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレッサーを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連図書の予習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で使うパワポの資料はその都度、HOPPII に上げます。参考文献もその都度紹介します。

【参考書】
・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編　東京大学出版会
・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編　東京大学出版会
・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
・父滅の刃~消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析~（樺沢紫苑）みらいパブリッシング
・＜ほんとうの自分＞のつくり方　（榎本博明）講談社現代新書
・私とは何か　個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
毎回の感想レポート（60 %）
期末レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド形式の授業を受講できる環境、端末

【その他の重要事項】
青年期から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今日まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive,social and emotional aspects of growth .
We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), lateadulthood(65-) in the fall semester.
We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved. Students will be able to reflect on their own relationships with themselves, their families, and others from a developmental perspective. By doing so, Students themselves can do growth and development.

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅰ

展開科目

飯野　雄大

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもたちへ教育相談を行っていく上での必要な知識の習得と子どもと関わる現代的な問題の理解をテーマとする。主に乳幼児期から青年期までの発達を理解し，幅広い意味での教育現場で起こる問題を読み解くための考え方を学ぶ。

【到達目標】
（1）教育相談を行っていく上で必要な心理学的知識を習得する。
（2）現場で起こっている諸問題を理解する。
（3）心理学の知識や見方を用いて教育現場の問題を自分なりに考えることができるようになることの 3 点を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1．人の発達と教育相談（第 2 回から第 7 回）。
2．乳幼児期の諸問題と教育相談（第 8 回から第 11 回）
3．児童期から青年期の諸問題と教育相談（第 12 回から第 14 回）
授業時間開始前に毎回、学習支援システム上に資料及び課題を提示する。課題に関しては 5 日後を提出期限とする。各自資料を読み、指示された作業等を行って学習をすること。質問は学習支援システム上の掲示板を活用する。毎回の課題の提出及び最終レポートを実施する予定である。
毎回の課題内容については、次回以降の授業で解説を行う。また、そのさい質問と記入いただいた内容についてもいくつか取り上げ、無記名で内容を紹介し授業内でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要, 到達目標, 講義形式, 講義の進め方, 導入にあたって必要な事項を解説する。
2	教育相談の現場と対象	教育相談はどのような場で, どのような人を対象として行われているのだろうか, 教育相談の現場を概観する。
3	人の発達と特徴を知る①：認知発達	人はどのように世界を認識しているのか, 視覚的な認知の発達と特徴を学ぶ。
4	人の発達と特徴を知る②：アタッチメントと対人関係の発達	人と人が関係を作るとはどういうことなのか, 愛着などの関係性の発達と特徴について学ぶ。
5	人の発達と特徴を知る③：社会性の発達	「空気が読める」「相手の立場を理解する」とはどういうことか, メタ認知や社会性の発達について学ぶ。
6	人の発達と特徴を知る④：自己の発達	「自分はいつも失敗ばかり」「自分はいつも損な役回りで」といった現実を偏って捉えてしまう認識の特徴を学ぶ。
7	人の発達と特徴を知る⑤：知能の発達	知能（IQ）とはどのようなものか, 教育現場でどのように用いられているのかを学ぶ。
8	発達の障害と教育相談	発達障害をはじめとした様々な障害の特徴について学ぶ。
9	乳幼児期の教育相談①：虐待の理解と対応	虐待の実態と特徴について学ぶ。
10	乳幼児期の教育相談②：育児相談・発達相談・園内及び就学の相談と支援	子どもの育児や発達についての保護者の相談の実際を学ぶ。また、保育園・幼稚園での支援と学校への入学にかかわる相談について学ぶ。
11	児童期から青年期の諸問題と教育相談①：いじめの理解と対応	学校現場でのいじめについて、その実態と背景について考える。
12	児童期から青年期の諸問題と教育相談②：不登校の理解と対応	学校現場での不登校の問題について、その実態と背景について考える。
13	児童期から青年期の諸問題と教育相談③：反社会的行動の理解と対応及び思春期の進路相談	学校での問題行動とその背景について考える。また青年期における進路相談に関してもふれる。
14	まとめ・振り返り	これまでの講義内容をまとめ, 学校で起こる諸問題の基本的な内容と教育相談の機能について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自分自身の小学校や中学校、高等学校などの学校経験から，印象に残っているエピソードを思い出しておく。
・子どもに関するニュースに注目し，目を通しておく。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。
テキストは指定しない。

【参考書】
古屋喜美代・関口昌秀・萩野佳代子（編） 2013 児童生徒理解のための教育心理学 ナカニシヤ出版
本郷一夫・金谷京子（編） 2011 臨床発達心理学の基礎 ミネルヴァ書房
浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
毎回の小レポート（4 割）と最終レポート（6 割）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な例や実体験を通して相談活動の基礎を学べるようにする。

【授業中に求められる学習活動について】
C,D,E

【Outline and objectives】
This course deals with the child development and educational problem. The aim of this course is help students acquire an understanding of the fundamental principles of educational counseling.

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

飯野　雄大

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床教育相談論Ⅰを土台にしながら，どのようなアプローチを使いながら相談を進めていけばよいのかを実践的に学ぶ。特に、子どもの問題を捉えるアセスメントの視点と子どもの問題に多角的にアプローチできる視点を学ぶ。

【到達目標】
理論を踏まえながら，教育相談の実際を理解する。教育相談の流れを，イメージできるようにする。子どもの問題状況を理解し、その状況に合わせて相談の目標を意識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1．教育相談に関する基本的な技法の理解（第 2 回から第 5 回）。
2．教育相談でのアセスメントと対処（第 6 回から第 11 回）
3．ケーススタディを通した教育相談の理解（第 12 回から第 14 回）
教育相談に関する技法などの講義と、事例を読んで各自で考えたり分析をしたりすることを通して、教育相談に関する諸問題を理解と対応について学ぶ。
授業時間開始前に毎回、学習支援システム上に資料及び課題を提示する。課題に関しては 5 日後を提出期限とする。各自資料を読み、指示された作業等を行って学習をすること。質問は学習支援システム上の掲示板を活用する。毎回の課題の提出及び最終レポートを実施する予定である。
毎回の課題内容については、次回以降の授業で解説を行う。また、そのさい質問と記入いただいた内容についてもいくつか取り上げ、無記名で内容を紹介し授業内でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要, 到達目標, 講義の形式, 講義の進め方, 導入にあたって必要な事項を解説する。
2	コミュニケーションの基本	相談を行う上で基本的なコミュニケーションの技法について概観する。
3	関係性による相談の変化と相談活動における倫理	誰かに相談するということは，どういうものか体験を通して学ぶ。また、相談を行っていくうえでのプライバシーの保護, 守秘義務といった倫理について学ぶ。
4	他者の話を聴く	他者の気持ちを意識しながら，傾聴するとどのようなものかを実習を通して学ぶ。
5	問題が起きている状況を理解する	問題状況を理解するためにどのような情報を収集し，どのように理解すればよいのかを学ぶ。
6	児童・生徒を理解する	児童・生徒を理解するとはどういうことか, 基本的な技法について学ぶ。
7	アセスメントの技法①知能検査	人を理解する技法のひとつである発達・知能検査について学ぶ。IQ を理解する。
8	アセスメントの技法②性格検査	人を理解する技法のひとつである性格検査について学ぶ。類型論、特性論について知る。
9	障害への支援	特別支援教育など学校で障害児を支援する方法を理解する。
10	関係機関との連携及びケーススタディの方法	教育現場と関係する病院や児童相談所といった機関とどのように連携していけばよいかを, 各機関の特徴とともに学ぶ。また次回以降のケーススタディの方法を学ぶ。
11	ケーススタディ①幼児期	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に幼児期の問題について取り扱う。
12	ケーススタディ②児童期及び学校現場	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に学校現場での問題について取り扱う。
13	ケーススタディ③虐待・障害	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に障害にかかわる問題について取り扱う。
14	まとめ	事例のまとめを行うとともに最終レポートを課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で学んだ内容を復習した上で，次の授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。テキストは指定しない。

【参考書】
鈴木・大橋・能智（編） 2015 ディスコースの心理学 ミネルヴァ書房
浜谷直人（編） 2009 発達障害児・気になる子の巡回相談―すべての子どもが「参加」する保育へ ミネルヴァ書房
浜谷直人（編） 2013 仲間とともに自己肯定感が育つ保育―安心のなかで挑戦する子どもたち
浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題の提出と最終レポートで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
継続して具体的な事例を紹介しながら学べるようにしていきたい。分かりやすく、質問しやすい環境を工夫していく。

【授業中に求められる学習活動について】
C,D,E,F,G

【Outline and objectives】
This course deals with the counseling method and case study.It also enhances the development of students' skill in case discussion and problem solves.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅠ　展開科目

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

【到達目標】
学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の録画動画を配信するオンデマンド型で当面行います。HOPPII で毎週必ず確認のこと。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コロナ禍という変化とキャリア転機	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第 2 回	キャリア理論では変化への適応をどう捉えるか	変化対応力からみたクランボルツ、ジェラット、シュロスバーク等の理論の紹介
第 3 回	なぜ今キャリアカウンセリングなのか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第 4 回	あらためてキャリアカウンセリングとは何か	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア形成支援等の違いについて検討する
第 5	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第 6 回	ゲスト講師	企業の人事部で採用責任者を担当していた経験と事例の紹介
第 7 回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第 8 回	ゲスト講師	ヤングハローワークでの経験からの事例紹介
第 9 回	自律型キャリア、嫌われる勇気、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第 10 回	キャリア自律を阻むもの	キャリア自律の阻害要因について考える
第 11 回	ゲスト講師	大学のキャリア相談員から大学生に多く見受けられる事例の検討課題を提示しレポートを課す
第 12 回	ゲスト講師	前回の事例検討課題に対する解説を行う
第 13 回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する
第 14 回	まとめ	期末レポートの課題のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宮城まり子著「キャリアカウンセリング」2002、駿河台出版社

【参考書】
宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書
木村周著「キャリアカウンセリング」　1997、雇用問題研究会
平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート（６０％）
期末レポート（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する

【学生が準備すべき機器他】
オンライン配信の授業の動画を視聴できる環境と端末

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
After taking this course,　you will be able to understand career counseling and development theories,including the following:
·interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
· career counseling processes, techniques, and resources

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅡ　展開科目

高橋　浩

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングⅠでは主にキャリア理論、キャリアカウンセリング理論を学び、それを踏まえてキャリアカウンセリングⅡではキャリアカウンセリングの現場での事例紹介、事例検討などの活動を組合せて理解を進める。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの実際の展開について理解する
・カウンセリングの基本の理論について理解する
・キャリアカウンセリングが活用されている領域、分野での具体的な実施内容や事例を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Zoom を用いたリアルタイム型のオンライン授業です。事前に、提示した資料でカウンセリング理論を学習をしてもらいます。授業当日はキャリアカウンセリングの事例を題材にして、カウンセリング理論に基づいたアプローチについて学びます。この時、グループディスカッションや発表などを行う場合があります。授業後はミニレポートを提出してもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたミニレポートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較から考える
第 2 回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリングを進める 6 つのステップについて学ぶ
第 3 回	カウンセリングの実際 傾聴 来談者中心療法	キャリアカウンセリングで使える代表的な理論について学ぶ（〜第 10 回） 傾聴、受容、共感を学ぶ
第 4 回	認知行動療法	認知行動療法について学ぶ
第 5 回	精神分析	精神分析について学ぶ
第 6 回	アドラー心理学	承認欲求にとらわれすぎない生き方働き方を学ぶ
第 7 回	ブリーフセラピー	問題志向／解決志向カウンセリングを学ぶ
第 8 回	マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括折衷的カウンセリングについて学ぶ
第 9 回	グループ・アプローチ	グループワークの効果を体験する
第 10 回	ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチについて実習を交えて学ぶ
第 11 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー学校	キャリアカウンセリングの活用分野について学ぶ（〜第 14 回）学校での事例検討
第 12 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー企業	企業内での事例検討を行う
第 13 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー就労支援	就労支援機関での事例検討を行う
第 14 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー多様性（ダイバーシティ）	女性、障害者などのキャリア開発の支援の事例検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に提示した各種カウンセリング理論の資料を学習してもらいます。授業後は学習したことについてのミニレポートを提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにて事前に資料をダウンロードして取得できるようにする。

【参考書】
・「キャリアカウンセリング」宮城まり子　駿河台出版社
・「キャリア・コンサルティング　理論と実際　　カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周　社団法人　雇用問題研究会
・「新時代のキャリアコンサルティング　キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人　労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】
各授業でのミニレポート 40 %　期末課題 60 %
（オンライン授業ではミニレポートの提出をもって出席とする）

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムでの質疑についてもリアルタイムで取り上げ補足を行ったり、事前学習を応用して深く検討できるような双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
After taking this course,　you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:
·interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
· career counseling processes, techniques, and resources
In the fall semester, we will study case studies of employment support, and workplace support.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）

展開科目

宮脇　優子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、現代社会においてキャリアカウンセリングが求められている背景・ニーズを学ぶ。
次に、キャリアカウンセラーに求められる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。その上で、様々なケースについて学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの基礎的事項について理解できる
・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
①現代社会の様相、特に働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへの社会的ニーズを理解できる
②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを利用したオンデマンド方式の授業形式をとり、以下のような進め方になります。
・各回の講義資料を学習支援システムに配信。その資料を読み学習し、各回の課題を学習支援システムに提出していただきます。次回の授業で前回提出された課題についてのフィードバックを行います。質問等についての回答は、学習支援システム上に掲載もしくは配信し、共有します。
・各回に提出する課題は、小レポートとなります。
・第 10 回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、希望者はアセスメントツールを体験（可能な情勢であれば、キャリア情報ルームにて希望者はキャリア・インサイトを受検）していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特質を理解する。
第 3 回	働く人を取り巻く環境変化とキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化の経緯を知り、現代においてなぜキャリア支援が必要とされているのか、支援者であるキャリアカウンセラーへの期待、果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的展開	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な進め方、実践方法を学ぶ。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ①	ケースの読み取り方、カウンセラーの見立て方を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ②	C.R. ロジャーズの理論を学び、若者への就職支援のケースを考察する。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ③	キャリア・チェンジを伴う転職支援のケース、職場の人間関係に悩むケースを考察。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第 9 回	子育てしながら働く女性への支援	子育てしながら働く女性の現状と支援を学ぶ。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの活用/ケーススタディ④	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、効果的な活用方法及び職業選択理論を学び、心理アセスメントを活用したケースにて理解を深める。
第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑤	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケース①を考察する。
第 12 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑥	ストレス、ストレス・コーピングを学び、職場不適応のケース②（管理職編）を考察する。
第 13 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑦	職場におけるメンタルヘルス問題への対応、組織開発とキャリアカウンセリングについてケースを通して学ぶ。
第 14 回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返り及び各回に提出された課題内容についての講評、総括のフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に設定された課題（小レポート）を作成し、学習支援システムに提出していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「働く人へのキャリア支援～働く人の悩みに応える２７のヒント」
宮脇優子編著　金剛出版

【参考書】
「キャリアカウンセリング入門　人と仕事の橋渡し」
　渡辺三枝子＋ E.L. ハー著　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み姿勢：小レポート課題の提出状況とその内容）
５０％
期末レポート課題　５０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度は、より理解しやすい授業コンテンツを目指してさらなる工夫を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料（powerpoint/音声あり）の読み取り・学習のためにパソコンを必要とします。

【その他の重要事項】
担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動を開始し、現在に至っている。キャリアカウンセラーとしての１８年の経験で支援してきた人は 5,000 人を超える。
これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実際について、授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to understand the importance and methods of career counseling.
The first phase is to understand the basics of career counseling, i.e. its history and the reason why career counseling is required in today's society.
The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field.
Lastly, we will examine its practical usage by looking into various cases.

PSY200MA

教育相談

展開科目

田澤　実

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とリアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第 3 回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第 4 回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第 5 回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第 6 回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第 7 回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第 8 回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 9 回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 10 回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 11 回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 14 回	外部機関との連携	組織的な取組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談〜個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」〜」川島書店

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、積極的参加（30 %）にて評価

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当せず。一昨年度の授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して扱うテーマや内容に一部変更を加えた。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

児玉　茉奈美

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には，子どもの理解とかかわりの基本的な視点，子どもが現実にかかえる不適応の問題，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを目指す。

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし，次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し，学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で，子どもの対人関係の発達について説明する。
第 3 回	不適応の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適応とつまずきを理解し，子どもとのかかわりを考える。
第 4 回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー（対処方略）について説明する。
第 5 回	精神障害	不安障害やうつ病，統合失調症，摂食障害について説明する。
第 6 回	発達障がい	自閉症スペクトラムや ADHD，LD について説明する。
第 7 回	不登校	不登校の子どもを理解するため，その背景や支援について説明する。
第 8 回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため，その背景や支援について説明する。
第 9 回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため，その背景や支援について説明する。
第 10 回	子ども虐待	子ども虐待を受ける子どもやしてしまう親を理解するため，その背景や支援について説明する。
第 11 回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという３つのアセスメント方法について説明する。
第 12 回	カウンセリングの理論	精神分析療法や行動療法，クライエント中心療法といった，カウンセリングの基本的な理論について説明する。
第 13 回	カウンセリングの実践	教育機関におけるカウンセリングの方法について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	教員同士だけではなく，保護者や関係機関との連携の重要性とその方法について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，テキスト該当箇所を一読し，配布資料の穴埋めをする。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
黒田祐二　（2018）　実践につながる教育相談　北樹出版　（2100 円）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50 %，リアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業で，復習のため資料の掲示期間を長くしてほしいという要望があった。そのため，配布資料の掲示は授業期間終了までとする予定である。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋　弥生

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。授業の中で適宜、課題解決型の学習を取り入れます。また、小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったテストやレポート等、課題に対する講評や解説も行います。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 1 回「ガイダンス」
事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第 2 回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 3 回「青年期の発達」
事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 4 回「成人期の発達」
事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 5 回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第 6 回「カウンセリングの技法」
事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第 7 回「教育相談の進め方」
事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第 8 回「非行に関する相談」
事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 9 回「いじめに関する相談」
事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 10 回「不登校に関する相談」
事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」
事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談」
事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 14 回「外部機関との連携」
事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
小テスト（30 %）、課題および期末レポート（60 %）、平常点（10 %）とする。小テスト、課題、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

山上　真貴子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 提出された最終課題については、最終授業、または、「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 3 回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 4 回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？―困りごとはいきなり消えてはくれない。
第 5 回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第 6 回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第 7 回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第 8 回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第 9 回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第 10 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第 11 回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をする人？
第 12 回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。
第 13 回	外部機関との連携	どんな機関と、どう連携すれば良いか、事例を用いて考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、事前に授業支援システムにアップした資料を使用する。初回はこちらで印刷・配布するが、原則として第 2 回以降は各自印刷して持参するようにして下さい。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
試験（40 %）、レポート（30 %）、積極的参加（30 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や間相当を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業中にフィードバックを行います。
昨年度に引き続き、なかなか先の読めない状況ですが、状況に応じて対応していきたいと思いますので、困ったことなどあれば適宜ご相談下さい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップしますので、必ず事前に印刷してきて下さい。また、今後学習支援システム経由でお知らせ発信をする可能性もありますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

遠藤　裕子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。
オンデマンド教材（動画、資料）の提供を行います。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
1.【教育相談の意義及び理論】(第 1 回〜第 4 回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第 5 回〜第 6 回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第 7 回〜第 14 回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
「教育相談の理論と方法」　会沢信彦編著　北樹出版
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出をもって出席とします。リアクションペーパーへの記載内容、まとめのレポートを採点したものを総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋　弥生

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。授業の中で適宜、課題解決型の学習を取り入れます。また、小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テストやレポート等、課題に対する講評や解説も行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 1 回「ガイダンス」
事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第 2 回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 3 回「青年期の発達」
事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 4 回「成人期の発達」
事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 5 回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第 6 回「カウンセリングの技法」
事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第 7 回「教育相談の進め方」
事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第 8 回「非行に関する相談」
事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 9 回「いじめに関する相談」
事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 10 回「不登校に関する相談」

事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」
事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談」
事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 14 回「外部機関との連携」
事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
小テスト（30 %）、課題および期末レポート（60 %）、平常点（10 %）とする。小テスト、課題、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

田澤　実

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、リアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第 3 回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第 4 回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第 5 回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第 6 回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第 7 回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第 9 回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第 10 回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第 11 回	性格の理解	乳幼児期から青年期の各時期における個人差
第 12 回	性格の様々な測定方法	個人差の測定方法
第 13 回	発達障害の理解	３つの発達障害の具体的特徴および歴史的背景
第 14 回	発達障害の支援・指導	３つの発達障害の具体的特徴を踏まえた学習支援と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムにアップロードする。各自で印刷して持参する。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当せず。一昨年度の授業の感想や試験結果を踏まえ、授業で扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

輕部　雄輝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，子どもの健全な成長と発達，および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には，下記に関するトピックについて扱う。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で以下の４つのトピックを扱う。
1.【発達】：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程についての知識（第 2 回〜第 5 回）
2.【学習】幼児、児童及び生徒の学習の過程や発達を踏まえた学習を支える指導（第 6 回〜第 10 回）
3.【パーソナリティ】：幼児、児童及び生徒の特徴を理解するときの視点（第 11 回〜第 12 回）
4.【臨床】特別な教育的ニーズをもつ子どもへの援助（第 13 回〜14 回）
なお、各回の授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育場面における発達を理解することの意義を取り上げ、理解する。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児期から青年期における対人関係の発達と課題について理解する。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を中心として、乳幼児期から青年期における認知発達を理解する。
第 5 回	アイデンティティ	乳幼児期から青年期の各時期における発達課題と，アイデンティティとの関連について紹介する。
第 6 回	学習の理論	幼児、児童及び生徒の学習の過程を扱う。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第 7 回	学習の指導	学習指導・生徒指導のあり方を理解する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第 9 回	学習の評価	学習評価・教育評価のあり方を理解する。
第 10 回	記憶の種類	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第 11 回	性格の理解	パーソナリティ研究の観点から、幼児、児童及び生徒の特徴を理解する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	性格テストを体験する。心理学的な測定として、質問紙法、作業検査法、投影法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてその特徴を紹介する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）　2012　『実践につながる教育心理学』　北樹出版
櫻井茂男（編）　2017　『改訂版たのしく学べる最新教育学―教職に関わるすべての人に―心理学』　図書文化
吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著）　2010　『はじめて学ぶ教育心理学』　ミネルヴァ書房
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ，受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを利用する。
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して，本授業では理論のみならず，可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children，learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

児玉　茉奈美

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし，次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介する
第 2 回	発達理論	ピアジェやフロイト，エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第 3 回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第 4 回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する。
第 5 回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第 6 回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第 7 回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第 8 回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて，どのように学習評価の観点や時期，評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	学級集団	教師と子どもや，子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第 11 回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第 12 回	発達障がいの理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第 13 回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第 14 回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校や LGBTQ の特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，参考書該当箇所を一読し，配布資料の穴埋めをする。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第 5 版〕　有斐閣（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018) 実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）
児玉佳一（編）（2020）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学　学文社（2300 円）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50 %，リアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業で，配布資料を掲示したままにしてほしいとの要望があったため，学期末まで掲示したままとする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

山上　真貴子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 提出された最終課題については、最終授業、または、「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第 2 回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第 3 回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第 4 回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第 5 回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第 6 回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第 7 回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第 8 回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第 9 回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第 10 回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第 11 回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第 12 回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第 13 回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに出題されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムに事前に授業資料をアップします。初回はこちらで印刷・配布しますが、2 回目以降は原則として、各自印刷して授業にご持参下さい。

【参考書】
鎌原雅彦ら 2019『やさしい教育心理学 第 5 版』有斐閣アルマ
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。
昨年度に引き続き、なかなか先の読めない状況ですが、状況に応じて対応していきたいと思いますので、困ったことなどあれば適宜ご相談下さい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップします。各自、事前に忘れず印刷して持参してください。また、今後学習支援システム経由でお知らせ発信をする可能性もありますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

遠藤　裕子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：土・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。
講義の他、文献講読、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学ぶことができるようにします。
オンデマンド教材（動画、資料）の提供を行います。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第 9 回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第 10 回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第 11 回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第 12 回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣 2100 円＋税
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出をもって出席とします。リアクションペーパーへの記載内容、まとめのレポートを採点したものを総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

児玉　茉奈美

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（資料配布型）。毎回リアクションペーパーの提出を課題とし，次の授業までにフィードバック資料を授業資料のひとつとして掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介する
第 2 回	発達理論	ピアジェやフロイト，エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第 3 回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第 4 回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する。
第 5 回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第 6 回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第 7 回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第 8 回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて，どのように学習評価の観点や時期，評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	学級集団	教師と子どもや，子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第 11 回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第 12 回	発達障がいの理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第 13 回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第 14 回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校や LGBTQ の特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，参考書該当箇所を一読し，配布資料の穴埋めをする。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
児玉佳一（編著）(2019) やさしく学ぶ教職課程：教育心理学　学文社（2300 円＋税）
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第 5 版〕　有斐閣（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018) 実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50 %，リアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業にて，配布資料を掲示したままにしてほしいとの要望があったため，学期末まで掲示することとする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

EDU200MA

学校論Ⅰ（キャリア形成）　展開科目

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の場としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

【到達目標】
キャリアを形成する場、仕事の場としての学校についての基礎的な知識を得るとともに、自分自身の学校体験を振り返るとともに、理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は Zoom で行い、学習支援システムを活用する。学校というものをキャリア形成の場及び仕事の場という 2 つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や動画などをもとに、グループで意見交換するとともに、テーマの内容について講義を行う。また、学校と私についての発表レジュメ、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。授業のなかで課題についての記述をいくつか取り上げフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの場としての学校
3	ライフコースと学校⑴就学前	就学前の学校・施設での学びとは
4	ライフコースと学校⑵小学校	小学校での学びとは
5	ライフコースと学校⑶中学校	中学校での学びとは
6	ライフコースと学校⑷高等学校	高等学校での学びとは
7	学校と私	学びの履歴
8	理想の学校を構想する	枠組みと構想
9	特別なニーズと学校⑴多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
10	特別なニーズと学校⑵グローバル化	グローバル化と学校
11	特別なニーズと学校⑶不登校	不登校とフリースクール
12	特別なニーズと学校⑷問題行動	問題行動と学校
13	理想の学校を提案する	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、担当のテーマについて調べ、課題に答えたり、レポートを執筆したりする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】
文部科学省「学習指導要領」。
苅谷恒彦『学校って何だろう－教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加の姿勢（30 %）、課題（50 %）、テスト（20 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の構成や進め方について工夫する。

【Outline and objectives】
What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

EDU200MA

学校論Ⅱ（キャリア形成）　展開科目

大塚　類

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】
学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
感染症の蔓延状況にもよりますが、Zoom でのライブ型配信と、その授業を録画したオンデマンド型配信（学習支援システムで URL 掲示）を組み合わせて実施します。
なお授業内容については、受講生のニーズ等に合わせてシラバスから変更がありますので、ご了解ください。
本授業では基本的に毎回、講義（80 分程度）とグループでのディスカッション（20 分程度）を実施します。論理的な知識の習得をしたうえで、具体的な分析をおこない、学術的な知見が、現実の具体的な学校現場を理解するうえでどのように有用なのかを理解することを目指します。
授業後には毎回、オンラインリアクションペーパーを書き、その時間ごとに何を理解したのかを表現します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。
最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方についての説明
2	学校と他者のまなざし	視線触発という概念を導入し、学校における共同生活の中で他者のまなざしに苦痛を感じるひとの事例を取り上げて考えます。
3	学校における非行	講義者が体験した小学校における非行事例を紹介し、非行の背景にある子どもたちの思いについて考えます。
4	学校と虐待	学校で虐待を見つけ、対処する難しさについて事例と共に考えます。
5	無敵の人を生み出す学校	無敵の人という概念を導入し、目立たない子どもたち・声を挙げられない子どもたちへのケアについて事例に基づき考えます。
6	学校と場面緘黙	場面緘黙について事例と共に考えます。
7	スクールカウンセラーと不登校	不登校について、スクールカウンセラーの語りと共に考えます
8	不登校サバイバーの語り	学齢期における不登校を乗り越えて大学生になったひとたちの語りに基づき、不登校について改めて考えます。
9	児童養護施設の子どもたちにとっての学校	児童養護施設について学んだうえで、そこで暮らす子どもたちにとっての学校について事例に基づき考えます。
10	先生の多忙さ	先生の多忙さという問題について実際の事例に基づき考えます。
11	保護者にとっての学校	学校に関する保護者の語りを手がかりとして、学校と保護者との関係について考えます。
12	優等生の生きづらさ	優等生であることを自覚している人の語りを手がかりに、それぞれの立場での生きづらさがあることに目を向けます。
13	過保護に育てられる生きづらさ	過保護な家庭で育つことがキャリア形成にもたらす負の実態を事例をもとに読み解きます。
14	本講義のまとめ	本講義全体についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として事例を読んできてもらうことがあります。その場合は事前に掲示します。
授業後にオンラインリアクションペーパーを書いてもらうので、毎回の授業の復習も兼ねて取り組んでください。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
大塚類・遠藤野ゆり共編著（2014）『エピソード教育臨床　生きづらさを描く』創元社
その他は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
オンラインリアクションペーパー 50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて授業の内容等は若干の調整をおこないます。

【Outline and objectives】
As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

EDU200MA

学校論Ⅲ（キャリア教育）　展開科目

児美川　孝一郎

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】
① キャリア教育とはなにか，その教育方法はいかにあるべきか，なぜキャリア教育が必要なのか等について，基本的な概念や考え方を理解する。
② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について，基本的な事実，データ，社会的背景等を知るとともに，現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
※　2021 年度の本授業は，学習支援システムを活用した資料配信を軸にしながら，Zoom によるリアルタイム・オンライン授業を補佐的に組み合わせて実施する。
講義形式の授業であるが，可能な範囲で，受講者からの質疑や意見を求めたり，小課題の提出を求めたりする。
諸外国におけるキャリア教育の展開について，比較研究的な視点を持つことは重要であるが，本授業の対象は，主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については，日本との対比において参考になる点を示唆するにとどめる。
本授業の守備範囲は，日本におけるキャリア教育の歴史，理論，政策，学校レベルにおける施策である。
提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに，基本概念である「キャリア教育」について，本講義における共通理解の前提を確かめる。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し，職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま，なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって，権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し，それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして，1990 年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして，政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し，その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて，現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について，現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について，現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて，学校の事例等も示しつつ，考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について，現状と課題を考察する。
13	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について，いくつかの事例を踏まえて，考察する。
14	これからのキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ，日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し，今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業内容については，前回授業時に予告されるので，自分なりの問題関心を深め，事前に資料・データ等を調べたうえで，授業にのぞむこと。
それぞれの授業時に紹介される参考文献については，自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
授業時にも，随時，紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）
学期末試験またはレポート提出（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者に対するフィードバックを大切して授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
この授業は，情報の読解・分析力，課題発見・解決力の養成につながる諸課題を，授業運営の中に組み込んでおり，広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline and objectives】
This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

EDU200MA

学校論Ⅳ（キャリア教育）　展開科目

寺崎　里水

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校と社会の関係について教育社会学的な観点から学び、キャリアの多様性と今日的課題について考える。具体的には、学校教育やキャリアに関する今日の社会事象を、先行研究がどのように「問題」として設定し、議論をしてきたのかについて学ぶ。

【到達目標】
①適切な官公庁統計を探し、内容を理解して利用することができる。
②社会事象に対してどのように「問い」が立てられているのか、その立場の違いを理解できる。
③他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。
④これらの具体的なスキルを通して、学校に主眼を置きながら、社会的な条件によってキャリア形成やキャリア教育の課題が多様であることを理解し、よかれと思ってしていることが、意図せざる結果をうむ可能性があることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面講義とグループワークを用いる。グループワークへの参加は単位取得のための必須条件とする。そのうえでグループごとにレポートを提出する。
グループワークに対するフィードバックは、優れた成果を次の講義の冒頭で紹介する形で行う。最終レポートは中間報告時にフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第 2 回	社会構造と私たち	「自分の考え」が社会や大人の受け売りになっている可能性に気づき、自分が当たり前だと思っていることを問い直すきっかけをつかもう。
第 3 回	教育と労働力	「規律正しい、訓練された、質のよい労働者」を育てるための学校教育、という目で学校を見てみよう。
第 4 回	グループワーク： 100 人の中卒者	官公庁統計データを使って自分自身のキャリアを振り返るグループワーク。
第 5 回	教育格差	地位達成ゲームの今日的状況を読み解こう。
第 6 回	都会と地方	地方にとどまる若者たちをきっかけに、トラッキングについて考える。
第 7 回	グループワーク：教育機会の格差とキャリア形成	官公庁統計をもとに教育機会やキャリア形成の格差について考えるグループワーク。
第 8 回	キャリアイメージの男女差	「男らしい」子育てと女性のフルタイム就労との関係を見てみよう。
第 9 回	学校内部メカニズム	学校のなかの隠れたカリキュラムと進路分化について考える。
第 10 回	グループワーク：男の子の国と女の子の国	子供の頃から見てきた「成功の物語」と現実のギャップを鋭くえぐろう。
第 11 回	小括	グループワークで出てきた論点を整理し、期末レポート執筆課題をみつける。
第 12 回	グループワーク①今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える。	グループごとの作業
第 13 回	グループワーク②今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える（続）	グループごとの作業の途中経過発表
第 14 回	発表とまとめ	グループワークの成果についてグループごとにレポートをまとめ、提出する。全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワーク課題に取り組むためには、一定の授業時間外の予習が必要である。事前に指定された準備をしてこないとグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。グループワークのフィードバックについて、次の授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
グループワーク 3 回 60 %、最終グループレポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
自分のすぐ隣にいるかもしれない「普通」の人が抱えているキャリア形成上の大きな問題について理解してください。

【学生が準備すべき機器他】
初回授業時に授業の進め方について詳しい説明をするので必ず参加してください。

【Outline and objectives】
In this class we are going to learn about the relationship between school and society from the viewpoint of educational sociology and to consider the diversity of today's issues and careers.

EDU200MA

生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）

展開科目

久井　英輔

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(授業の概要)
社会教育の場における様々な学習者の特性や、それらの学習活動を支援する手法の基本的な考え方について解説する。
(授業の目的・意義)
多様な学習者の特性に関する議論や学習者への支援手法について、これらを単に手段的な知識として理解するだけでなく、その社会的・歴史的背景をふまえることにより、社会教育における学習支援のあり方を深く理解する。

【到達目標】
社会教育における学習者の特性に関する基本的な理論、学習支援の手法に関する基本的な手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。必要に応じて、コメントシート提出に代え、重要な論点に関するグループ・ディスカッションと全体での議論の共有などを行う場合もある。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習・社会教育における多様な学習者	学校教育と比較したときの生涯学習・社会教育における学習者の多様性について概観する。
第 2 回	自己教育、相互教育の思想と方法①	学習者の自発性と相互性を重視した戦前期日本の先駆的な理念・実践について解説する。
第 3 回	自己教育、相互教育の思想と方法②	初期公民館構想（寺中構想）や共同学習論など、学習者の自発性と相互性を重視した戦後日本の主要な理念・実践について解説した上で、そこに見られる学習支援の考え方について理解を深める。
第 4 回	成人学習論の展開①	M. ノールズの提唱したアンドラゴジー、自己主導的学習など、成人学習論の基礎的な知見とそれらの社会的・歴史的背景について解説する。
第 5 回	成人学習論の展開②	J. メジローの変容的学習理論など、ノールズ以後の成人学習論の展開とその意義について解説した上で、成人学習論の実践的意義について理解を深める。
第 6 回	高齢者への学習支援①	学習者としての高齢者の特性や、高齢者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。
第 7 回	高齢者への学習支援②	高齢者を対象とした学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第 8 回	子ども・若者への学習支援①	社会教育における学習者としての子ども・若者の特性や、子ども・若者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。
第 9 回	子ども・若者への学習支援②	高齢者を対象とした社会教育の学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第 10 回	生涯発達論の展開	R. ハヴィガースト、E. エリクソン、D. レヴィンソンら、生涯にわたる発達を視野に入れた代表的な議論について解説する。
第 11 回	特別な支援を要する学習者への視点①	学習活動への参加に対して、障害など様々な理由から困難を抱える学習者の状況や、社会教育における「合理的配慮」のあり方について解説する。
第 12 回	特別な支援を要する学習者への視点②	社会教育施設や学習プログラムにおける「合理的配慮」の事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第 13 回	オンラインによる学習支援の現在	COVID-19 対策として現在各地の社会教育現場で取り組まれている、オンラインの学習支援の取り組みの意義と課題について解説する。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基にグループ・ディスカッション等の形を用いて、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業の前に教科書の関連箇所を予め読んでおくこと。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所、コメントシートに対する教員のリプライの内容を確認すること。
・最終レポートの課題を意識しつつ、これらの予復習を行うこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020 年

【参考書】
髙井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019 年

【成績評価の方法と基準】
コメントシート　25 %
ディスカッションへの貢献度　25 %
最終レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】
This course provides students with knowledge and viewpoints on characteristics of various learners and methods for supporting learners in social education.

This course aims to deepen students' understanding of various types of learners and basic methods for supporting their learning activities so as to understand these topics not only as instrumental knowledge, but also from the viewpoint of their social and historical context.

EDU200MA

生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ） 展開科目

朝岡　幸彦

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・生涯学習における学習支援は、公的社会教育に代表される専門職資格制度と社会教育施設の枠組みに依拠するとともに、社会に広く存在する学習機会においても重要な役割を果たしている。この授業では、社会教育関連法等に規定された代表的な社会教育専門職制度と社会教育施設の役割を学ぶとともに、地域づくりや社会問題解決の枠組みの中で実践されている学習支援のあり方について検討する。
主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】
社会教育・生涯学習における学習支援の本質と意義を理解し、社会教育・生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。
毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学習支援とは何か	社会教育・生涯学習における学習支援は、学校等の定型教育とどのような違いがあるのかについて考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令における学習支援の仕組み	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令における専門職制度や社会教育施設の役割について理解する。
第 3 回	社会教育主事制度	社会教育法に規定された社会教育主事資格について学ぶ。
第 4 回	公民館と主事	公民館の特徴と公民館主事等の専門職の役割について学ぶ。
第 5 回	図書館と司書	図書館の特徴と専門職としての司書の役割について学ぶ。
第 6 回	博物館と学芸員	博物館の定義と役割の変化について学ぶ。
第 7 回	学校一斉休校は正しかったのか？	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）での教育政策のあり方を通して学習支援について考える。
第 8 回	学校と教育委員会	COVID-19 での学校と教育委員会の対応を通して学習支援について考える。
第 9 回	公民館・社会教育施設	COVID-19 での公民館・社会教育施設の対応を通して学習支援について考える。
第 10 回	図書館	COVID-19 での図書館の対応を通して学習支援について考える。
第 11 回	博物館・美術館・動物園・水族館	COVID-19 での博物館・美術館・動物園・水族館の対応を通して学習支援について考える。
第 12 回	屋外教育施設・自然学校	COVID-19 での屋外教育施設・自然学校の対応を通して学習支援について考える。
第 13 回	生涯学習社会を生みだす力	新型コロナウイルス感染症(COVID-19) に職員はどう向き合ったのか、どのように対応すべきなのかについて考える。
第 14 回	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
水谷哲也・朝岡幸彦編著『感染症と教育』筑波書房　2021 年（5 月刊行）

【参考書】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所　2017 年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】
Learning support in social education/lifelong education plays significant role in the context of providing various learning opportunities. It relies on the system of professional qualification ran by the public social education and relies on the framework of social education institution. In this class, participants will learn the representative system of professional qualification prescribed to social education-related laws and will learn the role of social education institution. Participants will also discuss the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

EDU200MA
生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）
展開科目

久井　英輔

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育における実践的な学習支援技法、学習プログラムの作成手法について解説し、学んだ知識を活用した学習プログラム案作成のグループワークを行う。
（授業の目的・意義）
グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは支援者にもとめられる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】
社会教育における様々な学習支援技法（ワークショップ、ファシリテーションの技法など）や、それらの技法を利用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初の数回は、基本的な学習支援技法、学習プログラム作成の基本的な手法に関する講義を行う。その上で、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークによって学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成していく。作成した学習プログラム案については、教員からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの課題に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して、及び、メールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な学習支援技法①	社会教育の学習プログラムにおけるグループワークで用いられる諸技法について解説する。
第 2 回	多様な学習支援技法②	社会教育の学習プログラムにおいて用いられるファシリテーションの基本的な考え方について解説する。
第 3 回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第 4 回	学習プログラム作成の基本的な手法②	学習プログラム案作成にあたって必要な、地域社会の特性・課題把握の方法について解説する。
第 5 回	学習プログラム作成の基本的な手法③	学習プログラムの広報、および、受講者アンケート実施に必要な基本的事項について解説する。
第 6 回	社会教育の現場における学習プログラム①	公民館または生涯学習センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。

第 7 回	社会教育の現場における学習プログラム②	青少年教育施設または男女共同参画センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。
第 8 回	地域課題の把握①	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について把握する。
第 9 回	地域課題の把握②	前回の個人ワークの成果を基に、グループワークによって学習プログラムを作成する際に前提とする地域を選定し、地域課題に関する考察を深める。
第 10 回	学習プログラム案の作成①	学習プログラムの目的・概要、事業評価の方法をグループワークで作成する。
第 11 回	学習プログラム案の作成②	学習プログラムの各回実施内容の詳細を、グループワークで作成する。
第 12 回	学習プログラム案の作成③	学習プログラムにおいて実施する受講者アンケート案を、グループワークで作成する。
第 13 回	学習プログラム案の作成④	学習プログラムの内容に対応した広報案を、グループワークで作成する。
第 14 回	学習プログラム案の発表と検討	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表し、ディスカッションをとおして、改善すべき点を把握する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020 年

【参考書】
髙井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019 年

【成績評価の方法と基準】
地域課題把握に関する個人レポート　25 %
学習プログラム案の発表　25 %
グループワーク、ディスカッションへの貢献度　25 %
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート）　25 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline and objectives】
This course provides students with knowledge on practical methods for supporting learners and for planning learning programs in social education. Addition to this, this course supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.

This course aims to help students acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.

EDU200MA

生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）

展開科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に理解するために、「湿地」というフィールドを設定し、そこにおける湿地教育のあり方から学習支援の方法や課題を学ぶ。学習支援が持つ広がりと専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】
社会教育・生涯学習における学習支援の具体像を、フィールドの特性や地域・市民との関わりの中で理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に考えるために、それぞれの課題に即して調査し、実際の学習支援のあり方について理解を深める。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「社会に埋め込まれた学習」と社会教育・生涯学習	社会教育・生涯学習における「学習」の特質を考える。
2	SDGs と「湿地」というフィールドの意味	「湿地」というフィールドが SDGs においてどのような意味をもつのかを考える。
3	「湿地教育」という概念について	「湿地教育」という概念について、教育学的な意味を考える。
4	水のつながりに生きる学び	「水」をとおしてどのような学びが成立し、そこにどのような「つながり」が生まれるのかを考える。
5	CEPA における体験学習の役割	湿地の保全・活用における CEPA の意義を検討することを通して、体験学習の意味と支援について考える。
6	学校教育における海洋教育の展開	学校における海洋教育の実践を通して、学校教育における学習支援の方法について考える。
7	「海洋教育」という物語	気仙沼市を事例に、「海と生きる」ことの意味を問う学びについて考える。
8	タンチョウ保護と共生のための湿地教育	釧路湿原におけるタンチョウの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
9	ツルに関わる環境教育・活動の意義	出水市におけるナベヅル、マナヅルの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
10	地域づくりと「湿地の文化」教育	「湿地の文化」という視点から地域づくり学習と学習支援のあり方について考える。
11	エコロジストが考える地域の人づくり	エコロジーと地域づくりという視点から、人材養成のあり方を考える。
12	「湿地」をめぐる多様な学習と学習支援	「湿地」というフィールドに存在する多様な学習のあり方を通して、その学習支援の意味について考える。
13	学習支援の「現場」について	社会教育・生涯学習において学習を支援する仕事において、「現場」（フィールド）がもつ意味について考える。
14	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
朝岡幸彦・笹川孝一・日置光久編著『湿地教育・海洋教育』筑波書房　2019 年

【参考書】
随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
テキスト等からの課題レポート（ワークシート）　80 %
平常点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業のアンケートをもとに改善する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他】
授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline and objectives】
To make concrete and profound understanding of learning support, we will place “wetland” as a field to learn the method and problems of learning support. The course’s aim is to understand the expertness and extension of learning support.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅰ

展開科目

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】
図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。
市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。
授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム（HULiC）を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループデスカッションなども取り入れる。
毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
メディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	日本の図書館の歴史	古代～現代
11	世界の図書館の歴史 ①	古代～中世
12	世界の図書館の歴史②	近世～現代
	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
13	図書館の類縁機関・関係団体	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等
	図書館の課題と展望	図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
塩見昇　編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】
高山正也、岸田和明　編集、『図書館概論』樹村房、2017 (現代図書館情報学シリーズ)ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認アンケートクイズ（30 %）、図書館ガイダンスのレポート（20 %）、筆記試験（50 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、しゃべる内容を精査したい。

【その他の重要事項】
本授業では、50 人収容の情報実習室で行われる。50 人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2 回目以降の受講は認めない。
最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline and objectives】
As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

FRI200MA

図書館情報学概論 I

展開科目

原田　隆史

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用，およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】
1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して，基本的な考え方・知識・技法，社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が，図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか，その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館・情報学とは何かについて，さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し，続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は，単に図書を集め，保存し，提供するという役割だけではなく，様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また，ネットワーク時代の図書館サービスも含め，実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。
授業に対するフィードバックとしては，授業後に受講者からのコメント・質問などを集め，次の授業時に提出されたリコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディアの歴史	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史について述べます
3	図書館の種類	図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
4	図書館の諸機能 (1)	間接サービス，テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
5	図書館の諸機能 (2)	直接サービス，レファレンスサービスについて説明していきます
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規 (図書館法，著作権法など) について簡単に解説します
7	図書館行政・図書館政策・図書館の管理と経営	図書館行政や図書館政策などについて説明します。 また図書館経営について考えるとともに，図書館業務の評価についても述べます
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに，図書館と出版流通の関係についても解説します
10	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに，図書館での資料の保存についても解説します
11	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス，ヤングアダルトサービスについて解説します
12	情報検索 (1)	情報検索の基本的な考え方について説明します
13	情報検索 (2)	情報検索の手法などについて例示を含めて説明するとともに，情報検索システムについても述べます
14	図書館の将来展望と課題	図書館の将来展望と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を実際に使用したり，情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
逸村裕 (ほか) 編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

【参考書】
日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」 第 3 版 (丸善) など (必須ではありませんが，専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法については，後日，皆さんの履修状況を見てから決定いたしますが，現時点では以下の予定です。
・授業への参画：20% Zoom での授業時にはマイクとビデオをオンにしていただく予定です。その時の状況を評価したいと思います。
・レポート：80%　4〜5 回のレポートを課す予定です。

【学生の意見等からの気づき】
授業ページとの対応を充実させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業から zoom で行います。zoom 授業については原則としてビデオ ON で受講していただきます。
zoom へのアクセス方法は，「学習支援システム」に掲示していますので見てください。

【Outline and objectives】
Basic knowledge on library and information science

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹　一信

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。
コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】
図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目は図書館情報技術論の内容を多く含む関係で、コンピュータ教室にて授業を行う予定です (COVID-19 の感染状況によっては変更もあり得ます)
コンピューター、インターネットを使用しながら、講義と演習、実習を組み合わせて行います。その為、単に出席するだけでは意味がなく、演習に取り組むことに意義があります。
授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
また授業ごとに課題を提示します。課題については、〆切後の授業において、解答例を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能　―ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについえ（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルＤＢなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】
田中均著. 図書館情報技術論　青土社, 2019.　ISBN 9784787200709

【成績評価の方法と基準】
平常点 15 %　小課題 35%　期末試験　50 %

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナウイルスの影響により、特記事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】
司書課程の学習支援システム Hulic にて授業は進めます。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。
情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業はリアルタイムのオンライン授業です。
授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。
但し上記はあくまでも対面授業が実施できる場合の前提条件です。感染状況により変更が生じた場合は、別途周知します。

【Outline and objectives】
In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.
In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

原田　隆史

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術 (図書館システム，Web ページを用いた情報発信など)
3. データの管理を中心とした技術 (データベース管理システム，デジタルアーカイブなど)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し，取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に，どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館をとりまく多様な情報環境，各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず，コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後，図書館システムやデータベース管理システム，WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。
　授業に対するフィードバックとしては，授業後に受講者からのコメント・質問などを集め，次の授業時に提出されたリコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML，CSS, XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバリーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版，電子書籍	電子書籍について学ぶとともに，さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに，セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉本重雄編著. 図書館情報技術論 (現代図書館情報学シリーズ 3). 2014, 224p. ISBN: 978-4883672035

【参考書】
特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点　20%
　授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが，授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。Zoom での授業の場合は原則としてビデオとマイクをオンにしていただきます。
レポート　40%
　4〜5 回のレポートを課す予定ですが，レポートを行わない可能性もあります。その場合には期末試験 80% とします。
期末試験　40%
　COVIS-19 などの影響により期末試験を行わない場合は，全てレポートとします。その場合にはレポート 80%とします。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスとの対応の充実

【その他の重要事項】
授業は現時点では zoom で行う予定ですが，COVID-19 の状況などによっては対面での授業も併用するなどの手段で行う可能性があります。開講時期が近くなった時点であらためて確認してください。
なお，zoom で授業する場合，原則としてビデオは ON としていただきます。

【Outline and objectives】
1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

菅原　真悟

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。
1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について講義を行い、必要に応じて演習を行う。毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板上でも個々にフィードバックする。
・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの歴史。
第 4 回	ウェブ OPAC	ウェブ OPAC を用いた演習。
第 5 回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第 6 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 7 回	AI 時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第 8 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第 9 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 10 回	電子図書館 (2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第 11 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 12 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 13 回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第 14 回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。
http://lc.i.hosei.ac.jp/
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】
講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む） 30%
課題（授業中に課題を数回出す予定） 40%
期末レポート 30%
課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】
演習やグループ学習の時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
1. Computer and network
2. Technology related to libraries
3. Database
4. Network security
5. Information Technology and Society

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹　一信

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。
コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】
図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目は図書館情報技術論の内容を多く含む関係で、コンピュータ教室にて授業を行う予定です (COVID-19 の感染状況によっては変更もあり得ます)
コンピューター、インターネットを使用しながら、講義と演習、実習を組み合わせて行います。その為、単に出席するだけでは意味がなく、演習に取り組むことに意義があります。
授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
また授業ごとに課題を提示します。課題については、〆切後の授業において、解答例を示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能　―ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについえ（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルＤＢなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】
田中均著. 図書館情報技術論　青土社, 2019.　ISBN 9784787200709

【成績評価の方法と基準】
平常点 15 %　小課題 35%　期末試験　50 %

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナウイルスの影響により、特記事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】
司書課程の学習支援システム Hulic にて授業は進めます。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。
情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。
授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。
但し上記はあくまでも対面授業が実施できる場合の前提条件です。感染状況により変更が生じた場合は、別途周知します。

【Outline and objectives】
In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.
In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

EDU200MA

メディア教育論Ⅰ

展開科目

村上　郷子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】
多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における４つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。
グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
シティズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。
アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、 私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILE とシティズンシップ①	メディアの機能と多様性 (メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他)
4	MILE とシティズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会 (言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制)
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値 (なにがニュースになるのか)
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力 (ビジュアルの力)
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②	グループごとに多様性、シティズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
11	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
12	研究発表①　多様性	多様性に関するテーマのメディア分析 グループ発表 (1)、全体討論、振り返り
13	研究発表②　若者とシチズンシップ	若者とシティズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (2)、全体討論、振り返り
14	研究発表③　プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (3)、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人の課題（分析）提出物（30 %）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（20 %）、個人レポート（50 %）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループ学習でのコミュニケーションツールとして、CQ コモンズのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINE の活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ (メディアと教育Ⅱ)」をセットで履修することが望ましい。
本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。
最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。
最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。
状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】
Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that are based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debates in a group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.

EDU200MA

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】
デジタルストーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における４つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際を学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3 回目の授業でアンケート調査を行う。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス 、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情報的テクストのなかのコードときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告② グループ分けを決める	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA) とはなにか (分析と企画)
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動 (絵コンテ、ストーリー展開)
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）
11	課題発表①	課題のグループ発表 (1)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）
12	課題発表②	課題のグループ発表 (2)、全体討論
13	課題発表③	課題のグループ発表 (3)、全体討論
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
　パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）(30 %)、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業への参加・出席（30 %)、個人レポート（40 %）によって総合的に評価する。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30 %)」の部分は０とする。正当な理由があるため４回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで５回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として０とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
　全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (CQ Commons) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、０になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。
　本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。
　最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。
　最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。
　状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】
Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.　Producing DST videos through group activities, students acquire the frame of “5Cs” in media and information literacy such as critical thinking, creation, communication, collaboration and global citizenship.

EDU200MA
【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅡ
EDU200MA
【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅡ
展開科目

福畠　真治

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとでの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。
・本授業は、基本的には（1）対面授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく。「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行う。 また、内容によっては、さらなる議論につなげる。
・課題等の提出に関しては、「学習支援システム」を通じて行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	学校が抱える問題	教員の多忙化など、学校経営に関わる諸問題についての説明
第 3 回	世界から見た日本の教育	国際調査結果を概観した上での、日本と諸外国の教育制度比較
第 4 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 5 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック
第 6 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シューレ
第 7 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 8 回	事例調査	教育に関するアクターの中で、特徴的な取り組みや組織運営をしている事例を取り上げ、議論する
第 9 回	調査手法に関して	質的調査を中心に、調査の計画・実行のプロセスの説明
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	発想法	「良い問い」を生み出すための様々な手法の紹介とその実践
第 13 回	レポートについての途中経過報告	レポートの進捗に関しての個人発表と、それに関する議論
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表 (40 %)、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・配布した資料を基に、口頭でその説明を行っていく形式が多かったが、より理解しやすくなるよう、スライドや映像資料を積極的に用いながら授業展開していくことを心掛ける。
・どの回においても、適度にグループワークを挟みながら進めており、学生からもおおむね好評であったため、ワークの内容を細かく変えながら、今後も続けていく。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【Outline and objectives】
You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character ?”.

EDU200MA

【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅡ

展開科目

EDU200MA

【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅡ

福畠　真治

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとでの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。
・本授業は、基本的には（1）対面授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく。「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行う。 また、内容によっては、さらなる議論につなげる。
・課題等の提出に関しては、「学習支援システム」を通じて行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	学校が抱える問題	教員の多忙化など、学校経営に関わる諸問題についての説明
第 3 回	世界から見た日本の教育	国際調査結果を概観した上での、日本と諸外国の教育制度比較
第 4 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 5 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック
第 6 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シューレ
第 7 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 8 回	事例調査	教育に関するアクターの中で、特徴的な取り組みや組織運営をしている事例を取り上げ、議論する
第 9 回	調査手法に関して	質的調査を中心に、調査の計画・実行のプロセスの説明
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	発想法	「良い問い」を生み出すための様々な手法の紹介とその実践
第 13 回	レポートについての途中経過報告	レポートの進捗に関しての個人発表と、それに関する議論
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表 (40 %)、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・配布した資料を基に、口頭でその説明を行っていく形式が多かったが、より理解しやすくなるよう、スライドや映像資料を積極的に用いながら授業展開していくことを心掛ける。
・どの回においても、適度にグループワークを挟みながら進めており、学生からもおおむね好評であったため、ワークの内容を細かく変えながら、今後も続けていく。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【Outline and objectives】
You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character ?”.

EDU200MA

教育政策

展開科目

村上　純一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】
以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。
1）今日の教育政策における課題・問題点
2）公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
3）個々人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業はオンデマンドでのオンライン講義形式で行います。学習支援システムを活用した質疑応答なども取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通した理解の深化も図っていきます。各回の授業においていただいたご質問は翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第 2 回	キャリア教育政策①（進路指導改革としてのキャリア教育政策）	キャリア教育政策草創期の「進路指導改革としてのキャリア教育政策」を概観する。
第 3 回	キャリア教育政策②（職業的・社会的自立のためのキャリア教育政策）	主として 2000 年代以降のキャリア教育政策を、「若者の職業的・社会的自立」の観点から概観する。
第 4 回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第 5 回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第 6 回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第 7 回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第 8 回	今日のカリキュラム改革	最新の学習指導要領改訂や道徳の「特別の教科」化など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を理解する。
第 9 回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第 10 回	いじめ問題に関する政策	「いじめ防止対策推進法」など、いじめ問題をめぐる政策の動向を理解する。
第 11 回	不登校・「子どもの貧困」をめぐる政策	不登校や「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を理解する。
第 12 回	学校の「働き方改革」	教員の過酷な勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第 13 回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第 14 回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1 冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。各回、スライド資料を配布します。

【参考書】
資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと学期末レポート、2 つのレポート課題を綜合して行います。比率は中間レポート 40 %、期末レポート 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業アンケートでは、授業動画の音量が小さかったり、時々早口になって聞きとりにくかったりすることがあったというご感想をいただきました。受講生にとって理解しやすいスピード・ボリュームでの授業を心掛けていきたいと思います。

【Outline and objectives】
It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education.
Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

EDU200MA

現代教育思想

展開科目

岩本　俊一

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】
一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに　－本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	序論 －教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第 3 回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第 4 回	現代社会における教育の諸問題 (1) －「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第 5 回	現代社会における教育の諸問題 (2) －公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第 6 回	現代社会における教育の諸問題 (3) －「特別の教科　道徳」の問題	上記５を踏まえ、「特別の教科　道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第 7 回	現代社会における教育の諸問題 (4) －教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題－日本における教員養成政策の変質について論じる。
第 8 回	教育におけるヒューマニズムの探究 (1) －近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第 9 回	教育におけるヒューマニズムの探究 (2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第 10 回	教育におけるヒューマニズムの探究 (3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第 11 回	教育における体罰の問題 (1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論―体罰は教育的情熱の発露である―の本質的問題点について論じる。
第 12 回	教育における体罰の問題 (2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第 13 回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第 14 回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験 100 %で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】
In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.
The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

EDU200MA

生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ） 展開科目

森本　扶

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代において、人々の学びの場や機会は大きく広がっている。学校教育がとらえる学習概念を超えて、生涯を通じた大人による学びの場づくりが、現代的課題（市民参画、識字、多文化共生、環境問題など）に対応するために不可欠となっている。授業では、現代的課題に対応する大人の学びの場づくりの諸相について理解し、その問題解決に向けて、社会教育・生涯学習がもつ可能性について考察していくことを目的とする。

【到達目標】
社会教育・生涯学習にまつわる現代的問題群を把握し、社会教育・生涯学習行政・制度がそうした問題にどのように対応してきた（している）のかを理解し、さまざまな社会教育・生涯学習実践がもつ意義や課題について解釈できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義形式で進めていく。適宜メモが必要であればとること。時折映像学習を取り入れる。
実施方法は基本的に「Hoppii と Google Classroom を使ったオンラインによる録画動画配信（オンデマンド型）」で行います。したがって、開講時間（木曜 4 限）に拘束されるものではありません。
具体的には以下です。
①毎週、授業時間（木曜 4 限）にあわせて、資料を Hoppii の「教材」に、授業動画を Google Classroom にアップロード
②木曜〜土曜にかけて資料と動画を使って各自で学習
③土曜までにリアクションペーパー（考察や疑問点など）を Hoppii の「課題」にて提出（次回授業動画で詳しくフィードバック）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	大人の生活とボランティアによる学習	物質的豊かさから精神的豊かさへ、学習・文化活動の広がり、ボランティア活動への関心の広がりとボランティア学習など
第 3 回	市民参画型社会とボランティア・NPO・NGO	市民セクターへの注目と NPO の登場・その実態と課題、グローバル化社会における NGO の役割など
第 4 回	企業内教育やリカレント教育による人材開発と生涯学習	OJT・Off-JT・自己啓発、学び直しとリカレント教育の現代的意義など
第 5 回	社会貢献活動を通した生涯学習	企業労働とは異なる体験を求める会社員たちの姿
第 6 回	教育の「保障」・「補償」としての識字教育	国際的な識字問題の背景と現在、（自主）夜間中学という場の意味など
第 7 回	多文化共生・地域国際交流が切り拓く未来	在留外国人の増加と多国籍化、グローバル化社会と地域国際交流という課題、多文化共生教育の取り組みなど
第 8 回	識字教育や多文化共生・地域国際交流の取り組み	（自主）夜間中学の実際の取り組み、地域国際交流の実際の取り組み
第 9 回	環境問題と持続可能な社会づくりのための生涯学習	発端としての自然保護教育、公害問題学習と環境教育、環境教育思想の国際的展開、今日的環境教育の展開など
第 10 回	大人の学びと開かれた大学	University extension の歴史的伝統、生涯学習社会における高等教育機関の役割、開かれた大学と地域づくりの可能性など
第 11 回	地域における社会教育施設の役割	多様化する学習施設の現状 公民館・図書館・博物館の歴史・役割
第 12 回	学芸員による学びのプロデュース	資料収集、研究、展示のプロとしての学芸員の姿、文化の発信から交流の拠点としての博物館の模索
第 13 回	生涯学習の学習論と学習を支援すること	生涯学習の学習論の系譜について。ノールズの成人学習論、メジローの認識変容論、エンゲストロームの拡張的学習論など
第 14 回	広がる社会教育・生涯学習の仕事	「民主主義の啓蒙普及」としての社会教育の仕事の歴史や、今日的な社会教育・生涯学習支援のあり方・力量形成など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・下記参考書や新聞等において扱われる社会教育・生涯学習の関連記事に関心を持ち、記事等を収集し感想や意見をまとめておくこと。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
・社会教育・生涯学習の用語についての理解を深めるよう、復習に努めること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
・講義の内容を参照しながら、自分自身の自己実現のために自らの生き方を考えること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、どれだけ取り組んでもらっても構わない。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会
川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木眞理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育 1 〜 7』学文社
佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木眞理・梨本雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典 （2017）『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】
映像学習時の感想文（10 点 ×3 = 30 点）、期末レポート（70 点）およびリアクションペーパーの内容（＋ α ）による総合評価を予定している。

【学生の意見等からの気づき】
学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【Outline and objectives】
In the present age, people learning places and opportunities are spreading widely. Beyond the learning concepts that school education catches, the creation of a place for learning by adults throughout their lives is essential to respond to contemporary issues. In the class, we aim to understand the various aspects of adult learning places to respond to contemporary issues, and to consider the possibility of social education and lifelong learning towards solving the problem.

EDU200MA

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ） 展開科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システム的理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】
成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。
毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。
この授業はオンデマンド型・オンライン授業（Zoom で録画したものを授業日以降に Hoppi に掲載）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・生涯学習の講座	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
3	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
4	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習①	S. ピンカーらの思想を手がかりに、現代社会の課題と「進歩」について考える。
5	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習②	SDGs とその背景を学ぶことで、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
6	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習③	SDGs ゴール１「貧困をなくそう」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
7	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習④	SDGs ゴール２「飢餓をゼロに」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
8	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑤	SDGs ゴール３「すべての人に健康と福祉を」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
9	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑥	SDGs ゴール５「ジェンダー平等を実現しよう」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
10	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑦	SDGs ゴール６「安全な水とトイレを世界中に」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
11	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑧	SDGs ゴール４「質の高い教育をみんなに」の視点から、これまでのレポートクリニックを行う。
12	講座のつくりかた③	幅広く伝える広報・宣伝の方法について考える。
13	講座のつくりかた④	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
14	教室内期末レポート作成	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。
授業後半に地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
阿部治・野田恵編著『SDGs の教育Ⅰ　貧困・食料・健康と福祉・ジェンダー・安全な水』学文社　2019 年

【参考書】
朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社　2013 年
社会教育推進全国協議会『社会教育の “しごと”』　2005 年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社　2009 年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社　2006 年

【成績評価の方法と基準】
課題のうち①及び④は授業実施日より 5 日以内に提出し、②及び③は課題発題日から提出指定日までに提出してください。
①テキストから課題レポート（ワークシート）　60 %
②学習プログラム作成　20 %
③学習プログラムのポスター作成　10 %
④期末レポート　10 %

【学生の意見等からの気づき】
実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】
学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】
授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline and objectives】
Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口　真里

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもはいつの時代にも存在しますが、子どもへのまなざしや社会における位置づけは時代や地域により異なります。同様に、子どもが何を学ぶべきか、その学びがどのように行われるかも一様ではありません。たとえば私たちの社会では、すべての子どもが学校に通って一定の内容を学ぶことが制度化されていますが、こうした学校中心の教育が始まったのは近代になってからのことです。
この授業では、西洋教育史をベースに、子どもにどのようなまなざしが向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。そして、私たちの社会で当たり前になっている子ども観や教育、およびそれが抱える問題と、それらの歴史がどのように関わっているのか、深く掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることで、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】
・西洋における子ども観や学びの変遷を、その背景にある歴史事象と共に説明できる。
・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を予定しています。
・授業資料を提示しながら授業を進めます。
・必要に応じて、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いたグループディスカッションを行い、受講生同士で意見交換します。
・授業内容の理解を深めるために、学習支援システムを利用したリアクションペーパーを実施します。
・提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げてフィードバックし、他の受講生がどのように考えたのか共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけ 女子の教育
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校の抱える諸問題 子どもをとりまく諸問題と子ども観の変容
第 14 回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配布資料を用いて授業を予習復習し、知識の定着を図ります。
・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、授業資料を配布します。

【参考書】
授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 60 %、リアクションペーパー 30 %、授業への貢献・平常点 10 %を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の 2/3 以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からのフィードバックを重視して、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や課題提出に学習支援システム等を利用します。パソコン等、対応できる情報機器を準備してください。

【Outline and objectives】
Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role in education.
In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.
Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.
And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

寺崎　里水

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。
日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンラインで授業を行う。あらかじめ指定した文献や資料をもとにオンデマンドで講義を行うが、知識の定着を促すため、ワークシートや小テストを課す場合があること、授業内容に対する質問を掲示板で授業時間内に受けることから、原則として授業時間（リアルタイム）にアクセスすることを求める。
また、講義内容によっては、リアルタイムオンラインで、相互の議論を求める場合がある。その場合は事前に告知する。
課題提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのか考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 11 回	太平洋戦争後の制度改革と教育	戦後の制度改革から今日までの流れを概観しながら、教育制度の変化を学ぶ。
第 12 回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように政策課題として扱われてきたのかを学ぶ。
第 13 回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献の精読、配布プリント課題を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の振り返りミニテスト 40 %、試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline and objectives】
This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

EDU200MA

教育社会学 I

展開科目

筒井　美紀

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このクラスでは、「教育を教育のなかだけで考えない」発想力と、それを支える知識・理解力をパワーアップし、自他のキャリアデザインについて自信をつけます。しかるべき知識と理解力を地道に身につけないと視野が広まらず、どこか自分に自信がないまま。これは多かれ少なかれ、多くの人に当てはまる。そんな自分の殻を突き破ろう。

【到達目標】
・「教育のべき論」に飛びつかない――社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
・「社会」のパーツを掘り下げる――「社会」とは天下国家とは限らない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI 化・・・大事な知識と理解を身の回りのことから徐々に広げ、教育と結びつけて考える力を養います。
・どんな社会で生きてゆきたいか――自分なりのビジョンを創り上げます。
・オンライン・リサーチ力を身につける――ポストコロナ時代、より重要なスキルに！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
2020 年度に引き続き履修者が 50 人以上と見込まれるため、zoom によるリアルタイム型授業を行ないます。zoom URL は学習支援システムを参照のこと。ブレークアウトセッションによる学生同士の知識・考察のシェアも毎回行ないます。
【進め方】
この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメの Question を毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではありません。それを発展させ深めます。
　レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第 2 回	中学校長「二人以上産む最も大切」–どう思う？	社会科学の表現作法を理解する
第 3 回	ダメダメ ES に「ツッコミ」を入れる（第 2 章）	ディテールに普遍性が宿ることを理解する
第 4 回	わが子を未熟にする大人（第 3 章）	「親を突き放す優しさ」について考える
第 5 回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	教育・躾と内的規準の関係を考察する
第 6 回	「キャリア教育」とどう付き合うか？（第 1 章）	キャリア教育の社会的背景を理解する
第 7 回	学部と職業は関係あるの？（第 4 章）	労働と生活の基礎用語を知る
第 8 回	表やグラフの記述と考察（第 4 章）	「見たらわかるでしょ」は禁物、reader-friendly な書き方を学ぶ
第 9 回	給料 2 割減、週 20 時間労働を選ぶ？（第 4 章）	ワーク・ライフ・バランスを実存から考える
第 10 回	どうしても働かなきゃダメ？（第 5 章）	「労働の道徳化」について理解する
第 11 回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？（第 6 章）	AI の社会的インパクトを考察する
第 12 回	社会には扶けてくれる他者がいる（第 7 章）	支援機関の知識を得て、背負える分だけ背負えばよいことを理解する
第 13 回	期末レポートに向けて	オンラインリサーチの方法を学ぶ
第 14 回	どんな社会で生きてゆきたいか（第 8 章）	習得した知識を綜合し自己の社会ビジョンを提示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。予習レジュメの Question ををこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン――就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】
筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】
中間レポートが 30 %、期末レポートが 70 %

【学生の意見等からの気づき】
みなさん、授業を一緒に楽しみましょう。

【Outline and objectives】
In this class the students are to learn "not to think about education only within education" and to master basic understandings of relevant knowledge and concepts, in order to be condident of career design. Let's get breakthrough.

EDU200MA

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井　美紀

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
周知のとおり日本社会では、教育・福祉・労働・生活をはじめとしたさまざまな領域で、歪み・軋みが生じています。では一体、どのように再創造していけばよいのでしょうか。現在、自治体と地域が、就労困難者に対してどのような支援や教育訓練を展開しているのかを具体的に学ぶなかで、それをデザインしてゆきます。

【到達目標】
就労困難者への支援や教育訓練というと、「どんなふうに接したら／教えたらよいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に知恵を絞らなくてはならないのは、人・モノ・かね・情報といった諸資源をどのようにネットワーク化すればよいか、です。このクラスでは、ミクロな次元から、ビジネスや NPO や地域社会、組織や制度へと視野を広げます。加えて、ポストコロナのこの時代、オンラインリサーチ力はますます重要に。この力を鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
履修者数が 50 人未満と予想されるため、原則対面で実施します。ただし、コロナ状況によっては、zoom によるリアルタイム授業に切り替える可能性もあります。
【進め方】
毎回、最初の 1/5 が前回リアペへのリプライ・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 がミニ発表と筒井の発展的解説、というスタイルです。毎回、ざっくりとした予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。
　レポートはコメントを入れて返却します。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	森全体を見渡す日
2	自治体による就労支援とは何か	筒井・櫻井・本田編著（2014）の序章を読み、左記を理解する
3	国の福祉政策・労働政策はどう変わってきたか	筒井・櫻井・本田編著（2014）の第２章を読み、左記を理解する
4	シングルマザーを支援する飲食店	前掲書の第９章を読み、福祉と経営を「両立」させることについて議論する
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第３章第３節を読み、生活保護受給者への就労支援について議論する
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるかを理解する
7	就労支援の民間委託	前掲書の第４章を読み、就労支援の民間委託について議論する
8	豊中市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第８章を読み、自治体の福祉部門と労政部門の連携の難しさについて議論する
9	就労支援の「出口」をどう創るか	前掲書の第７章を読み、中小企業支援について理解する
10	地域のニーズを掘り起こす	前掲書の第 10 章を読み、ニーズを雇用創出と就労につなげる仕掛けを理解する
11	高齢者と生きづらい若者とをつなぐ	前掲書の第５章を読み、協同労働について議論する
12	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	前掲書の序章を読み、左記について考察を深める
13	誰もが働き、生きていける社会とは	前掲書の終章を読み、左記について議論する
14	試験の傾向と対策	データ読解に基づく考察展開の書き方を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回１章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す――自治体と地域の取り組み――』勁草書房。

【参考書】
授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
自分が住む自治体の就労支援政策に関する中間レポート 30 %（添削して全員返却）、期末論述試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
毎年この授業の履修者は、将来、教育や支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人――などが多いです。

【Outline and objectives】
The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life. Then, how should recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for support of the people with difficulties in work.

EDU200MA

教育経済学

展開科目

荒木　宏子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とする。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？ なぜ政府は税金を用いて学校を運営するのでしょうか？ 大学の学費を無償化すると何がおこるのでしょうか？ 皆さん自身や、さらに次の世代の学び方に係るこれらの問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

【到達目標】
本講義の主な到達目標は２つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方、分析の仕方を身につけ、教育のみでなく広く社会問題を論理的に考察する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
座学（インプット）に限らず、皆さんからのコメント発表などを、受講人数に応じて取り入れます。座学形式の講義の回も、演習問題やリアクションペーパーの提出を求めます。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を決断してください。また、講義期間における、新型コロナウィルス感染症にかかる様々な状況と講師の健康問題等を踏まえ、オンラインでの講義実施（原則、講義時間リアルタイムでの zoom 配信の予定）を含める可能性があります。講義形式については、都度、学習支援システムや講義内にてご説明をします。
課題等に対するフィードバック方法：受講人数にもよりますが、基本的に、レポート等の課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。受講人数が多くなった場合などには、授業時間内やオフィス・アワーを別途設けるなどして、適宜、課題等に関する講評や解説をまとめて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	教育を経済学で考える。受講希望理由書の提出。
第 2 回	教育の経済学のはじまり	なぜ人は教育を受けるのか？ 教育の効果やその在り方を経済学的に考える。本講義全般の問題意識。
第 3 回	教育・学歴の経済学的効果（1）	なぜ大学へ行くのか？「消費」と「投資」。人的資本理論をベースに教育の収益率を考える。
第 4 回	教育・学歴の経済学的効果（2）	あなたの大学進学が、「あなた」や「社会」にもたらす経済学的メリット。
第 5 回	教育・学歴の経済学的効果（3）	なぜ大卒者の所得は中高卒者より高いのか？ 経済学的概念からその理由を考える。
第 6 回	教育の効果に係る経済学的実証分析（1）	世界における教育経済学の系譜と実証研究の紹介。
第 7 回	教育の効果に係る経済学的実証分析（2）	教育・職場での学びが賃金や働き方、仕事以外の生活に与える影響。
第 8 回	コメント発表、討論	講義前半の論点、トピックに係るレポートの提出、コメント発表など。
第 9 回	教育政策の経済学的評価（1）	二つの評価基準：効率性と公平性。
第 10 回	教育政策の経済学的評価（2）	教育の効果とは何か？ 学力の伸びとは何か？
第 11 回	教育政策の経済学的評価（3）	日本、世界における実証分析の紹介① カリキュラム効果、少人数学級。
第 12 回	教育政策の経済学的評価（4）	日本、世界における実証分析の紹介② 学費無償化、教育バウチャー。
第 13 回	教育は何をもたらすのか？	教育への公費支出の意義、教育費支出の国際比較、教育が社会の効率・公平にもたらす影響。
第 14 回	講義のまとめ。期末レポートについて。	講義のまとめと、期末レポートの提出に係る質問等の時間を設ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。
・講義で取り上げた内容に関わる論文、新聞や学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに用いません。

【参考書】
授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 45 %程度（中間レポートや講義内での演習問題・リアクションペーパーへの回答。講義での意見などの積極的な参加。）
期末テストまたはレポート： 55 %程度

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、第 1 回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200〜400 字）を学習支援システムより提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第 1 回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメール（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）にて連絡をください。

【Outline and objectives】
In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of schools with taxes? What would happen if education became free for everyone? Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

MAN200MA

キャリア研究調査実習 C(データで語るキャリア)

展開科目

久保田　貴文

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業を通じて，就業を中心とする働くことに関する調査の実施方法について理解すると同時に，自分自身で調査を計画実施する際に必要なスキルを修得する。この授業では，既存の調査票を参照しながら，調査票の設計方法，対象者の選定や回答依頼方法，分析方法，考察，まとめまでの一連の作業についてレクチャーし，その一部を体験することを通じて，量的調査のノウハウを身につける事を目標とする。

【到達目標】
（1）先行研究の調べ方，仮説・リサーチクエッションの立案ができるようになる
（2）調査票を作成できるようになる
（3）簡単なデータ分析ができるようになる
（4）得られた結果を報告出来るようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進めるパートと，個人またはグループでの実習形式で進めるパートで構成される。講義では調査を実際に行う際に必要となるスキルをレクチャーし，その一部について実習を行う。実習では、マイクロソフト・エクセルを用いる。毎回の授業課題については、全員分（共通点）をまとめてフィードバックする。また、レポートについては、個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方ならびに調査の概要を紹介する。
第 2 回	調査の課題設定	問いを設定し、答えを見つけるためのリサーチの計画を概観する。
第 3 回	ソースの活用	3 種類のソースとその利用、インターネットの利活用について学修するとともに、データを入手する際の倫理観などについても習得する。
第 4 回	就労に関する二次データの分析（1）単純集計	集計によって集団の特色や傾向を把握し、質的データの単純集計を行う。
第 5 回	就労に関する二次データの分析（2）単純集計の視覚化	度数分布表により単純集計の分布を把握し、段階評価データの集団の傾向についても視覚化する。
第 6 回	就労に関する二次データの分析（3）クロス集計と視覚化	クロス集計によって２つの質問項目の関係を把握し、グラフにより視覚化を行う。
第 7 回	就労に関する二次データの分析（4）レポート１	質的データの分析について、特に２つの関係についてレポートを課す。
第 8 回	議論と主張の信頼性	分析結果等から議論するための、主張を組み立てる方法について学修する。
第 9 回	理由・エビデンス・論拠	議論を主張するための、論拠をしめす方法について学修する。
第 10 回	調査計画の立案（1）	グループごとにもしくは個人にて、リサーチクエッションから仮説の構築を行い、調査票の作成について導入する。
第 11 回	調査票の立案（2）	調査票を作成し、サンプリングを含めた調査計画全般の立案を行う。
第 12 回	就労に関する二次データの分析（5）代表値・ちらばり	量的データの単純集計により、平均・中央値・最頻値等の代表値で理解し、分散・標準偏差によりばらつき具合を把握する。
第 13 回	就労に関する二次データの分析（6）相関分析、回帰分析、レポート２	質的データと量的データの連関について調べ、２つの量的データの相関について、さらには関係式によって２つの項目間の関係について把握する。
第 14 回	プレゼンテーション	分析結果についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 4 回から第 7 回までおよび第 11 回、第 12 回は情報機器を使った実習を行うため，授業後に実施内容について復習等が必要である（約 4 時間）。また，毎回の授業において次回の実施内容を説明するので，必要に応じて準備学習を実施すること（約 2 時間）。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて授業内で指示する。

【参考書】
・リサーチの技法 / ブース, ウェイン・C.、コロンブ, グレゴリー・G.、ウィリアムズ, ジョセフ・M.、ビズアップ, ジョセフ、フィッツジェラルド, ウィリアム・T.
・実例でよくわかるアンケート調査と統計解析 / 菅民郎

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 50%
レポートや課題の提出： 50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を利用した授業であるが、持参の必要性については初回の授業にて指示する。オンライン授業になった場合には、マイクロソフト・エクセルを用いてデータ分析を実施するため、その準備が必要な場合がある。

【その他の重要事項】
実習を伴う科目のため、初回の授業に必ず出席のこと。
ただし、コロナの状況に応じて、やむを得ず 2 回目からの参加になる場合には、教員の指示に従うこと。

【Outline and objectives】
Through lecture, learn how to conduct surveys related to carrier mainly in employment, and at the same time, acquire the skills necessary to plan and conduct research yourself. In this class, lectures will be given on a series of tasks from the design of the questionnaire, the method of selecting subjects and requesting answers, analysis methods, consideration, and summarization, while referring to the existing questionnaire, and experiencing some of them. Through this, the goal is to acquire the know-how of quantitative research.

MAN200MA

キャリア研究調査実習 D（仕事とビジネスの質的研究）

展開科目

山口　塁

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査をもとに研究を行う際は、事前の十分な準備と適切な手法・調査対象の選択、そして調査結果の丁寧な解読が必須です。本授業では企業インタビューを実際に行いながら質的調査の一連のプロセスのすすめ方を習得し、産業・労働分野での質的調査の活かし方を学びます。

【到達目標】
①企業インタビューを実際に行いながら、質的調査の一連のプロセスのすすめ方を習得する。
②産業・労働研究での質的調査の活かし方を学ぶ。
③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための、より実践的な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実習を中心に、講義を交えながら授業を進めます。講義では、質的調査の基礎を復習のうえ、産業・労働分野での優れた研究から質的調査の活かし方を検討します。実習では、調査に向けた準備を行い、実際にインタビュー調査をしたうえでその結果をまとめ、はじめに設定した調査テーマや明らかにしたいことと照合しておおまかな結論を導くまでの、一連の質的調査のプロセスを積み重ねます。調査テーマは受講者の問題関心を参考にして設定します。インタビューは企業等の関連機関に、担当教員を含めたグループ単位で行います。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標等の説明、調査テーマの確定とスケジュールの確認
第 2 回	質的調査の概説	社会調査と質的調査、質的調査の概説（講義）
第 3 回	質的調査の準備（1）	関連する先行研究の紹介と検討（講義）
第 4 回	質的調査の準備（2）	関連する制度の確認、既存の統計資料の整理（実習）
第 5 回	質的調査の準備（3）	調査対象の選定、調査趣旨書と質問票の作成（実習）
第 6 回	質的調査の活かし方（1）	産業・労働分野での、質的調査を用いた古典的な研究事例の紹介（講義）
第 7 回	質的調査の活かし方（2）	産業・労働分野での、質的調査を用いた現在的な研究事例の紹介（講義）
第 8 回	質的調査の実践（1）	質的調査の実施：対象地域の実状を把握するためのインタビュー調査（実習）
第 9 回	質的調査の実践（2）	質的調査の実施：対象産業の実状を把握するためのインタビュー調査（実習）
第 10 回	質的調査の実践（3）	質的調査の実施：企業へのインタビュー調査（実習）
第 11 回	質的調査の記録（1）	調査から得た情報をもとに、記録文書を作成（講義＋実習）
第 12 回	質的調査の記録（2）	作成した記録文書を報告し、共有（実習）
第 13 回	質的調査のまとめ（1）	調査テーマや準備段階で得た情報と記録文書の照合（実習）
第 14 回	質的調査のまとめ（2）	調査のプロセス全体から得た知見のまとめ（実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査の準備（対象地域や企業に関する下調べ）と調査の記録文書の作成、調査のとりまとめを行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（「授業時間外の学習」の成果）50 %、平常点（とくにインタビューの場での適切な態度）50 %。

【学生の意見等からの気づき】
参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
この授業は，受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合，抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】
In this class, we learn to make processes of the qualitative surveys through experiencing interviews with employers. Additionally, we receive lectures about how to reflect the results of the qualitative surveys in studies among labor-management relations. In interviewing, we plan to clarify the employment and utilization of foreign workers in Japanese firms. Finally, we will be able to acquire more practical ability for quantitative surveys: prepare carefully, choose ways properly and analyze the results of the surveys in a polite way.

MAN200MA

外書講読Ａ（ビジネス）　展開科目

中野　貴之

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、一人で英語文献を読むのに必要な力を養うことを目的とします。

【到達目標】
英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。科目の性格上、履修可能者数を 30 名に制限します。当該制限数を超過した場合には選抜を行うので、履修を希望する人は必ず第 1 回目の授業に必ず出席してください。
なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。また、受講者の英語能力を評価します。
2	Supply and Demand (The World of Economics)	"Supply and Demand"に関する文献を読みます。
3	Japanese Economy(1)	pp. 5-8 を読みます。
4	Japanese Economy(2)	pp. 8-14 を読みます。
5	Japanese Economy(3)	pp. 19-23 を読みます。
6	Japanese Economy(4)	pp. 23-32 を読みます。
7	Japanese Economy(5)	pp. 37-43 を読みます。
8	Japanese Economy(6)	pp. 49-56 を読みます。
9	Japanese Economy(7)	pp. 56-67 を読みます。
10	Berger and Ofek(1995)(1)	多角化の理論を勉強した上で、最初の 1 頁を読みます。
11	Berger and Ofek(1995)(2)	次の 1 頁を読みます。
12	Berger and Ofek(1995)(3)	最後の 2 頁を読みます。
13	Berger and Ofek(1999)(1)	最初の 2 頁を読みます。
14	Berger and Ofek(1999)(2)	後半の 2 頁を読みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、次のとおりです。
①授業における発言、提出物: 80%
②定期試験: 20%

【学生の意見等からの気づき】
英語を深く読むことができたという意見が多かったので、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】
・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。
・受講希望者が 30 名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline and objectives】
If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, we aim to cultivate the power needed to read the economic literature written in English alone.

MAN200MA

外書講読Ｂ（ビジネス）　展開科目

杉原　弘恭

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスに必要な知識の基礎を学びつつ，世界標準化してきている英米のビジネス様式の背景を探ります．Steve Jobs が「アップルは Technology と Liberal Arts の交差点にいようとする」と述べたとき，どれだけの人が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました．また英文契約書が似た意味の動詞を並べて使う意味は？ 原文で理解する意味がそこにあります．また，アメリカでは民間企業でありながら，環境や社会分野での公益提供する Benefit Corporation という新しい会社制度が成立しています．この制度による会社では，そのような対外的な役割を社員の内発的動機づけ Drive や Caring 概念と同期させようとしている傾向が見受けられます．企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく，原典を参照しながら進めて行きます．

【到達目標】
ビジネスに必要な概念をその背景と共にマスターし，キャリアデザインの基本に位置するモチベーション 3.0 などの考え方を理解することを目標とします．これらが capable communication, ひいてはいのちの経営の参考になれば幸いです．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Reading English Materials on Business ですので，オンデマンドとし，毎回支援システムの「教材」で配布する講義資料を読み，Reaction Paper（成績評価の項参照）を提出してください．それに対する feedback は主に次の回の冒頭で行います．個別資料は詳細に記述しています．なぜ目で読むことが大事かは第 1 回目の資料でわかります．英語による Communication のための基礎知識，各種用語，短文の原典（原則対訳付き）を学んでいきます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際ビジネスの背景にある違いは何から？	Common law と大陸法を知ろう．
第 2 回	英語と日本語の communication 構造	3 層構造を意識する．英文契約書の世界観を知る．
第 3 回	日米欧の経営目的の違いと責任	Liberal Arts と Servile Arts の反映を知る．
第 4 回	4Management とは 1	経営とは．Supply chain と Value chain，Marketing 等を理解する．
第 5 回	Management とは 2	MBO-S, Co-creation 共創などを理解する．
第 6 回	21 世紀の会計	財務諸表の基礎知識と現在行われている未来志向の会計を知る．
第 7 回	3 つの失敗と組織	市場・政府・ボランタリーの失敗，統計の歴史を知る．
第 8 回	21 世紀の会社	会社の基礎知識と Benefit Corporation 等を知る．
第 9 回	AI と雇用	AI の基礎知識と雇用を知る．
第 10 回	働き方 1	非正規雇用のなぜ？ 国際収支，国際法などとの関係を知る．
第 11 回	働き方 2	日米効用慣習比較，変わりゆく日本の雇用慣行を理解する．Motivation と Brain Science を知る．
第 12 回	経済体制と政治体制	資本主義と社会主義，対応する制度，協同組合とは？
第 13 回	開発経済	最貧国から抜け出すためには？ ビジネス，マネジメントとの関係を知る．
第 14 回	1)The Economist の記事を読み解く 2)Test	1) 応用編：アメリカを理解する，国際貿易などを知る．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語では専門用語らしい翻訳語が，原語では日常用語であったりすることがままあります．日頃から他に意味はないのか？ Why? What if?（もし〜としたらどうなるだろか）などと考えるクセをつけるようにしてください．本授業の準備学習・復習時間は 4 時間が標準です．

【テキスト（教科書）】
支援システムの「教材」で，毎回講義録を配布します．

【参考書】
適宜紹介します．関連の国家試験「IT パスポート」には，（本講義を含めて）辞書代わりにも使える『よくわかるマスター　IT パスポート試験対策テキスト』（FOM 出版）がお奨めです．

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義の Reaction Paper の提出 (「テスト/アンケート」を使用，設問下記)80%，最終回の Test(Reaction Paper 方式)20%を予定．
1) 今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？（箇条書き）
2) 1) に関する考察・質問・感想・要望など質問

【学生の意見等からの気づき】
図解の説明を詳しくするほか，資料の読みやすさに留意します．

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
関連資格： IT パスポート（一番取得しやすい国家試験で，毎月 PC 受験可能）
IT 化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを，国が認定するもので，エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています．本授業で得た知識が活かせます！

【Outline and objectives】
Reading English Materials on Business: What is the meaning of liberal arts as Steve Jobs said, "Apple always try to be at the intersection of technology and liberal arts”? Why does a English contract agreement employ overlapping verbs? What is a benefit corporation in the United States? We will explore their roots and senses of meaning for the sake of capable communication.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西　充子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しあっています。
働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。
男女の働き方の現状と課題を理解する。
＜まともな働き方＞を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
秋学期の授業では現在の若年労働市場や働かせ方の現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。中間レポートと期末レポートの執筆を求めます。
授業はオンライン（オンデマンド方式）で行う予定です。詳しくは学習支援システムにて指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	正規雇用と非正規雇用	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
3	雇用ポートフォリオと不本意非正規	雇用ポートフォリオ／多様な働き方の現状と課題
4	企業と労働者の双方から見る非正規雇用	調査結果から見る多様な働き方
5	非正規雇用の処遇改善	無期転換と同一労働・同一賃金
6	派遣労働を考える	派遣労働の特徴と問題点
7	雇用によらない働き方	雇用によらない働き方の特徴と課題
8	中間レポート振り返り	中間レポートの解説
9	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態、夫婦の生活時間・仕事時間
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）	コース別雇用管理、就業継続をめぐる課題
12	男女の働き方とワークライフバランス（3）	事例から見る企業の実情
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。
授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。
課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書
・川人博（2014）『過労自殺　第二版』岩波新書
・久原穏（2018）『「働き方改革」の嘘』集英社新書
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】
随時、計 4 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0 〜 1 回の学生や、いずれかのレポートに代筆や剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与ししない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からは、キャリア形成について考えさせられた、身近な問題を考えさせられた、といった感想が見られる。働き方をめぐる現在の変化と皆さんの働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインの受講環境を整えておくこと。具体的には、学習支援システムにて指示する。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、中間レポートおよび期末レポートについて等の説明を行いますので、必ず出席すること。
「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline and objectives】
This course has been designed to provide a basic understanding of the changing labor market and work styles. Main topics are diversification of employment types, long hours of work, work-life-balance, and gender equality.

MAN200MA

人材育成論Ⅰ

展開科目

西村　純

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材育成論Ⅰでは、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。業種に関わらず事業のサービス業化が進む現代において、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の人々は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】
(1) 日本の人材育成の方法とその特徴について理解し、そのメリット・デメリットについて自分の言葉で説明することができるようになる。
(2) 企業が実施する教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状とそこで生じている課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人材育成論Ⅰでは、人材育成について①職業能力を身につける方法（仕事の実践経験、座学など）、②人を育てるために企業が取り組んでいる環境整備（人事・賃金制度や職場環境など）、③社会環境と企業の人材育成の関係について学びます。人材育成論Ⅰでは主に企業側から見た人材育成について学びます。授業は講義形式で行います（オンライン）。オンデマンド方式を予定しています。講義の中でコメントペーパーの提出を求めることがあります。コメントペーパーの中からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方や参考文献の指示方法などについての説明
第 2 回	日本の人材育成システムの特徴―国際比較の視点から	国際比較の視点から日本の人材育成の特徴について学ぶ
第 3 回	能力開発とキャリア―これからのキャリア形成	これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターンや能力開発の方法について学ぶ
第 4 回	技術革新と技能の変化	技術革新によって企業が求める能力に生じた変化について学ぶ
第 5 回	転職とキャリア形成	転職によるキャリア形成のメリット・デメリットについて学ぶ
第 6 回	性別とキャリア形成	性別職域分離が生まれる背景やそれがキャリア形成にもたらす影響について学ぶ
第 7 回	若者のキャリア形成	若年者のキャリア形成の現状と課題について学ぶ
第 8 回	非典型労働者のキャリア形成	非典型労働者のキャリアや人材育成について学ぶ
第 9 回	高齢化とキャリア形成	高齢化に伴うキャリア形成の変化や課題について学ぶ
第 10 回	ホワイトカラーのキャリア形成	事務系・技術系ホワイトカラーのキャリア形成の特徴や課題について学ぶ
第 11 回	中小企業の労働者のキャリア形成	中小企業の労働市場の特徴や人事管理の特徴について学ぶ
第 12 回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	仕事と家庭の両立が困難な背景やその解決に向けた取組について学ぶ
第 13 回	失業	失業者への再就職支援について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	講義の内容を振り返り、日本の人材育成の特徴や課題についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣 (2014 年)

【参考書】
佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 (2011 年)
佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016 年）
守屋貴司・中村艶子・橋場俊展『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理:Industry4.0 の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房（2018 年）

【成績評価の方法と基準】
期末の定期試験（80%）
授業中に出すレポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更のためフィードバックできません

【その他の重要事項】
質問等は講義資料に記載するメールアドレスにて受け付けます。

【Outline and objectives】
In this class, students can learn the importance and the way how employees develop their vocational skills and abilities in each organisations. Under the trend toward service economy, human resource development may be indispensable for business activities of firms, while employees also depend on firm to maintain their lives. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

MAN200MA

人材育成論Ⅱ

展開科目

池田　心豪

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰと同様、ヒトが企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。

【到達目標】
人材育成論Ⅰでの基本理解を踏まえて、性別等労働者の属性別、また業種別、職種別、雇用形態別といったさまざまな切り口から人材育成の実態と課題を認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Zoom を使ったオンライン授業とします。各回の課題について、授業の前半でグループディスカッションを行い、その結果を発表してもらいます。その内容について講師が解説・コメントを加えることで、理解を深めるようにします。
人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰで学んだ枠組みをベースにした多様性やバリエーションを書く論的切り口から学びます。雇用形態（正社員とパート、契約、派遣などの非正規）、ホワイトカラー（事務系と技術系）とブルーカラー、大企業と中小企業、男性と女性 若年、中高年者などは各論的切り口の例です。
また人材育成論Ⅰでは主に企業組織の側からみた能力開発や人材育成をみてきました。これに対して、人材育成論Ⅱでは主に働く側からみた「育成」（＝長期の育成としてのキャリア形成）の視点を重視します。同時に人材育成の環境変化をできるだけリアルに把握するために、各種の統計データや調査結果を読み取ることも重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：人材育成論Ⅰの復習と人材育成論Ⅱのねらい	前期の授業内容について受講内容を振り返りながら、後期の問題意識を育てる。
第 2 回	企業の人事管理と人材育成	採用・配置・異動・昇進を通じた人材育成について概要を学ぶ
第 3 回	組織の論理と個人のキャリア	個人のやりたい仕事と会社がやらせたい仕事の関係について学ぶ
第 4 回	日本企業の人材育成の特徴	海外の企業との比較を通じて日本企業の特徴を理解する。
第 5 回	転職型キャリアと能力開発	転職者の能力開発機会について企業内・企業外双方の視点から学ぶ
第 6 回	多様な人材の育成	パート・アルバイト等の非正規社員を含めた人材育成のあり方について学ぶ。
第 7 回	中小企業の人材育成	大企業との対比を通じて中小企業の人材育成の特徴を理解する。
第 8 回	タレントマネジメント	「タレントマネジメント」概念の概要とその背景を学ぶ
第 9 回	若年層の定着と育成	若年層の初期キャリアについて人材育成の観点から学ぶ。
第 10 回	リーダーを育てる	企業経営を牽引する人材の育成について学ぶ。
第 11 回	ライフイベントと人材育成	育児や介護等で働き方に制約のある人材の育成について学ぶ。
第 12 回	プロフェッショナル人材の育成	専門・技術職の人材育成について学ぶ。
第 13 回	学校教育と人材育成	学校教育が企業の人材育成とどのようなかかわりを持っているかを学ぶ。
第 14 回	人材育成論Ⅱの総括	後期の授業の要点をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書・参考文献等を通じて、各回のテーマについて予備的な学習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤厚『組織のなかで人を育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣 2016 年

【参考書】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史著『新しい人事労務管理第 5 版』有斐閣 2015 年、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004 年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011 年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 70 %＋中間レポート 20 %＋授業での発言・発表 10 %＝ 100 %

新型コロナの影響で学期末試験を大学の教室で行えない可能性を考慮し、期末試験は行わないこととします。代わりに期末レポートを課します。中間レポートは学期中に授業の中で課題として出すレポートです。授業の進捗に応じて 1〜2 回程度を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ毎回の授業で Zoom を使ったオンラインのグループディスカッションをしますので、遅刻は厳禁とします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the significance, method, problems on human resource development in companies.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅰ

展開科目

坂爪　洋美

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】
本授業の到達目的は以下の２点です。
（1）産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
（2）産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
（3）産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業はオンライン形式、かつオンデマンド型とリアルタイム型を組合わせる形で行います。オンデマンド型とリアルタイム型それぞれの回数は 7 回程度を予定しています。
オンデマンド回では、あらかじめ録画した動画を配信します。一方、zoom を用いたリアルタイムでの双方向型の授業では、木曜 2 限に zoom を使った授業を行います。
原則として隔週で、オンラインとオンデマンドを実施しますが、外部講師によるご講演（オンライン）のご予定により、変更が生じる可能性があります。詳しくは第 1 回の授業の際に説明します。
また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第 2 回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第 3 回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第 4 回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第 5 回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的な関係性の重視
第 6 回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第 7 回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第 8 回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第 9 回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第 10 回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第 11 回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第 12 回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第 13 回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第 14 回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
山口裕幸・金井篤子編
『よくわかる産業・組織心理学』 2007 年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
ミニ課題（原則毎回） 40 %
途中課題（3 回） 30%
期末課題（1 回） 30%
いずれも学習支援システム上に提出です。課題は、授業内容についての理解度ならびに、学習した事項に基づいた応用問題です。システムトラブル以外での提出遅延は不可です。

【学生の意見等からの気づき】
zoom での授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】
授業計画は予定となります。1-2 回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline and objectives】
This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs..
The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪　洋美

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の３点です。
（1）産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
（2）組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
（3）自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業はオンライン形式、かつオンデマンド型とリアルタイム型を組合わせる形で行います。オンデマンド型とリアルタイム型それぞれの回数は 7 回程度を予定しています。
オンデマンド回では、あらかじめ録画した動画を配信します。一方、zoom を用いたリアルタイムでの双方向型の授業では、木曜 2 限に zoom を使った授業を行います。
原則として隔週で、オンラインとオンデマンドを実施しますが、外部講師によるご講演（オンライン）のご予定により、変更が生じる可能性があります。詳しくは第 1 回の授業の際に説明します。
また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第 2 回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第 3 回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第 4 回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第 5 回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第 6 回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第 7 回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第 8 回	能力を高める②	仕事がもたらす一皮むけた経験
第 9 回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第 10 回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第 11 回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第 12 回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取組み
第 13 回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第 14 回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
金井壽宏　働くひとのためのキャリア・デザイン　2002 年 PHP 新書
守島基博　人材マネジメント入門　2004 年　日経文庫

【成績評価の方法と基準】
ミニ課題（原則毎回）　40 %
途中課題（3 回）　30%
期末課題（1 回）　30%

いずれも学習支援システム上に提出です。課題は、授業内容についての理解度ならびに、学習した事項に基づいた応用問題です。システムトラブル以外での提出遅延は不可です。

【学生の意見等からの気づき】
zoom での授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】
1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline and objectives】
This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.
The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石　恵美子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。つまり、個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえます。そのために、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】
授業を通じて、ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識を習得すること、キャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつこと、ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解すること、を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。
本授業はオンラインで実施し、「オンデマンド」を中心にして「リアルタイム型」を 3-4 回程度含める予定です。具体的な予定は、第 1 回の授業で説明するとともに、学習支援システムで連絡をします。
「オンデマンド」の授業では、原則として、テキストと配布資料による学習、動画での説明、を組み合わせて実施します。
毎回出席確認のためのテストもしくはコメントを学習支援システムで提出してください。授業日から 3 日以内の提出を出席とみなします。
授業で使用する資料等は、「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。
課題等に対するフィードバックに関しては、出席確認のためのテストやコメントについては、次の回に授業でフィードバックします。また、授業内で実施するテスト等についても、適宜授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア自律	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	ダイバーシティ経営	キャリア開発の新しい動向であるダイバーシティ・マネジメント
6	正社員の多元化とキャリア	正社員の働き方の現状、多元化の動向
7	確認テスト（前半）	授業内に学習支援システムでテストを実施
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方をめぐる問題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い
12	非正規雇用とキャリア開発、ブラック企業問題	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題、ブラック企業問題
13	確認テスト (後半)	授業内に学習支援システムでテストを実施
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使う資料は学習支援システムを通じて事前に提供します。それをプリントアウトして授業に臨むと円滑に進めます。

【テキスト（教科書）】
テキストは、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う』（2016 年、中央経済社）です。
テキストがあることを前提にして授業を進めるので、必ず購入等をお願いします。

【参考書】
それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、テキストに参考文献が掲載してあります。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。また、授業に関連する内容で文献を知りたいという希望があればいつでも質問をしてください。

【成績評価の方法と基準】
当初定期試験を予定していましたが、試験は実施しません。
評価は、出席（提出された内容も含む）6 割、レポート 4 割で評価します。
出席は、毎回授業の終わりに課題や簡単なテストをしてもらい、それで確認します。内容についても評価の対象です。提出期限は土曜日まで、となります。
レポートは 2 回提示する予定です。レポートにおいて剽窃が判明した時点で「D 評価」とします。どれだけ出席をしていても D 評価になるので、気を付けてください。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からの質問には丁寧に対応しますので、質問があれば積極的にお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
授業はパワーポイントと音声で実施するので、それを受信できるようにしてください。

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

MAN200MA

リーダーシップ論

展開科目

佐野　達

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャングル とよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。
本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

【到達目標】
・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンライン授業（同時双方向型）を基本とする。
・ZOOM 等のオンラインツールを用いて講義形式で行う。
・一部の講義では、可能な範囲でグループディスカッションやグループ・ワークを行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
・課題のフィードバックとして、全体的な概要について講義で解説する。
・受講者数等によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第 2 回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？リーダーシップの定義を紹介する
第 3 回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第 4 回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第 5 回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第 6 回	新たなリーダーシップ研究④	交流的アプローチによる研究を紹介する
第 7 回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 8 回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 9 回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバーント・リーダーシップ研究を紹介する
第 10 回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する
第 11 回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について紹介する。
第 12 回	演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 13 回	演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】
【新版】グロービス MBA リーダーシップ, グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社 ;2014)

【参考書】
最強のリーダーシップ理論集中講義, 小野善生, (日本実業出版社)
リーダーシップ入門, 金井壽宏, (日本経済新聞社)
M.M. チェマーズ, リーダーシップの統合理論　（北大路書房）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験（60 %）
・授業内課題ワークシート・レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業（同時双方向型）に必要な機器
・情報機器（パソコンもしくは大型のタブレット PC を推奨）
・オンライン上でのグループディスカッション等でマイク（Web カメラ付を推奨）を使用する。
・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
・授業中の私語は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。
・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

【Outline and objectives】
Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal. This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also groupdynamics.

In this class students will be awear of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

MAN200MA

経営統計論 A（心理データ）　展開科目

北村　康宏

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
注意：
この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。このようなスキルは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握で活用されます。実施の際には、調査対象者の行動データや質問紙への回答データを集約し、得られたデータを集計・統計処理を通じて、仮設の検証や傾向を把握するという方法が採られます。この一連のプロセスや、得られた結果の解釈方法を、講義や実習（excel 等のソフトを使用する）を通じて習得します。

【到達目標】
統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。
質問紙の作成・データ収集・統計処理など、調査に必要な手続きができるようになる。
代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。
目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようになる。
分析結果を正確に解釈（記述）できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、質問紙調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、質問紙調査の一連のプロセスを統計処理のスキルを含めて獲得していきます。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学びます。次に、得られたデータの整理方法（例：サンプル数、平均値、標準偏差）のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈を学習します。その後、目的に応じたデータ分析を紹介します。
質問紙調査においてよく用いられる分析手法として、集団間の比較のための分散分析、変数間の因果関係を把握するための回帰分析、回答者を分類するためのクラスタ分析、質問項目を集約するための因子分析などが用いられており、これらを学んでいきます。また得られた分析結果の解釈スキルの獲得を通じて、信頼性と妥当性の考え方について学習します。
毎回、授業の理解度を確認するためのミニテストを課します。ミニテストの解説や回答に対するフィードバックは、次回の授業の冒頭で行います。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目的、授業の進め方等についての説明
第 2 回	質問紙調査	質問紙調査の目的や方法・プロセス・データ整理について、事例を用いた説明
第 3 回	相関と因果	二つのデータの関係性についての解説と実習
第 4 回	平均の比較（1）	回答者集団の差を見出す分散分析を実習
第 5 回	平均の比較（2）	複数の集団間の差を見出す多重比較の方法を実習
第 6 回	回帰分析	データの関連性をモデル化する回帰分析を学習
第 7 回	重回帰分析	複数変数を用いた重回帰分析についての実習
第 8 回	クラスタ分析	回答者の分類方法であるクラスタ分析の解説と実習
第 9 回	因子分析（1）	心理テストなどで用いられる因子分析についての解説
第 10 回	因子分析（2）	データを用いた因子分析の具体的な手続きについての実習
第 11 回	因子分析（3）	分析のコツや信頼性・妥当性の検証方法について解説
第 12 回	信頼性と妥当性	調査手法や分析結果の質について解説
第 13 回	データの解釈	得られたデータの解釈に関する解説
第 14 回	まとめと今後の展望	本授業で学習した内容の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習が時間内に終了しなかった場合、次回の授業までに取り組んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析［第 2 版］」
田尾雅夫・若林直樹「組織調査ガイドブック」
斎藤美穂「事例による認知科学の研究入門：R コマンダーの活用法と論文の書き方」

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに理解度確認のためのミニテストを課します。ます。また、学期末にレポート課題を課します。以上の合計によって 100 点満点にて評価を行い

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】
クラス（教室）の収容人数を超える履修希望が見込まれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
Through this course, students will learn introductory statistics (basic statics, correlations, anova, linear regression analysis, factor analysis and hypothesis testing(t-test)) in business fields, especially on the perspective of safety psychology. Furthermore,
Students will learn basic concepts of using statistical models to draw conclusions from survey data.

MAN200MA

企業会計論

展開科目

松本　徹

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「黒字決算」、「売上」、「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】
この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まずは講義プリント（テキストの要約や学習する章に関連する基本的会計用語・時事問題など）の穴埋めをして、その時間に学ぶ概略を理解してもらいます。その際は各自で会計用語や日本経済新聞などのデータを調べることも必要となります。次にそれに基づいて授業内ミニテストを解いて応用力を養ってもらいます。その際に出題される内容は、就職の際にも威力を発揮する現実的な役立ちを意識した問題も含みます。なおこの講義は、オンライン・オンデマンド型で実施します。つまりそれぞれがいつ学習するかは問いませんが、授業内ミニテストの期限があるため、それに合わせて計画的に学習することが必要になります。課題の総評等については、適宜ポータルサイトを通じて紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	会計の守備範囲	企業会計の対象について学びます。
3	損益計算書 (1)	損益計算書の表示方法について学びます。
4	損益計算書 (2)	収益、費用の測定方法について学びます。
5	貸借対照表 (1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
6	貸借対照表 (2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
7	会計を取り巻くルール (1)	金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
8	会計を取り巻くルール (2)	会計基準について学びます。
9	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
10	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。
11	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
12	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
13	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
14	本講義のまとめ	本講義の学習内容について要約・整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木一道『会計学はじめの一歩』第 2 版　中央経済社　その他、必要に応じて講義プリントなどを配付します。

【参考書】
黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（授業内ミニテスト等）により評価します。期限後の提出については評価しません（大規模なシステム障害以外は、遅れは個人の事情となり考慮しません）ので、期限厳守で早めに取り組むことが必要です。また各自に論じてもらうような設問の場合、他の人とほぼ同じ答案とみなされる場合やテキストなどの丸写しは不正行為などとみなし得点を与えませんので、自分で調べ自分の言葉で書きましょう。

【学生の意見等からの気づき】
さまざなな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline and objectives】
Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting.
It'll be also useful in case of job hunting.

MAN200MA

経営統計論 B（企業データ）　展開科目

中野　貴之

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excel の基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立つちます。

【到達目標】
統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを経験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、エクセルの基本操作について学びます。
3	記述統計 (1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計 (2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
5	記述統計 (3)	標準化（Z 値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計 (4)	2 変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析 (1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析 (2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変量により理解できるようになります。
9	回帰分析 (3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
10	回帰分析 (4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析 (5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定 (1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定 (2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるどうかについて理解できるようになります。
14	各種検定 (3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
①授業における発言、取り組み: 30%
②授業内および期末レポート: 70%

【学生の意見等からの気づき】
統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】
・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。
・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn how to analyze corporate data using a computer. Start with the basic operation of MS - Excel, and finally learn the basic test method and regression analysis in statistics. The data used is mainly economic and corporate data such as profit and sales.

MAN200MA

経営組織論 I

展開科目

梅木　眞

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】
組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
大学の指針に基づき、オンライン（オンデマンド）、講義形式で開講する。学習支援システムを用いて資料の提示・フィードバックなどを行う。ただしコロナ情勢の変化にともなう授業方針の変更があった場合、シラバスの修正を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。
皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スティーブン P. ロビンス（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム上でレポート課題を複数回課し、評価の対象とするので、指示に従ってください。なお、課題評価の際にはテキストや講義内容がきちんと反映されていなければ評価の対象外とする。なお、課題は 2 回程度とし、中間課題 50 %、最終課題 50 %、合計 100 点で評価する予定である。
成績評価基準は以下の通りである。
A+
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる
A-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる
B-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。
C 以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。
D 以下
組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】
学生によってスピードが速すぎる/遅すぎるという指摘がありました。授業の際には確認を取りながら進行していきますが、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline and objectives】
Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In Spring term, we focuses on individuals within the organization.

MAN200MA

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木　眞

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】
組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
大学の指針に基づき、オンライン（オンデマンド）、講義形式で開講する。学習支援システムを用いて資料の提示・フィードバックなどを行う。ただしコロナ情勢の変化にともなう授業方針の変更があった場合、シラバスの修正を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スティーブン P. ロビンス（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム上でレポート課題を複数回課し、評価の対象とするので、指示に従ってください。なお、課題評価の際にはテキストや講義内容がきちんと反映されていなければ評価の対象外とする。なお、課題は 2 回程度とし、中間課題 50 %、最終課題 50 %、合計 100 点で評価する予定である。
成績評価基準は以下の通りである。
A+
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる
A-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる
B-以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。
C 以上
組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。
D 以下
組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】
適切なスピードでの講義を心がけていきますので、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline and objectives】
In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

MAN200MA

戦略経営論Ⅰ

展開科目

木村　琢磨

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※本授業はオンデマンド動画により行います。
本講義では、経営学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの場となる企業の戦略形成や戦略の内容を分析・理解するためのフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、企業の経営戦略がどのようなプロセスで決定され、実行されるのか、そのプロセスでどのような課題が生じうるか、を分析・理解するためのフレームワークと分析方法を学ぶ。

【到達目標】
以下の能力を習得することにより、戦略経営に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。
・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
・戦略立案のためのデータ分析の主要な方法に関して理論的な説明ができる。
・データ分析に用いる基本的な統計用語を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業はオンデマンド動画により講義形式で行う。メイン教材（スライド動画）と予習用教材（文書ファイル）および掲示板等での Q&A を中心として進める。
第 13 回はリアルタイム配信（Web 会議）による Q&A セッションの実施を予定。
課題へのフィードバックは学習支援システム上で行う。選択式は正誤フィードバックを各自に対し行い、記述式は回答傾向に基づき要点をまとめて受講生全員に一括して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について。
第 2 回	価格戦略	利益と費用、最適価格の考え方、価格と価値の関係。
第 3 回	競争戦略	事業戦略の理論（差別化戦略、コスト・リーダーシップ戦略、集中戦略）および事例。
第 4 回	資源ベース視点	資源ベース視点による戦略の考え方、事例。
第 5 回	企業戦略	成長戦略としての多角化戦略の理論。
第 6 回	ＳＷＯＴ分析	ＳＷＯＴ分析の方法。例題による実践。
第 7 回	第１～第６回の総括・理解度確認	第１～第６回の要点の理解度を選択式回答と記述回答により確認
第 8 回	ビジネス・アナリティクス	企業経営におけるビッグデータの活用。アナリティクスとは何か。
第 9 回	Ａ／Ｂ分析	カイ自乗検定による施策効果の比較に関する理論と実践例。
第 10 回	記述的アナリティクス	非階層クラスター分析（ｋ平均法）による顧客のセグメンテーション（理論と実践例）
第 11 回	予測的アナリティクス（１）	重回帰分析による適正価格の予測（理論と実践例）
第 12 回	予測的アナリティクス（２）	ロジスティクス回帰分析による購買契約解除者の予測（理論と実践例）
第 13 回	Ｑ＆Ａセッション	第８～第１２回の要点解説と質疑応答
第 14 回	第８～第１３回の総括・理解度確認	第８～第１３回の要点の理解度を選択式回答と記述回答により確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習用教材と講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。
・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義スライド、予習用教材（学習支援システム上にて配付）

【参考書】
学習支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】
中間試験（配点 50 %）
期末試験（配点 50 %）
実施形式：選択式・記述式。参照可
評価基準：
・経営戦略の立案に関する主なフレームワークを論理的に説明できること。
・学術的定義に基づいて経営戦略の基本概念を説明できること。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できること。
・ビジネス・アナリティクスの主要な方法に関して理論に説明できること。
・データ分析に用いる基本的な統計用語を説明できること。

【学生の意見等からの気づき】
・一昨年度までは基礎的内容のみであったが、昨年度から授業外での事前学習を前提とし。より発展的な内容を追加した。そのため全体としてインプットすべき量が昨年度に比べて増えている。
・調査法（特に量的調査法）の知識がビジネスにどのように応用されるかを理解できるよう、分析の実践例を講義内容に含めた。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】
・授業内課題の提出は学習支援システムを使用して行うため、スマートフォンまたはＰＣの持参を推奨。希望者には紙媒体で行うので申し出ること。
・提出課題の回答内容において他の学生と著しい類似性が見られたときは、該当する学生に対して別途、口述試験により理解度の確認をする場合がある。

【Outline and objectives】
This course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic analytical methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

戦略経営論Ⅱ

展開科目

堀田　治

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経営学と心理学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの場となる企業の戦略形成と実行に用いるフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、マーケティング戦略の基本的考え方、消費者理解のための理論を学ぶことにより、戦略構築の理論的基盤を習得する。また、直近の事例に触れ、現実に起きている事象を捉えることにより動的戦略論を学び、さらに企業の社会的責任についての新しい潮流についても学習する。

【到達目標】
以下の能力を習得することにより、マーケティング、消費者行動および戦略経営に関する説明力、仮説構築力を養う。
・マーケティング戦略の基本概念を説明できること。
・消費者行動論の主な理論やモデルを用いて消費者戦略を説明できること。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を理解できること。
・企業の社会的責任の基本的な用語を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
初回ガイダンスはリアルタイムのオンラインで教員紹介をしたのち、講義概要を説明する。第２回以降は講義用スライドと講義資料を事前配布し、当日授業の属する週の木曜日までに小課題（出欠を兼ねる）を提出してもらう形で進める。リアクションペーパーにおける良いコメントは紹介し、全体に対してフィードバックを行う。質問はメールで受け付ける（詳細は【その他の重要事項】を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について
第 2 回	環境分析	PEST 分析／ 3C 分析／ Five Forces 不確実性の時代の戦略とは
第 3 回	ポジショニング・ビュー	ポジショニングを可視化する STP と 4P による製品戦略事例
第 4 回	マーケティング戦略	リレーションシップ・マーケティングと事例／サブスクリプションへの事業展開と事例
第 5 回	消費者認知心理	認知とは／システム１とシステム２ ヒューリスティクス／知覚リスク
第 6 回	消費者戦略 (1)	多属性態度モデル／購買意思決定
第 7 回	消費者戦略 (2)	関与と知識／認知的不協和理論
第 8 回	戦略的コミュニケーション	戦略 PR ／ SNS とインフルエンサー
第 9 回	社会的消費者行動	自己制御／単純接触効果 ステレオタイプと非購買層戦略／クチコミ
第 10 回	経営戦略 (1) IT，IoT 技術による経営戦略の近年の傾向	プラットフォーム戦略／マッチングビジネス 事例（GAFA ほか）
第 11 回	経営戦略 (2) 経営戦略論の進展	ダイナミック競争戦略論と事例 ダイナミック・ケーパビリティとは
第 12 回	業績管理 KPI と BSC	KPI マネジメント／ KPI の戦略への組み込み／事例 非財務の指標／顧客・業務プロセス、従業員の学習と成長
第 13 回	企業の社会的責任 (1)	CSR（企業の社会的責任）とは／ CSV（共有価値の創造）とは SDGs と ESG 投資
第 14 回	企業の社会的責任 (2)	コンプライアンス／フィランソロピー／企業統治 芸術支援の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自習用教材および講義スライドによる学習。
・小課題と最終レポートを書くため、資料および講義スライドの繰り返し学習による講義内容の復習。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
授業支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】
授業時の課題提出内容　配点 40 %
　平常点として小課題回答を提出する。
学期末レポート　配点 60 %
評価基準：
・マーケティング戦略の基本概念を説明できること。
・消費者行動論の主な理論やモデルを用いて消費者戦略を説明できること。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を理解できること。
・企業の社会的責任の基本的な用語を説明できること。

【学生の意見等からの気づき】
新開講科目のため省略

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】
・戦略経営論Ｉを履修済であることが望ましい。
・質問はメールで受け付け、必要に応じてオンラインで面談も行います。教員アドレスは第 1 回講義資料に記載します。
・最終レポートに加え、小課題への回答が必須です。
・小課題提出が出欠を兼ね、出席が少ない場合は採点対象外となります。

【Outline and objectives】
This course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic marketing strategies and consumer behavior theories, and some practical examples of firms. The course is designed to learn dynamic strategy theories by touching on the latest cases, and also learn about new trends in corporate social responsibility. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

経営分析論 I

展開科目

中野　貴之

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業は、貸借対照表および損益計算書等を公表しています。企業を理解するには、これらの会計報告書を読めることは必須です。この授業では、貸借対照表・損益計算書がどのように作られているのか、その基礎を学びます。さらにそれらの分析方法の基礎を学びます。

【到達目標】
貸借対照表、損益計算書はなぜ公表されているのか、またどのように作られているのか、さらにそれらの分析方法の基礎を習得することを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、オンラインで実施します。Zoom によるライブ授業とオンデマンドを併用していきますが、詳細については、適宜、Hoopi を通じて連絡するので、確認してください。なお、授業は指定テキストを用いるので、生協等を通じて購入しておいてください。また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	現代社会と会計の役割	会計の社会的な意義などについて学びます。
3	簿記・会計の基礎概念	簿記および会計の基礎概念について学びます。
4	複式簿記の基本的手続	会計の記帳、計算方法を学びます。
5	株式会社の機関	株式会社の機関について学びます。
6	日本の企業会計制度	日本の企業会計制度について学びます。
7	損益計算書 (1)	費用収益、営業損益計算について学びます。
8	中間レビュー	第 7 回までの学習内容についてレビューを行います。
9	損益計算書 (2)	経常損益計算、純損益計算、当期業績主義と包括主義、損益計算書の課題について学びます。
10	貸借対照表 (1)	貸借対照表の意義、貸借対照表項目の区分と配列、資産の部について学びます。
11	貸借対照表 (2)	負債の部、純資産の部、貸借対照表の課題について学びます。
12	財務諸表を活用する (2)	効率性、安全性、成長性分析について学びます。
13	財務諸表の分析	財務諸表分析の基礎を概観し、簡単な分析を行います。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本大学会計学研究室編『はじめての会計学（第 6 版）』森山書店

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のとおりです。
(1) 大学の教室で定期試験を実施できる場合（原則）
① （参照不可）定期試験: 90%
② 授業内の Quiz、レポート: 10%
(2) 大学の方針により、大学の教室でで定期試験を実施できない場合
① オンラインによる試験: 50%
② 授業内の Quiz、レポート: 50%

【学生の意見等からの気づき】
・抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。
・また、実例を多く取り上げ、受講者が主体的に取り組めるように工夫します。

【その他の重要事項】
・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。
・本講義は、経営分析 II の基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

【Outline and objectives】
Listed Companies publish financial statements. It is essential to be able to read these financial statements in order to understand companies. In this lesson, you will learn the basics of how the balance sheet and the income statement are made. We will also learn the basics of analysis methods.

MAN200MA

経営分析論Ⅱ

展開科目

中野　貴之

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、「経営分析論Ⅰ」の続きです。具体的な企業分析の手法の習得、また、現実的な場面への適用が主な内容です。

【到達目標】
経営分析論Ⅰの続きですが、本講義は経営分析を独力で行うことができるようになることが目標です。それには練習が必要です。したがって、経営分析論Ⅰに比べ作業量が多く、大変ですが、よりやりがいもあります。経営分析は、ビジネスパーソンにとって必須ですので、この授業にまじめに取り組めば大学卒業後もずっと使うことができる有用な知識を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行っていきますが、経営分析の演習を多く行っていきます。また、分析のレポートを作成してもらい、フィードバックをしながら、分析能力を高めていきます。このため、受講者が主体的に取り組む授業として位置づけられます。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	会計情報をめぐる制度および当事者	会計情報をめぐる法規および諸基準、ならびに、公認会計士、税理士および税務当局等の役割について学びます。
3	有価証券報告書の利用	上場企業の代表的な情報源である、有価証券報告書の収集方法と内容を理解します。
4	記述情報の分析	有価証券報告書等の記述情報（非財務情報）の分析方法について学びます。
5	収益性の分析 (1)	資本利益率を基礎として、企業全体の収益性分析について学びます。
6	収益性の分析 (2)	投下資本別に収益性分析を詳しく行う手法について学びます。
7	収益性の分析 (3)	セグメント情報の分析について学びます。
8	中間レビュー	第 7 回までの講義内容についてレビューします。
9	収益性の分析 (4)	効率性分析について学びます。
10	生産性分析	付加価値の概念および生産性分析について学びます。
11	安全性の分析 (1)	貸借対照表に基づく安全性分析について学びます。
12	安全性の分析 (2)	企業の事業リスク、財務リスクの分析について学びます。
13	会計情報と証券市場	会計情報と証券市場の関係について学びます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業外で経営分析を行うことが習得の早道です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本大学会計学研究室編『はじめての会計学（第 6 版）』森山書店

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のとおりです。
① 定期試験（参照不可）：60%
② 平常点（授業内のレポート、Quiz）（40%）

【学生の意見等からの気づき】
演習に積極的に取り組むように、レポートのフィードバックを積極的に行うようにします。

【その他の重要事項】
・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。同科目を履修済でない場合には、同時履修することを勧めます。
・経営分析の方法は、米国を中心に体系的に発展してきているため、専門性が高く、難しいと感じるかもしれません。その理解には、積み重ねが重要ですので、遅刻・欠席をしないように心掛けてください。

【Outline and objectives】
This lecture aims at mastering method of business analysis.

MAN200MA

職業キャリア論

展開科目

松浦　民恵

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①全回オンラインによる授業となります。初回とゲスト招聘の回（全体のなかで２回程度）は同時双方向型、それ以外は原則としてオンデマンド方式（音声配信型）を予定しています。
②オンデマンド方式（音声配信型）の回については、毎回学習支援システムにレジュメ（PDF ファイル）、音声データ（説明の録音）を、授業の週の月曜日中にアップします。レジュメをご覧いただきながら音声データを聞く形で授業を受講してください（音声 URL の有効期限は授業日後２週間とします。有効期限内であれば、授業時間中に限らず、ご都合の良い時に受講頂いて結構です）。
③同時双方型の回については、授業時間の５分前にオンライン接続可能な状況（Zoom を予定）としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
④計３回、授業内容の補強、もしくは授業の理解度をはかるレポートを、学習支援システムを通じてご提出いただきます。ご提出頂いたレポートに関して、３回それぞれについて、授業のなかで講評・フィードアックを行います。
⑤受講の状況やゲストのスケジュールなどによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション （同時双方向型）	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション ③レポート（１）の説明
第 2 回	社会環境変化と職業 （音声配信型）	①社会環境変化が職業キャリアに与える影響 ②社会環境変化と職業キャリアについて考える
第 3 回	デジタル革新と職業 （音声配信型）	①デジタル革新の動向 ②デジタル革新が職業に与える影響について考える
第 4 回	職業と人材のマッチング （音声配信型）	①職業と人材のミスマッチの現状 ②職業と人材のマッチングのための仕組み
第 5 回	職業と組織・倫理 （音声配信型）	①レポート（１）に対するフィードバック ②組織の中で働くということについて考える ③レポート（２）の説明
第 6 回	職業人の講話 （同時双方向型）	ゲストスピーカー（職業人）の講話と意見交換
第 7 回	日本的雇用システムと新卒採用 （音声配信型）	①日本的雇用システムの現状と課題 ②新卒採用の今後について考える
第 8 回	職業教育と職業能力評価 （音声配信型）	①職業教育、職業資格と職業能力評価の概説 ②企業における人材育成の現状と課題
第 9 回	職業キャリアに関する理論 （音声配信型）	①レポート（２）に対するフィードバック ②職業キャリアに関する主な理論の概説 ③レポート（３）の説明
第 10 回	ジェンダーと職業 （音声配信型）	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える
第 11 回	販売や営業の仕事 （音声配信型）	①販売と営業 ②営業職の仕事とキャリア
第 12 回	人事の仕事 （音声配信型）	①人事の職業観 ②人事の仕事とキャリア
第 13 回	公共的な仕事〜公務員を事例として （音声配信型）	①公務員の職業観 ②公務員の仕事とキャリア
第 14 回	授業の振り返り （音声配信型）	①レポート（３）に関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポートの執筆・提出が３回（４月末、５月末、６月末〆切）あります。レポートは各回１５００字〜２０００程度を想定しています。
本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば４時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料（レジュメ）は授業の週の月曜日中に学習支援システムにアップします。

【参考書】
阿部正浩・菅万理・勇上和史『職業の経済学』（中央経済社、2017 年）。
阿部正浩・前川孝雄『5 人のプロに聞いた! 一生モノの 学ぶ技術・働く技術』（有斐閣、2017 年）。
上記以外については、授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート３回を各３０点（計９０点）満点（各２０点標準）、リアクションペーパーやゲスト招聘時等の質問・意見交換を１０点満点（特に良いものに加算）で評価します。
レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティ、を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうかも評価対象とします）。
レポートの提出期限はそれぞれ４月末、５月末、６月末を予定しています。各月初旬にはレポート課題を告知し、学習支援システムを通じてご提出いただきます。レポート未提出は、１回でもかなりの確率で、２回に及んだ場合は確実に不可となりますので、必ず期限までにご提出頂きますようよろしくお願い申しあげます（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。

【学生の意見等からの気づき】
職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline and objectives】
This course has purposes: students obtain the fundamental knowledge about job, understand the relationship between job and society, labor markets, companies and individual persons, and then think about future career experience through gathering information about each job or sharing opinions.

ECN200MA

労働経済学

展開科目

梅崎　修

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】
ビジネスキャリアを関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、（1）テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。（2）その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。（1）はオンライン、（2）はオンデマンドでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第 2 回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第 3 回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第 4 回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第 5 回	現場主義の改善活動の理論と実証	第 4 回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第 6 回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説。
第 7 回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第 6 回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第 8 回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。
第 9 回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第 10 回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わかっちゃいるけどやめられねぇ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第 11 回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第 12 回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第 13 回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第 14 回	様々なキャリア	これまでの授業を振り返り、今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2〜3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
梅崎修・松繁寿和・脇坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内作業 (40%) と学期末のレポート (60%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。今回から、映画を使って事例を紹介し、その上で理論や実証を説明するという授業を試みる。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline and objectives】
It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並　利博

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバリゼーションやスーパー資本主義をますます加速し、GAFA などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学び、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
・地域や社会における課題の発見方法を身につける
・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・新型コロナウイルスの影響により、本授業はオンラインの「オンデマンド型」で実施します。
・具体的には、講義・討論中心の授業ではなく学習支援システムによる授業を行います。（学習支援システムによる教材の提供、課題レポートの提出、フィードバックなど）
・授業日当日に講義資料と解説資料を学習支援システムにアップロードします。
・その講義資料と解説資料をダウンロードして学習し、そこで提示された課題について課題レポートを提出してもらうことで授業を進行していきます。
・課題レポート提出は出席確認のためであり、過度な負荷にならないようにします。
・なお、提出された課題レポートについては、よく理解できている点や不十分な点を取り上げたコメントを全員にフィードバックし、授業の理解を深めてもらいます。
・そのほか、学習支援システムを通じた双方向の議論なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバリゼーション、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：地域課題を発見するツール（RESAS）	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第 13 回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第 14 回	新しい動き： AI/IoT や Society5.0、スマートシティなど	AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の学習時間は準備・復習・課題レポートを含め、各回 2 時間を標準とします。
・なお、第 3 回から第 6 回は『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキスト（教科書）を事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】

・『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者： D. ヘントン, K. ウォレシュ, J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規　2005 年 1 月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014 年 8 月

【参考書】

・『サステイナブル・コミュニティ―持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版　1995 年
・『エンジェル・ネットワーク―ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社　1996 年
・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口 典夫、ダイヤモンド社　2007 年
・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社　2006 年
・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社　2002 年
・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS ブリタニカ 1986 年

そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。
※平常点（授業での学習状況）は、講義ごとに毎回提出してもらう課題レポートの提出状況で評価します。また、最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、これを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
課題レポートの提出等は、学習支援システムから「テキスト入力」で行ってもらいます（形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません）。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえ、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料等のダウンロード、課題レポートの提出等で PC が使用可能であること（Word、電子メールなど）。新型コロナウイルスの影響により対面授業ができないため、学習支援システムを使用して授業を進行していきます。

【その他の重要事項】
シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline and objectives】
In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.
The objectives are the followings.
· Understand the citizenship
· Learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
· Be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

MAN200MA

生産システム論

展開科目

小林　哲也

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済において大きな影響力を持っている製造業は、かつて圧倒的な国際競争優位を確保していました。しかし、現在では、その競争優位を失いつつある分野も存在します。そこで、本講では、製造業とは何かを理解し、日本産業における競争優位がいかに成立してきたのかを紹介することで、日本において製造業がなぜ重要であるのかを理解することを目的とします。さらに競争優位の源泉の 1 つでもある生産システムに焦点を当てて、その内容を紹介することで、なぜ、日本の製造業がグローバル競争優位を確保できたのかを理解することを目的とします。

【到達目標】
製造業の基本的な概念を理解し、生産システム全体を見ることで、製造業が置かれているポジションを理解します。その結果としてなぜ製造業が日本において重要な産業であるのかを理解します。一方で、日本の製造業が直面している問題を具体的に解説し、グローバル経済の拡大や、少子高齢化の問題など製造業が直面する課題を例示しながら、どのような対応が必要なのかを理解することを目的とします。これらのことを理解することで、日本における製造業のポジショニングとその役割を理解し、日本経済の置かれている現状を理解し、さらに製造業が日本経済に与える影響と重要度を理解することが目標です。これによって、日本経済に与える産業の役割を理解することで、自らのキャリアを自ら考えることができるようにすることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業はオンライン上でオンデマンド方式によって進めます。具体的には、資料を配布し、その内容を皆さん自身に理解していただいたのちに、クイズに回答していただく形の授業を展開します。具体的な内容としては、いくつかの製造業を取り上げ、どのような状況にあるのか、その際の課題も紹介します。また、日本経済やグローバル経済における日本製造業が置かれている状況を解説します。さらに、製造業の競争力の源泉でもある生産システムとは何かを歴史的な視点や講師の実務経験に基づく内容も含めて解説します。以上を通じて製造業の概要と生産システムを理解してもらいます。なお、皆さんの授業への参加の状況を図る物差しとして各回に小クイズを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、製造業が置かれている状況を簡単に解説し、現在の産業の状況を理解できるようにします。
第 2 回	日本産業の変遷	日本の産業構造の歴史的変化を振り返り、その中で製造業の役割がどのように変化してきたのかを理解でいるようにします。
第 3 回	鉄鋼業	素材型産業の代表例でもあり、他の産業の基盤の 1 つでもある鉄鋼業とは何かを理解できるようにします。
第 4 回	金型産業	素材型産業の代表例でもあり、加工組み立て産業において欠かせない産業の 1 つである金型産業とは何かを理解できるようにします。
第 5 回	自動車産業	日本産業のリーディング・インダストリーでもある自動車産業の状況と競争優位の背景を理解できるようにします。
第 6 回	分業と大量生産	生産システムを理解する上で、基本的な概念となる分業とそれを基にした大量生産の基本的な概念を理解できるようにします。
第 7 回	フォード生産方式	生産システムの基本的考えであり、現在の生産システムの基にもなっているフォード生産システムを理解できるようにします。
第 8 回	大量生産方式の発展	フォード生産システムが競争優位を喪失した背景を、GM の経営手法を例に理解できるようにします。

第 9 回	日本的なシステム	日本自動車産業を例に、「日本的な経営・生産システム」とは何かを理解できるようにします。
第 10 回	製造業のグローバル展開と生産システムの移管	日本製造業のグローバル展開に伴う、日本的な生産システムの海外移転の状況やその際の課題を考えられるようにします。
第 11 回	グローバル競争環境の変化	グローバル経済の拡大によって変化した競争環境が、日本の製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 12 回	情報通信産業が製造業に与えた影響	IT 革命以降、急速に進展してた情報通信産業の発展が、製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 13 回	製造業の労働・人材育成の現状と課題	バブル経済の崩壊以降、長期化する経済の低迷によって深刻化する労働問題と少子高齢化の進展によって課題となる人材育成の問題を生産という観点から理解できるようにします。
第 14 回	競争環境の変化が日本製造業に与えた課題とその対応	競争環境の変化によって、日本製造業の競争優位の源泉に影響を与えたといわれている背景とその課題を理解できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習としては、シラバスに即して各回の授業について、新聞や雑誌、インターネットなど通じて、各種情報を仕入れておいてください。また、参考文献に目を通しておいてください。資料を事前に学習支援システムを通じて配布しますので、必ず読んでおいてください。
事後学習としては、授業後に小クイズに回答してください。授業内容の理解を測る物差しとしても利用させていただきます。さらに、授業を振り返り、内容を確認、理解しておいてください。また、疑問があれば疑問点を抽出しておいてください。標準的な予習・復習時間は 4 時間以上となります。疑問点は必ず講師に確認してください。質問は担当教員宛にメールで送っていただくか、学習支援システム内で行ってください。その後、担当教員よりフィードバックします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
必要に応じて授業時に具体的に指示しますが、さしあたり、
三菱総合研究所『日本産業読本』東洋経済新報社
経済産業省『製造基盤白書（ものづくり白書）』
経済産業省『通商白書』
大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社
ヘンリー・フォード『藁のハンドル』中公文庫
アルフレッド・スローン『GM とともに』ダイヤモンド社
フレデリック・F・テイラー『科学的管理法』ダイヤモンド社
安保哲夫他『アメリカに生きる日本的生産システム』東洋経済新報社
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社
などを事前学習として読んでおいてください。

【成績評価の方法と基準】
小クイズによる授業への参加状況 (30%)、期末レポート (70%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「産業」という経済に関係する授業ですが、経済学の基本的な枠組みを学んでいない学生の皆さんも理解できるように、経済学の基本的な考え方を具体的に授業内でも説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使って授業を行いますので、授業開始前までに利用方法を確認して、オンライン授業に参加できる環境を整えておいてください。小クイズも学習支援システムを通じて対応していただきます。

【Outline and objectives】
Manufacturing, which has a significant impact on the Japanese economy, once secured an overwhelming international competitive advantage. However, there are areas where the competitive advantage is losing now. The purpose of this course is to understand why manufacturing is important in Japan by understanding what manufacturing is and how competitive advantage in Japanese industry has been established. In addition, by focusing on the production system, which is one of the sources of competitive advantage, and introducing its contents, we aim to understand why Japanese manufacturing was able to secure a global competitive advantage.

MAN200MA

国際経営論

展開科目

森　直子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ダイナミックにグローバル展開されるビジネスとその背景とはどのようなものかの基礎知識を学びます。また、個々の経営手法を覚えることに終始せず、国際的な企業経営の理解を出発点として現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】
企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ることで、国際人としての視野・視点を獲得することをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は、基本的に Zoom を使ったオンライン授業形式で進めます。ただし、学習支援システムでレジュメと短い動画を配信するオンデマンド授業の回もあります。授業の進め方の詳細が書いてあるので、必ず第 1 回のレジュメを読んでください。全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち 1 回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、グループディスカッションをしたいと思います。毎回の授業で短い課題（テスト）への回答を求めます。その際に、授業へのリアクションも書いてもらいます。また、月に 1 〜 2 回は課題（テスト）の代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論を学ぶということ　―グローバル社会に生きるために	授業の概要説明
第 2 回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第 3 回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT 化社会以降のグローバルな企業活動
第 4 回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第 5 回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第 6 回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第 7 回	国際M＆A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第 8 回	研究開発と国際経営	R&D と立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第 9 回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第 10 回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第 11 回	国際協力と国際ビジネス	ＯＤＡ事業と国際ビジネスの関係、ＢＯＰビジネス、ソーシャルビジネス
第 12 回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第 13 回	【特別講義】「国際人」とは何か	“使える” 人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になるために
第 14 回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献について図書館等を活用して読む。新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通し、企業活動のグローバル化に関する知識を高める。可能であれば、関連の学術論文にも目を通す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にもちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】
大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学 2、ミネルバ書房
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣
江夏健一・桑名義晴編著、IBI 国際ビジネス研究センター著（2012）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス　3 訂版』同文舘出版

【成績評価の方法と基準】
（1）授業への積極的な貢献　60 %
（2）学期末レポート　40 %
※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。
※（1）の内訳：
各回の授業後に課題への回答提出　　１７%
計５回提出する「授業のまとめ」　　３０%
授業への積極的なフィードバックなど貢献点　１３%

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the background of global business unfolding all over the world. In the rapidly and dynamically transforming world business environment, companies constantly keep selecting optimal solutions for their management methods. To understand such trends and situations, students need to acquire abilities to grasp the current state of the market and society. Therefore, instead of memorizing individual business management methods for global business, students are expected to reinforce their ability to perceive the contemporary business world from a broad perspective with the understanding of international corporate management as a starting point. Students are also expected to obtain important viewpoint as the internationally minded person with learning basic history and present conditions of the globalization and complicated factors forming an international business.

ECN200MA

日本経済論

展開科目

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1990 年代末以降、日本経済はその凋落が頻繁に叫ばれ、「失われた 20 年」といった言葉がメディアを賑わせた。こうした議論は、あたかもそれまでの日本経済が一貫して順調な経済発展を遂げてきたかのような歴史理解を前提としているようにもとれる。しかしながら、戦後日本経済をめぐる議論を辿ると、高度経済成長以降、常に日本経済の危機という問題意識は繰り返し登場してきた。では実際のところ、そうした歴史的な経路をたどり、この国の経済の動向をみたときに直面する、この国の課題は何なのだろうか。本講義では、戦後日本経済の変化の文脈を理解することで、地に足をつけて今日の日本経済を観察しつづけることができるようになることを目指す。

【到達目標】
・私たちが生きる日本社会における経済のありようを、歴史的な文脈の延長上に位置付けて理解することができるようになる。
・戦後日本経済の時代ごとの特徴を明確に説明できるようになる。
・現代日本経済をめぐる様々な論評や通説に対して、自分なりの考えを論理的にまとめることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業前半 80 分を教員による講義とし、後半 20 分は教員・学生間でのディスカッションやフィードバックに充てる。2 日前を目処に、翌週の講義スライドを所定の Dropbox フォルダにアップしておくので、受講者は指定された教科書の該当箇所とあわせて、授業準備に活用してほしい。授業終了後、毎回コメントペーパーを提出してもらう。講義についての質疑応答は、Google form および Google document を用いて収集・共有する。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなう。
第 2 回	戦後改革と復興	戦時の変化と戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、経済復興の流れについて解説する。
第 3 回	高度成長のメカニズム 1	高度成長の概要と、産業政策の効果について解説する。
第 4 回	高度成長のメカニズム 2	メインバンクシステム、および大企業のガバナンス構造の確立（安定株主化）について解説する。
第 5 回	高度成長のメカニズム 3	同時期に輸出世界一となった鉄鋼業について解説する。あわせて、同時期に日本社会に現出した大量消費社会の到来、およびエネルギー革命について解説する。
第 6 回	石油危機と安定成長への転換 1	石油危機が日本経済にもたらしたインパクトについて概説し、赤字国債の問題と、同時期にこれと並行して生産台数世界一となった自動車産業について解説する。
第 7 回	石油危機と安定成長への転換 2	製造業、そして日本経済を下支えした下請制のしくみについてふれ、当時の日本企業の国際競争力について解説する。
第 8 回	バブルの形成と崩壊 1	バブル経済と同時期に進展した産業構造の転換について触れ、債券大国化していく日本を概観する。
第 9 回	バブルの形成と崩壊 2	金融自由化、金融ビッグバンについて解説する。
第 10 回	バブルの形成と崩壊 3	トヨタ生産システム、流通革命について解説する。
第 11 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 1	1990 年代以降の日本経済の長期停滞と、日本型企業システムの転換についてその概要を解説し、あわせて財政赤字の深刻化と東アジアの成長について解説する。

第 12 回	長期停滞と日本型企業システムの転換２	長期不況の苦境の中で新たなビジネスモデルを探索する日本の企業経営者、流通再編と情報化のインパクト、そして企業制度改革と企業組織の変化について解説する。
第 13 回	長期停滞と日本型企業システムの転換３	日本企業の対外進出、日本型企業システムの転換、そしてアベノミクスの制作的評価について検討を行う。
第 14 回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、あわせて期末課題について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、事前にテキストを読んできていることを前提に進める。毎回の講義内容で質問や追加の議論を必要とする場合は、教員指定の Google form を介して質問をおこなうこと。毎回の授業後にはコメントペーパーを提出することを必須とする。

【テキスト（教科書）】
橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済 [第 4 版]』（有斐閣アルマ、2019 年、2,800 円+税）

【参考書】
沢井実・谷本雅之『日本経済史　近世から現代まで』（有斐閣、2016 年、3,700 円+税）
宮本又郎・阿部武司・宇多川勝・沢井実・橘川武郎著『日本経営史　江戸時代から 21 世紀へ』（有斐閣、2007 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験：戦後日本経済の歴史的な変遷について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかを筆記試験を通じて評価する（50 %）。
中間試験：講義内容前半の理解度をチェックする。（20 %）
平常点：授業における発言、コメントペーパーの提出を評価する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】
コメントペーパーへのレスポンスを授業冒頭に行い、フィードバックとする。

【学生が準備すべき機器他】
各自、大学で付与される Google アカウントおよび関連アプリを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
Since the end of the 1990s, the decline of the Japanese economy has been frequently cited, and terms such as "the lost 20 years" have dominated the media. Such discussions seem to share the assumption that the Japanese economy has consistently achieved steady economic development up to that point. However, the history of the postwar Japanese economy shows that claims of a crisis in the Japanese economy have appeared many times since the end of country's rapid economic growth. So, what are the actual challenges facing the country when we follow such a historical path and look at the economic trends of the country? In this lecture, we aim to understand the context of the changes in the postwar Japanese economy, so that we can continue to carefully observe the Japanese economy today.

ECN200MA

産業論

展開科目

青木　成樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　**グローバル：**　**成績優秀：**○　**実務教員：**○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。
　本授業では、皆さんの労働が新たな価値を生む出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】
本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。
①我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる
②我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる
③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる
④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる
⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 3 回（第 1 回〜第 3 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 2 回（第 4 回〜第 5 回）では、世界的な分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 6 回（第 6 回〜第 11 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 2 回（第 12 回〜第 13 回）は、イノベーションについて学び、最後（第 14 回）に全体のまとめを行う。
なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後の 5 分間をとり Q % A に充てる (対面型の場合)、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形 (オンラインの場合) とし、学生との対話に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観し、同時に足元のコロナウイルスのマクロ的影響について学ぶ。
2	少子高齢化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
3	グローバル化	我が国の産業に影響を与えるもう一つの大きな要素であるグローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables) について学ぶ。
5	産業連関表から見た我が国及び地域の産業構造	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」を用いて、我が国及び地域経済の産業構造の特徴を定量的に学ぶ。
6	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
7	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
8	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。

9	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向（情報関連産業）	我が国の 20 世紀から 21 世紀にかけての成長産業である情報関連（IT) 産業の動向、とりわけ、成長産業として発展した要因について学ぶ。
11	主要産業の動向 (健康関連産業）	今後期待される成長産業として健康関連産業の動向について学ぶ。健康関連産業は、医薬品、介護、医療サービス等多様であるが、今年度は医療機器産業を中心に学ぶ。
12	イノベーション	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、SDG ｓに代表される社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型、具体的な事例について学ぶ。
13	中小企業、ベンチャー企業	イノベーションの推進の主体として、大手企業に加え特徴ある中小企業群やベンチャー企業について具体的事例について学ぶ。
14	まとめ	我が国の産業の特徴について、マクロとミクロの観点から振り返り、重要なポイントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くと理解が早いと思います。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメ（PPT) を配布致します。

【参考書】
以下、順不同 (五十音順）
①伊神満『「イノベータのジレンマ」の経済学的解明』日経 BP 社（2016 年）
②入山章栄『世界標準の経営理論』　ダイヤモンド社（2019 年）
③岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
④価値総合研究所『地域経済循環分析の手法と実践』　ダイヤモンド社（2019 年）
⑤木村公一朗（編）『東アジアのイノベーション』　作品社（2019 年）
⑥楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社（2010 年）
⑦経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
⑧経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
⑨小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社 (2010 年）
⑩小室直樹『危機の構造』ダイヤモンド社 (1976 年)、中公文庫から 1991 年に再刊
⑪田瀬和夫『SDG ｓ思考』インプレス (2020 年）
⑫ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
⑬冨山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書（2014 年）
⑭中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016 年）
⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017 年）
⑯日立東大ラボ『Society5.0』日本経済新聞社（2018 年）
⑰丸幸弘、尾原和啓『ディープテック』日経 BP 社（2019 年）
⑱宮川努『生産性とは何か―日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018 年）
⑲三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012 年）
⑳吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点　40 %
　毎回の授業のあと、授業についての感想・意見をメールにて講師あてに送り、そのことをもって出席にカウントする。
期末レポート　60 %

【学生の意見等からの気づき】
今年で本講義は 10 年目である。最も受講者が多かった 2014 年度の授業改善アンケート調査をみると、「知識が身についた」（86.2 %)、「新しい発見があった」（41.4 %)、「進路選択に役立った」（10.3 %）の回答は全学部平均（各々 72.9 %、26.6 %、4.2 %）を上回った。一方、「授業難度が適切であった」「学生間の交流があった」については全学部平均を下回っている。このことから、本年度については上記『到達目標』に掲げた 5 つの目標を意識しながら、より明確な説明を心がけ、また毎回授業の終わり 10 分程度を質疑応答の時間に充て、意見交換の場を設けたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
私は 1985 年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約 35 年に渡り国や地方行政の産業政策の調査に係ってきた。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。
①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えている。
②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline and objectives】
I think that graduating from university and working has two main purposes. One is to supply labor and obtain wages and salaries in return for use as a means of living. The other is that your workforce creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful for individuals, for companies, and for society.
In this class, you will learn about the Japanese industry, where your labor creates new value, from a variety of perspectives, such as 1) the overall picture and change of the industrial structure, 2) the characteristics and changes of major industries, and 3) the characteristics of major companies. Learn.

MAN200MA

広告ビジネス論

展開科目

宮坂　昭こ

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバルな社会において、どのような仕事に就いたとしても、これからの社会では、自分らしさを活かすことが求められています。本授業は、広告ビジネスの学びを軸としながら、自分の人生（キャリア）を自分で切り開くことができる社会人となるためのきっかけを創るキャリアデザインと広告ビジネスの学びを融合した実践的な授業です。 学生一人一人が在学中に広告（コミュニケーション）領域で働くことの価値を知り、自信を持って、卒業後の新たな多様な人生プランを歩むことができる学びを目指します。スタートアップや先進的企業、大企業の経営や働き方に拘らず、伝統産業の経営・営業策からの根源的なビジネスへの学びや会社に属さない経営者からの生き方・働き方の学びを提供することを意識しています。

【到達目標】
アクティブ・ラーニングを取り入れる学びによって、学生は以下の目標に到達することを想定しています。
① 企画構成の発想メソッドを習得すること
② 社会・文化におけるモノの見方・捉え方を身につけること
③ チームワークによって人との繋がり方を学ぶこと
④ マネタイズ、収支を意識することでビジネス視点の獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は電通出身の教員が担当して授業をコーディネートしていきます。SHIZENNECTION(※) (https://www.shizennection.com) という活動組織をベースにして、多様な外部協力者との連携を図りながら社会実践事例をもとにして、プレゼンテーションワークに学生が主体的に関与しながら進めていきます。（※）新旧多種多様な活動（現在はビジネスではない）を創出しカタチにしていくプロジェクト）以下、本授業の特徴をまとめます。
●「SHIZENNECTION のチーム」および「外部講師」を招いて授業を進めます。
● テーマに対して複数名で取り組むチームワーク作業を中心に進めます。
● 将来、広告ビジネスに携わることを希望する学生に特定することなく、幅広い知識見識が身につくように外部講師を構成します。
● 広告ビジネスの現状に関する理解を深めるために、自分らしさをインサイトするため、広告会社で実践されているワークスタイル（チーム編成）を適用して、実社会に近い体験を構成します。
● ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。
授業はオンライン（同期型）、リアルタイム双方向で実施します。
【コロナ禍、オンライン授業でやりにくいことが多々ありますが、教える私たちと学生の皆さんのお互いの力で一生、記憶にのこる授業にしましょう！】
プレゼンテーションセッションで講評することでグループの課題に対するフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①講師チーム自己紹介 ②授業計画の説明 ③全体ブリーフィングと準備：プラニング、手段としてのデジタル、チーム、タスクフォースづくりの大切さ、伝統文化産業の今などについて話します ④チーム分け：講師が履修学生をアットランダムに分けま
第 2 回	伝統 × ビジネス WITH アート実践①	文化財：世界遺産レベル寺院を想定したテーマで広告コミュニケーションの企画プロジェクトを行います。 テーマに関するオリエンテーションを行います。
第 3 回	伝統 × ビジネス WITH アート実践②	ワークの進め方に関して各チームと講師との質疑応答セッション
第 4 回	伝統 × ビジネス WITH アート実践③	グループワーク・企画の中間報告セッション ＜５月１４日までにすべてのチームが企画書を提出＞
第 5 回	伝統 × ビジネス WITH アート実践④	プレゼンテーション・セッション① （※）履修者の人数によって 3 回分のプレゼンテーションセッションの回数は増減することがあります。 講師からのアドバイスとディスカッション
第 6 回	伝統 × ビジネス WITH アート実践⑤	前回から引き続き、プレゼンテーション・セッション②を行います。 講師からのアドバイスとディスカッション
第 7 回	伝統 × ビジネス WITH アート実践⑥	引き続き、プレゼンテーション・セッション③ 講師からのアドバイスとディスカッション
第 8 回	文化 × ビジネス WITH コミュニケーション実践①	東京の老舗ＢＡＲをテーマに広告コミュニケーションの企画プロジェクトを行います テーマに関するオリエンテーション
第 9 回	文化 × ビジネス WITH コミュニケーション実践②	ワークの進め方に関して各チームと講師との質疑応答セッション
第 10 回	文化 × ビジネス WITH コミュニケーション実践③	チームワーク・企画の中間報告セッション ＜６月２６日までにすべてのチームが企画書を提出＞
第 11 回	文化 × ビジネス WITH コミュニケーション実践④	プレゼンテーション・セッション① （※）履修者の人数によって 3 回分のプレゼンテーションセッションの回数は増減することがあります。 講師からのアドバイスとディスカッション
第 12 回	文化 × ビジネス WITH コミュニケーション実践⑤	前回から引き続き、プレゼンテーション・セッション②を行います。 講師からのアドバイスとディスカッション
第 13 回	文化 × ビジネス WITH コミュニケーション実践⑥	引き続き、プレゼンテーション・セッション③ 講師からのアドバイスとディスカッション
第 14 回	最終課題と解説	最終課題の詳細については授業が始まってから説明します。 ＜ SHIZENNECTION が推進している活動のひとつ東大寺の 4.8 芸術プロジェクトのビジネス化アイデア＞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
企業や政府、各種団体、地域の主体が自らの活動のためにどのような広告コミュニケーション活動をしているのか、身近なところに注意を傾けて、物事を深く考えるように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
① 企画構成の発想メソッドを習得できたか
② 社会・文化におけるモノの見方・捉え方を身につけたか
③ チームワークによって人との繋がり方を身につけたか
④ マネタイズ、収支を意識することでビジネス視点の獲得できたか
の４点について、伝統プロジェクトのグループ課題で 20%、文化プロジェクトのグループワーク課題で 20%、第 14 回におこなう最終課題（テスト）の評価 60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの新しい講師による講義のため前年の学生意見はありません。今年度の実施によって、その意見を授業にフィードバックします。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppii や googleclasrrom を使用します。
クリッカー、web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください

【その他の重要事項】
担当教員及び外部講師は、文化やその周辺での事業活動実績のある実務家が揃っています。（※ SHIZENNECTION）担当教員が授業をマネジメントして監修していきます。担当教員は、SHIZENNECTION のメンバーの一人で元（株）電通社員、現在ブランドコンサルタントとして活躍しています。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めていきます。
※ SHIZENNECTION ： HP:shizennection.com /Instagram ： shizennection /FB ： shizennection/ ← 是非チェックしてみてください。

【実務経験のある教員による授業】
広告ビジネス業界での経験に基づいて、実践的な知見を活用した学びを提供します。

【Outline and objectives】
In a global society, it is required to utilize individuality.In this class, while studying the advertising business, students will acquire the qualifications to become a business person who can open up their own life.
This is a practical class that combines learning about career design and learning about advertising business.
We aim to help individual students learn the value of working in the advertising business, gain confidence, and pursue diverse life plans.

MAN200MA

マーケティング論

展開科目

酒井　理

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新たな商品の開発、顧客満足の向上といった企業活動においてなくてはならないマーケティングの理論を学び、実際の企業の活動を理解します。

【到達目標】
授業は、①マーケティングに関する基本的な用語を説明できる②マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する③社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する、の 3 つを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、マーケティングに関する基礎的な知識を修得することを目的とします。社会では様々な企業や事業体が活動をしています。企業や事業体は、社会に価値あるものを提供して、その対価として利益を得て継続的に存続していきます。社会に対して新しい価値を創意工夫して提供していくという活動をマーケティングというフレームワークを使って理解していきます。マーケティングの基本的な考え方やフレームワークを 1 つずつ取り上げていきます。実社会と密接に結びついた現場の学問ですので事例を出しながら説明していきます。マーケティング論の入門として、幅広く知識を修得するように身近な話題を入れながら、わかりやすく説明したいと思います。
可能な限りゲストを迎えて話を聞く機会を設けたいと考えていますが (web 上でのミーティングになります)、シラバスに書いてあるゲスト招聘が不可能になる可能性があります。状況が流動的ですので、もし可能な状況になればゲストの授業を web 上で実施します。
授業時の質問、コメントに関してはその場で回答する、あるいは Hoppii の掲示板を使ってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解します。
2	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーション（市場細分化）とターゲティングの重要性について考えます。
3	ポジショニング	競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスを説明します。
4	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていく考え方について説明します。
5	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて考えます。またアイディア発想のワークを行います。
6	コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーションについて説明します。
7	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを紹介していきます。 価格決めのグループワークでプライシングのポイントを理解します。
8	チャネル（プレイス）	どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいのか、どのようなチャネルが有効なのかを考えます。
9	消費者心理と消費者行動	消費者行動の理論的な解説とマーケティングとの関わりについて説明します。
10	顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを説明します。
11	マーケティング・リサーチの実際	ゲストスピーカーからマーケティングの実際について話を伺います。（予定：マクロミル）
12	ブランドマネジメント	ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを説明します。
13	ブランドマネジメントの実際	ゲストスピーカーからブランドマネジメントの実際の話を伺います（予定：ソニークリエイティブプロダクツ）

14	試験・まとめと解説	web でテストを実施します。 ここまでの話を総括して、これから未来のマーケティングを展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。多くの事は話で説明しますので、ノートは単に板書やスライドを写すだけではなく、自分で工夫して作成するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示しませんが、参考書に沿った授業内容となります。

【参考書】
和田充夫他『マーケティング戦略 第４版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。
フィリップ・コトラー・ケビン・レーン・ケラー『マーケティング・マネジメント基本編第 3 版』2013、ピアソン・エデュケーション。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①マーケティングに関する一般的知識を習得したか②マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか③社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか、の 3 点を試験によって評価する方法で行います。
成績評価は、web での試験 60%、授業毎の小テスト 40%の割合です。
成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
講義で使用する動画およびスライド資料の配付については　googleclassroom, 学習支援システムを使用しておこないます。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム、googlecrassroom を使用します。
クリッカー、web での小テストを実施しますので、スマートフォン、タブレット、ＰＣなど手段はいづれでも結構ですので、インターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【Outline and objectives】
Learn the essential marketing theory in corporate activities such as developing new products and improving customer satisfaction.

MAN200MA

流通・マーケティング戦略論　展開科目

小川　浩孝

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・2　｜　配当年次：2〜4 年
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで、グローバリゼーション、IT 革命、働き方改革、多様性、社会持続性への注目などが、流通・販売・マーケティングのあり方に大きな変化をもたらしてきた。さらに今回のパンデミックや近年の自然災害多発は、全ての個人・企業・組織にそれまでとは全く異なる次元の変化をもたらし、存在や活動のあり方を根本的に見直すべき状況を作り出している。そして、それらの変化のうねりはさらに加速しているように見える。そのような状況の中、どのような業種・業態・職業・地位であっても必須となる IT を軸とし、新しい流通・販売・マーケティングのあり方を全員で共に考え、変化を先取し変化とともに前に進める視点や考え方を身につける。さらに、将来実務で成果を出すのに役立つスキルの基本概念と知識・経験を習得する。

【到達目標】
① 国内外の流通・販売業の成り立ち、付随する流通戦略、B ２ B/B ２ C マーケティングの基本概念・進化の歴史を理解する。
② 流通業・販売業（あるいは企業経営）に起きている劇的な変化を、消費者としてのこれまでの経験や社会人として目指す方向と照らして理解し、将来を見通す視点と考え方を獲得する。
③ 世界普及率 No.1 と言われる EC ツール「Shopify」を用いて、実際にネットショップを立ち上げ運用するグループ実習を行い、実務家・起業家として理解しておくべき基礎的な知識と経験を身につける。
授業の中で十分理解ができるよう、都度質問に答える。実習の場合は作業していく上での質問や疑問に対して都度回答する。また実習にあたってのチームワークやリーダーシップ、成果物のクオリティーなどを EC 専門家も交えて評価することによって、学習目標が十分達成されるようサポートする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初の数回は主にテキストや資料を用いた講義形式で行う。その後は EC 専門家数名による講義とグループ学習・グループ実習を行う。各グループは 5 名程度で構成し、それぞれのグループが興味のある商品やサービスもしくは中小企業などの商品やサービスを選び、それらを販売するための EC サイトを構築し運用する実習を行う。
なお、EC サイトの構築・運用にあたっては、Shopify Japan 社員および EC 専門家によるアドバイスやサポートが受けられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・販売チャネルとは	国内外における流通・販売チャネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第 2 回	流通戦略とマーケティング（1）	流通戦略と流通におけるマーケティング活動を理解する。 EC 構築プロジェクトの概要とグループ分け。
第 3 回	流通戦略とマーケティング（2）	B ２ B と B ２ C マーケティングの共通点と相違点を理解する。

第 4 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（1）	同じ業界にあっても、成長している業態・企業と、衰退している業態・企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。
第 5 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（2）	成長企業と衰退企業の流通戦略やマーケティング戦略における共通点と相違点を見出す。
第 6 回	流通から見た E コマースの役割と実店舗	オムニチャネル概念を理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 7 回	E コマースの種類	モール・カート・海外販売などの違いを理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 8 回	E コマースの形態	BtoB,BtoC,DtoC などの流通形態を実例をもとに理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 9 回	E コマースの活用	地方や中小企業でどのように E コマースを活用できるのかを考える（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 10 回	E コマースにおける販売プロプロセス	E コマースで商品を販売していく流れを知る（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 11 回	EC 店舗のコンセプトや戦略立案	EC 開設に向けての店舗コンセプトや戦略決定のための重要なポイントを知る（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 12 回	Shopify 基本設定や構築手順の解説	世界普及率 No.1 のツールと言われる Shopify の基本設定や構築手順の説明（Shopify Japan 社員による講義と講師の解説）。
第 13 回	EC における販売チャネルの種類と運営	EC 販売チャネルの種類 (Instagram など) と実際に運営していくにあたって、どのようにマーケティングを行うか、マーケティングの重要性を理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 14 回	グループ発表とレビュー	グループ実習で作成した EC サイトの発表と専門家による講評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
EC サイトを構築するグループワークがあります。グループワークは感染拡大防止策を遵守しながらオンラインもしくはオフラインで行います。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『流通チャネルの転換戦略』V. カストゥーリ・ランガン著、小川孔輔監訳、小川浩孝訳、ダイヤモンド社
『誰がアパレルを殺すのか』杉原淳一・染原睦美著、 日本経済新聞出版
『ＳＨＯＥ　ＤＯＧ（シュードッグ）― 靴にすべてを。』フィル・ナイト著、大田黒奉之訳、東洋経済新報社
『いかなる時代環境でも利益を出す仕組み』大山健太郎著、日経 BP

【成績評価の方法と基準】
平常点　30%
EC 構築プロジェクトの過程と成果 70%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
PC、スマートフォン

【Outline and objectives】
Until now, things like Globalization, IT revolution, Work Style reform, Diversity, Sustainability have brought significant changes in Distribution/Sales and Marketing.
Pandemic and Natural disasters have brought even more substantial changes to each person/corporation/organization and forced us to change ourselves and the way we act. These changes also seem further accelerating right now.
Under such environment, no matter where to work at any position, all students are invited to think together about new way of Distribution/Sales/Marketing and acquire broader perspective to live with the current changes and lead the changes. Furthermore, they will acquire skills and knowledges that would be useful for them in the future after graduation.

MAN200MA

流通・サービスビジネス論　展開科目

酒井　理

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
流通ビジネスとサービスビジネスを理解するための知識と理論を修得することを目的とします。流通ビジネス、サービスビジネスのしくみや特徴を学問的な枠組みのなかから理解していきます。サービス経済化が進んでいく、これからの日本を含めたグローバル社会を見据えて、私たちが働くことになるビジネス環境の理解を深めます。将来を見据えて、自らのキャリアを考えていくうえで必要となるビジネス環境、ビジネス・システムを深く理解することを目指します。

【到達目標】
受講者が①流通・サービスビジネスに関する基本的な用語を説明できること②流通・サービスビジネスに関する一般的な知識を習得し、その経営のしくみを理解し説明できること③流通・サービスビジネスに関する実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
身近なところの具体的事例から流通・サービスビジネスを理解できるよう授業を構成しますので、流通ビジネス・サービスビジネスについては特段深い知識はなく、初めて触れる学生を前提としておこないます。ただし、ビジネスキャリア領域の入門科目、マーケティング論などのビジネス系の基礎的な授業は最低限履修していることを推奨します。
要所でゲストを招いてビジネスの実際を理解する機会を設けます。それにより理論と実際がどのようにつながるのかを理解していきます。
また、Web の株式売買システムを利用して上場している流通・サービス関連の企業分析を行うワークを組み込みます。特別な知識を必要とはしませんが、課題をこなすためには自宅ないし学校でインターネットにアクセスできる環境があることが前提です。
授業の質問やコメントに関しては、Hoppii の掲示板機能を使ってフィードバックします。
また、オンライン同期型授業時に全体に対してフィードバックを行います。
個人へフィードバックは課題サイトでコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	流通ビジネス全体解説（流通の役割・小売業態）	流通が社会において、なぜ必要であるのかを考えます。 小売業態とは何かを解説します。代表的な業態である百貨店（デパート）を取り上げそのビジネスの特徴について解説します。
2	流通・サービス企業研究の進め方（導入編）	株式取引システムを使った企業研究について解説します。
3	チェーンシステム	総合スーパー・コンビニエンスストアを題材にチェーンシステムを理解します。
4	SPA とサプライチェーンマネジメント	SPA のビジネスを支えるサプライチェーンのしくみとともにユニクロ、H&M のビジネスを解説します。
5	EC ビジネス	インターネットを使った流通ビジネスについて解説します。
6	流通・サービス企業研究の進め方（展開編）	株式取引システムを使った企業研究で分析を発展させるための視点を提供します。
7	サービス・ビジネス全体解説（サービスの特性とビジネス課題）	モノとの対比によって形のないサービスという概念を理解します。
8	多様なサービスビジネス（人的サービス、物的サービス）	人的サービスの特徴と課題について説明します。身近なヘアサロン、飲食サービスなどを題材に解説します。 物的サービスの特徴と課題について説明します。物的サービスの特徴と課題について説明します。ブライダルサービス、ホテルなどを取り上げます。
9	多様なサービスビジネス（コンテンツサービス、金融サービス）	映画、音楽などのコンテンツを提供するサービスの特徴を解説します。 金融サービスの特徴を解説します。
10	シェアリングエコノミー・AI とこれからのビジネス	近年、成長著しいシェアリングビジネスの特徴をシェアリングエコノミーの考え方とともに解説します。
11	株取引システムを使った企業研究成果（流通分野）の講評とプレゼン 1	流通分野の企業研究の成果を全体で共有し、講評します。
12	株取引システムを使った企業研究成果（サービス分野）の講評とプレゼン 2	サービス分野の企業研究の成果を全体で共有します。
13	株取引システムを使った企業研究成果（先端分野）の講評とプレゼン 3	先端分野の企業研究の成果を全体で共有します。
14	試験・まとめと解説	web 上でテストを実施して、授業全体のまとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。さらに流通・サービスビジネスの多くは身近に利用するものばかりです。このビジネスはどのように成り立っているのか、自分はなぜこのお店で買い物をするかを深く考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。

【参考書】
特に指示はしません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか、②流通・サービスビジネスのしくみを十分理解し説明することができるか、③社会における流通・サービスビジネスの役割を理解し、現実の商業の諸問題を流通理論に関連付けて説明することができるかを試験によって評価する方法で行います。
期末の web テスト 40%、授業ごとの小テスト 20%、企業研究レポート 40%の割合で評価します。
成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
動画や講義用スライドを学習支援システム、googleclassroom にアップロードをします。
学習支援システムやメールで質問に答えます。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムおよび googleclassroom を使用します。
クリッカー、web でのテストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
＜実務経験のある教員による授業＞
スモールビジネスのコンサルティング経験から得られた知見に基づいて、実際のビジネスにどのように理論的枠組みが応用できるかを解説します。

【Outline and objectives】
This course aims to acquire knowledge and theory to understand the distribution business and the service business.
Understand the structure and features of the distribution business and service business from an academic framework.
Focusing on the future, we aim to deeply understand the business environment and business systems necessary for thinking about your career.

MAN200MA

就業機会発見実務

展開科目

田辺　康広

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作る人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会とする。

【到達目標】
労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイヤビリティを高める機会とする。また、キャリアデザイン学部出身者として強みとなる「人のエキスパート」（という実務家）とは何か、について思索する時間も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
エンプロイアビリティやアントレプレナウアーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解する②キャリア理論で学んだ自己理解手法を演習を通じて確認し、自らのキャリア形成に資する体験とする③模擬採用面接等の体験を通じて自己理解を深める④エンプロイヤビリティや職場・チーム運営を高めるための各種スキルトレーニングをアクションラーニングメソッドを用いて行う。グループ演習が多いので出席することが必須。試験は実施（オープンブック方式：電子機器を除いて持ちこみ可）。試験問題のテーマはオリエンテーションの回で案内予定。フィードバックに関しては、学生から提出された課題や質問に対し講師は必要に応じてコメントをつけて返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	自己理解 1（自分点検の方法）	社会的成熟を果たしていくためには常に自分を点検する姿勢が必要であるという点、と点検ポイントについて理解する。
第 3 回	自己理解 2（特性因子理論より）	RIASEC の理論（ホランド）の理解を通じて自己理解への啓発的体験とする。
第 4 回	自己理解 3（発達理論より）	「ライフライン」（スーパー）ワークシート記入を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験とする。
第 5 回	自己理解 4（トランジションの対応として）	4S 理論（シュロスバーグ）を背景に、具体的事例（ケース）を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解への啓発的体験とする。
第 6 回	職業理解 1（採用）	採用に際して重要視しているものを日米で比較し、理解する。また、創業を志す人の特性についても思索する。
第 7 回	職業理解 2（職務）	ジョブ（職務）の概念を理解し、ジョブ（職務）を中心として人事制度ができあがっていることを理解する。
第 8 回	職業理解 3（組織）	組織とは何か。組織を構成する 3 要素とは何か。活性化している組織とそうでない組織を分けているものは何か、などについて理解する。
第 9 回	職業理解 4（職場コミュニケーション）	職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解する。
第 10 回	一歩先行く就活 1（応募書式）	応募書式記入のポイントを記入演習を通じて理解する。
第 11 回	一歩先行く就活 2（説明会、グループ討議）	説明会での姿勢や態度、行動と「グループ討議」のポイントを理解する。
第 12 回	一歩先行く就活 3（グループ面接）	「グループ面接」のポイントを理解する。
第 13 回	一歩先行く就活 4（個人面談）	自己を語るうえで気をつける点を理解する。
第 14 回	振り返り	１３回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティは高まったか、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業の後、課題を出し提出していただきます。本授業の準備学習・復習時間は計1時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
仕様教材は格納してあります。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験、および課題提出による。
期末試験はオープンブック方式（電子機器以外は持ちこみ可）で、論文 2 問です。テーマは第 1 回目の授業でお知らせします。
配点は設問 1 (満点 60 点)、設問 2 (満点 40 点) とし、計 100 点満点として採点します。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業（オンディマンド方式）を基本とします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
キャリアデザイン学部は、一人ひとりが自分の持つ価値観を探索したり、自分の強い部分や弱い部分を素直に見つめたりすることを通して、強い自分を発見する、強い自分を作ることを目的にしています。そのために重要なことは自分を理解することです。加えて、未来へのイマジネーションを働かせることです。今、未来が見えていなくても大丈夫です。学生時代にもがき、悩み、思索する体験こそ、意義や意味があるのです。キャリアデザイン学部は「社会における自分の役割は何か」「そのために何をすべきか」を考える機会を提供します。そのような機会や環境を活かして、時代認識を持ち、強くてしなやかな自分をプロデュースしてください。専門性はあとから自ずとついてきます。そしてこのような人材こそ、激動の時代に立ち向かう現在の企業や教育機関が渇望している人材なのです。信頼できる自分に出会い、時代が求めているキャリアデザイン学部の卒業生としての誇りを持って社会に巣立っていっていただきたい、と考えています。

【Outline and objectives】
This program provides an opportunity to think about "What is the difference between those who increase job opportunities and those who do not?" and "Who creates business opportunities?

SOC200MA

キャリア研究調査実習 E（幸福論）

展開科目

小塩　靖崇

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア調査実習の中で、幸福（ウェルビーイング）を題材として量的調査を学びます。
キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域ですが、いずれの分野でも、幸福（ウェルビーイング）をどのように捉えるかは、中心概念として共通しています。本講義を通して、キャリアデザイン研究において、量的調査を具体的に実践するためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1) 先行研究の調べ方、仮説・リサーチクエスチョンの立案に関するスキルを獲得する
(2) 質問紙を作成し、簡単なデータ収集と分析のスキルを獲得する
(3) 得られた結果の解釈に関するスキルを獲得する
(4) 上記 (1)-(3) を実践的に学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
個人またはグループでの実習となります。前半は、教員の説明により基本的な理論などの理解を目指します。その後、学生が教科書の 1 章や論文 1 本を担当して話題提供としてプレゼンをするなどしてもらいます。授業内のディスカッションでは、具体例を示し、丁寧に説明します。
リアクションペーパー提出や課題等は、その翌週以降の授業で触れるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	幸福（ウェルビーイング）の定義 なぜ研究方法を学ぶのか
第 2 回	健康行動：基礎	健康行動の理論、研究、実践の概要
第 3 回	個人レベルの健康行動理論、モデル（1）	個人に焦点を当てた健康行動理論（1）
第 4 回	個人レベルの健康行動理論、モデル（2）	個人に焦点を当てた健康行動理論（2）
第 5 回	個人レベルの健康行動理論、モデル（3）	個人に焦点を当てた健康行動理論（3）
第 6 回	個人間における健康行動理論（1）	健康行動の個人間影響に関するモデル（1）
第 7 回	個人間における健康行動理論（2）	ソーシャルネットワークと健康
第 8 回	個人間における健康行動理論（3）	ストレス、コーピング、健康行動
第 9 回	健康行動変容のコミュニティモデル（1）	グループ、組織、コミュニティレベルのモデル
第 10 回	健康行動変容のコミュニティモデル（2）	公衆衛生的介入の実施、普及及び拡散について
第 11 回	健康行動変容のコミュニティモデル（3）	メディア環境におけるコミュニケーションと健康行動
第 12 回	研究と実践における理論の活用（1）	研究と実践における理論の応用・イントロ
第 13 回	研究と実践における理論の活用（2）	プランニングモデル
第 14 回	研究と実践における理論の活用（3）	ソーシャルマーケティング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
下記ウェブサイトを参照する
https://sanita-mentale.jp/material/

【テキスト（教科書）】
木原雅子／加治正行/木原正博著　『健康行動学：その理論、研究、実践最新動向』　2018 年　メディカル・サイエンス・インターナショナル
一般社団法人日本健康教育学会『健康行動理論による研究と実践』
下記ウェブサイトを参照する
https://sanita-mentale.jp/material.html

【参考書】
下記ウェブサイトを参照する
https://sanita-mentale.jp/material.html

【成績評価の方法と基準】
「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」: 50%
「レポートや課題の提出」: 50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to understand quantitative research methods. The educational material will cover topics about well-being and mental health. Well-being is a common and important concept in various research/practice fields.

SOC200MA

キャリア研究調査実習Ｆ（まちづくり論）

展開科目

大西　未希

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、地域社会においてさまざまな課題を解決する「まちづくり」の在り方が注目されている。地域に根ざした課題を発見するためには、まずはつぶさな視点で街を調査すること、そのデータ検討し、課題を浮かび上がらせることが重要である。そこで本授業では「まちづくり」をテーマとした社会調査（質的調査）のプロセスを学び、実践的な能力を身につけることを目指す。

【到達目標】
(1) 質的調査の調査デザイン、調査手続きに関するスキルを獲得する。
(2) 考現学、参与観察の手法について説明でき、実践するスキルを獲得する。
(3) 対象地域において適切な調査デザインを採用し、調査を進めることができる。
(4) 対象地域への調査結果からまちづくりの提案を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と、個人またはグループでの実習を取り合わせて行う。
演習講義なので出来る限り遅刻欠席しないこと。グループディスカッションなどで参加を促す。参画度も授業評価対象。
・演習：提示された演習課題（主に観察調査）を期限までに行い、学習支援システムやメールなどの方法で提出。提出された課題は講義内で扱ったり、講師からフィードバックする。
・フィードバック：学習支援システムなどを利用して講師からのお知らせ、補足資料提示などを行う。それを元に予習・復習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の到達目標、テーマ、概要、方法 ※アンケート実施
第 2 回	質的調査の概要	質的調査と量的調査の調査法の違い、質的調査を元にした研究の事例、モバイル端末を用いたデータのとり方
第 3 回	質的調査の方法①モバイル端末を使ったデータ取得	前回の演習のフィードバック、フィールドノートのとり方、考現学の手法
第 4 回	質的調査の方法②フィールドノート	前回の演習のフィードバック、フィールドノート清書版の書き方、データの検討
第 5 回	質的調査の方法③スケッチ・メモ	路上観察におけるスケッチやメモのデータを用いた研究成果
第 6 回	質的調査の方法④参与観察	参与観察の手法、ラポール、現場へのアクセス権について
第 7 回	質的調査の実践①調査デザイン	質的調査における問いのたて方／問いを鍛える
第 8 回	質的調査の実践②データ検討	データセッションの実践／データの整理
第 9 回	質的調査の実践③調査の手続き	調査対象地域の選定方法、アポイントメントの取り方、依頼書の書き方
第 10 回	質的調査の実践④事前調査	文献や既存の資料の調査、地域の歴史等事実関係の整理、作業仮説の立て方
第 11 回	質的調査の実践⑤調査デザイン	講義で学んだ手法を用い質的調査の調査デザインを行う
第 12 回	質的調査の実践⑥実査	特定の地域を対象に質的調査を行う
第 13 回	調査結果の発表①	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」をテーマにした構想を発表する（1回目）
第 14 回	調査結果の発表②	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」をテーマにした構想を発表する（2回目）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で実習課題が課されることがある。
授業外に調査実習を行うことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし。講義内で資料を配布します。

【参考書】
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク- 書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社
前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編（2016）『最強の社会調査入門――これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 20% 授業内課題： 30% 最終課題： 50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
- パソコンを使用するため、貸し出し用でよいのでノートパソコンを持参の上講義に出席すること。
- スマホを利用する回がある。

【その他の重要事項】
まちでの物理的なフィールドワーク、まちあるきを行うことに制限のある状況です。
この事態をふまえ、質的調査の基本的な技能を鍛えるための資料の読み込みやレポート提出、
家や大学周辺を立ち歩いての観察調査を中心に演習していきます。３密を避けた散歩は今のところ制限されたものではないので、できればこの方法でいきたいです。もちろん、ご自身の体調や事情によるものでもありますので、ご相談ください。
制限された中で暮らす私たちの生活は、地続きに街とつながっています。例えば、どんな張り紙があるでしょうか。屋外には何が置いてあるでしょうか。ゴミ捨てのルールをどんな方法でアナウンスしあっているでしょうか。これはほんの一例ですが、落ち着いて家の周りを見るだけでも、フィールドワークはできます。直接人と向き合えない中で、人々の共同生活がどのように人々によって動かされているか。それはまちづくりを考える上で非常に興味深いテーマとなります。
演習の内容は、この講義の受講生のみでシェアします。人びとの個別具体的な暮らし、営みを丁寧に観察しましょう。そこから、人びとの暮らしと街との関係にもフォーカスし、街と人びとのどのような関係性があり得るのか、考える時間にしたいと思います。
【履修に関する諸注意】
- 演習授業のため、基本的に遅刻欠席は原則 NG。
- 欠席した場合は、授業支援システムから講義資料を確認し、演習を各自行っておくこと。
- 授業外で行う課題もあります。締め切り厳禁。
- 提出された課題を授業内で扱うことがあります。
- 不明点は大西まで質問してください。

連絡先：大西　未希　miki.onishi.35@hosei.ac.jp

【キャリアデザイン学部より】
この授業は，受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合，抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】
Qualitative research involves the collection and rigorous analysisof observations,interviews, and other records ofhuman activity so thatwe can cometo aricher
understanding of structures, processes, and perspectives that drive or shapehuman behavior. We will also practice some of the activities associated withexecuting a qualitativeresearchstudy relevant to community development.

SOC200MA

外書講読Ａ（ライフ）　展開科目

門脇　仁

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の情報をいかに読み解き、研究やビジネスに活用するか。それにはまず、外国語の資料を正確かつ効率的に読みこなすスキルが必要となる。この講義では、海外ニュース、インターネットサイト、報告書、映像、広告、ルポルタージュなどの英文を毎回１本ずつ取り上げ、その訳読を通して、外国語による情報分析や調査の基礎的ノウハウを習得する。また、音声教材の使用によってリスニング能力も高め、耳から得られる海外情報の活用にも慣れる。

【到達目標】
外国語のパッセージを理解し、地球規模の情報を手際よく収集できる能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、パワーポイント資料によるレジュメを使って授業を行う。オンライン授業の期間は、レジュメの各ページ下のノート欄に、通常の授業で話すことを要約して記載しておく。それをよく読み、各頁の要点や図表も理解しながら読み進め、練習問題も解いてみること。また、Ａ４版１枚程度の平易な英文資料を次回授業までの課題文とする。翌週の授業でその資料の訳読を示し、英語による情報の収集と理解についての解説も加える。以上２種類の教材は、学習支援ツールの「教材」のボックスに毎回アップしておく。また、情報を耳から吸収することにも重点を置き、インターネットで入手できる音声テキストも随時紹介する。さらに外国語学習法も併せて指導するので、文法や語彙の復習・再強化を目的とする学生も受講可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
2	インタビューの英語	国際舞台で活躍する人々の英語インタビューをテキストに、聴き取りと読み解きの重点を学ぶ。
3	海外の情報ソース	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計に基づく一次情報のソースを知り、活用する方法を身につける。
4	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチについて考察した文章を読み解く。
5	ルポルタージュの英語	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
6	字幕の英語	映画やニュースの字幕を活用し、音声と文字を同時に活用しながら情報収集をするコツをつかむ。
7	ラジオの英語	VOA Special English や CNN Student News をテキストに、音声情報の活用方法を身につける。
8	語彙・読解力・リスニング力の相乗効果	音声の導入で語彙を増やし、同時に速読力も高めるためのトレーニング方法を解説。
9	ネイチャーライティングの英語	自然描写の中に思索と想像力の根源を探究するネイチャーライティングの鑑賞方法。Annie Dillard の Teaching a Stone to Talk を使用。
10	広告媒体の英語	商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
11	TOEIC/TOEFL の活用法	ETS（Educational Testing Service）が行なう英語試験 TOEFL iBT や TOEIC L&R を参考に、英語による情報伝達の基本を学ぶ。
12	海外に紹介された日本	日本の伝統文化が英語でどのように紹介されているかを見ることにより、海外における異文化理解の現状と課題を展望する。
13	個人発表①	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
14	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。授業支援システムに課題文を掲載することもあるが、毎回ではないので、授業には必ず出席すること。

【テキスト（教科書）】
各回の授業で資料を配布。

【参考書】
『エコカルチャーから見た世界ーー思考・伝統・アートで読み解く』（門脇仁著、ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験 50%、平常点 50%。特にリアクションペーパーの内容を重視。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの方法についての分析的な解説が参考になるという学生が多いので、今年度も取り入れる。また、映像のナレーションやラジオ番組といった英語音声も併せて活用して行く。

【学生が準備すべき機器他】
PC（教室への持参は不要）

【その他の重要事項】
背景知識や参考事例をなるべく多く用いて、分かりやすい説明に努めるので、受講者も積極的に授業に参加すること。

【Outline and objectives】
How can we understand information around the world and make use of it for our study or business? The most important process for that is to acquire ability to read foreign documents correctly and efficiently. In this lecture, we will pick up an English passage to read each week, and learn how to research or analyze information in foreign language. In addition, we will introduce audio materials in order to improve our listening skill and be used to thinking, understanding or learning through spoken English.

SOC200MA

外書講読Ｂ（ライフ）　展開科目

門脇　仁

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】
英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEIC スコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回Å４版１～２枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
第 2 回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第 3 回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第 4 回	インタビューを読む	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第 5 回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第 6 回	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第 7 回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 8 回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第 9 回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第 10 回	プレゼンテーションの聴き方	TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、よく用いられる表現などを知る。
第 11 回	TOEIC の活用法	TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第 12 回	メッセージを読み解く	昨年ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーチストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達のメカニズムを探る。
第 13 回	広告の英語	海外の商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第 14 回	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で配布するレジュメと課題文がテキストとなる。

【参考書】
グローバルな問題や情報へのアプローチについては、下記の書物をサブテキストとし、授業で指定のあった回に持参すること。
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験 (50 %)、平常点（50 %）
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるので、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
教室設置の PC、プロジェクター、DVD プレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】
全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】
課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline and objectives】
How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

佐藤　恵

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式／オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。
初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史的変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第 3 回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第 11 回	歴史と社会を見る目（1）	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第 12 回	歴史と社会を見る目（2）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第 13 回	歴史と社会を見る目（3）	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第 14 回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験もしくは期末レポート（７０％）、平常点（３０％）。
期末試験もしくは期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、試験もしくはレポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
春学期末の時期に、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、試験かレポートかを決定し、学習支援システムにてお知らせいたします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】
Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤　恵

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式／オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。
初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは○○が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点（1）	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点（2）	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆的生活の様相について理解する
第 12 回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第 13 回	歴史と社会の再生産	第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第 14 回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験もしくは期末レポート（７０％）、平常点（３０％）。
期末試験もしくは期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、試験もしくはレポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
秋学期末の時期に、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、試験かレポートかを決定し、学習支援システムにてお知らせいたします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】
How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

SOC200MA

家族論

展開科目

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】
本講義の目標は、２つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・ＤＶＤ・ビデオ教材などを使用する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。なお、2021 年度はオンライン形式での実施予定であり、オンデマンド型とリアルタイム型を併用する予定。初回から学習支援システムを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生” から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生” から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『親になれない親たち』（斎藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】
・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009 年、ミネルヴァ書房）
・『論点ハンドブック　家族社会学』（野々山久也編、2009 年、世界思想社）
・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度 (40%)・小レポート (10%)・期末試験 (50%) と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】
受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

【Outline and objectives】
This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society.

SOC200MA

若者文化論

展開科目

玉川　博章

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在社会において、エンタテイメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の 1960 年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンターテイメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】
日本の 1960 年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
今年度はオンライン授業となり、オンデマンド形式で授業をします。動画ないし資料や論文の各自の購読を組み合わせた形態を予定しています。基本的に講義形式（のオンライン化）となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。また、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、代表的な内容等を次回・次々回に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション メディアと若者文化（サブカルチャー）	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第 2 回	文化と消費⊠消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第 3 回	物語消費論	大塚英志による 1980 年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第 4 回	80 年代のバブル・消費文化	1970〜80 年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第 5 回	80 年代における「オタク」と消費文化	1980 年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と島宇宙化・若者文化の細分化について
第 6 回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第 7 回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第 8 回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960 年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第 9 回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80 年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第 10 回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980 年代〜2000 年代のアニメ・マンガについて
第 11 回	サブカルチャーにおける文化と趣味と消費	ネット時代における若者文化について、これまでの議論を総括しつつ考察する
第 12 回	日本のサブカルチャーとしてのアイドル	アイドル文化が戦後〜現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第 13 回	コミュニーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	モノから体験、コミュニケーションへと変化する消費と若者文化について
第 14 回	まとめ サブカルチャーと後期近代	これまでの授業内容の整理と発展的議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】
原則的に資料を配布する予定。

【参考書】
大塚英志『物語消費論』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50 %＋試験（または期末レポート）50 %
試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはなし

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド方式の授業に対応出る環境はあたりまえですが必須。

【Outline and objectives】
Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption. In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

SOC200MA

世代間交流論

展開科目

安田　節之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世代間交流の考え方と役割と取り組みについて学び，地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。

【到達目標】
①世代間交流の背景と活動のあり方が分かる。
②地域や社会の課題と連動した世代間交流の意義が分かる。
③世代間交流プログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において，これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では，世代間交流の背景にある考え方をまず学び，それがどのような肯定的な効果をもたらすことが可能なのかについて検討する。そして，新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について世代間交流プログラムという視点から考える。演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。この授業はオンライン（リアルタイム型）での実施を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第 2 回	理論的背景①	学際的視点から世代間交流を学ぶ（事例：駄菓子屋）。
第 3 回	理論的背景②	世代間交流におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第 4 回	理論的背景③	多様な交流のあり方とアイデンティティ（事例：シェアハウス）。
第 5 回	理論的背景④	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から捉えた世代間交流についてを学ぶ。
第 6 回	実践的課題①	世代間交流の視点から社会課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第 7 回	実践的課題②	世代間交流のために必要なコミュニケーション技法を学ぶ。
第 8 回	世代間交流プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第 9 回	世代間交流プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みから世代間交流プログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第 10 回	世代間交流プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第 11 回	世代間交流プログラムの評価①	世代間交流のプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第 12 回	世代間交流プログラムの評価②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定)。
第 13 回	世代間交流プログラムの評価③	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料等を使用する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために (ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 (50 %)，グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30 %)，授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)(20 %) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline and objectives】
This class focuses attention on understanding intergenerational theory and methods of developing programs related to intergenerational issues in the communities that we live.

SOC200MA

身体表現論

展開科目

叶　雄大

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演劇的手法のエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。また様々な表現方法を体験することで、コミュニケーションについて考える。

【到達目標】
感性と感覚を磨き、自己発見・他者理解・想像・コミュニケーションの力を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。 ・課題等の提出・フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と全体の流れ等の概要を説明。
第 2 回	ウォーミングアップ	表現をするための身体と心のコンディションを整えるエクササイズ。
第 3 回	身体・感覚①	身体をつかった表現を体験。
第 4 回	身体・感覚②	感覚の一つを遮断する事で他の感覚に集中するエクササイズを体験。
第 5 回	身体・感覚③	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験しグループでの創作を行う。
第 6 回	コミュニケーション教育とは	小学校や中学校での表現活動プログラムの講義。
第 7 回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験
第 8 回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自身の特徴を知る
第 9 回	インプロヴィゼーション①基礎	見立て遊びや創作の基本などのインプロヴィゼーションワークショップを体験。
第 10 回	インプロヴィゼーション②言語・文章（主に座学）	言葉の表現と劇作法の基礎エクササイズ。
第 11 回	インプロヴィゼーション③非言語	言語を用いない表現を体験しグループ創作を行う。
第 12 回	グループ創作	グループごとに作品テーマを決め、短いパフォーマンスを創作。
第 13 回	グループ創作：発表	グループごとに創作した作品を見せ合い、話し合う。
第 14 回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題（３０分程で課題に対して自由筆記のレポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業内にフィードバックペーパーを提出。返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。記録を元に授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない　必要に応じて適宜資料を配布。

【参考書】
特に使用しない　必要に応じて適宜資料を配布。

【成績評価の方法と基準】
実技中心の授業のため、原則として1/5以上欠席すると単位取得は不可とする。授業への参加姿勢７０％　レポート３０％

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】
動きやすい服装で参加のこと (体操着・レオタード等の着用の必要はない)。 授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。

【その他の重要事項】
頭で考えるよりも体験を通して気がついた事、感じた事を元に自分自身の表現方法を発見していきましょう。 なお、教室のサイズにより、受講者数を制限 (選抜) することがあります。履 修希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline and objectives】
Beginner level of 'Drama in Education'.
Experience various expression methods.

SOC200MA

地域文化論

展開科目

緑川　岳志

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会がこれから課題となってくることは何かについて、様々なデータや研究を通じて、一緒に探っていきます。特に歴史、経済、社会、法律の各視点から、生活者の変化、文化の変容を見つめます。授業に参加される方には、それぞれ自分の住んでいる市区町村の「地域政策課長」になって、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち３回となります。対象は、日本国内になります。

【到達目標】
自分の住んでいる街の地域政策をマクロ、ミクロ視点で理解することで、これから必要になる地域文化施策はなにかを提言することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講座は、50 名以下のため対面で行う予定です。
社会環境の状態に合わせてオンラインに切り替える場合があります。
学生は、自分の住んでいる市区町村の地域政策課長になっていただき、毎週レポートをまとめ授業に参加いただきます。すべての分析や検討について、地域政策課の課長としての意見が求められます。レポートについては、各自の発表後、授業内でフィードバックを実施します。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＜講義形式＞本講義は地域文化施策をする当事者になって参加をすることが前提であることを中心にガイダンスを行います。
第 2 回	地域文化の歴史と現在	＜講義形式＞地域文化はだれのためのものかを歴史を振り返りながら確認していきます。
第 3 回	地域文化を残す、地域文化を創る	＜講義形式＞地域文化の創成がどのように生まれて、どのように継承されてきたかを確認します。
第 4 回	地域コミュニケーションの成り立ち方	＜講義形式＞地域文化施策に必要な広報活動および生活者同士のコミュニケーションの活性化施策を歴史背景も踏まえて確認します。
第 5 回	地域の課題：高齢者福祉、医療から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、福祉や医療の問題点と歴史的視点も入れてその施策について話し合います。
第 6 回	地域の課題：教育、スポーツから文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、教育やスポーツ振興の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 7 回	地域の課題：防犯、防災から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域の安心安全にまつわる問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 8 回	地域の課題：外国人、異文化住民から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域に生活する外国人との異文化交流の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 9 回	地域の課題：財源の確保	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策を行う際の重要な財源を確保していくアイデアを考えます。
第 10 回	地域の課題：地域文化の広報施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策の広報活動について歴史的視点も入れて話し合います。
第 11 回	SECI モデル（暗黙知と共有知）の活用について	＜講義形式＞地域文化施策に必要な知の共有化について、SECI モデルについて習得します。
第 12 回	地域文化ランキングの指標づくり（グループワーク）	＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りをしていただきます。
第 13 回	地域文化ランキングワークショップ（グループワーク）	＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りの発表資料を作成いただきます。
第 14 回	期末・まとめ	＜最終レポートの提出＞担当した地域の課題と解決策について提言を行います。（レポート型）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が住んでいる市区町村の施策やデータを事前に調べて参加します。
そのため、セッションおよびグループワークの回は、毎回宿題が課されます。宿題のプレゼンテーションがあり、10 月、11 月のタイミングは特に分量が増えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】
「実践ソーシャルイノベーション - 知を価値に変えたコミュニティ・企業・NPO」
著：野中 郁次郎 出版社: 千倉書房

【成績評価の方法と基準】
講義への参加および期末試験とワークショップの内容で評価します。
・平常点： 35 %
・セッション＆ワークショップ： 55 %
・期末試験： 10 %（期末試験はなく、レポート提出となります）

【学生の意見等からの気づき】
講師は、リクルートや毎日新聞社で地域活性化事業を行ってきた実業家です。他大学では、社会実装を研究テーマとしてマーケティング領域を中心に教員としても従事しています。
論文やネット情報ではなく、リアリティのある現場の話を交えながら講義やワークショップを進めます。
なお、本講座は、土曜日開講で課題・宿題も多いため受講者数は多くありませんのでゼミナール形式でワークを進めております。
受講者数が少ない場合は後半のセッションの「グループワーク」を個人ワークに変更します。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（パソコン）およびパワーポイントや Keynote といったプレゼンテーションソフトが必須となります。

【その他の重要事項】
リアルの会議を想定したワーキングを行いますが、講義自体はオンラインで行います。考える力を養いますので、毎度の宿題と講義への出席が必須となります。

【Outline and objectives】
We will explore what the community is going to be in the future through various data and your research.
In particular, from the viewpoints of history, economy, society, and law, we look at changes in people, changes in culture.
In this lesson, we will become the "Regional Policy Division Manager" of the municipalities where you live and speak and group work.

SOC200MA

アイデンティティ論

展開科目

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的である。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。

【到達目標】
受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる予定である。学習支援システムに各回の指示を掲載するので、各自で確認の上、課題を提出するという形式で行う予定。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明する。
第 2 回	アイデンティティ研究の諸相	アイデンティティに関するこれまでの主な議論を紹介する。
第 3 回	アイデンティティの形成・発達	発達心理学の観点からアイデンティティ及びモラトリアムについて解説する。
第 4 回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューする。
第 5 回	社会的アイデンティティ（グループダイナミックス）	集団の一員となることで生じるアイデンティティの変化が、社会的促進・抑制や集団思考に与える影響を解説する。
第 6 回	社会的アイデンティティ（協力・援助）	援助行動における自己像と社会的アイデンティティによる促進効果について、これまでの研究成果を解説する。
第 7 回	社会的アイデンティティ（集団間関係・①）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程及びその解決に関する研究成果を解説する。
第 8 回	社会的アイデンティティ（集団間関係・②）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程及びその解決に関する研究成果を解説する。
第 9 回	政治とアイデンティティ	投票行動や政治的態度、社会的信念などに対するアイデンティティの影響について解説する。
第 10 回	文化とアイデンティティ	相互協調的自己と相互依存的的自己など、自己とアイデンティティに関する文化差と、それによって生じる人間関係への影響について解説する。
第 11 回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢（例えば世代論）等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説する。
第 12 回	過激化とアイデンティティ（1）	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第 13 回	過激化とアイデンティティ（2）	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第 14 回	まとめと総括	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】
脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】
本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる予定。課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で 50 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）50 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
一部課題は windows ＰＣを利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。

【Outline and objectives】
Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

SOC200MA

余暇集団論

展開科目

熊谷　智博

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの日常生活、そして人生において「余暇」とはどのような意味や機能があるのかについて、単なる個人的経験としてだけでは無く、社会集団的活動としての側面も交えて解説する。更には余暇に対する心理学的研究法を紹介し、心理的メカニズムからの理解を深め、特に観光旅行に焦点をあて、余暇研究の具体的な応用方法について解説する。

【到達目標】
人生における「余暇」について、日本における活動の現状、考え方の変遷について学ぶ。更には余暇活動を研究するための理論と方法について解説し、将来における余暇活動の発展に利用可能な知識の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本年度はオンデマンド型オンラインでの開講となる。具体的実施法法については学習支援システムでその都度提示する。授業各回における課題の提出を必須とする。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第 2 回	余暇とはなにか	余暇の種類と現状について解説する。
第 3 回	余暇と社会	人々の社会生活における余暇の意義について解説する。
第 4 回	余暇に関する諸理論	余暇に関する研究のなかで、代表的な理論について解説する。
第 5 回	余暇の心理①	余暇に関する心理のうち、動機と満足に関する知見を解説する。
第 6 回	余暇の心理②	余暇活動が持つ発達と社会化への影響について解説する。
第 7 回	余暇の心理③	余暇活動とパーソナリティの関係について解説する。
第 8 回	余暇の心理④	余暇活動から得られる「利得」の側面について解説する。
第 9 回	余暇の心理学的研究法	余暇に関する研究法として、心理学ではどのようなやり方があるか、例を挙げて解説する。
第 10 回	観光旅行の研究法	余暇活動のうち、観光旅行に焦点をあて、どのように研究可能であるかを解説する。
第 11 回	観光旅行の動機	観光旅行を行う人は、どのような動機を持っているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 12 回	観光旅行の意思決定	観光旅行の計画・実施の際にはどのような意思決定が行われているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 13 回	観光旅行での活動と経験	観光旅行ではどのような活動が行われ、それが人々に同様な経験して記憶されるのか、研究結果に基づいて解説する。
第 14 回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】
瀬沼克彰・園田碩哉（編）日本余暇学会（監修）「余暇学を学ぶ人のために」世界思想社、2004

【成績評価の方法と基準】
本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる。課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で 50 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）50 % の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
一部課題はＰＣが必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【Outline and objectives】
Students will learn theories concerning "lecture" from social psychology and sociology perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods of the lecture study.

SOC200MA

ＮＰＯ論

展開科目

山口　佳子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＮＰＯは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて 大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのＮＰＯが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに問題を抱えています。
本講義では具体的な事例を通して、ＮＰＯ活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】
ＮＰＯ／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。今期はオンラインでの実施となるためグループワークは行わず、ワークシート型の課題を通してＮＰＯの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めたオンデマンドでの講義を実施する予定です。講義ではリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。リアクションペーパーへのフィードバックは毎回講義内でいくつかとりあげコメントとして返しますが、個別の質問等にもできるだけ対応したいと思います。その他、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、オンラインでのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。なお、ゲスト講師による講義は、場合によってはリアルタイムで行う可能性がありますが、その場合は事前に参加者の確認をとるようにつとめます。
基本的に、講義の内容、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ＮＰＯの基礎知識	ＮＰＯの意味や意義、ＮＰＯとＮＧＯの違い、非営利の意味などについて理解する。
第 3 回	ＮＰＯの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、ＮＰＯの社会的役割について理解する。
第 4 回	コロナ禍におけるＮＰＯの活動について	コロナ禍におけるＮＰＯの活動実態と社会的ニーズについて紹介し、その具体的な活動について理解する。
第 5 回	市民活動やＮＰＯの現在	市民活動やＮＰＯ、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第 6 回	ＮＰＯと行政との協働①	ＮＰＯと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 7 回	ＮＰＯと行政との協働②	実際にＮＰＯで活動する人物の話を通して、具体的事例をもとに、ＮＰＯの社会的役割を考える。
第 8 回	アートにおけるＮＰＯの現在①	アートを通したＮＰＯの活動を学ぶとともに、具体的事例を紹介し、社会的役割について考える。
第 9 回	アートにおけるＮＰＯの現在②	実際にＮＰＯで活動する人物の話を通して、具体的事例をもとに、ＮＰＯの社会的役割を考える。
第 10 回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートＮＰＯと行政との協働の現場に実際に足を運び、イベント等を体験する。（オンラインでの実施を予定）
第 11 回	ＮＰＯの組織と運営について①	ＮＰＯの組織運営について学び、その課題について理解する。
第 12 回	ＮＰＯの組織と運営について②	ＮＰＯが法人化されるまでの具体的な過程について学び、設立の基礎を学ぶ。
第 13 回	「with コロナ時代」の社会貢献の可能性	「with コロナ時代」において新しい社会貢献活動の形を模索すると共に、ワークシートを用いて、自身の興味のあるＮＰＯの活動を考える。
第 14 回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。授業支援システムを用いて随時資料を配布する。

【参考書】
講義において、必要に応じていろいろと紹介します。

【成績評価の方法と基準】
オンラインでの講義となるため、授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（６０％）と最終課題（４０％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
オンラインベースの講義になるため直接お会いする機会がつくれませんが、希望者には zoom などで質問をしていただく機会もつくりたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【その他の重要事項】
アートＮＰＯの立ち上げから１２年間代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのＮＰＯの在り方について考えていきたいと思います。

【Outline and objectives】
NPO creates service in response to the needs of the community, solution and the organization of the social problem raised. NPO is expected to play a key role in solving the social problems and for the realization of the mission organized by them.However, many NPOs have problems with managing(human resources, funds, business, information, etc.) as a present situation.We are facing many objectives to be solved in the future as our challenge.In this course, we will examine the way and problem about improving management to develop NPO activities thorough concrete example.

SOC200MA

公共サービス論

展開科目

前浦　穂高

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共サービスとは何か？ と問いかけられたら、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様であり、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、私たちは公共サービスについて知らないことが多いのではないだろうか。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】
公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ZOOM によるオンライン授業（講義形式）を行う。基本はリアルタイムとするが、場合によってはオンデマンドになる場合もある。具体的には学習支援システムで指示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明 公共サービスの定義
第 2 回	公共サービスの提供と評価（1）	公共サービスと公共政策の手段 公共サービスを提供する仕組み
第 3 回	公共サービスの提供と評価（2）	公共サービスを評価する仕組み
第 4 回	政府と市場の役割分担（1）	民間委託の歴史・現状・課題
第 5 回	政府と市場の役割分担（2）	市場化テスト 公共サービス改革法のインパクト
第 6 回	政府と市場の役割分担（3）	指定管理者制度の背景・現状・課題
第 7 回	政府と市場の役割分担（4）	民営化の歴史と現状 （3 公社の民営化、郵民営化）
第 8 回	働く環境の変化と人事行政（1）	地方公務員を取り囲む環境の変化 人事管理制度とその実態
第 9 回	働く環境の変化と人事行政（2）	給与構造改革 能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第 10 回	働く環境の変化と人事行政（3）	非常勤職員の活用と課題 正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第 11 回	公共サービスの現状（1）	資金交付行政
第 12 回	公共サービスの現状（2）	子育て行政
第 13 回	公共サービスの現状（3）	水道事業
第 14 回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておくと良い。また授業を受講するために、前の講義内容を復習しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本授業では、テキストは指定しない。

【参考書】

・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2017）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣ブックス.
・井上雅雄＋立教大学キャリアセンター編（2008）『講義 仕事と人生』新曜社.
・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版.
・礒崎初仁・金井利之・伊藤正次（2014）『ホーンブック　地方自治［第 3 版］』北樹出版.
・岩崎馨・田口和雄編著（2012）『賃金・人事制度改革の軌跡―再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房.
・大谷基道・河合晃一編著（2019）『現代日本の公務員人事――政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規.

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末レポートで決定する。出席の取り扱いは、学生の意見を聞いて決定する。出席をとらない場合は、期末レポート 100 %、出席をとる場合は、期末レポート 85 %、平常点 15 %という配分を予定している。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業になるため、授業の進め方や内容に関する質問等はメールで受け付ける。
教員のメールアドレスは、最初の授業で知らせる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
Through this class, students learn about public service.
The public service is indispensable to our everyday life.
Therefore I want to think about future public service with students.

SOC200MA

アート・マネジメント論　展開科目

山口　佳子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアート的な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】
わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めたオンデマンドでの講義を実施する予定です。講義ではリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。リアクションペーパーへのフィードバックは毎回講義内でいくつかとりあげコメントとして返しますが、個別の質問等にもできるだけ対応したいと思います。その他、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、オンラインでのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。なお、ゲスト講師による講義は、場合によってはリアルタイムで行う可能性がありますが、その場合は事前に参加者の確認をとるようにつとめます。
基本的に、講義の内容、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第 2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第 2 回	コロナ禍におけるアートの現状	コロナ禍における文化芸術の現状について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第 3 回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第 4 回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第 5 回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 6 回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第 8 回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 9 回	フィールドワーク	オンラインにより、劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第 10 回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第 11 回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第 12 回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこでの課題や問題点を学ぶ。
第 13 回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第 14 回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます（フィールドワークはすべてオンラインになります）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】
『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）
『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
オンラインでの講義となるため、授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（６０％）と最終課題（４０％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
オンラインベースの講義になるため直接お会いする機会がつくれませんが、希望者には zoom などで質問をしていただく機会もつくりたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline and objectives】
Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

SOC200MA

文化経営論

展開科目

武田　知也

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020 年 2 月 26 日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。
本授業では、この状況で起きたいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】
芸術文化を担う様々な主体（創り手・企業・行政・ＮＰＯ等）の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー（小レポート）の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進行します。また、授業の初めに、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
初回のみリアルタイム型のオンライン授業とし、概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行いますので必ず出席してください。ヴァーチャルあるいはリアルでのフィールドワークを課すことも検討していきます。具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第 3 回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第 4 回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた 2020 年までの最新の文化政策の動向を探る。
第 5 回	芸術文化と行政（地方自治体）	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第 6 回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第 7 回	芸術文化とＮＰＯ、ソーシャルアクション	芸術文化を通じたＮＰＯの多彩な活動を学ぶ
第 8 回	フィールドワーク	ここまでの学びを通じた、オンライン、あるいはリアルでのフィールドワークを行う。特徴や課題を調査、検討する。（フィールドワークの具体的内容については授業内で指示）
第 9 回	アーティストという存在―アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か？なにをする人たちなのか？ アーティストという存在を考える
第 10 回	アーティストという存在―アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第 11 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	芸術文化にまつわる「お金」の構造、仕組みを学ぶ（主に舞台芸術）
第 12 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	マネジメント、プロデュースの実践を知る（主に舞台芸術）
第 13 回	芸術文化とキャリア形成	芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第 14 回	授業内試験まとめと解説	自身と芸術文化の関わりについて考察をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業（劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等）の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】
授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験（30 %）と授業内の小レポート、課題レポートなどの平常点（70%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初めて担当するためデータなし

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】
新卒時は法政大学からアートＮＰＯに就職し、その後フェスティバル/トーキョー（国際舞台芸術祭）、ロームシアター京都（公立劇場）、さいたま国際芸術祭２０２０（国際芸術祭）などで、企画・制作、キュレーターなどを行ってきました。
そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline and objectives】
On February 26, 2020, the Japanese government requested that the arts and culture are "unnecessary and Unurgent" from the perspective of preventing the spread of the COVID-19 infection, and that it should be activities should be refrained from being held along with sporting events. On the other hand, many people who want art and culture have also raised their voices, and it can be that this was an opportunity to re-visualize the position of art culture in Japanese society.
In this class, we will start by unraveling the current location of art and culture in Japan while referring to some cases that occurred in this situation, and then consider the relationship between art and society.

SOC200MA

メディア文化論

展開科目

堤　信子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・2　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】
各種メデイアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。
また、オンラインを通してのプロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンライン授業で、リアルタイム型を予定しています。オンラインですが、表現力を磨くための演習をも取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第 2 回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第 3 回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第 4 回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関する DVD 視聴などを通し、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第 5 回	テレビメディアの文化論①	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ることで、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第 6 回	テレビメディアの文化論②	人気バラエティー番組を取り上げ、その内容や裏側を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く。
第 7 回	メディアを作る：ビジネス本やエッセイ本の事例	『ありがとう上手の習慣』や「旅鞄いっぱいシリーズ」の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。
第 8 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談１	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 9 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談２	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 10 回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。編集長をゲストに迎えることも。
第 11 回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。
第 12 回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。
第 13 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談３	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 14 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談４	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時々、リポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は、使用しない予定です。
配布資料中心です。

【参考書】
堤信子著「１００人中９９人に好かれるありがとう上手の習慣」ディスカヴァー２１
堤信子著「旅鞄いっぱいのパリ・ミラノ」本の泉社
「旅鞄いっぱいの京都・奈良」エイ出版社
「旅鞄いっぱいのパリふたたび」実業之日本社
「旅鞄いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社
「東京文具雑貨散歩〜旅鞄いっぱいの東京」辰巳出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業の感想文や出席）４０％と　課題レポート６０％

【学生の意見等からの気づき】
オンラインでも、なるべく学生の声を聞けるよう工夫した授業にしていきたいと思っています。
テレビやラジオなどの番組に使用されている台本や原稿などにも実際に触れる機会を引き続き作っていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントや DVD 映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

SOC200MA

文化マーケティング論

展開科目

横石　崇

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。
文化化する産業と、産業化する文化。社会の変化にともない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。

今後さらに複雑化するマーケティング領域においては、事業性検討、戦略策定や製品開発などの具体的アプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが世の中に必要とされるのかを考える力と実行できる力が身につく授業としたい。

【到達目標】
キャリアデザイン、コミュニケーションデザインの視点から文化マーケティングについて考察し、近い将来にこの分野で生き、働く上で有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義およびディスカッションを「リアルタイム型」の授業にて行なう。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、良いコメントや内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。Zoom でのチャット機能を多用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の説明
第 2 回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第 3 回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第 4 回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第 5 回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第 6 回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第 7 回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
第 8 回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテイメント領域）
第 9 回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第 10 回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第 11 回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテイメント領域）
第 12 回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第 13 回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第 14 回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、授業内レポートの実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加 70%、授業内レポートの提出 30%）

【学生の意見等からの気づき】
前年度と同様に「リアルタイム型」でのオンライン授業を行う。好評だった双方向性を重視したチャット機能などを多用するものとする。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレット

【Outline and objectives】
Learn about culture-oriented marketing thinking and methods.Industry to culture and culture to industrialize.
In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted.In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.
In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

SOC200MA

ブランド創造論

展開科目

石原　篤

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物や情報にあふれた時代に、人は何を基準に物を買ったり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が人としての自身のブランドをどのようにつくり上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】
①ブランドとは何かを理解し、説明できる。
②ブランドづくりのアプローチを理解し、実践してみる。
③ブランドづくりに必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
④正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
●ブランド創造における論理、実例紹介を中心に講義を進めていきます。
●リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・アパレル業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、ユーチューバーとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）
●授業はリアルタイム型のオンライン授業をベースとしますが、ゲスト講師を招く授業については対面授業になります。具体的には学習支援システムで指示いたします。
●授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
●講義の後半には、現在講師がブランド創造を行なっている事案を題材にした実習を行います。
●課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
●講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第 2 回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性
第 3 回	ブランド創造史	1980 年から 2020 年まで 40 年間にわたる日本のブランディングの変遷
第 4 回	ブランド創造とアートディレクション	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論 ゲスト）株式会社アンドディ　アートディレクター　小栗卓巳 氏
第 5 回	社会と接続するブランド創造	ブランドづくりにおけるＰＲ（パブリックリレーションズ）という方法論 ゲスト）株式会社ＨＡＳＨＩ　クリエイティブディレクター　橋田和明 氏
第 6 回	ブランド創造の新しい潮流	近年の社会環境とコロナ渦におけるブランド創造の変化
第 7 回	ライフスタイルのブランド創造	物を売るだけではなくライフスタイルを提案する「ニコアンド」のブランドづくり ゲスト）株式会社アダストリア　ニコアンド営業部長　村上亮 氏
第 8 回	地域のブランド創造	埼玉県民に愛される「山田うどん食堂」のブランドづくり ゲスト）山田食品産業株式会社　営業部営業企画課 部長　江橋丈広 氏
第 9 回	人を中心にしたブランド創造	YouTube チャンネル「パオパオチャンネル」のブランドづくり ゲスト）ユーチューバー・株式会社ハクシ代表　ぶんけい 氏
第 10 回	ブランド創造実習１	実習「ビジネスマン向けのダンススクールのブランドづくり」オリエンテーション
第 11 回	戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方
第 12 回	企画書のつくり方	ブランドづくりに関わる人たちと合意形成していくための「企画書」の作成方法
第 13 回	ブランド創造実習２	実習「ビジネスマン向けのダンススクールのブランドづくり」発表と講評 ※国内外で活動するプロダンサーの方がゲスト講師として参加予定
第 14 回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。また、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
●これからの「売れるしくみ」のつくり方　グラフィック社　石原篤 著
●クリエイティブ合気道　アスキー　箭内 道彦 著
●嶋浩一郎のアイデアのつくり方　ディスカヴァー・トゥエンティワン　嶋浩一郎 著
●カイタイ新書　秀和システム　博報堂ヒット習慣メーカーズ 著・中川悠 編著
●佐藤可士和のクリエイティブシンキング　日経ビジネス人文庫　佐藤可士和 著

【成績評価の方法と基準】
平常点 ５０％
実習課題の提出物 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
In an era filled with goods and information, what are the criteria people use to buy goods and sort out information? Brands play a significant role in moving people's feelings and producing actions. In this course, students will learn what brands are and how to create a brand from a logical point of view and based on the actual state and condition of brand-making sites. This course aims not only to know how to create a brand in corporate marketing activities but also to learn how students can create their brand as individuals.

SOC200MA

産業文化論

展開科目

上原　義子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関りから生まれてきた叡知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。
そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思えてしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見ていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義を興味関心のきっかけとして、 ヨリ発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】
1、文化を通して産業を考える
2、産業を通して文化を考える
3、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業はオンデマンド型を基本とします。適宜リアクションペーパー等を活用し、良いコメントは授業内で紹介するなどします。※今年度は、コロナ対応として変則的な授業が予測されます。具体的ことは学習支援システムや授業内で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第 2 回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第 3 回	日本の産業文化（1）	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第 4 回	日本の産業文化（2）	雇用者と従業員を取り巻く組織文化ーサービス・マーケティングの視点から
第 5 回	日本の産業文化（3）	日本のモノ作り文化と産業
第 6 回	日本の産業文化（4）	日本の伝統産業の成り立ちと現在ー藩の殖産から産業集積へ
第 7 回	日本の産業文化（5）	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本的経営
第 8 回	日本の産業文化（6）	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第 9 回	日本の近代産業（1）	日本の経済成長を支えた風土　−流通チャネルの視点から
第 10 回	日本の近代産業（2）	環境問題と文化、産業
第 11 回	日本の近代産業（3）	観光産業と文化
第 12 回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化　−観光立国としての日本を事例に
第 13 回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学　流通チャネル構造と機会主義　　ネットワーク
第 14 回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜紹介する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 100 %
※ 2021 年度は、コロナ対応として、レポート評価とする予定です。詳細は授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントが見られる機器
※ 2021 年度は、コロナへの対応が必要になります。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.
Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term ‘multi-culture’, the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.

CUM200MA

ミュージアム概論

展開科目

金山　喜昭

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：土・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】
博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。
最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	博物館と地域社会Ⅰ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 11 回	博物館と地域社会Ⅱ	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。 博物館学芸員による特別講義
第 12 回	博物館と災害	現代の災害のリスク管理について解説する
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】
金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）
金山 喜昭『公立博物館をＮＰＯに任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）
金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題提出）（40 %）
課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】
This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

杉長　敬治

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】
日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い, 博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館経営に関する基本事項について講義し、受講生には、博物館を視察した成果を踏まえてレポートを提出してもらいます。受講生のリアクションペーパー等でのコメントや授業内容に即した課題レポートは、授業で取りあげ、講義内容の理解を深めるために活用します。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の使命がどのように設定されているかについて学習する。また、使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の広報活動－現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
7	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティア）について学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
8	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
9	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
10	公立博物館の経営－現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度、国の公立博物館に関する政策について学習する。
11	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。教科書と参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいますので、積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭篇、同成社、2020 年 4 月 22 日発行、価格 2,700 円+税）を使用します。また、教科書で言及していない内容は、資料を授業支援システムに掲載します。

【参考書】
①ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、②マネジメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、⑤博物館と地方再生、金山喜昭著、同成社、⑥思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑦文部科学省の社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑧その他（授業中に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】
博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。レポートの配分は、①授業期間中の指摘した時期に提出する課題レポート（授業時に示す課題から５題を選択して提出）が 50%、②第 14 回授業時に提出する課題レポートが 50%です。②の課題レポートは、ｉ指定した教科書、講義内容から出題するもの又はⅱ（新型コロナウイルス感染症がおさまり、博物館の見学に支障がない状況になれば）特定の博物館に関する経営分析に関するもの、２つの何れかを選択してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
教材の配付や諸連絡は、授業支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず支援システムにアクセスをしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目の一つです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思います。

【Outline and objectives】
Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.

CUM200MA

ミュージアム経営論　　展開科目

金山　喜昭

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：土・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の経営の現状とその課題や改善に学ぶ。

【到達目標】
博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。
最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に，組織体や職種のほか，関連する行財政制度や人材育成面について，その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館）	公立博物館について，財務管理，施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ，施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館経営の現状Ⅱ（民間博物館）	民間博物館について，財務管理，施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ，施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 5 回	博物館の使命・社会的役割Ⅰ	博物館の社会的使命，行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 6 回	博物館調査に入るためのガイダンス	博物館の経営調査をグループ・ワークで進めるための準備作業。調査から発表に至るまでの方法・プロセスや留意点を説明する。
第 7 回	博物館の使命・社会的役割Ⅱ	博物館の社会的使命，行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 8 回	独立行政法人博物館、地方独立行政法人博物館の経営と課題	東京国立博物館・国立科学博物館、地方独立行政法人の経営状態と課題や展望について解説する。
第 9 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 10 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 11 回	博物館における連携・ネットワーク	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 12 回	博物館経営調査Ⅰ（調査・分析）	実際にグループワークで博物館の経営状況について調査・分析し，その成果をまとめる。
第 13 回	博物館経営調査の実際（報告／討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し，各事例について相互に討議・解説する
第 14 回	本授業の総括	本授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】
金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】
This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

SOC200MA

多文化社会論Ⅰ

展開科目

小田　昌教

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010 年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】
この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
今学期は、Zoom を使った「双方向型リアルタイムのオンライン授業」を行います。URL とパスコードは以下のとおりです。
https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226
556628
この授業の目的は、次の５つです。①オーセンティック・ラーニング　②クロスカルチュラル・ラーニング　③アンチバイアス・ラーニング　④メディアコンピテンシーラーニング　⑤エビデンス・ベースド・ラーニング
この授業の内容は４つのパートに分かれています。
【A：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇】
最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。
【B：さまざまな視点からみた日本の文化】
このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。
【C：レイシズムの過去と現在】
異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。
【D：「文化相対主義」と「多文化共生」〜多文化社会のいまと未来】
多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています (第一学習社「高等学校 倫理」)。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。
授業で使用する教材は「学習支援システム」で配布します。授業では毎回、リアクションペーパーを使用します。授業内での質問は Padlet で行います。
https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcupo0vhc8jn

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb 事件 (2017 年) ・全日空「羽田国際線大増便ＣＭ」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・ユナイテッド航空事件 (2017 年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017 年」
2	Ａ－１：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇１　映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「００７は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年)
3	Ａ－２：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇２	海外のＴＶＣＭやＭＶに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ
4	Ａ－３：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇３	プロパガンダアニメとＳＦ映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ポパイ〜ばかなジャップ」(1942 年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ〜トキオ、ジョキオ」(1943 年) ・ＮＨＫ「憎しみはこうして激化した〜戦争とプロパガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド＆コンカー レッドアラート３」(2008 年) ・ジェームズ・マンゴールド「ウルヴァリン ＳＡＭＵＲＡＩ」(2013 年)
5	Ｂ－１：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・マシオカ「ＨＥＲＯＥＳ」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン　ストレンジな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニャ文学賞受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「ＧＡＭＡＮ」(2011 年)
6	Ｂ－２：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」	・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003 年) ・日本オリンピック委員会「ＩＯＣ総会プレゼンテーション」(2013 年) ・きゃりーぱみゅぱみゅ「にんじゃりばんばん」(2013 年) ・日清食品「ＳＡＭＵＲＡＩ」(2014 年) ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017 年)
7	Ｂ－３：インバウンドの視点から見た日本の文化	・地味「外国人が日本に来て撮った wktk 動画集」(2008 年) ・sknb「スーペニアオブジャパン」(2012 年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014 年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013 年)
8	Ｂ－４：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化	・ペトリ・ストロペリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010 年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015 年)
9	Ｃ－１：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム	・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007 年) ・マイケル・ブラウン射殺事件 (2014 年) ・フレディ・グレイ死亡事件 (2015 年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件 (2015 年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言 (2015 年)

10	Ｃ－２：人種差別の起源とその歴史	・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951 年) ・山口敏「『人種』は虚構か」 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013 年) ・世界人権宣言ポルトガル事務局「世界人権宣言 50 周年記念ＣＭ」 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008 年) ・映画「アミスタッド」(1997 年) ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004 年) ・映画「リンカーン」(2012 年) ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012 年) ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013 年) ・映画「グローリー　明日への行進」(2014 年)
11	Ｃ－３：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう	・日本テレビ「21 世紀への伝言　キング牧師」(2000 年) ・ＰＢＳ制作「分断されたクラス」(1985 年) ・ＡＢＣ制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003 年-) ・ＮＹタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年)
12	Ｄ－１：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況	・映画「スワロウテイル」(1996 年) ・映画「サウダーヂ」(2011 年) ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーフじゃないんだ」(2012 年) ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013 年) ・リンダⅢ世「愛犬アンソニー」(2013 年) ・ポンジュノ「シェイキング東京」(2008 年)
13	Ｄ－２：「ＨＡＦＵ」の視点から見た日本の多文化状況とその未来	・映画「ＨＡＦＵ」(2013 年) ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」
14	Ｄ－３：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神	・ヒリス＆ブル研究所「生命の樹」(2005 年) ・NY タイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年) モ・モンド社「The DNA Journey」(2016 年) ・アシュラ・Ｋ・ルグイン「ゲド戦記を観て」 ・マックルモア＆ライアン・ルイス「セイムラヴ」(2013 年) アド・カウンシル「Love Has No Labels」(2015 年-2017 年) アップル社「プライド」(2014 年) ・ハイネケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017 年)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で指定した PDF や動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ２時間程度です。

【テキスト（教科書）】
教科書は使いません。授業ごとに、PDF を配布します。

【参考書】
参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します (100 %)。テストの方法については、最初の授業でくわしく説明します。
評価の基準は次の５つです。①オーセンティック・ラーニング　②クロスカルチュラル・ラーニング　③アンチバイアス・ラーニング　④メディアコンピテンシーラーニング　⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン、WIFI ルーター、ネット回線（WEB カメラやマイクは不要です）

【その他の重要事項】
この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見ることがあまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館やレンタルショップ、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。また授業で映像を見ているときは、映画館と同じく、まわりの人たちの学習のさまたげにならないよう、私語や携帯電話、スマートフォンなどの使用はひかえてください。ただし、授業中に今すぐネットで検索したいことや、メモしておきたいことがあるときだけは、使用してもかまいません。

【授業中に求められる学習活動について】
Ａ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆ

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills.

SOC200MA

多文化社会論Ⅱ

展開科目

金　泰植

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日本社会は新たな労働力としての外国籍住人の増加により、多文化社会としての側面をより一層強めている。しかし日本の多文化状況がどのように作られたかに対する省察は少なく、多文化社会に対する排外主義的な動きも起きている。本講義は、戦後日本の最大の「外国人」集団であった在日コリアンを中心としながらもその他のルーツを持つ人たちも射程としながら、日本の多文化社会がどのように作られ、どのような課題を抱えているかについて考える。

【到達目標】
日本の多文化状況がどのように作られたかについて日本と東アジアの近現代史の中で捉え、日本社会の中にいる多様なルーツを持つマイノリティたちが直面している問題を知り、日本社会の問題として考え、受講生が全ての人が尊重される社会の形成のためのアイディアを持つようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業はリアルタイム型とオンデマンド型を組み合わせて実施する。具体的には学習支援システムで指示をする。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンスおよび「帝国の拡張と多文化状況の出現」について
第 2 回	日本の朝鮮植民地統治と在日コリアンの誕生	日本の「外国人」問題の起源とも言える在日コリアンについて
第 3 回	戦後日本の外国人政策について	サンフランシスコ講和条約。包摂と追放の対象としての外国人
第 4 回	「密航」と大村収容所	戦後も続いた朝鮮半島からの密航と日本の入国管理体制について
第 5 回	在日コリアンの教育	民族学校の誕生と学校閉鎖令、民族学級と朝鮮学校、韓国学校への整備
第 6 回	日韓条約	在日コリアンの法的地位問題を中心に
第 7 回	多文化共生と市民社会	川崎を中心とした市民社会における多文化共生のための取り組みについて
第 8 回	在日中国人	渡航、日本での生活、教育について
第 9 回	日系ブラジル人	渡航、日本での生活、教育について
第 10 回	日本の入管制度について	成り立ちと、現在入国管理施設に収容されている外国人たちの人権問題について
第 11 回	韓流と嫌韓流の狭間で	韓国ブームと排外主義が在日コリアンに与えている影響について
第 12 回	ヘイト・スピーチ	外国人に対するヘイト・スピーチと、これを規制するための運動と条例について
第 13 回	技能実習生制度について	外国人技能実習生制度の問題点について
第 14 回	国際機関がみた日本	国連人権委員会などの勧告からみた日本の多文化状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業時に次の授業の内容について告知するので、事前にそのトピックについて調べて、授業後にリアクションペーパーに授業での気づきや持つに至った質問などを書けるように準備すること。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定のテキストはない。毎回資料を配布する。

【参考書】
田中宏『在日外国人第三版』（岩波新書）、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』、月刊『イオ』編集部『日本の中の外国人学校』

【成績評価の方法と基準】
期末試験はレポートの作成とし７０％、授業のリアクションペーパー（メールなどで提出）を特に重視した平常点３０％の配分とする。
レポートは論理の整合性を重視する。不適切なデータの引用などは厳しく採点する。また独創的な意見や着眼点は高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で扱った内容について初めて知ったがとても衝撃を受けたという反応が多かったが、事前知識がないと思われる項目については丁寧な説明を心がける。また映像資料などわかりやすかったとの意見が多かったため、積極的に活用する。今学期もオンラインで授業が行われるため、学生とのコミュニケーションを取れるようにポータルサイトを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
初回の授業時にアンケートを行い、その結果を元に講義の計画の一部を柔軟に変更することがある。

【Outline and objectives】
In today's Japanese society, the aspect of a multicultural society has been further strengthened by the increase in foreign residents as a new workforce. On the other hand, there are also extrinsic movements against foreigners.This lecture will examine how Japanese multicultural situations were created, focusing on Korean residents in Japan.The purpose of this lecture is to consider the issues facing Japanese society.

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

加藤　丈太郎

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。

コロナ禍が起きるまでは、日本における「在留外国人」数は 2012 年以降、過去最高を更新し続けてきた。2019年4月から日本政府は「特定技能」人材の受け入れを開始した。5年間で34.5万人を受け入れる目標が設定されている。しかし、彼・彼女らが家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。

コロナウィルスの影響を受け、一時的に在留外国人数は減少するかもしれない。しかし、中長期で少子高齢化を捉えるならば、外国人（移民）を受ける議論は避けては通れない。また、課題解決の方策が必要とされる。

本授業では、日本における移民・難民の受け入れの状況を踏まえ、多文化社会のあり方を考える。

【到達目標】
・日本の移民・難民の受け入れ状況を理解する。
・「多文化社会」を自身の経験に引き寄せて理解し、授業で身に着けた知識を元により発展させて考えられるようになる。
・国や地方自治体の施策を分析する視座を身につける。
・将来、企業、NGO/NPO、国際機関等で働く際に必要となるクリティカルシンキング・想像力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＜オンライン（ライブ授業）で実施する＞
本授業は、講義とワークショップから構成される。
また、例年、受講者数が多い科目のため、感染症対策下での大学の教室準備の都合上、Zoom を用いたオンライン（ライブ授業）での実施となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（講義内容・評価基準等の説明） 移民・難民とは（用語の定義） アイスブレイク（TAKO トーク）	講義内容、評価方法等を説明する。 本授業での「移民」・「難民」の定義を共有する。 受講者同士の自己紹介を行う。
第 2 回	日本の出入国在留管理政策の現在（講義）	日本の出入国在留管理政策において、今後どのような課題が想定されるのかを解説する。
第 3 回	ピンチをチャンスに―「多文化」を拡げる（ゲストスピーカーによる講演）	外国人を主な対象とした人材派遣を起点に、多文化保育、バイリンガルの家事代行など多様な事業にチャレンジしている企業が存在する。コロナ禍というピンチをどのようにチャンスに変えようとしているのか、株式会社アンサーノックスの取り組みを伺う。
第 4 回	「多文化社会」（多文化共生）とは（講義とワークショップ）	日本版「多文化社会」ともいえる「多文化共生」概念の変遷を知る。移民と日本人が登場する映像を複数見た上で、「多文化共生」に照らして、その課題を分析する。
第 5 回	在日コリアン：差別・ヘイトスピーチとの闘い（講義）	在日コリアンがいかに差別とヘイトスピーチと闘ってきたのかを知る。
第 6 回	日系ブラジル人と外国につながる子どもが抱える課題（講義）	1990 年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。
第 7 回	技能実習生と特定技能人材（講義）	技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。また、コロナ禍で技能実習生が抱えた困難も説明する。特定技能制度の現状も分析する。
第 8 回	留学生における課題と将来のキャリア構築（講義）	多くの留学生が日本での就職を希望している。現行の制度で日本での留学生のキャリアの構築は可能かを考える。
第 9 回	Let me talk!：私の「多文化」体験（ワークショップ）	日本で受講者自身が体験した「多文化」体験を掘り起こし、発表をする（発表は 5 名程度とする。残りの方はレポートを提出する。）
第 10 回	難民がつくる新しい社会（講義）	日本において難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。また、母国でのクーデーター後の在日ミャンマー人の声も紹介する。
第 11 回	「不法」を生きる非正規移民（講義）	もし、あなたに在留資格がなかったらどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。
第 12 回	多文化社会の実現に向けて：地方自治体の施策を知る（講義）	多文化社会の実現のためには、国に加え、実際に移民が居住する地方自治体の役割も重要である。地方自治体の施策の概要を把握する。
第 13 回	プレゼンテーション①：地方自治体における多文化社会に関する施策を分析し、その課題を挙げる（ワークショップ）	ご自身の出身地・居住地・好きな場所などから、地方自治体を選定し、「多文化共生推進プラン」などの施策を調べ、地域の実情と照らした際に課題が何であるかを明らかにする。 （①・②合わせて発表は 7 名程度とする。残りの方はレポートを提出する。）
第 14 回	プレゼンテーション②：地方自治体における多文化社会に関する施策を分析し、その課題を挙げる（ワークショップ） 講義のまとめ	ご自身の出身地・居住地・好きな場所などから、地方自治体を選定し、「多文化共生推進プラン」などの施策を調べ、地域の実情と照らした際に課題が何であるかを明らかにする。 （①・②合わせて発表は 7 名程度とする。残りの方はレポートを提出する。）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・Google Classroom に掲示される講義資料に予め目を通すこと。興味を持った内容についてはインターネット、新聞データベースなどを用いて調べてみること。

・「日本における私の多文化体験」というタイトルで、発表（12 分程度）or レポート（2,000 字程度）を課す。＜第 9 回＞
・「地方自治体における多文化社会に関する施策」に関するプレゼンテーション（15 分程度）or レポート（3,000 字程度）を課す。＜第 13 回・第 14 回＞

【テキスト（教科書）】
Google Classroom を通じて講義資料共有する。

【参考書】
※読みやすいものを挙げている。興味があるものはぜひ手に取って読んでみて欲しい。
川村千鶴子他編（2021、近刊）『気づき愛―多文化共創社会 Global Awareness』都政新報社
塩原良和（2013）『共に生きる―多民族・多文化社会における対話』弘文堂、978-4335501241
芹澤健介（2018）『コンビニ外国人』新潮社、978-4106107672
西日本新聞社（2020）『増補　新 移民時代– 外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750350691
松尾慎編著（2018）『多文化共生　人が変わる、社会を変える』にほんごの凡人社、978-4893589521

【成績評価の方法と基準】
平常点　28 %（2 % ×14 回）
＊ Zoom 上に「学籍番号・氏名」（あだ名は不可）を明示しておくこと
第 9 回（発表 or 中間レポート）の内容 30 %
第 13 回／第 14 回（プレゼンテーション o 最終レポート）の内容 42 %
評価基準は以下を中心とする。詳しくは授業内で説明する。
・主張は明確か、主張を支える根拠は十分か
・構成は明瞭か
・パワーポイントは分かりやすいか or 読み手を意識してレポートの書式が整えられているか
・時間管理が出来ているか or 字数は守られているか
・（第 9 回）経験を掘り下げられているか
・（第 13 回／第 14 回）様々なソースを調べているか
＜フィードバックの方法＞
＊毎回、Google Classroom を用いて、質問・コメントを受け付ける。寄せられた質問・コメントには翌週の授業の冒頭でフィードバックを行う。
＊発表／プレゼンテーションについては授業内でフィードバックを行う。
＊中間レポートについては、模範レポートを 2 編選び、何が評価されたのかを解説することで、全体にフィードバックを行う。
＊最終レポートについては、フィードバックのタイミングが授業終了後となるため、模範レポート 2 編へのコメントを個人情報を伏せた上で全体にメールで送る予定である。

【学生の意見等からの気づき】
・例年、受講者は初めて出会う他学部、他学年の受講者とのワークショップに楽しみながら取り組んでいる。今年度においても、オンラインという制約はあるが、その中でも新たな出会いを楽しんで欲しい。
・例年、ゲストスピーカーの講演がとても好評である。現場の声を聞いていただく機会として今年も設置する。
・受講者の自主性を重んずるため、本授業は平常点を問うてこなかった。しかし、昨年度、一昨年度の受講者の声を受け、今年度は平常点を評価基準に設ける。また、その評価は厳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】
・パソコン（カメラも必要となる）
・インターネット接続が可能な環境
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンに zoom のアプリをインストールしておくこと。
・本授業はワークショップを多く含むため、カメラ ON を推奨する。

【その他の重要事項】
・本授業は Zoom を用いて「ライブ授業」で行う。
・本授業は＜ 4 月 7 日（水）16:50 ～ 18:30 ＞が初回となる。
・オンライン授業へのアクセス方法について「学習支援システム」を通じて連絡するので、確認すること。（確認できない場合は、メールで問い合わせること。）
担当教員メールアドレス　加藤　jotarok@aoni.waseda.jp
・今年度は平常点を評価に含む。長期入院が必要となる病気・怪我、忌引以外、救済措置は一切取らない。授業のライブ感を大事にしたい。よって、昨年、緊急時対応として行っていた YouTube の後日配信も今年は行わない。欠席者・未提出者への代替の課題も原則として出さない。就職活動等で多数の欠席が予め想定される場合、本授業の履修は勧めない。本授業で何らかの学びを得たいと思う方のみ履修登録をすること。
・講義時は、分からない点、より深めたい点を担当教員に質問すること。（チャット、手を挙げてのマイク ON いずれも OK）
・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。私も受講者と共に学ぶことを楽しみにしている。
「実務経験のある教員による授業」該当
日本の外国人支援 NGO・NPO で外国人相談に当たってきた。受講者には移民・難民について字面だけではなく、リアリティを持って考えてもらうことを目指す。

【Outline and objectives】
This subject considers "Multi Cultural Society" through life of migrants and refugees in Japan. The lecturer intends to educate students to mediate and coordinate conflicts regarding migrants and refugees. Students develop their critical thinking and imagination to others by various activities such as presentation and workshop .

ARSx200MA

アジア社会論 I

展開科目

趙　宏偉

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジアの国々、人々の生き方を知るには、彼らの地理と歴史の空間と時間の中での営みを知ることが重要である。発展のプロセスは、各地域社会の人びとの生活、宗教、意識を基盤として繰り広げるものである。この講義はアジアの国々について、地政学の観点を取り入れながら、その国の発展を中心に、政治、社会、文化も語る。受講者は国際知識を増やし、とりわけ日本が立地するアジアに対する知識と意識を養う。

【到達目標】
東南アジア諸国を中心に、その政治と経済、社会と文化の基礎的な知識を得、地図、年表、文献、文化遺産、地球儀などを活用して地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジアの国々の政治と経済、社会と文化について地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
コロナの流行期において、春学期はオンラインでリアルタイム型で授業を行う。学習支援システムで指示する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンラインリアルタイム型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する、学習支援システムで提示する。
授業は教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、去る一週間の国際時事問題を 15 分ほどの時間を利用して解析する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明、テキスト授業と国際時事問題	地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する
第 2 回	台湾　主体的発展とその対外関係	台湾は大陸を経済発展の舞台としながら、国際社会とは表関係と裏関係のギャップが大きい。
第 3 回	香港、自由度世界一の国際都市	自由度世界一の香港と共産党統治の中国大陸との複雑な関係。
第 4 回	アセアンとアジア、世界	アセアンとは何か。アセアン+３+６、東アジア首脳会議、RCEP とは何か。
第 5 回	ベトナム、社会主義と開放経済	統一戦争、軍事拡張、社会主義の低開発から高度成長期へ移行。
第 6 回	シンガポール、儒教治国	儒教政治・文化と経済発展。
第 7 回	マレーシア、多民族、多宗教の共存	マレーシア、多民族、多宗教でありながらの政治安定と共存経済
第 8 回	インドネシア、2 億人の政治発展と経済開発	発展における軍政と民主主義
第 9 回	タイ、微笑みの国	微笑みの対外関係、王政の下での軍政と民政の頻繁な交代
第 10 回	フィリピン、戦わない国	スペイン、米国、日本、独立、カトリック、独裁と民主主義、紆余曲折の中でののんびりとした発展。
第 11 回	カンボジア　強権の国家と温厚な国民	仏日米中ベトナム等諸外国に強いられた苦難を耐え抜いて、自主と発展を歩む。
第 12 回	ミャンマー　発展に目覚めた後発国	植民地、仏教、多民族、社会主義、軍政から発展を目指す普通の国に。
第 13 回	日本とアセアン	日本とアセアンの歴史と現在
第 14 回	総括	春学期のテキスト授業と同期間の国際問題を総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書　池上彰『東南アジア　ASEAN の国々』小学館、2019 年。1400 円。

【参考書】
エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』TBS ブリタニカ、1979 年。
エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン―それからどうなった』たちばな出版、2000 年。
岩崎育夫『入門東南アジア近現代史』講談社現代新書、2017 年。
趙宏偉他『中国外交の世界戦略』明石書店、2011 年。
同上『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】
1, 授業態度、授業への積極的な参加と貢献 (40 点)、2, 学期末試験（60 点）により総合的に評価します。
2, 春学期はオンラインでの開講となり、成績評価の方法と基準の変更もあり得る。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
私語の厳禁、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目はアジアの知識を習得することにより、情報収集力・分析力、情報判断・行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
Asian Society Ⅰ
The lecture talks about the politics, economics, society and culture of each country, taking into consideration the geography of Asia, the space and time of history, and the geopolitical perspective. Participants will increase international knowledge and, in particular, develop knowledge and awareness of Asia where Japan is located.

ARSx200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

趙　宏偉

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア社会論Ⅰで学修したアジアの国々についての知識を踏まえて、アジア社会論Ⅱでは諸国間の国際関係について教授する。アジア太平洋地域の国際システム及び各国間の外交は、中国と諸外国との関係を手がかりに、その基礎知識を総合的に講義する。受講者はアジア太平洋の国際問題について知識を増やし、自らの問題関心と理解を深める。
教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。

【到達目標】
アジア太平洋地域という地理の空間と歴史の時間における国際関係を 1990 年代以来のプロセスを中心に把握することは、授業の到達する目標である。地図、年表、統計資料、文化遺産、地球儀などを活用し、そして日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジア太平洋という国際社会の面々を地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンラインリアルタイム型授業を行う。学習支援システムで指示する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンラインリアルタイム型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を学習支援システムで指示する。
授業は教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、去る一週間の国際時事問題を 15 分ほどの時間を利用して解析する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する
2	国際関係学におけるアジア	国際関係のなかでアジアをどう捉えるか
3	朝鮮戦争	朝鮮戦争における朝鮮半島と米中ソ
4	東南アジア諸国の独立とアジア太平洋の国際関係	1950 年代の東南アジアと国際社会
5	ベトナム戦争と東アジア	インドシナ問題と米ソ中
6	中ソ関係	中ソ、同盟から敵対へ
7	米中関係	敵対から和解へ
8	日中関係 1	1972 年の国交正常化までの歴史
9	日中関係 2	国交正常化後の日中友好の時代、1990 年代まで
10	日中関係 3	日中対立の時代、2000 年から
11	中国外交と上海協力機構	中国・ロシア・中央アジア・西アジア協力体制
12	アセアンとアセアン共同体の成立	アセアンと日中韓米との関係
13	東北アジアの国際関係	北朝鮮核問題を巡っての関係国の国際関係
14	日中露関係の歴史と現在	日中露間の合従連衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
趙宏偉　他著『中国外交の世界戦略―日米アジア攻防の 30 年』明石書店、2011 年。
進藤榮一『東アジア共同体をどう作るか』筑摩新書、2007 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会 2017 年。毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。

【成績評価の方法と基準】
授業態度、授業への貢献度（40 点）を求め、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】
私語の禁止、携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
Asian Society Ⅱ
The lecture will teach comprehensively the basic knowledge of international relations in the Asia-Pacific region and diplomacy of each country based on the Chinese diplomacy. Students will increase their knowledge of international issues in Asia Pacific and deepen their own interests and understanding.

ARSx200MA

国際関係論 I

展開科目

趙　宏偉

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は現代の国際関係、その理論、地理、歴史、時事を踏まえて講義する。中国と各国との国際関係を手がかりに文明論からリアリズムまで様々な視点から国際社会における国家間、パーソン間のドラマを観察する。受講者は国際社会についての見方、国際問題の解け方、国際社会における人間の生き方を学ぶ。人びとはその生活、宗教、意識を基盤として地理と歴史の中で政治、経済、文化さまざまなしくみを形成し、人間は具体的な国のみならず、国際社会のしくみの中でさまざまな生き方を営んできた。人間が作り、かつ暮らしている国際社会のしくみを知り、そしてそんな国際社会を生きる人間の営みを考察する。そのことは一国にとどまらないキャリアデザインを考える人に限らず、国際化している現代社会を生きる我々一人ひとりのキャリアデザインにとって重要である。

【到達目標】
国際関係学の諸理論を知り、その基本を習得することはまずの目標である。そのうえ、地理の空間と歴史の時間に繰り広げられている国際関係の局面局面を地図、年表、文献資料、文化遺産、地球儀などを活用してその地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、国際社会における政治と経済、社会と文化について学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンラインでのリアルタイム型授業を行う。学習支援システムで指示する。授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。教員による講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。各回の授業内容や課題は授業支援システムで指示する。
授業の初めに前回授業に提出されたリアクションペーパーを２，３取り上げて講評する。全体に対してフィードバックを行う。さらなるディスカッションに生かす。課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方や課題を含めて説明する
2	国際関係学の視点（1）	国際関係学の理論
3	国際関係学の視点（2）	国際関係学の方法論
4	国際関係学の視点（3）	国際関係学の学説
5	国際関係学の視点（4）	質疑応答を中心とした基礎概念の復習
6	ユーラシアの国際関係	対立から協調へ、北方の国際協調体制
7	アジア共同体と日米	政治・経済・文化の観点から現状を分析する
8	東北アジアの国際関係	朝鮮核問題を中心とする地域の国際関係
9	日本、ソ連・ロシア、中国のトライアングル関係	戦後史を踏まえた現状の理解
10	日中関係と日中韓トライアングル	国内政治と国際政治の連関の理解
11	日中関係と日米中のトライアングル	グローバル・リーダーシップの競争
12	習近平の世界戦略	国際社会における中国の論理と行動
13	米中露トライアングル関係と日本	国際関係秩序と国際法の視点からの考察
14	総括と思考	日中関係を国民意識、国家意識から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。

【参考書】
入江　昭『グローバル・コミュニティ』早稲田大学出版部、2005 年。
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT 出版、1997 年。
ジェラード・デランティ『コミュニティ　グローバル化と社会理論の変容』NTT 出版、2006 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。

【成績評価の方法と基準】
授業態度、平時での授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。
春学期はオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準の変更もあり得る。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
International relations theory Ⅰ
This class gives lectures on contemporary international relations, based on its theory, geography, history and current events. Observe the drama between nations and people in international society from various viewpoints from civilization theory to realism with clues on international relations between China and each country. The students learn how to look at the international community, how to solve international problems, and how people live in the international community.

ARSx200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

趙　宏偉

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
講義は永遠な隣人である東アジアと現代中国をその地理と歴史を踏まえて語る。受講者は共生してきた日本と隣国、そして共生していかなければならない日本人と隣人たちの多様な生き方、とりわけ近現代中国について思考し思考力を高める。

【到達目標】
中国という事実を知り、自分なりの見方を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業はオンラインでリアルタイム型授業を行う。学習支援システムで指示する。
この授業はアジアという地理空間と歴史時間における中国の近現代史を講義する。また、日々に発生する時事問題を事例に取り上げて講義し、国際社会、東アジア、現代中国を見る目を鍛えていく。授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。教員による講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。各回の授業内容や課題は授業支援システムで指示する。
授業の初めに前回授業に提出されたリアクションペーパーを２，３取り上げて講評する。全体に対してフィードバックを行う。さらなるディスカッションに生かす。課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	教科書、進め方等を説明
2	現代中国の成立	1949 年前後
3	朝鮮戦争と台湾問題	東アジア冷戦
4	「大躍進」前後	中国経済の失敗
5	中ソ論争と核武装	中国・ソ連関係
6	文化大革命	中国の内乱
7	ニクソン訪中と日中国交	米中関係の変化
8	毛沢東時代の終焉	混乱中国の閉幕
9	改革開放と鄧小平	経済発展の時代
10	教科書問題と靖国問題	日中関係の問題
11	天安門事件と天皇訪中	中国の独裁政治
12	香港返還と台湾問題	中国の統一問題
13	世界大国への飛躍	超大国への驀進
14	中国の民族問題	民族紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日『日本経済新聞』の中国関係ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
並木頼壽、杉山文彦編（趙宏偉執筆）『中国の歴史を知るための 60 章』明石書店、2011 年。2000 円。

【参考書】
朝日新聞社取材班『歴史は生きている　東アジアの近現代がわかる 10 のテーマ』朝日新聞出版、2008 年。
岡崎雄児『最新中国を知るキーワード 99』同学社、2008 年
堀敏一『東アジア世界の歴史』講談社、2008 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。
中国研究所（一般社団法人）編『中国年鑑』各年号、明石書店。

【成績評価の方法と基準】
出席と授業態度、授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】
私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目は近現代中国の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
International relations theory Ⅱ
The lecture talks about eternal neighbors East Asia and modern China based on its geography and history. The students think and think about the various ways of living of Japan and neighboring countries that have coexisted, the Japanese and the neighbors who have to coexist, in particular the modern China, in particular

ARSx200MA

国際地域研究Ⅰ

展開科目

福井　令恵

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちとつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】
授業を通じて「地域」・「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえつつ理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンラインで授業を進めます。授業は、オンデマンドとリアルタイムで実施する回があります。具体的には学習支援システムで指示しますので、受講希望者は必ず確認するようにしてください。
毎回授業後にはリアクションペーパー等の提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや重要な質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第 2 回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第 3 回	イギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにイギリス（ＵＫ）の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第 4 回	イングランド社会・文化①	イギリス（UK）内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第 5 回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第 6 回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景に言及しつつ考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。
第 7 回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第 8 回	スコットランド社会・文化②	近年の独立機運の高まりや EU との関係性について考える。
第 9 回	イギリスのまとめ	地域という観点から、イギリス社会が抱える課題について考える。
第 10 回	アイルランド社会・文化①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。イギリスとの関係、文化とナショナリズムの関係について解説する。
第 11 回	アイルランド社会・文化②	アイルランドとアメリカとの関係について、歴史的なつながり、現在の関係について考える。
第 12 回	アイルランドの二つの国	北アイルランドの成立期である 1920 年代のアイルランドの独立と南北分断から、第二次世界大戦までの歴史・社会状況を説明する。なぜ、現在アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第 13 回	アイルランドのまとめ	イギリス、ＥＵとの関係から、考える。
第 14 回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料、関連文献を読む。
授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、数回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。
課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】
長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017 年　岩波新書.
井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010 年、昭和堂.
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ミニレポートなど課題・リアクションペーパーの内容、期限を守った毎回の課題提出等）：50 %
期末試験（論述式）：50 %
＊欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】
＊受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。
＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず参加すること。

【Outline and objectives】
In this course, we reconsider the concepts of “region” (or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. We will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). Through examining these societies, we aim to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

ARSx200MA

国際地域研究Ⅱ

展開科目

福井　令恵

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげつつ、＜異＞文化と＜異なる＞国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する（北アイルランドの事例以外の地域の例も必要に応じて言及する予定である）。北アイルランドの住民の歴史的・文化的な共属意識は、しばしば国境を超える点にも注目する。

【到達目標】
現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。ただし、授業内でグループワークをする可能性があります。また、毎回リアクションペーパーの提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
本シラバス作成時点では対面での講義を予定していますが、今後の状況次第では、変更の可能性があります。変更がある場合は学習支援システム等で提示します。
なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性があります。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針 北アイルランドという場について	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。
第 2 回	＜異なる＞住民集団間関係	北アイルランドを具体例として、異なるナショナル・アイデンティティをもつ二つの住民集団の関係性と「多文化社会」について考える。
第 3 回	歴史と社会背景	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第 4 回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第 5 回	集合的帰属とアイデンティティ	どのような仕組みで和平合意が可能になったのか。「国籍」と帰属意識について考える。
第 6 回	レビュー	前半のまとめを行う。
第 7 回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係に浮いて、事例をもとに考える。
第 8 回	階級・文化・紛争経験の関係	どんな人が紛争の影響をより強く受けるのか考える。
第 9 回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	「当事者」は何を考えているのだろうか。「壁画」というコミュニティメディアから考える。
第 10 回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第 11 回	学校教育と＜歴史＞	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題について学ぶ。
第 12 回	観光と紛争後社会	和平合意後に急速に進んだ観光から、観光地のイメージの形成を考える。また、紛争の痕跡を「見学する」という観光客の行為の意味についても検討する。
第 13 回	北アイルランドと EU、英国、アイルランド	イギリスの EU 離脱において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。
第 14 回	まとめ	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料、関連文献を読む。
授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、学期中数回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。
課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】
・尹 慧瑛　『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』　2007 年　法政大学出版局.
・福井令恵、『紛争の記憶と生きる: 北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015 年、青弓社.
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加、リアクションペーパーの内容）およびミニレポート等課題： 50 %
期末試験（論述式）： 50 %
＊なお、原則として欠席数が授業時間数の３分の１を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】
＊受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。
＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日確認すること。
＊本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、授業の中で春学期の授業を前提とする場合もあるため、国際地域研究Ⅰを受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】
In this course, we consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years the conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), a peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. We will use the lessons learned from their efforts and see if and how they are important for our society.

CAR200MA
【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ
CAR200MA
【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ
展開科目

島村　泰子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくとよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】
本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋げます。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、月曜日３限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	３つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回〜第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とＴＰＯに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）月曜日の３限目に Zoom で実施します。資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施のため、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅰ
The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.
Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA
【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ
展開科目
CAR200MA
【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ

島村　泰子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくとよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】
本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋げます。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、月曜日３限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業 」で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	３つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回〜第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とＴＰＯに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）月曜日の３限目に Zoom で実施します。資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施のため、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅰ
The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.
Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA

【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ

CAR200MA

【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ

展開科目

島村　泰子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　**グローバル：**　**成績優秀：○**　**実務教員：○**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
３年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】
本授業の目標です。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期〜大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。
学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、学歴構成や雇用区分について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業にこにおけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第 14 回	試験・まとめと解説	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 20 %、「業界・職種・企業」研究の発表 30 %、模擬面接及び資料内容 30%、最後の確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用してください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom 等を活用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらう授業です。
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、ＩＴ企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅱ
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

CAR200MA

【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ

展開科目

CAR200MA

【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ

島村　泰子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
３年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】
本授業の目標です。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期〜大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。
学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、学歴構成や雇用区分について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業にこにおけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第 14 回	試験・まとめと解説	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 20 %、「業界・職種・企業」研究の発表 30 %、模擬面接及び資料内容 30%、最後の確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用してください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom 等を活用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらう授業です。
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、ＩＴ企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅱ
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

遠藤　野ゆり

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマについてデータや先行研究を調べる力を身につけます。
レジュメの切り方、プレゼンの仕方を身につけます。
ディスカッションの基本、司会進行の仕方を身につけます。
自分の身近な出来事やその分析を文章で表現する力を身につけます。

【到達目標】
興味関心のあるテーマについて自分なりに調べ、適切なレジュメの作成、プレゼン、文章化ができる。
授業内で質の高いディスカッションができる。
教育課題に主体的に取り組み積極的に社会に参画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業です。毎週の事前課題レポートをメールで提出してもらい、それに対してはコメントを入れて返却します。授業内でのディスカッションに対して、最後に教員からのフィードバックを行います。全 14 回授業の後、最終レポートを提出してもらい、これに対してフィードバックをコメントにて入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミとは何か 本ゼミの進め方 担当者決め。
2	ゼミにおけるレジュメ作成の力	レジュメを作成するとはどういうことかを考えます。
3	レジュメの作成（実践編）	課題図書について自分なりのレジュメを作成します。それについての講評を行い、よりよいレジュメ作りの方法を学びます。
4	プレゼンの仕方	プレゼンの大事なポイント、問題提起で欠かせないポイントを考えます。
5	発表①	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
6	発表②	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
7	発表③	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
8	発表④	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
9	発表⑤	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
10	事例の記述	事例を記述するとはどういうことかを学びます。
11	事例の記述（実践）①	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
12	事例の修正	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
13	事例の記述（実践）③	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。最終的な事例を書きあげます。
14	ゼミの総括・先輩の卒業論文講読	自分たちの発表や事例の書き方を確認し、先輩の書いた卒業論文を講読し最終的な目標を見定めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読、事例の記述、プレゼンの準備など本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業でのプレゼンテーション 30 点 ディスカッション 30 点　その他授業活動への貢献 40 点

【学生の意見等からの気づき】
特に指摘はありませんでした。受講生が主体的に参加できる演習を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
発表に際して投影機器を使う場合には事前に準備しておくこと。
パソコンを用意してください。

【Outline and objectives】
This class aims to acquire the ability to examine data and previous researches about issue of interest.
To learn how to make resume and how to present it.
To learn how to do "discussion" and "moderator work.
To acquire the ability to express your familiar events and its analysis with writing.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

遠藤　野ゆり

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術図書の講読をとおして教育問題への学術的なアプローチに触れます。
質的研究の方法について学び、教育現場についての記述ができるように目指します。
教育現場における課題発見と解決に主体的に取り組みその経験を整理します。

【到達目標】
学術的な教育研究を理解できる。
社会参画の責任感と企画の遂行能力を身に着ける。
自身の研究テーマを設定し探求する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業です。
プロジェクトの時間と文献講読の時間とを設けます。
文献講読では小グループでのディスカッションの実施の後全体での議論をします。
プロジェクトに関しては授業時間外も含め活動します。校外学習を多く実施します。
毎週の事前課題レポートをメールで提出してもらい、それに対してはコメントを入れて返却します。授業内でのディスカッションに対して、最後に教員からのフィードバックを行います。全 14 回授業の後、最終レポートを提出してもらい、これに対してフィードバックをコメントにて入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 読書報告	ゼミの予定、方針を決めます。 春休みに各自がした読書についての報告をしてもらいます。
2	プロジェクト策定	これから実施していくプロジェクトを決めます。
3	文献講読① 1 冊目第 1 章	共通の文献の 1 冊目第 1 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
4	文献講読② 1 冊目第 2 章	共通の文献の 1 冊目第 2 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
5	文献講読③ 1 冊目第 3 章	共通の文献の 1 冊目第 3 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
6	文献講読④ 1 冊目第 4 章	共通の文献 1 冊目第 4 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
7	文献講読⑤	共通の文献の 1 冊目第 5 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
8	プロジェクトの報告	プロジェクトの状況を確認し後半の計画を立てます
9	論文執筆の方法	質的研究の方法を学びます。
10	論文の書き方	事例に基づく論文を執筆します。
11	文献講読⑥ 2 冊目第 1 章	共通の文献の 2 冊目第一章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
12	文献講読⑦ 2 冊目第 3 章	共通の文献 2 冊目第二章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
13	文献講読⑧ 2 冊目第 4 章	共通の文献 2 冊目第三章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
14	文献講読⑨ 2 冊目第 5 章	共通の文献 2 冊目第四章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の講読　レジュメの作成　論文執筆等をおこないます。
教育現場の課題解決に向けてプロジェクトを実施します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（毎回のレポート、授業での貢献度）

【学生の意見等からの気づき】
引き続き同じ形式を踏襲しますが状況を見て適宜判断します。

【Outline and objectives】
This class aims to know the academic approach way to educational problems through reading academic books.
To learn about qualitative research methods and to describe the educational site.
To train to write an episode as a case.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

遠藤　野ゆり

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトに関してゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたて、調査を進めます。

【到達目標】
ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたてます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ディスカッション形式で行います。
先行研究と学術論文の講読は輪番制です。
事前に提出されたレポートはコメントを入れてメールにてそれぞれにゼミの前に返却いたします。また slack 等を通じて全体で共有できるようにいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の計画をたてます。
2	調査結果の分析	調査で得られたデータをデータ化する作業、すなわち事例を記述する力を身につけます。
3	結果の報告	事例について記述の仕方、考察等を検討します。
4	事例と考察の修正	検討内容に基づいて事例や考察を修正します。報告集を作ります。
5	図書館の使い方（確認）	図書館の利用について指導を受けます。
6	学術論文の講読①	第一担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
7	学術論文の講読②	第二担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
8	学術論文の講読③	第三担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
9	学術論文の講読④	第四担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
10	学術論文の講読⑤	第五担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
11	卒業論文執筆に向けて① テーマの設定	卒業論文の執筆に向けてテーマを絞ります。
12	卒業論文執筆に向けて② 事例の確認	卒業論文の執筆に向けて事例を読み合い確認します。
13	卒業論文執筆に向けて③ 章の組み方	論文の基本構成を学びます。
14	懸賞論文構想発表	来年度の懸賞論文の構想を発表し検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事例の記述や論文講読、レジュメ作成などをおこないます。毎週レポートとして事前に提出してもらいます。
講読論文の読解など本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (毎回のレポート、授業への貢献度）100 %

【学生の意見等からの気づき】
特に改善点は指摘されていません。計画を引き継ぎますが受講生の要望を取り入れて臨機応変に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを用意してください。

【Outline and objectives】
This class aims to gain the ability to describe, analyze and discuss the results of the survey at the seminar.
To identify the prior research on the subjects of interest.
To acquire the ability to read academic papers.
To make the plan of the graduation thesis and proceed with the investigation.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関わる基本的な概念や事象を検討することを通して、多文化共生のあり方を追究したい。

【到達目標】
・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などの基本的な知識を得ることができる。
・担当する課題や興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的な発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。課題についてはいくつかの記述を取り上げ、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の進め方、自己紹介
2 回	多文化マップ⑴調査	散策とマップ作成
3 回	多文化マップ⑵発表	マップ作成と発表
4 回	ヒューマンライブラリー	グループワーク
5 回	差異性と同一性	発表と討議
6 回	他者理解と自己理解	発表と討議
7 回	偏見と差別	発表と討議
8 回	移民時代の到来	発表と討議
9 回	研究レポートに向けた中間報告	発表と討議
10 回	在日外国人	発表と討議
11 回	外国につながる児童生徒	発表と討議
12 回	移民時代に求められる想像・創造力	発表と討議
13 回	研究レポートの発表⑴多文化	プレゼンと質疑
14 回	研究レポートの発表⑵共生	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書や関連文献などを読んでくる。担当テーマについてのプレゼンをする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』明石書店、2020 年。

【参考書】
松尾知明『多文化共生をデザインする』明石書店、2013 年。その他、授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（30 %）、研究レポートとプレゼン（40 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テーマをよりわかりく構成する。

【Outline and objectives】
Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on various issues related to a multicultural society, basic concepts and phenomena related to multicultural education are examined to explore ways of multicultural symbiosis.

EDU200MA

演習（発達・教育）３・４ 年生（春）

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、日本と世界のムスリムに焦点をあて、イスラムをめぐる多文化共生の課題について検討する。

【到達目標】
・ムスリムの人々や文化、多文化共生をめぐる課題などの基本的な知識を得ることができる。
・ムスリムに関するテーマについてグループワークを進め、効果的に討論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の進め方
2 回	イスラムの基礎知識	グループワークと討論
3 回	世界のムスリム	グループワークと討論
4 回	イスラムの歴史	グループワークと討論
5 回	日本を訪れるムスリム	グループワークと討論
6 回	日本の中のムスリム	グループワークと討論
7 回	多文化共生の街づくり	グループワークと討論
8 回	ムスリム留学生と話そう	グループワークと討論
9 回	大学の抱える課題	グループワークと討論
10 回	大学生活ハンドブックの計画	グループワークと討論
11 回	大学生活ハンドブックの作成	グループワークと討論
12 回	大学生活ハンドブックの仕上げ	グループワークと討論
第 13 回	研究レポートの発表⑴問いを見つける	プレゼンと討論
第 14 回	研究レポートの発表⑵研究のデザイン	プレゼンと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書や関連する文献や資料を読んでくる。興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ペン編集部編『イスラムとは何か』CCC メディアハウス、2013 年。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（20 %）、研究レポートとプレゼン（50 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進め方について指導に留意する。

【Outline and objectives】
Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on Muslim in Japan and the world, issues related to multicultural symbiosis and education are explored.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・6　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに事例研究を遂行することを通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追究して、研究レポートにまとめる。

【到達目標】
・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。調査研究の進め方や研究レポートの書き方について、具体的な事例を検討しながら学ぶ。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	テーマの設定	調査研究の構想
3	先行研究の収集	発表と質疑
4	先行研究の検討	発表と質疑
5	リサーチクエッチョンと研究計画	研究の計画
6	テーマ設定の理由	先行研究への位置づけ
7	調査研究のデザイン	発表と質疑
8	中間発表	進捗状況の報告と質疑
9	調査研究の実施(1)研究方法	進捗状況の報告と質疑
10	調査研究の実施(2)データの収集	進捗状況の報告と質疑
11	調査研究の実施(3)データの分析	進捗状況の報告と質疑
12	研究レポートの発表(1) 4 年	プレゼンと質疑
13	研究レポートの発表(2) 3 年	プレゼンと質疑
14	授業のまとめ	成果と課題の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献などを読み、課題をやってくる。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（40%）、研究レポートとプレゼン（60 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
進捗状況を把握し、計画的に進める。

【Outline and objectives】
In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural symbiosis are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.

EDU200MA

演習（発達・教育）2 年生

児美川　孝一郎

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
② 参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②個人またはグループによる研究発表と討論，等である。
学生の発表等に対するフィードバックはその場で，提出された課題等へのフィードバックは，次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し，各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	ゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し，共有化をはかる。ゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
14	まとめ	学習全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は，入念な準備と発表用レジュメを作成する。

個人研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
出席を含む平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA
演習（発達・教育）3・4 年生（春）

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
② 参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②ワークショップ形式等でのテーマ討論，③個人またはグループによる研究発表と討論，④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施，等である。
授業時以外での課外活動として，夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究集会等への参加，若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。
秋学期授業と併せて履修することを原則とする。年度末には，「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。
学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは，授業時および次回の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し，各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	春学期のゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し，共有化をはかる。春学期のゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。

14	春学期のまとめ	春学期の学習全体について振り返りを行い，ディスカッションを通じて，夏合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
個人研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
出席を含む平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
② 参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②ワークショップ形式等でのテーマ討論，③個人またはグループによる研究発表と討論，④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施，等である。
授業時以外での課外活動として，夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究集会等への参加，若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。
春学期授業から引き続き履修することを原則とする。年度末には，「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。
学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは。授業時および次回の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	共同研究のテーマ設定	春学期における個人研究発表の内容も踏まえ，秋学期の共同研究のテーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	秋学期のゼミ運営計画の策定	共同研究を進めるためのグループ分けを行い，秋学期のゼミの運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
6	グループ研究発表①	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
7	グループ研究発表②	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
8	グループ研究発表③	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
9	グループ研究発表④	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
10	グループ研究発表⑤	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
11	グループ研究発表⑥	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
12	グループ研究発表⑦	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
13	グループ研究発表⑧	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。

14	秋学期のまとめ	秋学期の学習全体について振り返りを行い，ディスカッションを通じて，冬合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当グループは，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
グループ研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分の属するグループ以外のグループ発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
出席を含む平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

坂本　旬

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市民メディアと異文化探究学習の基礎理解
受講生はメディア・リテラシーおよび異文化理解、SDGs などゼミ活動に不可欠な基礎知識・技能を習得する。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
・デジタル・ストーリーテリングなどのメディア制作の基礎を実践的に理解する
・異文化理解や基礎教育に関する知識を得る
・SDGs の基礎を実践的に理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
時間は原則として５限とする。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「HOPS」を通じて行う。
・オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った作品制作や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習 1（基礎理論）	「体験の言語化・記憶の映像化」の基礎
3	基礎学習 2（事例分析）	「体験の言語化・記憶の映像化」の事例分析
4	実践学習 1（学習環境）	「体験の言語化・記憶の映像化」に必要な学習環境と機材
5	実践学習 2（制作方法）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（基礎）
6	実践学習 3（カメラワーク）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（カメラワーク）
7	実践学習 4（インタビュー）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（インタビュー）
8	実践学習 5（編集）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（編集）
9	授業支援方法 1（学習支援の方法）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の方法
10	授業支援方法 2（学習支援計画）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の計画
11	授業支援方法 3（学習支援の実際）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の実際
12	制作実習 1（企画）	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（企画）
13	制作実習 2（撮影）	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（撮影）
14	授業の振り返り	これまでの授業を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外小中高校等での授業支援、映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。海外研修活動も正規の授業ではなく、課外活動の一環として行う。（海外研修については、２年生は希望者のみ）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %
３・４年用「授業評価基準（ルーブリック）」を流用する。２年ゼミでは４段階のうち２段階を目標とする。
●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的 (グローバル) な異文化対話の発に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4 段階）
1 8割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4 段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4 段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて５分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4 段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4 段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働 (コラボレーション) を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は新型コロナ感染症流行のため、Zoom を用いたオンライン授業を中心に行ったが、今年度は対面で学習活動を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】
演習参加にあたって、２～４年のうちに次の授業の履修を推奨する。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】
To study and explore the basics of citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

坂本　旬

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市民メディアと異文化探究学習の実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、実践的な異文化交流・協働の基礎を身につける。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
・メディア・リテラシーを用いた探究学習を行う。
・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「HOPS」を通じて行う。
・オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	新たな教育の潮流	SDGs のための教育
4	ビデオレターの理論	メディア・リテラシーとしての国際交流の方法
5	ビデオレターの実践	福島県白方小学校におけるビデオレター教育実践
6	映画教育の理論	シネリテラシーの考え方を学ぶ
7	映画教育の実践	福島県広野中学校における映像教育実践
8	リテラシー概念と SDGs	リテラシー概念の歴史的展開
9	映像制作支援活動の概要	小中高校等の授業支援と映像制作の実践学習の概要
10	映像制作支援活動の実際	小中高校等の授業支援と映像制作の実践の実際
11	映像制作支援活動の展開	小中高校等の授業支援と映像制作の実践の展開
12	被災地取材の概要	被災地取材に関する基礎知識の解説
13	被災地取材の計画	被災地取材の計画立案
14	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。夏合宿は福島で取材活動を行う。なお、秋学期（演習）に予定されている海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
★新型コロナ対応のため、評価方法の詳細は授業の中で伝えます。
平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %
授業評価基準（ルーブリック）
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的 (グローバル) な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4 段階）
1 8割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。

4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4 段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4 段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて５分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4 段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4 段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働 (コラボレーション) を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は新型コロナ感染症流行のため、Zoom を用いたオンライン授業を中心に行ったが、今年度は対面による活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】
演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期）、「卒業論文」（4 年）「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】
To learn the basics of citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市民メディアと異文化探究学習の実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを用い、実践的な異文化交流・協働を実施する。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
・メディア・リテラシーを用いた探究学習を行う。
・メディア・リテラシーを用いて異文化交流・協働を実行する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「HOPS」を通じて行う。
・オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	取材活動と映像制作の計画	被災地の取材映像の編集計画
3	取材活動と映像制作の実際	被災地の取材映像編集の実際
4	取材活動と映像制作の発展	被災地の取材映像編集の発展
5	取材活動と映像の発信	被災地の取材映像の完成と発信
6	発展途上国研修のための基礎学習 1	カンボジアの地理と歴史
7	発展途上国研修のための基礎学習 2	カンボジアの生活と教育環境
8	発展途上国研修のための基礎学習 3	カンボジアの文化と言語
9	発展途上国研修のための発展学習 1	カンボジアでの映像制作の概要
10	発展途上国研修のための発展学習 2	カンボジアでの映像制作の計画
11	発展途上国研修のための発展学習 3	カンボジアでの映像制作の実際
12	発展途上国研修のための発展学習 4	カンボジアの学生との交流の方法と実際
13	発展途上国研修の準備	カンボジアでの研修の準備と確認
14	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局 (2014 年)
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %
授業評価基準（ルーブリック）
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的 (グローバル) な異文化対話の発に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4 段階）
1 8 割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4 段階）

1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4 段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて５分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4 段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4 段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働 (コラボレーション) を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は新型コロナ感染症流行のため、Zoom を用いたオンライン授業を中心に行ったが、今年度は対面で活動を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】
演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン総合演習」
「キャリアデザイン学演習」（4 年生）
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】
To explore citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

久井　英輔

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
社会教育・生涯学習研究における主要な領域を代表する文献の講読をすすめるとともに、社会教育・生涯学習研究における自分自身の問題関心を提示する発表を行う。
（授業の目的・意義）
社会教育・生涯学習に関わる事象について、実践的な関心を踏まえつつも客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、文献講読・発表とディスカッションを通じて獲得することを目的とする。

【到達目標】
社会教育実践研究、行政・制度研究、成人学習論研究など、社会教育・生涯学習研究における主要な領域の基本的な課題、論点を理解し、それを基にして社会教育・生涯学習研究における自分自身の問題関心を明確に提示できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初の数回は、社会教育・生涯学習研究の全体的な性格についてガイダンス的な講義を行う。その上で、社会教育実践研究、行政・制度研究、成人学習論研究など、いくつかの領域ごとに代表的な研究論文を講読していく。受講者には、文献講読に関して 2 回の報告を求める。1 回目は文献の理解に重点を置いた発表、2 回目は文献を基にして自分自身の問題関心を提示していく発表とする。発表に対するフィードバックは基本的に、授業内でのディスカッションを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育・生涯学習研究の概観①	授業の進め方について説明するとともに、社会教育・生涯学習研究に関する問題関心を教員・受講者間で共有する。
第 2 回	社会教育・生涯学習研究の概観②	社会教育・生涯学習研究の全体的な性格、および諸領域について概観する。
第 3 回	社会教育実践研究の文献講読	社会教育実践研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 4 回	社会教育・生涯学習の理念に関する研究の文献講読	社会教育・生涯学習の理念に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 5 回	社会教育行政・制度研究の文献講読	社会教育行政・制度研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 6 回	学校・地域の連携・協働に関する研究の文献講読	学校・地域の連携・協働に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。

第 7 回	成人学習論研究の文献講読	成人学習論研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 8 回	社会教育史研究の文献講読	社会教育史研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 9 回	社会教育実践研究のレポート発表・討論	社会教育実践研究に関わる文献を検討し、それをもとに受講者が自身の問題関心を提示する。
第 10 回	社会教育・生涯学習の理念に関する研究のレポート発表・討論	社会教育・生涯学習の理念研究に関わる文献を検討し、それをもとに受講者が自身の問題関心を提示する。
第 11 回	社会教育行政・制度研究のレポート発表・討論	社会教育行政・制度研究に関わる文献を検討し、それをもとに受講者が自身の問題関心を提示する。
第 12 回	学校・地域の連携・協働研究のレポート発表・討論	学校・地域の連携・協働についての研究に関わる文献を検討し、それをもとに受講者が自身の問題関心を提示する。
第 13 回	成人学習論研究のレポート発表・討論	成人学習論研究に関わる文献を検討し、それをもとに受講者が自身の問題関心を提示する。
第 14 回	社会教育史研究のレポート発表・討論	社会教育史研究に関わる文献を検討し、それをもとに受講者が自身の問題関心を提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業の前に講読文献を予め読んでおくこと。
・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
津田英二、久井英輔、鈴木眞理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】
文献講読の発表（2 回）　50 %
ディスカッションへの貢献度　50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
In this course students are needed to read texts on major issues on social education and lifelong learning, and to make presentation on their own concern.
This course aims to help students acquire the ability to grasp the phenomena regarding social education and lifelong learning from the viewpoint of academic research with keeping practical concerns, and the ability to present research questions, by text reading, presentations, and discussion.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

高野　良一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「対話を重視し、社会的及びアカデミックなスキルを形成しながら、教育文化施設の現場やプロフェッショナルから学ぶ」が、テーマです。春学期は、いくつかの現場やプロフェッショナルを訪ねる機会も作りますが、基本的な文献や資料を読み、受講生相互の知識の共有と対話力の形成を重視します。

【到達目標】
社会的な能力及びスキルを自ら省察する力を養うとともに、アカデミック・スキルの形成を図ります。アカデミック・スキルとは、「読む、調べる、聞く、話し合う、書く」という技能です。これらのスキルは、間近に控えた就活や将来の職業生活の土台となるものです。特に、高野ゼミでは、現場に出かけて調べる、事前事後に話し合い、書くことを重視しています。言い換えれば、ひとりひとりが、そしてゼミとして協同で、プロジェクトを企画し実施する能力を形成することがテーマとなります。「プロジェクト企画・実施力」こそ、将来の職業生活のために必要な力と考えるからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、文献を手がかりにして、まず、ゼミの場づくりとも関わる社会的能力とそのスキルについて学び、次に PBL の基本を確認し、そして、学習環境デザインの基本を学びます。また、個人のプロジェクトを発表し、その批評もおこないます。さらに、秋学期に向けたプロジェクトの企画立案も話し合います。
文献講読やプロジェクトに関わる課題やレポートのフィードバックは、授業内や事後の個別指導においておこないます。
なお、授業は対面を原則とします（但し、コロナ感染症等の対応で変更や ZOOM との併用もありえます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの趣旨説明や進め方の議論
2	プロジェクト学習成果発表会	3 年生からの継続テーマの報告
3	プロジェクトの基本設計ブレーンストーミング	夏休み、秋学期の協働プロジェクトを視野に入れた計画づくり
4	自らのコンピテンシーを振り返る（1）	『問いのデザイン』の講読と省察
5	自らのコンピテンシーを振り返る（2）	『問いのデザイン』の講読と省察（続）
6	春学期プロジェクトの実施設計	現地研究の候補地の絞り込み
7	PBL の技法を磨く（1）	『プロジェクト学習の基本と手法』を再読（2，3 章）
8	PBL の技法を磨く（2）	『プロジェクト学習の基本と手法』（4 章）を再読し、個人 PBL を見直す
9	PBL の技法を磨く（3）	『プロジェクト学習の基本と手法』を再読（6 章）し、個人 PBL を書き直す
10	春学期の現地研究の実施	教育文化施設か特色ある学校を訪問
11	学習環境デザインを知る（1）	『「未来の学び」をデザインする』の講読
12	学習環境デザインを知る（2）	『「未来の学び」をデザインする』の講読（2）
13	学習環境デザインを知る（3）	『「未来の学び」をデザインする』の講読（3）
14	個人プロジェクト発表	卒論企画書の発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミは正規外の時間にも自主ゼミとしておこなわれます。学外にも一緒に出かけて、多様な文化的な営みに参加することと、個人発表のための準備を重視します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
安斎・塩瀬『問いのデザイン』学芸出版社
鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
美馬・山内『「未来の学び」をデザインする』東京大学出版会

【参考書】
授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
個人の文献発表が 30 %、校外の現地研究への参加と貢献が 30 %、個人 PBL プロジェクトの中間報告書とその発表が 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
今年も、知的興味・意欲への刺激、スキル形成、思考力と判断力の育成に努めたゼミをみんなで創りたい。

【Outline and objectives】
The obective of this seminar is for students to build the framework of knowledges and to train intellectual skills through the practices and dialogues among them. For achieving it they must plan,do and relfect on-site researches and hearings to the professionals with elder students of the seminar

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

高野　良一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「対話を重視し、社会的及びアカデミックなスキルを形成しながら、教育文化施設の現場とプロフェッショナルから学ぶ」が、テーマです。秋学期は、例年どおり、現地調査研究と教育関係プロフェッショナルの聞き取り調査が主になります。

【到達目標】
社会的な能力及びスキルを自ら省察する力を養うとともに、アカデミック・スキルの形成を図ります。アカデミック・スキルとは、「読む、調べる、聞く、話し合う、書く」という技能です。これらのスキルは、間近に控えた就活や将来の職業生活の土台となるものです。特に、高野ゼミでは、現場に出かけて調べる、事前事後に話し合う、書くことを重視しています。言い換えれば、ひとりひとりが、そしてゼミとして集団で、2 種のプロジェクトを企画し実施する能力を形成することが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
夏休み企画を踏まえて、「現地研究」と「プロフェッショナル論」(通称、プロ論）の企画案の策定、そのための資料や文献の学習、企画の実施と反省を、いわば PDCA サイクルとして進めます。こうしたプロジェクトと並行して、卒論のプロジェクトもチェックポイントを設定して進めます。
卒論を含めたプロジェクトに関わる課題のフィードバックは、授業内および個別事後指導においておこないます。
なお、授業は対面を原則としますが、コロナ感染症当への対応で変更、ZOOM との併用もありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期ゼミの進め方	プロジェクトの企画を中心としたスケジューリング
2	個人プロジェクトの中間発表	夏休みのプロジェクト学習の相互交流
3	現地研究の候補選定	現地研究（学校）の選定のための話合い
4	現地研究のための講読（1）	『世界に通じる「実行力」の育てかた』講読の 1 回目
5	現地研究のための講読（2）	『世界に通じる「実行力」の育てかた』講読の 2 回目
6	現地研究のための講読（3）	『世界に通じる「実行力」の育てかた』講読の 3 回目
7	現地研究の打合せ	「現地研究」の打ち合わせ
8	現地研究の実施	「現地研究」の実施（学校訪問ないしは学校主催研究会への参加を予定）
9	現地研究の省察	「現地研究」のふり返り
10	卒論最終経過報告会	個人報告と質疑
11	PBL 技法の再確認	『プロジェクト学習の基本と手法』の講読と質疑
12	PBL 技法の再確認（続）	『プロジェクト学習の基本と手法』の講読と質疑（続）
13	卒論最終発表	卒論提出に向けた発表と指導
14	卒論最終発表（続）	卒論提出後のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミは正規外の時間にも自主ゼミとしておこなわれます。これらへの参加と、個人プロジェクトのための準備を重視します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず。

【参考書】
小林りん『世界に通じる「実行力」の育てかた』日本経済新聞社
鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
そのほか適宜、必要に応じて示します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の個人の文献・資料発表が 20 %、「現地研究」等のプロジェクトへの貢献が 30 %、個人 PBL レポート作成及びその発表が 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
今年も、知的興味・意欲への刺激、スキル形成、思考力と判断力の育成に努めたゼミをみんなで創りたい。

【Outline and objectives】
The obective of this seminar is for students to build the framework of knowledges and to train intellectual skills through the practices and dialogues among them. For achieving it they must plan,do and relfect on-site researches and hearings to the professionals with elder students of the seminar.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

田澤　実

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインに関連した先行研究の基本的な原理を学ぶ。また、口頭発表および自己調整的な学習習慣のスキルの獲得も目指す。

【到達目標】
・自ら研究を深めたいと思うようなテーマを探るために、関心事に関連した社会現象や政策・施策等について基本的な知識を得るための方法を知っている。
・上記で得た知識を総合的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
【集団で話し合うためのスキル】
・実演を通してワークショップの進め方を理解する。
【自らの研究テーマ】
自分が関心のある新聞記事を発表する。図書館の端末やスマートフォンを活用しながら「いかにして関心のあるテーマの最新ニュースを集めるのか」という方法についても学ぶ。この発表を参考にしながら、教員がそのゼミ生の関心事についての発表資料を決める。ゼミ生はそれぞれ自分の関心事に近いテーマの資料で発表し、それについてゼミ生間でディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業の流れを説明する。
第 2 回	集団で話し合うためのスキル（1）	ワークショップの進め方について理解する。
第 3 回	集団で話し合うためのスキル（2）	ワークショップを実演する。
第 4 回	写真を用いた自己紹介（1）	自分らしいと思われる過去・現在・未来の写真を撮影して、まとめる。
第 5 回	写真を用いた自己紹介（2）	上記を基にしてプレゼンテーションをする。
第 6 回	情報収集のスキル（1）	新聞記事の情報の集め方を身につける。
第 7 回	情報収集のスキル（2）	集めた新聞記事を発表する。自らの関心事を探る。
第 8 回	文献購読（1）	自らの関心事にあわせて担当文献を決める。
第 9 回	文献購読（2）	文献の内容を発表する。
第 10 回	文献購読（3）	内容に基づいた疑問や論点を整理する。
第 11 回	文献購読（4）	論点を基にしてディスカッションする。
第 12 回	文献購読（5）	今までに発表した文献と文献のつながりについて考察する。
第 13 回	文献購読（6）	上記の論点を整理し、ディスカッションする。
第 14 回	まとめ	演習での学びを振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメによる報告を求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】
レポート（5 割）、積極的参加（5 割）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
集団で話し合うためのスキルを学んだあとに、自らの研究テーマを探る流れは好評であった。今年度も継続することにする。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で授業を行う回がある。

【その他】
ホームページの参考のこと
【田澤実研究室】
http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/lab/

【履修推奨科目（３年秋学期までに履修すべき科目）】
教育心理学

【履修推奨科目（授業に関連する可能性が高い科目）】
生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ、教育相談、職業選択論Ⅰ・Ⅱ、キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ・Ⅲ（ケーススタディ）、学校論Ⅲ（キャリア教育論Ⅰ）、キャリア研究調査法（量的調査）

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts of career studies. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and self-regulated learning.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

田澤　実

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯発達心理学や教育心理学の観点から「問い」を探求する。アカデミックライティング，心理学に基づいた引用表記および研究方法の基礎について学ぶ。

【到達目標】
・アメリカ心理学会（American Psychological Association）引用スタイル、アカデミックライティング、学術研究の基礎を身につける。
・キーワード検索を用いて、先行研究を探すことができる。
・Excel を使って数値データから視覚的に理解しやすい図表を作成できる。
・それらの図表から読み取れることを解釈し、他者に説明できる。
・問題と目的、方法、結果、考察という一連の論文の書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
演習および授業内での発表。
■３年次
・数グループに分かれて、調査を行う対象者を決定。
・その対象者には現在、どのような問題が起こっているのか先行研究を探す。
・グループごとに、その対象者にアンケートやインタビューを行い、分析。
・グループごとに最終レポートを作成。
■４年次
・各自テーマを深めて卒論に取り組む。
・自分でデータを収集することが必須である。必要に応じて統計分析の仕方も教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キックオフミーティング	到達目標を共有する。
第 2 回	卒論関心発表（1）	卒論の関心に関連するキーワードを探る。
第 3 回	卒論関心発表（2）	キーワード検索を用いて、先行研究を探した結果を報告する。
第 4 回	共同調査（1）	共同研究で扱うテーマについて議論する。
第 5 回	共同調査（2）	共同研究のテーマのキーワードを探る。
第 6 回	共同調査（3）	キーワード検索を用いて、先行研究を探して、まとめる。
第 7 回	共同調査（4）	共同研究で扱うデータを収集する。
第 8 回	共同調査（5）	収集したデータを分析する。
第 9 回	共同調査（6）	データを解釈して、どのような図表にまとめて表現するか考える。
第 10 回	共同調査（7）	グループ内で結果の解釈について議論する。
第 11 回	共同調査（8）	結果について本文で記述する。
第 12 回	共同調査（9）	得られた結果と先行研究の対比をする。考察を深める。
第 13 回	共同調査（10）	問題と目的、方法、結果、考察という一連の流れで書く。
第 14 回	卒論中間発表	予備調査の計画を含めて卒論の中間発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
年に数度の課題がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
文献の探し方@法政大学
http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/ref/

【成績評価の方法と基準】
課題（6 割）、積極的参加（4 割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の評価をもとにして、４月の最初の授業で改めて意見を聞く。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を利用する回がある。

【Outline and objectives】
This course introduces academic writing, APA citation style and the fundamentals of academic research to students taking this course.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

田澤　実

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ論および卒業論文を完成させる。

【到達目標】
授業終了時に以下の能力を身につけていることを目標とする。
・重要な理論と方法論を説明できる
・重要な研究成果について，その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール、課題、発表順などを確認する。
第 2 回	3年生関心発表（1）	個人の関心事を発表する。
第 3 回	3年生関心発表（2）	先行研究を探すためのキーワードを探る。
第 4 回	文献の探し方	キーワードから先行研究を探す技法を紹介する。
第 5 回	4年生中間発表（1）	卒業論文の中間発表を行う。
第 6 回	4年生中間発表（2）	予備調査の結果について考察を加える。
第 7 回	4年生中間発表（3）	本調査を視野に入れて全体の構成を検討する。
第 8 回	3年生中間発表（1）	なぜそのテーマを扱う意義があるのか。イントロダクションに該当する文言を考える。
第 9 回	3年生中間発表（2）	そのテーマはどこまでのことが明らかになっているのか概観する。
第 10 回	3年生中間発表（3）	先行研究の問題点およびまだ明らかになっていない点を探る。
第 11 回	3年生中間発表（4）	上記の問題点に対して代案を示す。文献レビューのオリジナリティーを探る。
第 12 回	3年生中間発表（5）	上記までの流れを精緻化する。およその章立てを確定する。
第 13 回	図表のまとめ方	視覚的に理解しやすい図表の作成方法を紹介する。
第 14 回	4年生卒論発表	卒論の要旨を報告する。質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読み込む作業や調査の実施。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】
課題（6 割）、積極的参加（4 割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
計画上は現状維持とした。ゼミの進行については必要に応じて話し合いの時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を利用する回がある。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Describe and explain major methods and theories,
· Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

筒井　美紀

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文完成をゴールに、＜学術論文７つの構成要素＞という基本中の基本である作法をマスターしたうえで、現時点での卒論構想（プロポーザル）を書いてみる。

【到達目標】
世の中にはさまざまなタイプ・レベルの論文がある。その良しあしを見抜く眼力を磨くこと。論文の名に値する論文には、この７つが入っている――それが＜学術論文７つの構成要素＞だ。そのうえで、自分でも卒論構想を書いてみて、自分は何にパッションがあるのか、本当に研究したいことは何か、これからどんな本を読み、何を対象にしたらよいのか――などなど悩みぬくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
原則対面とするが、コロナ状況などを総合的に考慮して zoom による授業に切り替える可能性もある。
【進め方】
ゼミ生の問題関心（入ゼミ時の志望理由書に書かれたこと）に基づき、筒井が論文をピックアップし、毎回みんなで検討する。報告者は毎回２名だが、全員が要約とコメントを書いてくること。議論はゼミ生に「お任せ」、筒井は最後に２０分程度解説するのみ。授業終了時に、全員に添削済みを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方、ミニ・レクチャー＜学術論文７つの構成要素＞
2	聴き取り・観察調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
3	聴き取り・観察調査の論文を検討する②	議論を中心とする
4	量的調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
5	量的調査の論文を検討する②	議論を中心とする
6	歴史的調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
7	歴史的調査の論文を検討する②	議論を中心とする
8	黒川（2018）その①	周辺リサーチによって対象を特定する
9	黒川（2018）その②	記述から「出来事・行為年表」を再構成する
10	黒川（2018）その③	出来事・行為を社会的文脈化する
11	黒川（2018）その④	学術論文たるには何が足りないか
12	卒論構想発表①	３人報告（３班に分かれて）
13	卒論構想発表②	３人報告（３班に分かれて）
14	春休みの文献研究計画の発表	読み込む予定の先行研究について報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回議論する文献について、要約とコメントを書いてくること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
入ゼミ生の関心に合わせて選択します。

【参考書】
適時指示。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出の要約・コメント：４０％　ゼミでの議論：４０％　卒論構想発表＆春休みの研究計画：２０％

【学生の意見等からの気づき】
毎回の課題提出は少し大変でしょうが力はグンとつきます。

【その他の重要事項】
５・６限全体が「筒井ゼミ」なので、２年生は両方出席のこと

【Outline and objectives】
In order to write a sociological graduation thesis, the students are master the < the seven components of academic paper > , the basic skill, and theh to wtite a provisional proposal for it.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

筒井　美紀

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？ 「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ ――などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記５領域の少なくともいずれか 1 つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】
筒井ゼミでは２年間かけて卒業論文を完成してゆく。３年生春学期では、その土台部分を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
原則対面とするが、コロナ状況などを総合的に考慮して zoom による授業に切り替える可能性もある。
【進め方】
２年生秋学期・春休みの進捗を踏まえて卒論テーマを決め、卒論構想発表をする。そのうえで、具体的に研究を進め、先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。学生同士の議論ののち、最後に教員からフィードバックを行なう。発表レジュメはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春休みの進捗報告①	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
2	春休みの進捗報告②	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
3	春休みの進捗報告③	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
4	春休みの進捗報告④	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
5	卒論構想発表①	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
6	卒論構想発表②	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
7	卒論構想発表③	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
8	卒論構想発表④	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
9	卒論進捗報告①	２人ずつ報告
10	卒論進捗報告②	２人ずつ報告
11	卒論進捗報告③	２人ずつ報告
12	卒論進捗報告④	２人ずつ報告
13	卒論進捗報告⑤	２人ずつ報告
14	卒論進捗報告⑥	２人ずつ報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論研究に必要なすべてのことを行なう本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼” を養う！）。もちろん、助言はする。

【参考書】
適宜助言

【成績評価の方法と基準】
発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献）50 %

【学生の意見等からの気づき】
WORD 校閲機能を使った発表レジュメへのコメントとアップ、続けます。

【Outline and objectives】
Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy
Why are people likely to expect edcation to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person dwvelop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distantce to the residents is shorter." Is it true? —- In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analize data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

筒井　美紀

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？ 「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ ――などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記５領域の少なくともいずれか 1 つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】
筒井ゼミでは２年間かけて卒業論文を完成してゆく。３年生秋学期では、各自具体的に研究を進めてゆく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
原則対面とするが、コロナ状況などを総合的に考慮して zoom による授業に切り替える可能性もある。
【進め方】
夏休みの進捗を踏まえて、引き続きどんどん進める。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。学生同士で議論したあと、教員が最後にフィードバックする。発表レジュメはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休みの進捗報告①	２人ずつ、行なった作業について報告
2	夏休みの進捗報告②	２人ずつ、行なった作業について報告
3	夏休みの進捗報告③	２人ずつ、行なった作業について報告
4	夏休みの進捗報告④	２人ずつ、行なった作業について報告
5	卒論進捗報告①	２人ずつ報告
6	卒論進捗報告②	２人ずつ報告
7	卒論進捗報告③	２人ずつ報告
8	卒論進捗報告④	２人ずつ報告
9	卒論進捗報告⑤	２人ずつ報告
10	卒論進捗報告⑥	２人ずつ報告
11	卒論進捗報告⑦	２人ずつ報告
12	卒論進捗報告⑧	２人ずつ報告
13	卒論進捗報告⑨	２人ずつ報告
14	卒論進捗報告⑩	２人ずつ報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論研究に必要なすべてのことを行なう本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼” を養う！）。もちろん、助言はする。

【参考書】
適宜助言

【成績評価の方法と基準】
発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献）50 %

【学生の意見等からの気づき】
卒論執筆者には、１１月中旬ごろから卒論草稿の添削を行ないます。

【Outline and objectives】
Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy
Why are people likely to expect edcation to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person dwvelop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distantce to the residents is shorter." Is it true? —- In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analize data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

寺崎　里水

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマを見つけるために、社会認識をつくるための力を身につけます。スキルとしては、文献の探し方、データの読み方、情報のまとめ方、プレゼンの仕方といったことを身につけます。
勉強ができる、成績が良い、頭がいい、いい人、地頭がよい、先生からの評価が高いなど、学校や社会でよいパフォーマンスを示す人を指すことばはたくさんあります。自分はいったいどういうふうになりたいのか、興味関心のあるテーマを探しながら、かつアカデミック・スキルを身につけながら、自分自身の社会への位置づき方を考えていきましょう。

【到達目標】
世の中の出来事が自分とどのようにつながっているのかが実感できるようになること、自分の身の回りの出来事を、ある学説や理論に則って、専門用語を使いながら説明しようと試みるようになることを目標とします。
人に説得的に自分の意見を説明できる、人の発表に対して建設的な意見を言える、質の良いディスカッションができるようにファシリテイトするといった技術についても学びます。人の能力の発揮の仕方にはいろいろなタイプがありますので、いろいろな活動を経験して、自分がどんなことが得意なのか、自分のつよみを理解してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
論文講読、ワークショップをもとに、ディスカッション形式で行います。
あらかじめ与えられたテーマや課題について取り組む力よりも、自分自身でテーマを設定し、課題を発見して取り組む力を重視します。そのためのサポートをします。課題に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アイスブレーキング。 ゼミの進め方。 ゼミでのルールの確認。
第 2 回	プレゼンテーションの種類と方法	レジュメをつくる、パワポをつくる、ポスターをつくる、論文を書くといった方法について、それぞれの特性と作法を学ぶ。
第 3 回	文献を読む-学力論①	学歴をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 4 回	文献を読む-学力論②	学力や階層格差をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 5 回	ディスカッション	学力論の２本の論文を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 6 回	文献を読む-ジェンダー①	ジェンダーとはなにかについて、最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 7 回	文献を読む-ジェンダー②	差別とジェンダーについて扱った文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 8 回	ディスカッション	ジェンダーに関する２つの文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 9 回	文献を読む-家族①	家族と子供の教育をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 10 回	文献を読む-家族②	近代家族をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 11 回	ディスカッション	文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 12 回	自らの問題関心を明確にする	これから考えたいことを人に説明する。
第 13 回	文献リストをつくる	情報を収集して、自らのテーマに基づく文献リストをつくる。その方法を学ぶ。
第 14 回	まとめ	情報を収集し、知識や語彙を増やしていく方法について、具体的に学ぶ。 課題レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献の講読、プレゼンの準備を必ず行うこと。自らのテーマについて考えるためにも、ニュースを見る、映画を見る、本や漫画を読む、旅行に行く、コンサートに行く、筋トレするなど、積極的な活動を行って、経験の幅をひろげること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの出来 30 %、提出物 30 %、授業への貢献 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムをチェックできる機器を自分で用意すること。

【その他の重要事項】
とくになし

【Outline and objectives】
It is a small seminar that learns about education, social strata, and gender issues.

EDU200MA
演習（発達・教育）3・4 年生（春）

寺崎　里水

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマに基づき、質的、量的いずれかの調査を実施し、関連文献を講読し、卒業論文執筆を進めます。

【到達目標】
自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。
その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果を学習支援システムの課題提出機能を用いて提出します。授業内で提出物に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 ２月、３月中の課題の回収、講評。
第 2 回	方法論を学ぶ①	問いをたてるということについて学ぶ。
第 3 回	方法論を学ぶ②	仮説をたて、調査計画を練る方法について学ぶ。
第 4 回	方法論を学ぶ③	フィールドワークについて学ぶ。
第 5 回	テーマの検討①	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 6 回	文献を読む①	学校観察をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 7 回	文献を読む②	インタビューをもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 8 回	文献を読む③	雑誌分析をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 9 回	テーマの検討②	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 12 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 13 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第 14 回	まとめ	ディスカッションを行い、最終レポート執筆作業をすすめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
大谷信介ほか 2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
石川淳志ほか 1998『見えないものを見る力』八千代出版
佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社

【成績評価の方法と基準】
授業内掲示板での発言 30 %、読書ノート 10 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【Outline and objectives】
It is a small seminar dealing with issues of education, social class, gender. We may conduct qualitative surveys or quantitative surveys.

EDU200MA
演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

寺崎　里水

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマに基づき、文献講読および卒業論文執筆を進めます。
また、それとは別に、社会の出来事と大学の学びとを結びつける活動として、合宿や学外のセミナー、シンポジウムなどの機会を積極的に利用します。

【到達目標】
自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。
その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。その場で内容について議論を行います。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 夏休み中の課題の回収、講評。合宿の振り返り。
第 2 回	合宿報告	合宿の活動成果について報告し、レポートの執筆分担などを決める。
第 3 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 4 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 5 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 6 回	文献を読む①教育領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 7 回	文献を読む②心理領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 8 回	文献を読む③その他の領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 9 回	個人研究発表④	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表⑤	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表⑥	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 12 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第 13 回	レポート執筆準備	最終レポート提出にむけ、ディスカッションを行い、執筆作業をすすめる。
第 14 回	まとめ	卒論構想発表に向けて、プレゼンの練習をする。 最終レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
授業中の発言、発表、レジュメの出来 30 %、読書ノート 10 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【Outline and objectives】
It is a seminar that discusses social issues such as education, social stratum, gender, etc.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

廣川　進

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私の専門分野の臨床心理学とキャリアカウンセリングのみならず、幅広い視点から興味関心あるテーマを調べ、レポートを書き、発表し、討議する力を身につけます。これまでに取り上げたテーマの例は家族、愛着障害、承認欲求、自己肯定感、モチベーションなどです。

【到達目標】
・興味関心のあるテーマについて自分なりに調べる方法を身につける。
・調べたことのレジュメ、レポート、プレゼンができる。
・授業で聞く、話す、話し合う力がつく。
・インタビュー調査の実施・考察・文章化の一連の過程を体験し質的方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本は演習形式で学生が調べてきたことを発表し、討議します。
身近な人へのインタビュー、逐語録作成、質的分析までを体験します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方 担当者決め
2	インタビューの方法	インタビュー調査のための講義
3	課題図書のレポートと討議１	担当者のレジュメをもとにしたグループ討議（アイデンティティのテーマ）
4	課題図書のレポートと討議２	担当者のレジュメをもとにしたグループ討議（承認欲求のテーマ）
5	課題図書のレポートと討議３	担当者のレジュメをもとにしたグループ討議（分人主義のテーマ）
6	インタビュー調査１	ゼミの学生同士でインタビューを取り合う
7	インタビュー調査２	逐語録をもとに分析する（前半）
8	インタビュー調査３	逐語録をもとに分析する（後半）
9	インタビュー調査の発表１	インタビュー調査の結果考察を発表する（チーム１）
10	インタビュー調査の発表２	インタビュー調査の結果考察を発表する（チーム２）
11	インタビュー調査の発表３	インタビュー調査の結果考察を発表する（チーム３）
12	卒論テーマにむけての発表１	現在、興味関心あるテーマから卒論テーマにつなぐプレゼン（チーム１）
13	卒論テーマにむけての発表２	現在、興味関心あるテーマから卒論テーマにつなぐプレゼン（チーム２）
14	卒論テーマにむけての発表３	現在、興味関心あるテーマから卒論テーマにつなぐプレゼン（チーム３）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書については、レジュメ担当者はもとより全員が事前に読んで授業に望むこと。
宿題としては身近な人へのインタビュー調査（１時間程度）を各自が授業時間以外に行なう。その録音データをもとに逐語録を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜、指示します

【参考書】
私とは何か　「個人」から「分人」へ　　（平野啓一郎）　講談社現代新書
<ほんとうの自分>のつくり方　自己物語の心理学　（榎本博明）　講談社現代新書
アニメに学ぶ心理学　『千と千尋の神隠し』を読む　　（愛甲修子）　言視舎
生きる意味　（上田紀行）　岩波新書
認められたいの正体　（山竹伸二）　講談社現代新書
愛着障害　子ども時代を引きずる人びと　（岡田尊司）　光文社新書
母という病　（岡田尊司）　ポプラ新書
発想法　川喜田二郎　中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点　授業中の積極的参加　６０％
発表　２０％
期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
研究のテーマ設定は学生の興味関心を踏まえたものにする
SNS や Youtube も取り込んだ活動にする

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの授業の際に可能な環境と端末

【Outline and objectives】
Examples of themes we've covered so far are family, attachment disorders, self-esteem needs, and motivation.
We　will study not only clinical psychology and career counseling in my special field but also wide field.
This gives you the ability to write, present and discuss.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表１	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表２	前回の討論を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表１	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生①
第 6 回	個人研究発表２	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生②
第 7 回	個人研究発表３	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生③
第 8 回	個人研究発表４	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生④
第 9 回	個人研究発表５	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑤
第 10 回	個人研究発表６	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑥
第 11 回	個人研究発表７	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑦
第 12 回	個人研究発表８	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑧
第 13 回	個人研究発表９	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑨
第 14 回	個人研究発表１０	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
私とは何か　「個人」から「分人」へ　（平野啓一郎）　講談社現代新書
＜ほんとうの自分＞のつくり方　自己物語の心理学　（榎本博明）　講談社現代新書
アニメに学ぶ心理学　『千と千尋の神隠し』を読む　（愛甲修子）　言視舎
生きる意味　（上田紀行）　岩波新書
認められたいの正体　（山竹伸二）　講談社現代新書
愛着障害　子ども時代を引きずる人びと　（岡田尊司）　光文社新書
母という病　（岡田尊司）　ポプラ新書
発想法　川喜田二郎　中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度　５０％）
発表　３０％
期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
SNS や YOUTUBE なども取り入れた活動にしていく

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline and objectives】
You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.
In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・6　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表１	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表２	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表１	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生①
第 6 回	個人研究発表２	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生②
第 7 回	個人研究発表３	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生③
第 8 回	個人研究発表４	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生④
第 9 回	個人研究発表５	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑤
第 10 回	個人研究発表６	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑥
第 11 回	個人研究発表７	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑦
第 12 回	個人研究発表８	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑧
第 13 回	個人研究発表９	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑨
第 14 回	個人研究発表１０	個人研究発表を行い討論を行う　ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
私とは何か　「個人」から「分人」へ　（平野啓一郎）　講談社現代新書
＜ほんとうの自分＞のつくり方　自己物語の心理学　（榎本博明）　講談社現代新書
アニメに学ぶ心理学　『千と千尋の神隠し』を読む　（愛甲修子）　言視舎
生きる意味　（上田紀行）　岩波新書
認められたいの正体　（山竹伸二）　講談社現代新書
愛着障害　子ども時代を引きずる人びと　（岡田尊司）　光文社新書
母という病　（岡田尊司）　ポプラ新書
発想法　川喜田二郎　中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度　５０％）
発表　３０％
期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
SNS や YOUTUBE なども取り入れた活動にしていく

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline and objectives】
You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.
In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞に関わる諸問題を演習のテーマとします。
共通の文献を読み、ディスカッションすることを通して、自らのキャリアの中での大きな節目となる学校から職業への移行過程を、一歩引いた俯瞰的な視点でとらえることを目指します。

【到達目標】
文献を読み、情報収集を行う中で、論点を把握することができる。
その論点をめぐって考察を深め、その結果を適切に発表・論述できる。
共通の論点をめぐって受講生同士で考察を深め合うことができる。
みずからが探求したい「問い」を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
４年次における卒論の執筆に向けた段階的な指導を行います。２年次秋学期は、文献を読み込み、論点を明らかにしていくこと、その論点についてディスカッションを行う中でみずからの「問い」を形成していくこと、書式に従った論文を書くこと、データや文献を収集することなど、「基礎ゼミ」で学んだ内容をもう一度自分たちで辿って、ゼミ論を書けるようになる準備をする期間と位置付けます。同時に、３年次のゼミ論につながる「問い」を絞り込んでいきます。
課題レポートについては次の授業回に具体的にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミのテーマと進め方、自己紹介と問題意識の共有、文献紹介
2	身近な話題をめぐるディスカッション	１つの論点をめぐるディスカッションに慣れる
3	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (1)	共通文献A（前半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
4	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (2)	共通文献A（前半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
5	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (3)	共通文献A（後半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
6	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (4)	共通文献A（後半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
7	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (1)	共通文献 B（前半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
8	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (2)	共通文献 B（前半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
9	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (3)	共通文献 B（後半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
10	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (4)	共通文献 B（後半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
11	データの読解	データの比較とディスカッション
12	関連文献・データの収集 (1)	文献・データの所在と収集方法
13	関連文献・データの収集 (2)	文献・データの収集と発表
14	「問い」の明確化	各自の「問い」の発表と明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通文献の読解、レジュメ作成、論点提示を行う。
プレゼンの準備、レポートの執筆を行う。
関連する文献やデータを収集する。
関連するニュースや論考を追う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第２版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
共通文献については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加： 30 %
レジュメの作成と論点提示： 30 %
レポート： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
一人一人の力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.
In this seminar, participants will develop better understanding of changing labor market and work styles, and develop perspectives of their career by reading, discussion, and critical writing.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

上西　充子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞に関わる諸問題を演習のテーマとします。
ゼミ論の執筆に向けて、文献の読み込みと調査によって「問い」を深めます。

【到達目標】
春学期は関連文献を読み込むこと、みずからの「問い」を深めること、独自調査の計画を立てて実行することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒論の執筆に向け、３年次にはゼミ論の完成を目指します。春学期は、各自が設定したゼミ論の「問い」に関連した文献・データを適切に収集して検討した上で、「問い」を改めて文章化し、その「問い」を深めるための独自調査の計画を立てて発表し、実行していきます。
課題レポートについては次の授業回に具体的にフィードバックを行います。
４年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の「問い」の発表と検討 (1)	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
2	ゼミ論の「問い」の発表と検討 (2)	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
3	論文の構成の理解	論文の基本的な構成を理解する
4	先行研究の収集と検討 (1)	文献収集状況の発表
5	先行研究の収集と検討 (2)	収集した文献の重要度の検討
6	先行研究の収集と検討 (3)	収集した文献の論点整理
7	独自調査の計画の策定	先行研究を踏まえた独自調査の必要性を検討する
8	独自調査の計画の発表 (1)	各自が独自調査の計画を発表し、相互に検討する
9	独自調査の計画の発表 (2)	各自が独自調査の計画を発表し、相互に検討する
10	独自調査の実施の中間報告 (1)	各自が独自調査を実施し、その結果を中間報告する
11	独自調査の実施の中間報告 (2)	各自が独自調査を実施し、その結果を中間報告する
12	研究計画の再検討 (1)	独自調査結果を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
13	研究計画の再検討 (2)	独自調査結果を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
14	振り返りとまとめ	各自の進捗状況を振り返り、中間発表に向けた各自の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献・データを収集し、論点を整理し、発表の準備を行う。
独自調査を企画し、実施し、その結果を整理する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第２版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加： 30 %
先行研究の整理： 30 %
独自調査の企画と実施： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
２年次の演習からの継続受講を原則とします。

【Outline and objectives】
The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.
In this seminar, participants will clarify their own theme by reading and research.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞にかかわる諸問題を演習のテーマとします。
秋学期はゼミ論の完成に向けて論文執筆に取り組みます。

【到達目標】
適切な論文構成により、ゼミ論を完成させることができる。
ゼミ論執筆のプロセスを通じて、みずからの卒論の研究課題と研究方法を固めていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
秋学期はゼミ論の執筆に取り組みます。論文の構成の方法、先行研究への適切な言及方法、研究結果の整理の方法などを実践的に学びながら、ゼミ論を完成させます。
課題レポートについては次の授業回に具体的にフィードバックを行います。
４年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究課題の文章化	研究課題を文章化し、検討する
2	ゼミ論中間発表 (1)	各自のゼミ論の構想を中間発表し、相互に検討する
3	ゼミ論中間発表 (2)	各自のゼミ論の構想を中間発表し、相互に検討する
4	既存の文献から学ぶ (1)	すぐれた論文の構成を検討する
5	既存の文献から学ぶ (2)	すぐれた論文の構成を検討する
6	論文構成の再検討	論文構成を再検討する
7	ゼミ論の執筆と指導 (1)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
8	ゼミ論の執筆と指導 (2)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
9	ゼミ論の執筆と指導 (3)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
10	ゼミ論の発表とコメント (1)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
11	ゼミ論の発表とコメント (2)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
12	ゼミ論の発表とコメント (3)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
13	振り返りと課題設定 (1)	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う
14	振り返りと課題設定 (2)	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
独自調査結果を整理し、発表の準備を行う。
ゼミ論の執筆を進める。
中間発表、ゼミ論発表に向けた準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第２版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加： 30 %
発表： 20 %
ゼミ論： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.

In this seminar, participants will write research reports of their own theme.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

梅崎　修

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を対象として、社会調査の実践的な学習を進めていきます。まず、地域データ分析やインタビューの理論や方法を学びます。その後、実際に地域調査を実施する中で、調査のスキルを身に付けることを目指します。また、同時に地域経済や地域活性化政策について文献を読みながら議論をし、現代における地域経済について学びます。

【到達目標】
2 年生秋学期の授業なので、3 年次以降の演習に繋がるように調査スキルの学習を第一に考えます。一人で地域経済の官庁統計を理解し、分析できること。さらに、人物にアポイントメントをとり、インタビュー調査を実施できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方－地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）や岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊－市民のための地域調査入門」（自治体研究社）の数章を基礎に調査法を学び、実際に地域調査を行います。調査対象地域に関しては、学生と一緒に相談しながら決めたいと思いますが、繰り返し調査地域を訪れるので、大学から近い地域になります。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの運営方針の説明。班分けなど。	ゼミの運営方針を説明し、お互いの自己紹介を行います。
第 2 回	地域の官庁統計の説明。	地域統計を解説。
第 3 回	統計情報の分析（1）	実際の官庁統計を分析してみる。
第 4 回	統計情報の分析（2）	前回講義に引き続き、官庁統計を分析してみる。
第 5 回	統計分析の実習	ある地域を決めて、統計分析を実際に行う。
第 6 回	報告会	統計分析のレポート報告会
第 7 回	地域資料の利用方法（地図、行政資料、歴史資料）	地域の文献資料の探し方を解説。
第 8 回	地域図書館・資料館の訪問。	実際に地域の図書館・資料館を訪問する。
第 9 回	インタビュー調査方法の説明	インタビュー調査方法について、解説。
第 10 回	インタビュー調査の企画会議	インタビュー調査の計画を練る。
第 11 回	地域まちあるき	外に出て、調査対象を探す。
第 12 回	インタビュー調査実習①	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 13 回	インタビュー調査実習②	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 14 回	報告会	インタビュー調査のレポート報告会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域調査を軸とした演習運営なので、授業時間外に調査の時間を確保してもらいます。実際は、班分けをして調査を行いますので、学生の自主性が重んじられます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方－地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）

【参考書】
岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊－市民のための地域調査入門」（自治体研究社）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度 (50%）＋報告内容（50%）

【学生の意見等からの気づき】
地理的情報など、基礎的な地域情報を適宜抗議していく。授業の中で皆さんの意見を取り入れてより良いものにしていければと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンや ic レコーダーを使用します。

【Outline and objectives】
The main objects of this course are to get method of social research and conduct research about local economy or community by yourself. To achieve this goal, this course is to study how to use official statistics, conduct literature searching, interview somebody and carry out an observation.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

梅崎　修

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】
身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生はプロジェクトの完成と卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方を話し合う。班分けなどを決める。
2	調査法解説	これまでの調査経験を振り返り、新たに身に付けるべき調査法について検討。
3	論文・レポートの書き方	論文・レポートの書き方を解説。
4	論文・レポートの発表の仕方	論文・レポートの発表の仕方を解説。
5	地域経済学（文献）を読む。	地域経済学に関する文献を読み、議論する。
6	オーラルヒストリー（文献）を読む	オーラルヒストリーに関する文献を読み、議論する。
7	まちづくり（文献）を読む。	まちづくりに関する文献を読み、議論する。
8	調査企画報告①	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
9	調査企画報告②	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
10	調査企画報告③	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
11	調査経過報告①	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
12	調査経過報告②	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
13	調査経過報告③	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
14	夏休み合宿準備	合宿先での調査を全員で議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文に関しては、長文を書くのに苦労をするので、春学期の段階から論文の書き方を講義していく。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

梅崎　修

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・6　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】
春学期に引き続き、身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。秋学期は、レポートや論文の完成を目指す。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生は卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休み合宿の振り返り	夏休み合宿の振り返り、議論をする。
2	文章力向上のための講義	長文を論理的に書くためのノウハウを講義する。
3	プレゼンテーション向上のための講義	プレゼンテーションを時間内にわかりやすく行うためのノウハウを講義する。
4	文献購読（アクションリサーチ）	地域連携プロジェクトを最終的な課題提案につなげるために、アクションリサーチの文献を読む。
5	文献購読（地域政策）	地域政策の論文を輪読し、議論する。
6	レポート・論文の中間報告①	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
7	レポート・論文の中間報告②	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
8	レポート・論文の中間報告③	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
9	レポート・論文の中間報告④	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
10	ゲスト講師の講義	地域活性化に携わるゲスト講師の講義
11	地域連携プロジェクトのワークショップ①	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
12	地域連携プロジェクトのワークショップ②	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
13	レポート・論文の最終報告①	10 名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間も使う。
14	レポート・論文の最終報告②	10 名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間を使う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】
河野哲也「レポート・論文の書き方入門　第 3 版」慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】
レポート・卒業論文作成は、長文を書くことに苦労するので、細かいチェックポイントを設けて指導していく。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

木村　琢磨

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年次・４年次の演習に向けて、組織行動論の基本を学習し、企業を組織マネジメントの視点から理解できるようになることを目指す。授業内で行うプレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、組織のマネジメントに関する分析的視点を養う。

【到達目標】
１．知識、理解
組織行動論の主なテーマ（モチベーション、リーダーシップなど）の理論・先行研究に関して大学の教科書レベルの知識を身につける。
２．体系化、表現、説明
上記の理論・先行研究を体系的に整理をし、他の人に論理的な説明と事例を交えて教えることができる。
３．論理的思考、哲学的思考、批判的思考
概念の定義に関する厳密な思考（哲学的思考）、理論の論理的・実証的考察（論理的思考）に基づいて既存の理論や実証研究を批判的に考察（批判的思考）し、新たな研究課題を発見することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題文献に基づく、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心として進める。プレゼンテーションは、内容の要約的説明と分析、論点提示を中心とする。プレゼンテーションに基づいて学生同士で質疑、ディスカッションを行う。取り扱うテーマの内容は履修者の関心に応じて変更することがある。各回の提出課題へのフィードバックは授業内で口頭説明により行う。期末試験の結果は授業支援システム上で個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と学習方法・成績評価方法について
第 2 回	知覚と個人差	人間の知覚のメカニズムと個々人の違い
第 3 回	個人の態度と行動	組織コミットメント、態度と行動の関係
第 4 回	モチベーション理論	モチベーションの内容論と過程論
第 5 回	職場におけるモチベーション施策	モチベーションの維持・向上のための施策とその設計方法
第 6 回	ストレスと感情	ストレスの規定要因、予防・対処策、感情のマネジメント
第 7 回	コミュニケーション	コミュニケーションの機能、機能、諸問題
第 8 回	チームとグループのマネジメント	チームのタイプ、集団形成の効果、集団に固有の力学
第 9 回	コンフリクトと交渉	組織における集団間・個人間の対立と交渉
第 10 回	意思決定	意思決定のプロセス、意思決定におけるバイアス
第 11 回	リーダーシップ	リーダーシップの類型、リーダーシップ開発
第 12 回	権力と政治	組織における個人・集団の権力と組織内政治
第 13 回	組織構造と組織変革 組織文化	組織変革の推進方法、変革への抵抗の発生要因、組織文化の機能
第 14 回	総括	前回までの内容の総括。理解度確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回のレポートの準備（予習）、復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Robbins, S. P., & Judge, T. A. (2013). Organizational Behavior 15th Edition (England).

【参考書】
Robbins, S. P. 著, 高木晴夫訳 (2006). 組織行動のマネジメント 入門から実践へ. ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
平常点　４０％：
評価基準：テキストの内容を正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。毎回のレポートによる評価
期末試験　６０％
評価基準：テキストで学習した理論・学説を正しく理解し、その問題点や主な実証結果を理解していること。参照不可。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度から使用テキストを一昨年度以前のものから変更し、グローバルスタンダードとなっている組織行動論のテキストを主教材として用いることにした。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配付は授業支援システム上で行う。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
This course focuses on some of the essential topics in organizational behavior. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic approaches that can work as guides to implement human resource management.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

木村　琢磨

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 組織行動の分析に必須な統計的分析の基礎を学ぶ。
2. 統計的分析の Python による実行方法を学ぶ。

【到達目標】
・データの種類、度数分布表、データの代表値、データのバラつきの指標、確率理論、正規分布、点推定、仮説検定に関する基礎的な内容の理解に基づき、基本的な用語の説明と、正誤の判別ができること
・上記の内容について Python による実行ができること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式による説明と実習形式との組み合わせにより実施する。実習は統計学の理解を問う例題または Python コーディングであり、個人またはグループで回答する。
フィードバックは授業内課題はその場、授業後提出課題の場合は次回の授業にて口頭での解説により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の目的・学習方法の説明
第 2 回	論文購読	データ分析を用いた組織行動論の研究論文を読む
第 3 回	データ分析の基礎	データの種類、データ収集の方法
第 4 回	データの度数と分布	度数分布と累積度数分布、ヒストグラム
第 5 回	データの代表値	平均・中央値・モード、四分位範囲、箱ひげ図
第 6 回	データのバラつきの指標	分散、標準偏差、変動係数
第 7 回	順列と組み合わせ	階乗、順列の計算、組合せの計算
第 8 回	確率	確率の計算、期待値、統計的独立
第 9 回	条件付確率	条件付確率、乗法定理、ベイズの定理
第 10 回	正規分布	正規分布、二項分布
第 11 回	サンプリングと推定	母集団、標本、サンプリングの方法、点推定
第 12 回	信頼区間	区間推定、95 %信頼区間、 t 分布表
第 13 回	仮説検定	帰無仮説、対立仮説、有意水準、第 1 種の過誤と第 2 種の過誤
第 14 回	総括	第 2〜第 13 回の内容の総括、Python による実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業の予習・復習、提出課題（Python による分析の実行）の準備
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験
・評価基準①：データの種類、度数分布表、データの代表値、データのバラつきの指標、確率理論、正規分布、点推定、仮説検定に関する基礎的な内容の理解に基づき、基本的な用語の説明と、正誤の判別ができること
・評価基準②：上記評価基準①の内容について Python による実行ができること
・配点は①と②で５０％ずつ

【学生の意見等からの気づき】
３年次はデータ分析の基礎の学習に充てることに変更

【学生が準備すべき機器他】
Python および Jupyter notebook（通常のパソコンで使用可能。スペックが足りない場合は Google Colab を使用）

【その他の重要事項】
オフィスアワー： 火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
1. Learn the fundamentals of statistical analysis that is an essential analytical knowledge for studying organizational behavior.
2. Learn how to implement statistical analysis with Python

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

木村　琢磨

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・6　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 組織行動の分析に必須な統計的分析の基礎を学ぶ。
2. 統計的分析の Python による実行方法を学ぶ。

【到達目標】
・仮説検定、相関、回帰、分類に関する基礎的な理解に基づき、多変数モデルを用いてビジネスデータの統計分析ができる。
・上記のデータ分析を Python を用いて実行できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式による説明と実習形式との組み合わせにより実施する。実習は統計学の理解を問う例題または Python コーディングであり、個人またはグループで回答する。
フィードバックは授業内課題はその場、授業後提出課題の場合は次回の授業にて口頭での解説により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の目的・学習方法の説明
第 2 回	論文購読	データ分析を用いた組織行動論の研究論文を読む
第 3 回	平均値の検定	母平均の検定、２標本検定、t 検定
第 4 回	X 二乗検定	X 二乗、X 二乗検定、A/B 分析
第 5 回	相関と回帰	相関、回帰、散布図、相関係数、回帰係数
第 6 回	重回帰	重回帰、決定係数、回帰式、MSE
第 7 回	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰分析、分類問題、閾値の設定
第 8 回	分類モデルの評価方法	混同行列、ROC カーブ
第 9 回	データ分析実習（1）	データの理解、前処理
第 10 回	データ分析実習（2）	ホールドアップ法
第 11 回	データ分析実習（3）	分析モデルの適用、モデルの修正と微調整
第 12 回	データ分析実習（4）	分析結果の評価
第 13 回	データ分析実習（5）	分析結果のプレゼンテーション
第 14 回	総括	多変数モデルのまとめ、プレゼンテーションに関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業の予習・復習、提出課題（Python による分析の実行）の準備
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（プロジェクト課題５０％、口頭試問５０％）
・プロジェクト課題の評価基準
　多変数モデルを用いたデータ分析を Python を用いて的確に行えたかどうかを評価する。評価は Python コードとプレゼンテーション資料に基づき行う。
・口頭試問
　プロジェクト課題のプレゼンテーションに基づき、仮説検定、相関、回帰、分類に関する基礎的な理解ができているかどうかを口頭試問にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
データ分析を実際に行うプロジェクトを３年次から行うことにした

【学生が準備すべき機器他】
Python および Jupyter notebook（通常のパソコンで使用可能。スペックが足りない場合は Google Colab を使用）

【その他の重要事項】
オフィスアワー：火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
1. Learn the fundamentals of statistical analysis that is an essential analytical knowledge for studying organizational behavior.
2. Learn how to implement statistical analysis with Python

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

酒井　理

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。
プロジェクトベーストラーニングを通して、企画力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。プロジェクトを実施します。また 3 年と合同でビジネスプランコンテストに参加します。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	ゼミ計画とチームビルディング	秋学期の２年生プロジェクトの計画を立てるとともに，チームを形成してプロジェクトに臨む準備をします
3	マーケティングコンテストプラン作成 1	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
4	マーケティングコンテストプラン作成 2	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
5	マーケティングコンテストプラン中間発表	コンテストに提出するプランの途中経過を発表します.
6	マーケティングコンテストプラン作成 3	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
7	マーケティングコンテスト提出プランの発表	ブラッシュアップした最終提案を発表します
8	マーケティングコンテストの振り返り	PDCA のチェックを行います．実践をゼミ全体で振り返ります.
9	プロジェクトの準備	プロジェクトのテーマを決定して，計画を立てます
10	プロジェクトパートナーとの打合せ	ともにプロジェクトを進める外部機関との調整を行います
11	プロジェクトの実施 1	提案に基づいて実践を行います。
12	プロジェクトの実施 2	実践しながら計画や運用を修正して実践内容を改善します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクト実施までのプロセスを振り返ります。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度４０％，プロジェクトへの取り組み姿勢４０％，プロジェクトの成果２０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure building ability and execution skill.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

酒井　理

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。
プロジェクトベーストラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。また起こして協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。特段、春学期では文献資料を集める経験を経ることで情報収集スキルをを獲得することをもう一つの目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミは PBL（プロジェクトベーストラーニング）によって進めます。ある課題に対してそれを解決するためのプロセスを通してさまざまなことを学んでいこうとする方法です。実際の行動をともないますので、「協調性」「責任感」「リーダーシップ」「実行力」がすべてのゼミ生に求められます。
ゼミの取り組みは大きく 2 つあります。①プロジェクトの企画と運営、②新たなビジネスプランの考案です。プロジェクトは現実に何かを動かす経験をすることになります。ビジネスプランの考案は、ビジネスプランコンテストに参加して外部の評価を受けます。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について意見を交換します。学生主体で運営していけるような形を話合いで決めていきます。
2	プロジェクトビルディング (コンセプトの構築)	プロジェクトを作り上げるためにアイディア発想、プロジェクトコンセプトの構築をグループワークをしながら進めます。
3	プロジェクトビルディング（計画策定）	プロジェクト実践を想定した計画を策定するためのグループワークをおこないます。
4	ビジネスプラン（アイディア発想ワーク）	ビジネスプランコンテストに向けてアイディア出しを行います。グループワークでアイディアを洗練させます。
5	ビジネスプラン（プランの作成）	ビジネスプランコンテストのテーマに合わせた内容をかためます。
6	ビジネスプラン（プレゼンテーション）	ゼミ内でプレゼンテーションを行ってプランのブラッシュアップを行います。
7	プロジェクト実施に向けたリサーチ準備	プロジェクトを実際にローンチする前に、事前のマーケティングリサーチを計画します。
8	リサーチの実行	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを実施します。
9	リサーチデータの収集と分析	マーケティングリサーチを行って集めたデータを分析します。
10	プロジェクトビルディング（実装準備）	プロジェクトを実際にローンチするための最終的な調整を行います。
11	プロジェクトのローンチ	プロジェクト実際に立ち上げて実行していきます。
12	プロジェクトのモニタリング	プロジェクトのを実行し、その経過をモニタリングして、分析します。
13	プロジェクトの修正	プロジェクトの問題点を抽出して分析します。
14	春学期まとめ	夏期休暇中のゼミの活動計画と秋学期の準備をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。とにかく何ごとも実践です。現場で体験する、実際にアクションを起こして経験していくことが大事です。机に向かって勉強するよりは、外に出かけてさまざまな事象に向き合うようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０％，プロジェクトへの取り組み姿勢５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションを活発にする工夫をしていきます。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure building ability and execution skill.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

酒井　理

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは『マーケティング実践』です。世の中に役立つ、人々にとって価値のあるものを創造して相手に提供していくことがマーケティングの役割ですから、それに関することであればよしとして、研究課題は幅広く受け入れたいと思います。

【到達目標】
春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。秋学期は、春学期と同様にプロジェクトを実施します。また、半期に１度のビジネスプランコンテストに参加します。3 年生は卒業論文のベースとなるようにプロジェクトの内容を深く掘り下げてまとめる作業を行います。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	マーケティング研究論文のレビュー１（サービスマーケティング）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービス・マーケティング。
3	マーケティング研究論文のレビュー２（サービタイゼーション）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービタイゼーション。
4	マーケティング研究論文のレビュー３（AI と IoT）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマは AI と IoT。
5	ゲスト講師とのディスカッション（マーケティング）	マーケターをゲストに、実際に行われているマーケティングを題材にディスカッションを行います。
6	ゲスト講師とのディスカッション（スタートアップ）	起業のノウハウ、マインドセットなどをテーマにディスカッションを行います。
7	バーチャルビジネスゲームの実施	インターネット広告企業の人事部を招いてビジネスゲームを行います。ビジネスセンス修得のヒントを得ます。
8	プロジェクトのロジック構築	研究的視点からプロジェクトのロジックを組み立てます。
9	プロジェクトのコンセプト再考	研究の視点からプロジェクトを捉え直してコンセプトを再考する作業を行います。
10	プロジェクト計画のリファイン	プロジェクトを走らせながら新たなロジックとコンセプトで計画をリファインします。
11	プロジェクトの実施	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
12	検証データの収集と分析	プロジェクトを通して、仮説の検証を行います。得られたデータを分析して結論を導き出します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクトをクロージングして、ここまでのプロセスの振り返りを行います。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０％，取り組み姿勢５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミで配布する資料はすべてデジタルドキュメントです。PC、タブレット、スマートフォンなどコミュニケーションサービスの"Slack"にアクセスできる環境が必要です。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
The theme of the class is practical marketing. The role of marketing is to create something that is useful to the world and valuable to people and provide it to others. The seminar accepts a wide range of research projects.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

坂爪　洋美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて考えていきます。具体的には個人の well-being を追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。
ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

【到達目標】
到達目標は大きく分けて２つあります。
（1）産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
（2）3 年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の前半の時期は、基礎文献の購読とそれに関連するワークを実施します。文献の購読については、レジュメの担当を割り振ります。後半の時期はアンケート調査もしくはビジネスコンテストへの応募案の検討を実施します（変更あり）。活動はグループ単位で進めます。
ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第 2 回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第 3 回	第 1 回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第 4 回	第 1 回ディベート（2）	ディベートの実施
第 5 回	第 2 回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第 6 回	第 2 回ディベート（2）	ディベートの実施
第 7 回	企業に向けた提案（1）	グループに分かれて、現状分析を行う
第 8 回	企業に向けた提案（2）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 9 回	企業に向けた提案（3）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 10 回	企業に向けた提案（4）	プレゼンテーション練習を行う。
第 11 回	企業に向けた提案（5）	プレゼンテーション
第 12 回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第 13 回	卒論発表会（1）	卒論に対してコメントを行う
第 14 回	卒論発表会（2）	卒論に対してコメントを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□ディベートならびにビジネスコンテストについて
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6 割
調査報告（報告書とプレゼンテーション）：4 割

【学生の意見等からの気づき】
各回で 1 つのテーマを取り上げていたが、進行状況に応じて 2 回に分ける取り上げる等により、より理解を深める。

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline and objectives】
In this exercise, we will consider human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past several years, in the first half of the course, students are divided into groups and deepen their discussions through group discussions on the themes presented in each session. In the second half, students work in groups to examine and propose improvements to the themes presented by the companies.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

坂爪　洋美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「多様な人材が活躍できる場」の実現に向けて、産業・組織心理学の専門知識を修得し、企業での実際について学ぶ。それらを通じて、組織レベル・職場レベル・個人レベルでの取組みを検討できるようになる。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下 3 点である。
（1）産業・組織心理学の主要な概念についての理解を得る。
（2）調査計画を立案し、調査を実施し、結果をレポートとしてまとめる。
（3）企業での様々な取組みについて整理した上で理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は基本的にグループでの活動を中心とする。文献購読に際しては、分担された文献のレジュメを作成し、ディスカッションのファシリテーションを行う。また各テーマに基づいたワークを実施することがある。調査については、調査計画の立案からレポートの作成までを担当する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	前期のゼミの進め方について検討する。	半期の活動計画を立てる。
第 2 回	グループ研究のテーマ決め	2－3のグループで行う調査のテーマを決める。
第 3 回	テーマに関する基礎文献の購読（1）	各グループで調査するテーマに関する文献を読む。
第 4 回	テーマに関する基礎文献の購読（2）	各グループで調査するテーマに関する文献を読む。
第 5 回	調査計画の立案（1）	グループごとに興味のあるテーマを調査計画として企画する。
第 6 回	調査計画の立案（2）	調査計画に基づき、調査の実行プランを検討・確定する。
第 7 回	調査の実施（1）	調査実施の準備を行う。
第 8 回	調査の実施（2）	調査の途中経過を報告する。
第 9 回	調査の実施とまとめ（1）	調査データを分析し、結果をえる。
第 10 回	調査の実施とまとめ（2）	結果に基づく考察を行う。
第 11 回	レポートの作成（1）	レポート作成の方法について学ぶ。
第 12 回	レポートの作成（2）	レポートならびに発表資料を作成する。
第 13 回	発表会	調査結果を報告する。
第 14 回	夏合宿の計画	夏合宿にむけての準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に毎週課題が出る。事前準備をしてきたものを、ゼミでブラッシュアップするという形になる。また、グループでの作業が中心になるので、ゼミ以外の時間で集まって作業をすることも多い。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ内での発表等授業に対する貢献　60 %
レポート等の提出物　40%

【学生の意見等からの気づき】
ゼミでのディスカッションがさらに充実するように働きかけると同時に、基礎知識の習得に必要な時間を確保する。

【Outline and objectives】
The main aim of the seminar is to develop skills needed to carry out the research about organizational behavior and to write a report. All activities are carried out in groups Therefore, students are need communication skills to collaborate with others

As a result of taking this course, students are expected to pose a research question, express a theoretical foundation upon which their research will build, draft a purpose statement, gather primary and secondary data, estimate basic descriptive statistics, create data visuals, analyze data and logical thinking which will be tested at inter-seminar workshops and external presentations.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

坂爪　洋美

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・6　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて考えていきます。具体的には個人の well-being を追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。
ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

【到達目標】
到達目標は大きく分けて２つあります。
（1）産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
（2）2 年生との活動を適切にファシリテートすることで、グループでの活動をより良い成果につなげるためにスキルを獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の前半の時期は、基礎文献の購読とそれに関連するワークを実施します。文献の購読については、レジュメの担当を割り振ります。後半の時期はアンケート調査もしくはビジネスコンテストへの応募案の検討を実施します（変更あり）。活動はグループ単位で進めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第 2 回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第 3 回	第 1 回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第 4 回	第 1 回ディベート（2）	ディベートの実施
第 5 回	第 2 回ディベート（1）	指定されたテーマについて調べる
第 6 回	第 2 回ディベート（2）	ディベートの実施
第 7 回	企業に向けた提案（1）	グループに分かれて、現状分析を行う
第 8 回	企業に向けた提案（2）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 9 回	企業に向けた提案（3）	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 10 回	企業に向けた提案（4）	プレゼンテーション練習を行う。
第 11 回	企業に向けた提案（5）	プレゼンテーション
第 12 回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第 13 回	卒論発表会（1）	卒論に対してコメントを行う
第 14 回	卒論発表会（2）	卒論に対してコメントを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□ディベートならびにビジネスコンテストについて
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。

【テキスト（教科書）】
木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6 割
調査報告（報告書とプレゼンテーション）：4 割

【学生の意見等からの気づき】
各回で 1 つのテーマを取り上げていたが、進行状況に応じて 2 回に分ける取り上げる等により、より理解を深める。

【授業中に求められる学習活動につ いて】
I

【Outline and objectives】
In this exercise, we will consider human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past several years, in the first half of the course, students are divided into groups and deepen their discussions through group discussions on the themes presented in each session. In the second half, students work in groups to examine and propose improvements to the themes presented by the companies.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

武石　恵美子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」をテーマに授業を進める。
働く人の多様化（ダイバーシティ）、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、問題意識の明確化など、研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成をとらえる問題意識をもち、その解明のために研究を進めることができる基礎力を身に付けることを目標とする。具体的には、文献サーベイ、データの収集・分析、レポート・論文の書き方など、研究を進める上での基礎を身に付けることに加え、世の中で起きている事象について問題意識をもち、その課題を掘り下げるという課題設定・課題解決能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習は、少人数で、特定のテーマを集中的に議論、研究する場であると考えてほしい。
大学での学びは、自分が知りたいことを主体的に追求すること、が基本なので、与えられたものではなく、自分で探究心をもって学習することが重要である。ゼミはそのための貴重な機会であり、ゼミでは積極的に発言し、他の人の考えにも耳を傾けることに努めること。
特に、キャリアデザインに関して正解はないことが多いので、他者の意見をききながら自分の意見をまとめて発言する、ということが重要である。本を読むときも「自分の意見との違い、批判」を忘れないこと。
授業は、講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。3 年次以降の演習を視野に入れた授業展開を行う。
課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	レジュメの作り方、文献の読み方	ゼミを進める上での基本的なスキルとしてのレジュメ作成、文献講読の基礎を習得する。
3	共通文献（1 章）の講読	共通文献の 1 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
4	共通文献（2 章）の講読	共通文献の 2 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
5	共通文献（3 章）の講読	共通文献の 3 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議をする。
7	共通文献（4 章）の講読	共通文献の 4 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
8	共通文献（5 章）の講読	共通文献の 5 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
9	文献の集め方、論文の読み方	文献サーベイのための、文献の集め方、論文の読み方について理解する。
10	レポートの書き方	課題で提出したレポートをフィードバックしながら、レポートの書き方について習得する。
11	論文の書き方	学術論文を読んで論文の基礎、書き方を習得する。
12	次年度のグループ研究のテーマ設定	次年度実施するグループ研究のテーマ、メンバーを決定する。
13	まとめ	授業の振り返り、総括を行う。
14	卒業論文発表会	4 年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要である。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講読テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究課題への取組姿勢、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。
レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【その他の重要事項】
2 年次までに、「ライフコース論」「ビジネスキャリア入門」「キャリア開発論」「職業選択論Ⅰ・Ⅱ」「人材育成論Ⅰ・Ⅱ」など、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】
In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the diversification of the working person, the current situation and the agenda of the work-style. Students will learn the basics of study through a discussion, documents reading.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

武石　恵美子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進める。
働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにする。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆する。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視する。
課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	研究テーマの設定	研究テーマの設定、その内容の具体化を行う
3	研究テーマの深め方	研究テーマについてテーマの絞り込みや深化を行う
4	文献収集の方法、文献の読み方	文献収集の方法、その読み方について
5	研究の企画	研究の企画を行う
6	研究方法の検討	研究の方法を検討する
7	調査内容の検討	調査対象や内容の検討を行う
8	中間報告	研究の中間報告を行う
9	調査の実施	フィールド調査を実施する
10	調査の実施の継続	フィールド調査を継続する
11	調査の実施とデータの集約	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を行う
12	調査の実施とデータの集約の継続	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を継続する
13	データの収集、分析方法	データの整理方法についての講義
14	総括	半期の進捗の振り返り、まとめ、夏休みの課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究のための文献サーベイや調査の実施等本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。
レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【その他の重要事項】
2 年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】
In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

武石　恵美子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進める。
働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにする。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆する。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視する。
課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業のオリエンテーション	秋学期の授業計画についてのオリエンテーション
2	とりまとめ方向の報告	今後のとりまとめの方向についての報告を行う
3	調査の実施	フィールド調査を実施
4	データの収集	データを収集し、その取りまとめを行う
5	データの分析	収集したデータの分析・整理の仕方についての講義
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議する
7	結果のまとめ	調査結果をまとめる
8	結果の分析	結果を分析する
9	論文の書き方	実際の論文を読んで講評し、論文の書き方を習得
10	研究論文のアウトライン	研究論文のアウトラインを決める
11	研究論文の執筆	研究論文を執筆する
12	報告準備、研究論文の集約	報告資料の作成、報告の準備、各自研究論文集約
13	研究報告会と講評	研究の報告会、研究報告の講評
14	卒業論文発表会	4 年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究のための文献サーベイや調査の実施等本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【Outline and objectives】
In this seminar, the theme of the course is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

MAN200MA

演習（ビジネス）2 年生

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、計量分析の基礎を演習を行いながら学んでいく。

【到達目標】
各種計量分析が一通りできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習双方を行う。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	パソコン操作の基本	パソコン操作の基本を学ぶ。
3	データ処理の基礎	データ処理の基礎について学ぶ。
4	データの種類	研究で用いるデータの種類について学ぶ。
5	データセットの構築 (1)	統計パッケージにおいて、データセットを構築する方法を概説する。
6	データセットの構築 (2)	グループワークを通じて、データセットの構築をより深く学ぶ。
7	データセットの構築 (3)	データセットの構築を効率的に行えるように、簡単なプログラミングを学ぶ。
8	変数の相関 (1)	変数の相関の基本を学ぶ。
9	変数の相関 (2)	変数の相関の解釈方法やより高度な相関係数について学ぶ。
10	単変量分析	単変量分析の方法を学ぶ。
11	多変量分析	多変量分析の方法を学ぶ
12	計量分析の演習 (1)	財務データを用いた演習を行う。
13	計量分析の演習 (2)	アンケート・データを用いた演習を行う。
14	計量分析の演習 (3)	作表について演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
①授業への取組み姿勢（70%）
②他大学とのインゼミ大会への参加、報告（20%）
③レポートの提出状況、内容（10%）

【学生の意見等からの気づき】
前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】
In this seminar, you learn about quantitative analysis.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、企業行動等について、計量的な分析を実施できる能力を身につけることを目的とする。そのために、基本的な統計手法について学ぶとともに、実証的な研究論文の読み方を学んでいく。

【到達目標】
計量的な分析を実施できる能力と、実証的な研究論文の読み方を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と発表双方を行う。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	統計分析の基礎 (1)	データセットの構築を行う。
3	統計分析の基礎 (2)	アンケートデータの分析方法について学ぶ。
4	統計分析の基礎 (3)	前回に続いて、アンケートデータの分析方法について学ぶ。
5	統計分析の基礎 (4)	会計のアーカイバルデータの分析方法について学ぶ。
6	統計分析の基礎 (5)	会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
7	統計分析の基礎 (6)	前回に続いて、会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
8	研究論文のサーベイ (1)	生活経済に関する論文を輪読する。
9	研究論文のサーベイ (2)	前回に続いて、生活経済に関する論文を輪読する。
10	研究論文のサーベイ (3)	労働経済に関する論文を輪読する。
11	研究論文のサーベイ (4)	前回に続いて、労働経済に関する論文を輪読する。
12	研究論文のサーベイ (5)	会計学に関する論文を輪読する。
13	研究論文のサーベイ (6)	前回に続いて、会計学に関する論文を輪読する。
14	研究論文のサーベイ (7)	ファイナンスに関する論文を輪読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
①授業への取組み姿勢（70%）
②他大学とのインゼミ大会への参加、報告への取組み（20%）
③レポートの提出状況、内容（10%）

【学生の意見等からの気づき】
本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】
In this seminar, we aim to acquire the ability to carry out quantitative analysis on corporate behaviors. For that purpose, we will learn basic statistical methods and learn how to read empirical research papers.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

中野　貴之

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、春学期に学習した知識を踏まえて、実際に研究主題を選択し、実証的な研究を実施し、一定の研究成果を残すことを目的とする。各自、具体的な研究テーマを設定し、研究発表に向けた作業を行っていく。

【到達目標】
各自研究を実施し、論文等の形態で研究成果を残すことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
主に実証的な作業を行っていく。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	研究テーマの設定 (1)	研究テーマについて、グループで検討する。
3	研究テーマの設定 (2)	研究テーマを、各グループで具体的に絞り込む。
4	先行研究の検討	先行研究の検討を各グループで行う。
5	仮説の構築 (1)	検証仮説について検討する。
6	仮説の構築 (2)	候補となる検証仮説を具体的に特定する。
7	データ分析 (1)	データの分析を開始する。
8	データ分析 (2)	データの分析をグループワークにより進める。
9	データ分析 (3)	前回に続いて、データの分析をグループワークにより進める。
10	検証結果の考察	検証結果について、グループにおいて議論する。
11	検証結果の再検討	各グループにおいて再検証を行う。
12	発表資料の作成 (1)	発表資料の作成を行う。
13	発表資料の作成 (2)	前回に続いて、発表資料の作成を行う。
14	発表	各グループの発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
①授業への取組み姿勢（70%）
②他大学とのインゼミ大会への参加、報告（20%）
③レポートの提出状況、内容（10%）

【学生の意見等からの気づき】
本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】
In this seminar, we aim to select research topics, conduct empirical research and present research results. You have to set up a specific research theme and present your research results.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

佐藤　厚

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、人材育成というキーワードをベースにしながら、a）人事管理の側での働かせ方と、b）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】
人材育成とキャリア形成に関する基本的な文献を読み込み、以下の獲得を到達目標とします。
①テーマに関わる基礎知識を習得する。
②文献の批判的読解力を獲得する。
③①と②を通じて、課題設定 → 情報収集 → 情報分析＋まとめ、といった3〜4年演習での学習に必要な基礎的能力の形成をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この演習では、グループを編成し、文献についてグループごとに主担当者を決めて、①上記テーマに関わる文献のレビュー、②読解 → レジメ作成 → 報告+討論、③まとめ（自分なりの要約とコメント）の作成と発表という形で展開されます。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。
なお、授業形式について、対面授業を想定していますが、大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方について
2	テーマに関する文献の収集と読み込み（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
3	テーマに関する文献の収集と読み込み（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
4	テーマに関する文献の収集と読み込み（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
5	テーマに関する文献の収集と読み込み（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
6	テーマに関する文献の収集と読み込み（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
7	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
8	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
9	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
10	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
11	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
12	クリティカル・リーディング・レポートの報告に向けた論点整理	これまでのテーマにそった主要論点を整理しプレゼンの準備を行う
13	クリティカル・リーディング・レポートの報告（1）	報告に基づくプレゼンと討論（1）
14	クリティカル・リーディング・レポートの報告（2）	報告に基づくプレゼンと討論（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献収集、報告準備、クリティカル・リーディング・レポートの作成などは授業外で積極的に行うようにして下さい。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
佐藤　厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構
『日本労働研究雑誌』のバックナンバー
『労政時報』などの実務雑誌のバックナンバー

【成績評価の方法と基準】
演習への参加と報告、およびクリティカル・リーディング・レポートの作成を評価します。
演習への出席と取り組み姿勢５０％。演習の課題レポート５０％です。
通常の対面授業を想定して行います。大学の方針によりオンラインに変更の場合の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
毎回担当者は担当箇所につきレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get kowledge and skill about these theme through this class.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

佐藤　厚

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、ａ）人事管理の側での働かせ方と、ｂ）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。
このテーマはさらに若年の採用と定着、仕事と生活の両立、高齢者の継続雇用、グローバル人事、非典型雇用、ホワイトカラーの成果・キャリア管理・労働時間管理、中小企業の人材育成といったサブテーマ（これらはあくまで例示です）に分割可能です。上記ａ）とｂ）をベースに受講者の関心と摺り合わせつつ柔軟なサブテーマの設定とグループ編成を考えております。
なお、春学期では、サブテーマごとのグループ編成を行い、秋学期で予定している資料収集・ヒアリングのための基礎固めを行います。

【到達目標】
①基本的な共通テキストを読んで、演習のテーマに必要な基礎的な概念や知識の習得をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習のテーマはさらに若年の採用と定着、仕事と生活の両立、高齢者の継続雇用、グローバル人事、非典型雇用、ホワイトカラーの成果・キャリア管理・労働時間管理、中小企業の人材育成といったサブテーマ（これらはあくまで例示です）に分割可能です。上記ａ）とｂ）をベースに受講者の関心と摺り合わせつつ柔軟なサブテーマの設定とグループ編成を考えております。
春学期では、サブテーマごとのグループ編成を行い、秋学期で予定している資料収集・ヒアリングのための基礎固めを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。
なお、授業形式について、対面授業を想定していますが、大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミテーマの趣旨説明と進め方、グループ編成、テキストの指示など
2	共通基礎文献の読み込み（1）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（1）
3	共通基礎文献の読み込み（2）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（2）
4	共通基礎文献の読み込み（3）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（3）
5	共通基礎文献の読み込み（4）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（4）
6	共通基礎文献の読み込み（5）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（5）
7	共通基礎文献の読み込み（6）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（6）
8	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（1）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（1）
9	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（2）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（2）
10	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（3）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（3）
11	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（4）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（4）
12	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（5）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（5）
13	基礎文献および論点全体の振り返り	ゼミ全体を振り返りまとめを行いつつ、課題を整理する

14	課題レポートの発表と討論	基礎文献および論点を踏まえた課題レポートの発表と討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本ゼミに先だって、レジメ作成のためのサブゼミを班ごとに設定し、読み込みと論点整理、および課題の整理等を行っておくことが必要です。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤博樹・佐藤　厚編著『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤　厚『組織のなかでひとを育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【参考書】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル　人事労務管理』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
演習への出席と取り組み姿勢５０％。演習の課題レポート５０％です。
通常の対面授業を想定して行います。なお、大学の方針によりオンライン授業になった場合はの具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
　共通テキストの基本理解を深めるための討論を重視する。

【学生が準備すべき機器他】
担当者はレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get kowledge and skill about these theme through this class.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

佐藤　厚

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、ａ）人事管理の側での働かせ方と、ｂ）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】
春学期をベースにグループテーマを設定し、仮説 → 調査 → 検証の PDCA サイクルを主体的に回す力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
秋学期では、春学期で編成したグループをベースに、サブテーマを設定し、論点の整理、資料の収集及びフィールドワークを行います。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。
　なお、授業形式について、対面授業を想定していますが、大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各班ごとに合宿までの総括と秋学期の進め方の確認を行う
2	文献研究（1）	グループ研究 (各班)：文献レビューと問題意識の整理
3	文献研究（2）	グループ研究 (各班)：文献レビューと問題意識の整理
4	ゲストスピーカーヒアリング（1）	問題意識について聞く・聞いてもらう
5	ヒアリング調査の企画（1）	グループ研究 (各班)：訪問ヒアリングの質問紙の検討
6	ヒアリング調査の企画（2）	グループ研究 (各班)：訪問ヒアリングの質問紙の検討
7	ゲストスピーカーヒアリング（2）	問題意識について聞く・聞いてもらう
8	グループ研究のまとめ（1）	グループ研究 (各班) グループ研究のまとめとレポートの作成
9	グループ研究のまとめ（2）	グループ研究 (各班) グループ研究のまとめとレポートの作成
10	ゲストスピーカーヒアリング（3）	問題意識について聞く・聞いてもらう
11	グループ研究まとめの報告（1）	グループ研究：レポートのまとめの報告（1）
12	グループ研究まとめの報告（2）	グループ研究：レポートのまとめの報告（2）
13	ゲストスピーカーヒアリング（4）	問題意識について聞く・聞いてもらう
14	グループ研究まとめの報告（3）	グループ研究：レポートのまとめの報告（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　・通常の演習とは別にサブゼミを班ごとに行い、文献レビューやヒアリング調査の準備をする必要があります。
　・また企業への訪問とヒアリングの実施も通常の演習とは別に行う必要があります。
　・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
佐藤　厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

佐藤　厚『組織のなかで人を育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習への出席と取り組み姿勢５０％。演習の課題レポート５０％です。
通常の対面授業を想定して行います。なお、大学の方針によりオンライン授業になった場合はの具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
担当者はレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get kowledge and skill about these theme through this class.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

松浦　民恵

単位数：**２単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・５**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３・４年次の演習に向けて、２年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】
①働き方に関する基礎的な知識を身につける
②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。
まずは基礎知識をつけることを目的として、課題図書を使って議論を行っていただきます。
３年生の共同研究、４年生の卒論発表会などについては２年生にもご参加いただきます。５限のみならず６限も使って３年生や４年生と合同でゼミ活動を実施することもございますので、水曜５・６限は他の予定を入れないようにしてください。学期全体のスケジュール（予定）は最初の授業で配布します。
ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ＜３・４年生との合同＞	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②アクティブブックダイアログの説明と割当
第 2 回	卒論途中経過の共有 ＜３・４年生と合同＞	①４年生の卒論途中経過の共有 ②質疑と意見交換
第 3 回	３年生共同研究中間報告 ＜３・４年生と合同＞	①３年生の共同研究途中経過の共有 ②質疑と意見交換
第 4 回	課題図書（１）	課題図書（１）に関するアクティブブックダイアローグ
第 5 回	課題図書（２）	課題図書（２）に関するアクティブブックダイアローグ
第 6 回	課題図書（３）	課題図書（３）に関するアクティブブックダイアローグ
第 7 回	図書館ガイダンス（応用編）	文献サーベイのための方法の解説
第 8 回	成果発表会ロジの検討	発表会のロジの確認・割当
第 9 回	３年生共同研究　成果発表会 ＜３年生・社会人との合同＞	①発表会のロジ ②３年生の共同研究の発表 ③質疑・意見交換
第 10 回	発表会の振り返りと、問いの設定や調査方法に関する概説	①発表会の振り返り ②問いの設定や調査方法に関する概説
第 11 回	共同研究テーマ案の検討・ゼミ活動の振り返りと意見交換 ＜３年生との合同＞	①２年生の共同研究テーマ案に関する意見交換 ②ゼミ活動の振り返りと今後のゼミ活動に関する議論
第 12 回	共同研究テーマ案の仮決定	①意見交換を踏まえた研究テーマ案の再検討 ②共同研究テーマ案の仮決定とグループ分け
第 13 回	４年生　卒論発表（１） ＜３・４年生・社会人との合同＞	卒論の発表（前半）と質疑
第 14 回	４年生　卒論発表（２） ＜３・４年生・社会人との合同＞	卒論の発表（後半）と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書のアクティブブックダイアローグの準備、研究テーマ案の作成とそのための先行研究サーベイ等が必要になります。ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、準備はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
課題図書については初回の授業で候補を提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はオンラインとなったために実施できなかったアクティブ・ブック・ダイアローグを再開したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。
2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイディアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
不定期で３・４年生との合同ゼミがあり、その場合原則として５・６限またがって実施することになりますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】
This course is designed for students to obtain basic knowledge about work styles and also the fundamental skills of collection and presentation of information.
< Course Objectives >
1.Obtain basic knowledge on work styles
2.Compile a broad range of information about a given topic and deliver it with clarity
3.Consider a variety of perspectives without believing accepted opinions

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の執筆に向けて、論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を自ら持てるように、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実践を通じて、調査の進め方についての理解を深めます。

【到達目標】
①働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
②働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、十分な理解のもとで他者に論点を提示できるようになること
③調査を企画・実践することを通じて、調査の進め方の基礎を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。３年生は共同研究、４年生は卒論に関する構想発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、外部有識者からもコメントを頂きます。
ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	３年生の研究テーマ案に関する意見交換	①３年生の研究テーマ案のに関する意見交換 ②教員コメント
第 2 回	４年生の卒論研究計画案の発表と意見交換	①４年生の卒論研究計画案の発表 ②質疑・教員コメント
第 3 回	３年生の研究テーマ案の再検討・共同研究テーマの設定	①意見交換・コメントを踏まえた研究テーマ案の再検討 ②共同研究テーマの設定とグループ分け
第 4 回	３年生共同研究の問いの明確化と調査設計の検討	①共同研究の問いと調査設計案の発表 ②意見交換と教員コメント
第 5 回	３年生共同研究構想　中間発表	①共同研究の構想に関する中間発表 ②意見交換と教員コメント
第 6 回	３年生共同研究構想の練り直し	①中間発表のコメントを踏まえた共同研究の練り直し ②構想発表会資料確定
第 7 回	３年生共同研究　構想発表会	①共同研究の構想発表 ②外部有識者と教員のコメント
第 8 回	３年生共同研究構想発表会の振り返り・４年生卒論構想発表会１回目	①構想発表会でのコメントを踏まえた共同研究の練り直し ②４年生卒論構想発表会１回目（働き方等）
第 9 回	３年生共同研究進捗確認・４年生卒論構想発表会２回目	①３年生共同研究進捗確認 ②４年生卒論構想発表会２回目（採用活動等） ③外部有識者と教員のコメント
第 10 回	３年生共同研究進捗確認・４年生卒論構想発表会３回目	①３年生共同研究進捗確認 ②４年生卒論構想発表会３回目（キャリア等） ③外部有識者と教員のコメント
第 11 回	３年生共同研究　調査設計	①調査方法の確定 ②依頼状や調査票の案の作成
第 12 回	３年生共同研究　調査実施	①依頼状や調査票の確定 ②調査の実施
第 13 回	分析、執筆に関する解説	①分析方法に関する解説 ②論文執筆に関する留意点の説明
第 14 回	ゼミ活動の振り返り・諸連絡と今後に関する意見交換	①ゼミ活動の振り返り ②諸連絡 ③今後に関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの時間の大部分は発表の場となりますので、発表準備（研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等）はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
構想発表会は好評だったので継続したいと思います。外部有識者との交流を継続できるような仕掛けを検討する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。
2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイディアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
５・６時にわたって、ゼミを実施したり共同研究の作業が必要になったりしますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。「思いを実現できる実務家」を社会に送り出せるように、ゼミ活動を展開したいと思っております。

【Outline and objectives】
Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.
< Course Objectives >
1.Research academic literature related to the theme/issue related to work styles covered in the thesis
2.Explain the issue of the thesis with good understanding
3.Understand the technicalities of research through planning and practice

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年生は、共同研究のなかで、調査結果の分析・解釈の訓練を行い、結論や示唆について考察を深めます。また、卒業論文の執筆に向けた準備に入ります。
４年生は卒業論文を完成させます。

【到達目標】
①調査結果の分析・解釈ができるようになること
②論文や資料作成の中で、論理展開力を醸成すること
③質問やコメントに対して、論理的に回答ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。共同研究の分析や発表を行います。
３年生は共同研究、４年生は卒論に関する成果発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、外部有識者からもコメントを頂きます。
ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ＜２年生との合同＞	ゼミの進め方に関する説明・意見交換
2	卒論途中経過の共有 ＜２年生との合同＞	卒論アウトプット（途中）の補足と進捗状況の共有
3	共同研究中間報告 ＜２年生との合同＞	共同研究の中間報告
4	統計勉強会	データ分析の実践例の共有
5	共同研究　発表資料の作成（１）	①共同研究の進捗報告 ②外部有識者との議論の準備
6	共同研究　発表資料の作成（２）	①外部有識者との議論を踏まえた共同研究の発表資料の改訂 ②教員コメント
7	共同研究　発表資料の作成（３）	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の改訂 ②教員コメント
8	共同研究　発表資料の作成（４）	共同研究の発表資料の確定
9	共同研究　成果発表会 ＜２年生・社会人との合同＞	①共同研究の成果発表 ②社会人との質疑・意見交換
10	発表会の振り返り・卒業論文の説明	発表会の振り返り・意見交換、卒業論文の説明
11	２年生の共同研究テーマ案に関する意見交換・ゼミ活動の振り返りと意見交換	①２年生の共同研究テーマ案に関する意見交換 ②ゼミ活動の振り返りと今後のゼミ活動に関する議論
12	卒業論文のテーマ案	卒業論文のテーマ案の報告と意見交換
13	４年生　卒論発表（１） ＜２年生・社会人との合同＞	卒論の発表（前半）と質疑
14	４年生　卒論発表（２） ＜２年生・社会人との合同＞	卒論の発表（後半）と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、発表準備（研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等）はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究を昨年度より前倒しで進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
各自が必要なアイディアをどんどん出して、主体的に改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
５・６時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。
思いを実現できる実務家を、社会に送り出したいと思っております。

【Outline and objectives】
Through this course, students will start preparing for their senior thesis.
< Course Objectives >
1.Analyze and interpret the survey result
2.Obtain the necessary skills for logical structuring of the thesis
3.Respond logically to questions and comments

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

荒川　裕子

単位数：**２単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・５** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。
授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム１）。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム２）。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム３）。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム４）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
期末レポート：50 %
※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】
Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。
授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 1）。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 2）。
9	研究の実践①	ゼミ論／卒論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 3）。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 4）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
期末レポート：50 %
※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】
Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。
授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 1）。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 2）。
9	研究の実践①	ゼミ論／卒論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 3）。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム 4）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
期末レポート：50 %
※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】
Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

福井　令恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。今後の日本社会、また国際社会において、私たちはこれまで以上に多様な社会・文化的背景をもつ人々とともに生きていくことになります。その際、困難が伴う場合もあるでしょう。アイルランドやイギリスの経験は、その際の参考になると考えられます。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。
スキルとしては、文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、情報のまとめ方といったことを身につけます。

【到達目標】
以下の 4 点を到達目標とする。
1．テーマに関する基本的な知識の習得。
2．文献を読むスキルの向上（それぞれの文献の論点・エッセンスをきちんとつかむこと）。
3．必要文献の探し方の習得。
4．問題関心を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
文献購読・発表、グループディスカッション、グループワークを中心に進めます。文献を読み、各自が毎回レジュメを作成し演習に参加します。レジュメのフィードバックを行うとともに、良い内容については、授業内で共有し、さらなる考察につなげていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、ゼミでのルールを確認する。
第 2 回	レジュメのつくり方、文献の読み方	ゼミにおいて必要な、基本的なスキル――読書ノートのつくり方、報告の仕方、文献講読の基礎――を習得する。
第 3 回	基本文献講読①	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献１）
第 4 回	基本文献講読②	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献２）
第 5 回	基本文献講読③	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献３）
第 6 回	基本文献講読④	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献 1〜３の振り返り）
第 7 回	基本文献講読⑤	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献４）
第 8 回	基本文献購読⑥	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。（基礎編　文献５）
第 9 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①	文献サーベイのための、文献の集め方について理解する。
第 10 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方②	論文の読み方について理解する。
第 11 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方③	レポートの書き方を習得する。
第 12 回	研究発表① ＜３・４年生との合同＞	研究発表とディスカッション（前半）。
第 13 回	研究発表② ＜３・４年生との合同＞	研究発表とディスカッション（後半）。
第 14 回	まとめ ＜３・４年生との合同＞	全体を振り返り、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読に当たっては、毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがって予習をした上で討論に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。
具体的には、
授業への参加姿勢・ゼミへの貢献度 50 %
レポートやレジュメ等課題対応・内容 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックを重視しつつ授業運営をすすめます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。3 年生終了時までに、国際地域研究Ⅰ・Ⅱを履修すること。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.
This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

福井　令恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】
ゼミのグループ研究を進めるとともに、自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかかわりの中で考えることができるようにします。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容ついて、全体および個別のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 春休みの進捗発表	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	イギリス・アイルランド社会の現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	発表と討論を行う（前半）。
4	文献研究③	発表と討論を行う（中間）。
5	文献研究④	発表と討論を行う（後半）。
6	ここまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
7	調査について学ぶ	情報を収集し、分析する方法について考える。
8	調査について考える	各自の関心、調査の計画を発表する。
9	調査について学ぶ	研究テーマに関する先行研究を調べる。
10	調査について考える	調査方法の検討。
11	研究発表①	研究構想の発表と議論（前半）。
12	研究発表②	研究構想の発表と議論（後半）。
13	研究テーマの進め方について計画を立てる	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する。
14	総括	まとめ、夏の課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜紹介する。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示・助言する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。
具体的には、レポート・レジュメ等課題　50 %、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度　50 %。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.
This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

福井　令恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】
ゼミのグループ研究を進めるとともに、自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかかわりの中で考えることができるようにします。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容ついて、全体および個別のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休みまでの振り返りと今後の進め方についての意見交換	演習の目的と進め方について説明する。
2	テーマの設定	調査研究の構想。
3	文献研究①	発表と討議を行う（前半）。
4	文献研究②	発表と討論を行う（後半）。
5	研究計画	研究計画を練る。
6	調査研究のデザイン	発表と討論を行う。
7	これまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
8	研究の実践①	進捗状況の報告と質疑（前半）。
9	研究の実践②	進捗状況の報告と質疑（中間）。
10	研究の実践③	進捗状況の報告と質疑（後半）。
11	研究の実践④	テーマに関連した資料やデータを収集し、議論を組み立てる。
12	研究発表① ＜2年生との合同＞	研究発表とディスカッション（前半）。
13	研究発表② ＜2年生との合同＞	研究発表とディスカッション（後半）。
14	まとめ・総括 ＜2年生と合同＞	ゼミ全体のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜紹介します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示・助言します。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。
具体的には、レポート・レジュメ等の課題　50 %、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度　50 %。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期の段階から論文の書き方を紹介・指導します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspective of culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.
The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.
This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

金山　喜昭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
①「地域コミュニティ」に関する考え方を理解する。
②各地の事例をみる。
③参加者のそれぞれのテーマを実現することができるスキルや方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の進め方については、参加者と相談したうえで行う。基本的な授業の流れは、①共通するテーマに関する文献の購読、②現地見学、③プレゼンテーションと討論、④レポート作成。
最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の作成	具体的にゼミの進行計画を作成する
3	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
4	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
5	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
6	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
7	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
8	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
9	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
10	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
11	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
12	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
13	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
14	現地見学会	授業のテーマに合わせて現地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①基本文献は事前に知らせる。発表に先立ち、（参考文献：河野、P14-29 ）の形式に則して、発表用のレジュメを用意する。
②日頃から、地域に関する関心のあるテーマについて情報収集する（新聞、文献、雑誌など）。
③見学会は日帰りとし、行先は参加者と検討する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】
金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・地域・自治体の連携ー』同成社

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【学生が準備すべき機器他】
随時使用。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

金山　喜昭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
● 3 年生
①地域コミュニティに関する共同調査によりフィールドワークの技法を学び、コミュニケーション能力をつける。
②「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。
③参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じで自己形成をはかる。
● 4 年生
卒業論文の準備と中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、文献購読など。共同調査の準備作業。
4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。
資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに出す。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。
最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の計画づくり	ゼミの計画書を作成する
3	文献の購読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
4	文献の購読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
5	文献の購読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
6	現地調査の打ち合わせ準備	現地調査の調査項目と論点を確認する
7	現地調査の打ち合わせ準備	現地調査の調査項目と論点を確認する
8	現地調査	現地調査
9	現地調査	現地調査
10	現地調査	現地調査
11	現地調査	現地調査
12	現地調査の検討	調査後の成果や反省点を確認する
13	報告書作成（1）〜（2）	作成・編集作業
14	報告書作成（1）〜（2）	作成・編集作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実際にグループで調査するので授業時間だけでは足りません。曜日を決めて集まるなど、手間を惜しまずに進歩させることが肝心です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』
ゼミ調査の内容に合わせて、文献をしている。
随時コピーなどを配布する。

【参考書】
金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・自治体・地域の連携ー』。
随時コピーなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【その他の重要事項】
受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。
3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。
夏季休暇には合宿を行う（2 泊 3 日程度）
全員、卒業論文を提出する。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

金山　喜昭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
● 3 年生
①「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。
②参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じで自己形成をはかる。
● 4 年生
卒業論文の準備と中間報告・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、説明、実地見学、文献購読など。共同調査と報告書の作成。
4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。
3 年生は、千葉県野田市の博物館運営にスタッフとして参加し、市民との協働をはかる。
最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの設定	各自が研究テーマを検討する。
2	研究テーマの妥当性を再検討する	各自が研究テーマを再検討する。
3	テーマに関する調査・発表・討議①	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。3 回以降、順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
4	テーマに関する調査・発表・討議②	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
5	テーマに関する調査・発表・討議③	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
6	テーマに関する調査・発表・討議④	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
7	テーマに関する調査・発表・討議⑤	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
8	テーマに関する調査・発表・討議⑥	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
9	テーマに関する調査・発表・討議⑦	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
10	テーマに関する調査・発表・討議⑧	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
11	小論文作成のガイダンス	これまでの作業を踏まえて、小論文作成の準備をする。
12	学生研究発表会に向けた準備①	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。
13	学生研究発表会に向けた準備②	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。

14	学生研究発表会に向けた準備③	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
3 年生は卒業論文を踏まえて小論文の作成（学年末）。
4 年生は卒業論文の提出。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、随時指定する。

【参考書】
随時指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【その他の重要事項】
受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。
3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。
全員、卒業論文を提出する。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることのない人たちと接することを勧めたい。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己理解・他者理解にむけたワーク１	自己や他者を理解するため、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を始める。
2	自己理解・他者理解にむけたワーク２	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を進める。
3	自己理解・他者理解にむけたワーク３	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を深める。
4	自己理解・他者理解にむけたワーク４	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解だけでなく、他者理解も行う。
5	自己理解・他者理解にむけたワーク５	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を進める。
6	自己理解・他者理解にむけたワーク６	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を深める。
7	自己理解・他者理解にむけたワーク７	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を洗練させ、整理する。
8	文献購読１	家族に関する文献を読み始め、ディスカッションを行う。
9	文献購読２	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。
10	文献購読３	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
11	文献購読４	家族に関する文献を読み、ディスカッションをさらに洗練させる。
12	文献購読５	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、さらに理解を深める。
13	総合的整理１	既読の文献を整理し、各自で見解をまとめる。
14	総合的整理２	既読の文献をまとめ、その総括的な議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways
(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることのない人たちと接することを勧めたい。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文献購読ガイダンス	家族に関する文献を検索し、ディスカッションを行う。
2	文献購読１	家族に関する文献を実際に読み、ディスカッションを行う。
3	文献購読２	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
4	文献購読３	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、各自スピーチをする。
5	文献購読４	家族に関する文献を読み、ディスカッションしてきたことを整理する。
6	社会調査１	ゼミ生共同で１つの調査（アンケート）を行うための調査デザインを始める。
7	社会調査２	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（仮説作成）。
8	社会調査３	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（標本設定）。
9	社会調査４	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙作成）。
10	社会調査５	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙洗練）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
11	社会調査６	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
12	社会調査７	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査結果の解釈）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
13	社会調査８	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
14	総合的整理	調査デザインの進展や不備を振り返り、さらに洗練させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways
(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることのない人たちと接することを勧めたい。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査１	ゼミ生共同で１つの調査（アンケート）を行うための調査を進める。本調査に向けた手続きをする。
2	社会調査２	質問紙の整理をする。標本デザインを洗練させる。
3	社会調査３	質問紙を配布（回収）するとともに、整理・管理の仕方を学ぶ。
4	社会調査４	質問士紙の回収を終え、有効票・無効票などのチェックを行う。
5	社会調査５	データ入力の仕方を学ぶ。欠損値等の扱いについて学ぶ。
6	社会調査６	データ入力を完了させる。
7	社会調査７	データクリーニングを行う。
8	統計的分析１	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。記述統計を学ぶ。
9	統計的分析２	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を学ぶ。
10	統計的分析３	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を深める。
11	統計的分析４	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を学ぶ。
12	統計的分析５	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を深める。
13	各自報告	各自で進めた統計分析の結果を報告する。
14	総合的整理	調査結果や分析結果を整理し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways
(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

佐藤　恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習テーマは「自分で考える力を身につけよう！」です。
ニュース記事等をもとにしたディスカッションを通して、ゼミ生仲間の多様な意見に触れ、ものの見方の幅を広げつつ、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。
さらに、年度末の学生研究発表会に向けたグループワークにおいて、関心のある社会学的テーマを選択し、データ・資料を収集しながら、中間報告・ディスカッションを行い、自分たちの考えをまとめあげていきます。

【到達目標】
ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッションを通して、自分で考え説明できる力を身につけるのとともに、グループワークにおいて自分たちでテーマを選択し、データ・資料を収集しながら、学生研究発表会に向けて考えをまとめあげることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッション、②学生研究発表会に向けたグループワーク（中間報告・ディスカッション）です。
進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきます。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
2	テキスト購読（1）	社会的存在としての人間
3	テキスト購読（2）	社会学の考え方
4	テキスト購読（3）	社会生活の諸相
5	学生研究発表会準備（1）	研究における問いという観点から
6	学生研究発表会準備（2）	仮説構成という観点から
7	学生研究発表会準備（3）	先行研究のサーベイという観点から
8	ニュース記事ディスカッション（1	行為の分析
9	ニュース記事ディスカッション（2）	秩序の解読
10	ニュース記事ディスカッション（3）	社会の構想
11	学生研究発表会中間報告（1）	データの整理・分析を中心に
12	学生研究発表会中間報告（2）	論理整合性・ストーリーラインを中心に
13	学生研究発表会中間報告（3）	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に
14	総括	ゼミ内容の総合的なまとめ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究発表に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講後にお伝えします。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０％）、平常点（５０％）。
提出課題については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。

また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【Outline and objectives】
The practice theme is “Develop Your Thinking Skill!”
Through discussions based on news articles, etc., students mutually share diverse opinions with other classmates, widen their scopes, and cultivate skills to form their own opinions and explain them.
Furthermore, in the groupwork for the year-end presentation, students select social and cultural themes they are interested in, collect data and materials, and form their collective opinions through interim reports and discussions.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

佐藤　恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。
社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、ゼミ論（3年次）、卒論（4年次）を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（3）ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表・全体ディスカッション、②テキスト購読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。
進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、休日出校（2日程度［土休日］）を予定しています。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション：春学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト購読（1）	社会の中の人間、集団と個人
3	テキスト購読（2）	文化と価値
4	テキスト購読（3）	システムと生活世界
5	テキスト購読（4）	場面と対面
6	テキスト購読（5）	変容する家族
7	テキスト購読（6）	都市の人間関係
8	テキスト購読（7）	階層移動と学歴
9	テキスト購読（8）	逸脱と社会変動
10	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（1）	研究における問いという観点から
11	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（2）	仮説構成という観点から
12	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（3）	調査の方法という観点から
13	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（4）	データの整理・分析という観点から
14	春学期総括	春学期ゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、構想発表に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講後にお伝えします。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ論・卒論（５０％）、平常点（５０％）。
ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。

平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。
また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【Outline and objectives】
The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”
Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.
As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

SOC200MA

演習（ライフ）３・４年生（秋）

佐藤　恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。
社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、ゼミ論（３年次）、卒論（４年次）を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】
（１）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（２）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（３）ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表・全体ディスカッション、②テキスト購読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。
進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、休日出校（２日程度［土休日］）を予定しています。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論完成に向けたオリエンテーション：秋学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト購読（1）	意味と相互主観性
3	テキスト購読（2）	社会的アイデンティティ
4	テキスト購読（3）	ラベリング・スティグマ、正常／異常
5	テキスト購読（4）	社会構築主義
6	テキスト購読（5）	ジェンダー
7	テキスト購読（6）	社会の中の権力
8	テキスト購読（7）	共同体、国家、市民社会
9	テキスト購読（8）	移民、国民国家、グローバル化
10	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（1）	問題意識の明確化を中心に
11	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（2）	論理整合性・ストーリーラインを中心に
12	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（3）	学術的意義・独自性を中心に
13	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（4）	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に
14	年間総括	1 年間のゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講後にお伝えします。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ論・卒論（５０％）、平常点（５０％）。
ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。

平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。
また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【Outline and objectives】
The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”
Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.
As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

田中　研之輔

単位数：**２単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・５**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland’s theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all? An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、期末レポートや講義内課題（30 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

田中　研之輔

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all? An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、期末レポートや講義内課題（30 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

田中　研之輔

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、期末レポートや講義内課題（30 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

趙　宏偉

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミの名は「現代中国と東アジア研究会」です。ゼミは国際政治経済学と国際文明学の視点から、広く中国論、アジア論、日本と中国並びに日本人と中国人とアジアに生きる人々が絡み合いながら歩んできた道と歩んでゆく道の政治・経済・文明・国際キャリアデザインを演習の研究課題とします。受講生はアジアという広い分野の中でそれぞれ関心を持つ具体的な課題を見付けて研究し、趙宏偉は皆さんをサポートします。合宿は 7 月に 2 泊 3 日、2 月に 1 泊 2 日 2 回行います。

【到達目標】
各自は自分が決めた研究テーマの研究を完成し、卒業時に研究成果を卒業論文に仕上げて提出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題の提出とフィードバックは学習支援システムで指示し、行う。リアクションペーパーを講評し、さらなるディスカッションに生かす。
趙宏偉は中国人で、留学生として来日し、東京大学大学院で博士号を取得してから、大学教員になり今日に至ります。専攻は政治学、国際関係学で、主に国際政治経済学と国際文明学の視点から中国、日本を含むアジアを研究しています。
私達は国際化している社会、言い換えれば国際社会の中で生きています。国際社会の中での人間の生き方、そして人間の集まりである国の生き方、さらに人間味のある国際社会の仕組みのあり方、言い換えれば国際社会とキャリアデザインは、このゼミの研究意識です。
2 年生（秋学期から）、3 年生、4 年生は同じ時間に同じ教室で一緒に受講し、ゼミ活動を行います。2 年生と 3 年生は学術文献の学習、3 年生は年次研究レポートの取り組み、4 年生は卒論の研究と作成をそれぞれ主な演習課題とします。3 学年の学生は学びあい、助けあい、ゼミを作っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	課題や進め方等
2	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
3	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
4	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
5	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
6	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
7	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
8	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
9	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション

10	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
11	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
12	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
13	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
14	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
開講時に指示、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
開講時に指示

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加に 20 点、授業への貢献度を求め 30 点、年度レポートまたは卒論に 50 点、合計 100 点で、総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
日本の時事、国際時事への理解を高めること。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
履修の条件、学生への要望など
① 2 年次（秋学期）と 3 年次と 4 年次で続けて履修することを条件とします。
② 月曜日と木曜日に開講される趙宏偉の講義「国際関係論Ⅰ・Ⅱ（国際社会のしくみと人間Ａ・Ｂ）」と「アジア社会論Ⅰ・Ⅱ（アジアのコミュニティと文化Ⅰ・Ⅱ）」を、通年で履修することを推奨します。
③ ゼミの授業と合宿を遅刻、欠席してはいけません。
④ ゼミの授業時間は木曜日 5 限（16 時 50 分～）と 6 限です。さまざまなゼミ活動も基本的に木曜日の夕方に行われますので、この時間帯に他授業やバイトや用事などを入れずに時間を空けておくことを要求します。
⑤ 毎年 10 月に、恒例のゼミ OBOG も参加する BBQ 大会があり、現役ゼミ生は全員参加します。

【就業力効果】
この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
In the seminar, a research topic of various phenomena such as politics, economics, society, culture, international career design, etc. in the way that Japan, China, Asian countries, Japanese, Chinese and Asian people have entered while intertwining. Each student finds and studies specific subjects that are interested, and strives to improve thinking ability and acquire problem solving methods.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

趙　宏偉

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5** ｜ 配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミの名は「現代中国と東アジア研究会」です。ゼミは国際政治経済学と国際文明学の視点から、広く中国論、アジア論、日本と中国並びに日本人と中国人とアジアに生きる人々が絡み合いながら歩んできた道と歩んでゆく道の政治・経済・文明・国際キャリアデザインを演習の研究課題とします。受講生はアジアという広い分野の中でそれぞれ関心を持つ具体的な課題を見付けて研究し、趙宏偉は皆さんをサポートします。ゼミ合宿は 7 月に 2 泊 3 日、2 月に 1 泊 2 日行います。

【到達目標】
各自は自分が決めた研究テーマの研究を完成し、卒業時に研究成果を卒論に仕上げて提出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
趙宏偉は中国人で、留学生として来日し、東京大学大学院で博士号を取得してから、大学教員になり今日に至ります。専攻は政治学、国際関係学で、主に国際政治経済学と国際文明学の視点から中国、日本を含むアジアを研究しています。
私達は国際化している社会、言い換えれば国際社会の中で生きています。国際社会の中での人間の生き方、そして人間の集まりである国の生き方、さらに人間味のある国際社会の仕組みのあり方、言い換えれば国際社会とキャリアデザインは、このゼミの研究意識です。
2 年生（秋学期から）、3 年生、4 年生は同じ時間に同じ教室で一緒に受講し、ゼミ活動を行います。2 年生と 3 年生は学術文献の学習、3 年生は年次研究レポートの取り組み、4 年生は卒論の研究と作成をそれぞれ主な演習課題とします。3 学年の学生は学びあい、助けあい、ゼミを作っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	進め方や課題など
2	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
3	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
4	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
5	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
6	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
7	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
8	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
9	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション

10	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
11	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
12	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
13	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション
14	①論文輪読、資料輪読、②グループワーク研究の成果発表、③年次レポート＆卒論の取り組み	①研究内容の打ち合わせ、②教員指示・指導、③発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
開講時に指示、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
開講時に指示

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加に 20 点、授業への貢献度を求め 30 点、年度レポートまたは卒論に 50 点、合計 100 点で、総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
日本の時事、国際時事への理解を高めること。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
履修の条件、学生への要望など
① 2 年次（秋学期）と 3 年次と 4 年次で続けて履修することを条件とします。
② 月曜日と木曜日に開講される趙宏偉の講義「国際関係論Ⅰ・Ⅱ（国際社会のしくみと人間Ａ・Ｂ）」と「アジア社会論（アジアのコミュニティと文化Ⅰ・Ⅱ）」を、通年で履修しなければなりません。
③ ゼミの授業と合宿を遅刻、欠席してはいけません。
④ ゼミの授業時間は木曜日 5 限（16 時 50 分～）と 6 限です。さまざまなゼミ活動も基本的に木曜日の夕方に行われますので、この時間帯に他授業やバイトや用事などを入れずに時間を空けておくことを要求します。
⑤ 毎年 10 月に、恒例のゼミ OBOG も参加する BBQ 大会があり、現役ゼミ生は全員参加します。

【就業力効果】
この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
In the seminar, a research topic of various phenomena such as politics, economics, society, culture, international career design, etc. in the way that Japan, China, Asian countries, Japanese, Chinese and Asian people have entered while intertwining. Each student finds and studies specific subjects that are interested, and strives to improve thinking ability and acquire problem solving methods.

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

安田　節之

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習（ゼミ）の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この 2 つの柱をもとに，どのような人間の行動や心理が「社会のなかでより良く生きる（live a good life），よい人生を送る」ことと関連するのか，つまり「ライフキャリアの質」を高めることにつながるのかについて検討します。そして，どのような取り組み（プログラム）がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。

【到達目標】
① 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
② 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因 (問題) の分析が行えるようになる。
③ 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び，研究していく形で全く問題ありません。ただ，そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく，より広く社会の関心事（例：社会課題）であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように，つまり“そんなことが分かってどうするのか（so what?）”あるいは“そんなことを研究して何になるのか（for what?）”とならないように，できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み，個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また 3 年生と共同で調査データの収集・分析を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	ライフキャリア支援とは	ライフキャリア支援の考え方について，コミュニティ心理学とプログラム評価の視点から学ぶ。
第 3 回	個人研究テーマの検討と共有①	現段階で関心のある個人研究テーマについて発表する。発表内容は、対象となる社会課題の現状 (必須)、課題解決のために実施されているプログラムの概要 (任意)。
第 4 回	個人研究テーマの検討と共有②	現段階で関心のある個人研究テーマについて発表する。発表内容は、対象となる社会課題の現状 (必須)、課題解決のために実施されているプログラムの概要 (任意)。
第 5 回	個人研究テーマの検討と共有③	現段階で関心のある個人研究テーマについて発表する。発表内容は、対象となる社会課題の現状 (必須)、課題解決のために実施されているプログラムの概要 (任意)。
第 6 回	個人研究テーマの検討と共有④	現段階で関心のある個人研究テーマについて発表する。発表内容は、対象となる社会課題の現状 (必須)、課題解決のために実施されているプログラムの概要 (任意)。
第 7 回	調査研究の理解①	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ。
第 8 回	調査研究の理解②	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ。
第 9 回	調査研究の理解③	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ。
第 10 回	調査研究の理解④	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ。

第 11 回	調査研究の理解⑤	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ。
第 12 回	個人研究の方向性の確認①	3 年次の春学期からの個人研究テーマの集中的な検討に向けて，2 年次での自身の研究関心を再確認する。
第 13 回	個人研究の方向性の確認②	3 年次の春学期からの個人研究テーマの集中的な検討に向けて，2 年次での自身の研究関心を再確認する。
第 14 回	まとめ	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を活用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。また課題図書 (テキスト) は授業時に検討・決定する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために (ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(50%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

【Outline and objectives】
The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good live in the future.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

安田　節之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの分析を行う。またキャリアデザインに関する量的調査研究の計画・実施・分析方法を学ぶ。

【到達目標】
① 各自が関心をもつプログラムの分析・評価スキルを習得する。
② 量的調査研究の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　この授業 (演習) では、各自の研究テーマに沿ったプログラムの分析を行う。２年次に行った社会課題の分析を通して、課題解決に向けたプログラムのゴールの明確化を行う。そして、各自のプログラムのロジックモデルを完成させる。
　またキャリアデザインの調査研究の演習として、グループで量的調査を計画・実施する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	個人研究テーマの検討と共有①	２年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する。
第 3 回	個人研究テーマの検討と共有②	２年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する。
第 4 回	個人研究テーマの検討と共有③	２年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する。
第 5 回	ライフキャリア調査研究の検討①	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 6 回	ライフキャリア調査研究の検討②	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 7 回	ライフキャリア調査研究の検討③	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 8 回	ライフキャリア調査研究の実施①	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 9 回	ライフキャリア調査研究の実施②	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 10 回	ライフキャリア調査研究の実施③	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 11 回	ライフキャリア調査研究の実施④	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 12 回	ライフキャリア調査研究の実施⑤	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 13 回	個人研究の進捗状況の確認	各自の研究についてゼミで共有し進捗状況を確認する。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人の研究テーマ (プログラム評価の準備) に関しては、ゼミ以外の時間 (個人学習やサブゼミ活用) で継続的に進め、「個人研究テーマの検討と共有④ (第 11 回〜第 13 回)」においてしっかりとプレゼンテーションできるようにしてください。また 4 年生は、秋学期での卒業論文完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために (ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
Students will acquire knowledge and skills to develop and evaluation life-designing programs in this seminar. Particular attention will be placed on helping students to develop quantitative-analytic techniques to conduct related research studies.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

安田　節之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの評価を実施し、卒業論文の執筆準備 (3 年生) および執筆 (4 年生) を行う。

【到達目標】
① 継続的に分析を行ってきたライフキャリア支援のプログラムの評価の計画・実施スキルを習得する。
② 評価データの収集と結果の分析・考察方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各自が関心をもつ社会課題とその解決を目的として実施されるプログラムの評価研究を行う。そのために、評価実施のスケジュールを作成し、ゼミでのディスカッションを通して評価内容や評価方法を検討する。評価のスケジュールに沿って質的・量的データを収集し、分析を行う。そして卒業論文の執筆の準備を開始する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	個人研究の検討と共有①	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 3 回	個人研究の検討と共有②	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 4 回	個人研究の検討と共有③	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 5 回	個人研究の検討と共有④	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 6 回	個人研究テーマの検討と共有⑤	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 7 回	調査実施に向けた準備①	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う (個人発表)。
第 8 回	調査実施に向けた準備②	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う (個人発表)。
第 9 回	調査実施に向けた準備③	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う (個人発表)。
第 10 回	調査実施に向けた準備④	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う (個人発表)。
第 11 回	調査実施に向けた準備⑤	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う (個人発表)。
第 12 回	調査結果の分析と考察の執筆①	各自で収集した調査データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う。
第 13 回	調査結果の分析と考察の執筆②	各自で収集した調査データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマをゼミの時間以外でも継続的に進めてください。また 4 年生は卒業論文の完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために (ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（50%)、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(50%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミでのグループ作業と個人の研究指導とのバランスをとる。

【Outline and objectives】
Students are to prepare individual research studies (junior) and complete their thesis (senior) throughout this seminar.

SOC200MA

演習（ライフ）2 年生

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について理解し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
2 年生のゼミでは、3 年生以降に各自で研究を行うのに必要となる基礎的的知識を身につけるため、社会心理学の文献・論文を読み、ディスカッションを通じて知識とスキルの共有を図ります。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学の基礎知識①	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 3 回	社会心理学の基礎知識②	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 4 回	社会心理学の基礎知識③	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 5 回	研究論文の読み方①	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 6 回	研究論文の読み方②	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 7 回	研究論文の読み方③	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 8 回	研究論文の読み方④	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 9 回	研究論文の読み方⑤	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 10 回	研究の再現①	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 11 回	研究の再現②	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 12 回	研究の再現③	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 13 回	研究の再現④	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 14 回	まとめ	これまでの成果を振り返り、3 年次以降の研究の進め方について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn introduction of social psychology, how to read journals and to design studies.

SOC200MA

演習（ライフ）3 年生（春）

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 3 回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表①	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表②	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表③	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表④	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表⑤	専研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表⑥	専研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表⑨	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表⑪	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】
In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

SOC200MA

演習（ライフ）3 年生（秋）

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の実施・発表①	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 3 回	社会心理学研究の実施・発表②	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表③	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表④	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表⑤	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表⑨	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表⑪	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表⑫	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表⑬	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】
In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

遠藤　野ゆり

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質の高い卒業論文を書きます。
データを収集する方法、根拠を示しながら論理的に読者を説得する力を習得します。考えを文章でまとめ、わかりやすく表現する能力を習得します。

【到達目標】
明確な問いを立ててそれに対する適切なデータ・資料を収集し価値ある考察をする。それを文章で適切に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
4 年生は卒業論文の報告とディスカッションの繰り返しです。
1 カ月に 1 度、進捗状況を確認する面談もしくはメールでの相談を行います。
卒業論文の執筆状況を鑑みながら適宜個別面談にてフィードバックを行います。11 月中旬に時間外授業にて卒業論文の全員報告会を行います。これに対するフィードバックはメールにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒業論文構想発表	卒業論文の構想を発表します。授業全体の計画を立てます。
2	卒業論文進捗状況発表①	卒業論文執筆者 1 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
3	卒業論文進捗状況発表②	卒業論文執筆者 2 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
4	卒業論文進捗状況発表③	卒業論文執筆者 3 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
5	卒業論文進捗状況発表④	卒業論文執筆者 4 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
6	卒業論文進捗状況発表⑤	卒業論文執筆者 5 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
7	卒業論文進捗状況発表⑥	卒業論文執筆者 6 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
8	卒業論文進捗状況発表⑦	卒業論文執筆者により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
9	卒業論文進捗状況発表⑧	卒業論文執筆者 7 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
10	卒業論文進捗状況発表⑨	卒業論文執筆者 8 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
11	卒業論文進捗状況発表⑩	卒業論文執筆者 9 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
12	卒業論文進捗状況発表⑪	卒業論文執筆者 10 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
13	卒業論文進捗状況発表⑫	卒業論文執筆者 11 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
14	卒業論文進捗状況発表⑬	卒業論文執筆者 12 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
15	卒業論文進捗状況発表⑭	卒業論文執筆者 1・2 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
16	卒業論文進捗状況発表⑮	卒業論文執筆者 3・4 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。

17	卒業論文進捗状況発表⑯	卒業論文執筆者 5・6 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
18	卒業論文進捗状況発表⑰	卒業論文執筆者 7・8 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
19	卒業論文進捗状況発表⑱	卒業論文執筆者 9・10 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
20	卒業論文進捗状況発表⑲	卒業論文執筆者 11・12 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
21	卒業論文最終報告会前半	卒業論文の最後の報告会を行います（前半）
22	卒業論文最終報公会後半	卒業論文の西郷の報告会を行います（後半）
23	卒業論文口述試験前半	卒業論文の口述試験を行います（前半）
24	卒業論文口述試験後半	卒業論文の口述試験を行います（後半）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データを取り卒業論文を執筆する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文

【学生の意見等からの気づき】
アンケートからは特に要望はありませんが、受講生の要望を応じて柔軟に対応します。

【Outline and objectives】
This class aims to write a high quality thesis.
The aims are to learn how to collect data, to gain the ability to persuade the reader logically with evidences. We will compile sentences with ideas and master the ability to express them clearly.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

児美川　孝一郎

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他** ｜ 配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に沿って，各ステップごとに指導していく。先行研究の調査，データ分析方法，およびインプリケーションの捉え方等，具体的に指導していく。

【到達目標】
卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒業論文の執筆に向けて，「授業の概要と目的」に書いたように指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックは，そのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
3	研究方法の概説②	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
4	研究方法の概説③	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
6	テーマの設定②	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
9	先行研究の調査②	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
10	先行研究の調査③	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	先行研究の調査④	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
12	先行研究の調査⑤	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
14	研究計画の確定②	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
15	調査データの整備①	調査データの収集，データベース化を行う。
16	調査データの整備②	調査データの収集，データベース化を行う。
17	調査データの整備③	調査データの収集，データベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	検証仮説等について再検討を行う。
19	検証仮説の検討②	検証仮説等について再検討を行う。
20	検証仮説の検討③	検証仮説等について再検討を行う。
21	分析の実施①	仮説およびデータを用いて分析を行う。
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。

23	論文執筆①	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	ゼミにおいて論文を発表し，寄せられた意見を踏まえて，論文をリファインする。
27	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し，寄せられた意見を踏まえて，論文をリファインする。
28	リファインの作業③	ゼミにおいて論文を発表し，寄せられた意見を踏まえて，論文をリファインする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に，3 年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み，および論文の内容を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを生かして，卒業論文指導を行う。

【Outline and objectives】
This course gives guidance for writing graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

坂本　旬

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年間の学習成果を論文執筆または映像作品の制作
受講生は卒業論文の執筆または卒業制作として映像作品を制作する。

【到達目標】
３年間の学習成果をふまえ、自己の問題意識をよりいっそう高めて、学問的社会的に価値のある論文の執筆または映像作品を制作すること。（要件等については「履修の手引き」参照。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒論指導は原則として月曜５限または６限目を中心に行う。（３年ゼミに重ならないように調整）。卒論は論文またはドキュメンタリー映像作品 (ドキュメンタリードラマも含む) のいずれかとする。どちらを選ぶか、あらかじめ選択しておくこと。
「演習（発達・教育）」を履修すること。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは HOPS を通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、27 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学習方法を解説する
2	卒論の書き方・作品の作り方 (1)	メディアを活用した基本的な論文の書き方と映像作品の作り方
3	卒論の書き方・作品の作り方 (2)	テーマの決め方と論文・映像の構成
4	卒論の書き方・作品の作り方 (3)	仮のテーマを決める
5	卒論の書き方・作品の作り方 (4)	さまざまな情報収集の方法（Evernote の活用法）
6	卒論の書き方・作品の作り方 (5)	OPAC による書誌情報の収集の仕方
7	卒論の書き方・作品の作り方 (6)	各種のオンラインデータベースの使い方
8	卒論の書き方・作品の作り方 (7)	RefWorks 等を活用した情報を管理方法
9	卒論の書き方・作品の作り方 (8)	アウトラインプロセッサーを活用した論文や作品の構成の作り方
10	卒論の書き方・作品の作り方 (9)	情報共有のための GoogleDocs の使い方
11	テーマの設定と構成 (1)	論文や作品のテーマの設定
12	テーマの設定と構成 (2)	テーマに関する事前情報の収集と構成
13	テーマの設定と構成 (3)	問題意識を整理して文章とリストにまとめる
14	春期授業の振り返り	春期の授業で学んだことを振り返り秋期学習の準備をする
15	テーマの発表	テーマを発表し、いろいろな人の意見を聞く（夏合宿）
16	情報の収集と構成 (1)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
17	情報の収集と構成 (2)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
18	情報の収集と構成 (3)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
19	情報の整理と執筆・撮影の準備	収集した情報をパソコンに取り込んで整理し、執筆や撮影に備える
20	執筆（撮影・編集）～完成	完成に向けた論文の執筆（映像の場合は撮影・編集）と個別指導
21	卒論・卒業制作企画書の制作	企画書のフォーマットに沿って企画書・絵コンテを作る
22	卒論・卒業制作企画書の検討	作成した企画書・絵コンテを全員で検討する

23	卒論・卒業制作の分担の決定	執筆または撮影、編集など個々人の分担を決める
24	卒論・卒業制作の制作・撮影の下準備	データの収集および映像撮影のロケハンを行う
25	執筆・撮影の実施	企画書や絵コンテにもとづいて執筆や撮影を行う
26	執筆・撮影の中間報告	執筆・撮影内容を検討し、不足がある場合は執筆や撮影を追加する
27	編集と完成	編集作業を行い、完成させる
28	学習の振り返り	これまでの制作活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論・卒業作品は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【成績評価の方法と基準】
構成、引用・参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
論文・卒業作品のテーマはできるだけ早めに決めること。

【学生が準備すべき機器他】
論文作成にはパソコンを用いる。ドキュメンタリー作品の制作については、DV カメラとパソコンを用いる。

【その他の重要事項】
ドキュメンタリービデオを卒論として選択する場合、ビデオ制作は一人一作品とするが、制作過程にゼミ生同士が協力し合うことは可とする。一作品の長さは一人で制作する場合 15～20 分程度。複数人で制作する場合はこの数字に人数をかけたものとなる。
また、ビデオ作品は、映像制作の意図を含む企画書、シナリオ（絵コンテ）、ナレーション原稿、参考文献一覧表、制作記録、等を含め、1 万 2000 字以上の文字原稿を付けて一つの作品とみなす。ビデオだけでは作品と見なさないので、注意すること。
その他の詳細については、卒論指導時に紹介する。

【Outline and objectives】
To write graduation thesis or produce graduation video appropriately

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

高野　良一

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他** ｜ 配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次に、個人のプロジェクト学習 (Project Based Learning,PBL) のまとめとして小論文を作成しました。これを発展的に継承し、4 年次の PBL を進めて、卒業論文の完成をめざします。

【到達目標】
プロジェクト学習のスキルに習熟しながら、「学校から社会・職業へ」の最終盤の 1 年間を通じて、実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的スキル（KJ 法、トゥールミン・モデル等）の形成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
個人のプロジェクト学習としての卒論ですが、節目（チェックポイント）ごとに検討会を開催します。
教員によるフィードバックや指導は、授業内および授業後に、対面ないし ZOOM での面談を適宜おこなうことで実施します。
なお、原則は対面授業ですが、コロナ感染症への対応等で変更もあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論ガイダンス	卒論を書く意義やプロセス、様式などの解説
2	3 年次プロジェクト・レポートの発表	個人のプロジェクト・レポートの発表と相互討論
3	3 年次プロジェクト・レポートの発表（続）と講評	個人のプロジェクト・レポートの発表と相互討論、全体講評
4	PBL を再学習する（1）	鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』の抜粋講読
5	PBL を再学習する（2）	鈴木敏恵著の抜粋講読
6	問いをデザインする（1）	安斎・塩瀬著『問いのデザイン』の抜粋講読
7	問いをデザインする（2）	安斎・塩瀬著の抜粋講読
8	テーマ及び趣旨の個人発表	卒論執筆の最初の PBL シート（v.1）に基づく発表会
9	テーマ及び趣旨の個人発表（続）と講評	PBL シート（v.1）の発表会、全体講評、今後の進め方
10	先行研究やデータの収集を学ぶ：インターネット検索	PBL シート（v.1）を充実させる資料検索と訪問・調査先のリストアップ
11	先行研究やデータの収集を学ぶ：図書館利用案内	図書資料の検索
12	論文作成計画の立案	PBL シート V.2 の作成
13	論文作成計画の指導	PBL シート V.2 の個別（あるいはグループ）指導
14	論文作成計画の相互交流	各自の論文作成計画からの学び合い
15	夏休みの論文作成作業の準備	夏の特別授業で卒論作成作業の準備
16	卒論の中間報告	秋学期の冒頭でのゼミ個人構想発表と講評
17	卒論の中間報告（続）	個人発表に対する指導（2）
18	文献を読むスキルを学ぶ（1）	編集工学研究所『探究型読書』の抜粋講読
19	文献を読むスキルを学ぶ（2）	編集工学研究所著の抜粋講読
20	論文執筆スキルを学ぶ（1）	戸田山和久『新版　論文の教室』1，2章
21	論文執筆スキルを学ぶ（2）	戸田山和久著（3章）
22	ゼミ OB/OG の卒論に学ぶ	2 つほど卒論を取り上げてテーマ設定と構成を学ぶ
23	ゼミ OB/OG の卒論に学ぶ（続）	図表や引用などの仕方を学ぶ
24	最終段階の個別指導（1）	テーマと構成を主として指導
25	卒論の最終報告会	類似したテーマや領域ごとの個人報告会（2，3，4年全体）
26	卒論の最終報告会（続）	類似したテーマや領域ごとの個人報告会（2，3，4年全体）

27	最終段階の個別指導（2）	文書表現や引用などを中心とした指導
28	論文提出に向けた個別指導	必要とする個人への指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文に結実する個人のプロジェクト学習は、ゼミ時間内での発表や協働学習、教員の集団および個別指導と並行しながら、授業外でのデータ収集や論文の読み込みなどの学習活動が大きな比重を占めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜、紹介します。

【参考書】
鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
安斎・塩瀬『問いのデザイン』学芸出版社
編集工学研究所『探究型読書』インプレス
戸田山和久『新版　論文の教室』NHK 出版

【成績評価の方法と基準】
プロジェクト学習が進行する過程でのチェックポイントでの実績と、完成した論文の内容を総合的に勘案して評価します。チェックポイントとは、春学期のテーマ及び趣旨の発表、夏休み中の中間報告、秋学期の途中及び最終経過報告です。

【学生の意見等からの気づき】
自らの問題意識を「見える化」・客観化するアカデミック・スキルの形成に努めたい。

【Outline and objectives】
The objectice of this class is to write up a graduation thesis through an individual project- based learning(PBL) which is based on the third year's PBL.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

田澤　実

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に沿って，それぞれの段階に応じて指導していく。先行研究の調査，データ分析方法，およびインプリケーションの捉え方等，具体的に指導していく。

【到達目標】
卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒論執筆が大学における学びについてどのように位置づくのか説明する。
第 2 回	テーマ特定	卒論で扱うテーマについてキーワードを探す。
第 3 回	先行研究のレビュー（1）	キーワードが確定したら、そのキーワードで先行研究を探し、まとめる。まずは新聞等の記事の探し方を扱う。
第 4 回	先行研究のレビュー（2）	キーワードで先行研究を探し、まとめる。該当する書籍や論文等の探し方を扱う。
第 5 回	計画発表（1）	卒論を執筆するうえで、研究枠組みと今後の研究計画を発表する。
第 6 回	計画発表（2）	実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
第 7 回	計画発表（3）	発表を通じて、さらに調べるべきキーワードの有無を確認する。
第 8 回	文献レビュー（1）	そのテーマを扱う意義についてイントロダクションを考える。
第 9 回	文献レビュー（2）	そのテーマの先行研究で明らかになっている範囲をまとめる。
第 10 回	文献レビュー（3）	先行研究で明らかになっていないことや、問題点を探る。
第 11 回	文献レビュー（4）	問題点をクリアするためには、どのような研究アプローチが必要かを考える。
第 12 回	文献レビュー（5）	卒論の目的の詳細を詰める。
第 13 回	予備調査の計画	データ収集に向けて、具体的な方法を検討する。
第 14 回	中間レポート発表	予備調査の実施計画を含めて発表する。
第 15 回	予備調査の実施	予備調査を実施することにより本調査の見通しを立てる。
第 16 回	中間発表（1）	予備調査の結果を踏まえて発表する。質疑応答を行う。
第 17 回	中間発表（2）	他者の発表も聞くことにより自らの研究の位置づけを相対化する。
第 18 回	中間まとめ	自らの発表や他者の発表を聞き、卒論の構成の修正を検討する。
第 19 回	分析の実施（1）	データ入力の方法について扱う
第 20 回	分析の実施（2）	分析のために形式を参考にする論文や書籍を探す
第 21 回	分析の実施（3）	具体的な分析の仕方について扱う
第 22 回	分析の実施（4）	結果について見通しを立てる
第 23 回	論文執筆（1）	問題と目的を中心に扱う
第 24 回	論文執筆（2）	方法を中心に扱う
第 25 回	論文執筆（3）	結果と考察を中心に扱う
第 26 回	卒論経過発表（1）	ゼミ内で発表、質疑応答を行う。最終仕上げの前に位置づけを明らかにしていく。
第 27 回	卒論経過発表（2）	ゼミ内で発表、質疑応答を行う。他者の発表も聞くことにより自らの研究の位置づけを相対化する。
第 28 回	卒論口頭発表	完成した卒論について発表し合う。質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 年秋学期に執筆するゼミ論が卒論の一部になることがある。
ゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。
卒論のテーマによっては上記のスケジュールが変更になることがある（データの性質上、入手可能な時期が限定される場合など）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
積極的参加 3 割、成果物 7 割にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて随時話し合いをしてきた。今年度もそれを継続する。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be
able to do the following:
· Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,
· Apply theories or findings to real world situations.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

筒井　美紀

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育・生活・文化・労働・政策の、少なくともいずれか 1 つをテーマとして、社会学の卒業論文を完成させる。

【到達目標】
「嗚呼、その答えが知りたい！」と読者に思わせ、社会的意義のある、かつ、学術論文の型・作法をマスターした「美しい」、内容の濃い、社会学の卒業論文を書き上げること、それがこの演習のゴールである。そのプロセスであなたは、より高次の精神性をもって生きてゆくことの意味を実感するだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
原則対面とするが、コロナ状況など様々な要素を綜合的に考慮して、zoom による授業に切り替える可能性もある。
【授業の進め方】
　学術論文を書き上げるには、実にたくさんの作業をこなし、そのなかで習熟していくことが不可欠である。それゆえ筒井ゼミでは、「仕上がった学術論文・本ってのはこういうものなのだな」という、「美しい完成品」の「審美眼（どうやって組み立てられ、何が部材として使われているから素晴らしいのかの理解）」を養う。卒論執筆は、「じゃあ自分も一丁やってみるか」とそれを実践に移すものだ。怒涛のような作業のなかで、自分の初発の問題関心とセンスを信じて失わずに続けられるか。我流では難しい。だから適宜フィードバックする。その大前提は自力でどんどん進めることだ。課題である発表レジュメはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究計画の発表①	「学術論文 7 つの構成要素」の①～⑤を盛り込んで書き、それを発表する。
2	研究計画の発表②	前回続き。リファインする。ゴーサインが出次第、実査に入る。
3	研究計画の発表③	前回続き。リファインする。
4	研究計画の発表④	前回続き。リファインする。
5	分析結果の発表と検討①	データ分析・知見・考察の検討。
6	分析結果の発表と検討②	データ分析・知見・考察の検討。
7	分析結果の発表と検討③	データ分析・知見・考察の検討。
8	分析結果の発表と検討④	データ分析・知見・考察の検討。
9	分析結果の発表と検討⑤	データ分析・知見・考察の検討。
10	分析結果の発表と検討⑥	データ分析・知見・考察の検討。
11	分析結果の発表と検討⑦	データ分析・知見・考察の検討。
12	分析結果の発表と検討⑧	データ分析・知見・考察の検討。
13	章立ての検討①	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
14	章立ての検討②	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
15	章立ての検討③	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
16	章立ての検討④	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
17	草稿の一部をもとにアドバイス①	1 章分を目安に指導する。
18	草稿の一部をもとにアドバイス②	1 章分を目安に指導する。
19	草稿の一部をもとにアドバイス③	1 章分を目安に指導する。
20	草稿の一部をもとにアドバイス④	1 章分を目安に指導する。
21	草稿の一部をもとにアドバイス⑤	1 章分を目安に指導する。
22	草稿の一部をもとにアドバイス⑥	1 章分を目安に指導する。
23	草稿の一部をもとにアドバイス⑦	1 章分を目安に指導する。
24	草稿の一部をもとにアドバイス⑧	1 章分を目安に指導する。
25	第一稿の朱入れ①	リライトのポイントを助言。
26	第一稿の朱入れ②	リライトのポイントを助言。

27	第一稿の朱入れ③	リライトのポイントを助言。
28	第一稿の朱入れ④	リライトのポイントを助言。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論執筆に必要なこと全てを行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示。

【参考書】
適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の出来具合１００％。

【学生の意見等からの気づき】
全学懸賞論文というゴール設定は大変良い励みになるので、今年度も目指します。

【Outline and objectives】
The students are to write a socioligical graduation thesis, choosing the theme from education, life, culture, labour, and/or policy.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

寺崎　里水

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学における学修の集大成として卒業論文に取り組みます。卒業論文としてふさわしい課題設定、論文構成、議論、考察を行います。

【到達目標】
論文としてふさわしい形にすること、他者に自分の考察を伝えられることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
個人の作業と全体での検討を並行して行います。随時、メールや対面で指導をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文の位置づけ、意義について説明します。卒業論文に取り組むという意識を高めます。
2	テーマの設定（1）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
3	テーマの設定（2）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
4	テーマの設定（3）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
5	調査方法の設定（1）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
6	調査方法の設定（2）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
7	調査方法の設定（3）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
8	先行研究の調査（1）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
9	先行研究の調査（2）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
10	先行研究の調査（3）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
11	先行研究の調査（4）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
12	先行研究の調査（5）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
13	中間報告（1）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
14	中間報告（2）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
15	中間報告（3）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
16	分析の実施と経過発表（1）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
17	分析の実施と経過発表（2）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。

18	分析の実施と経過発表（3）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
19	分析の実施と経過発表（4）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
20	分析の実施と経過発表（5）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
21	分析の実施と経過発表（6）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
22	論文完成にむけた個別指導（1）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
23	論文完成にむけた個別指導（2）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
24	論文完成にむけた個別指導（3）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
25	論文完成にむけた個別指導（4）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
26	論文完成にむけた個別指導（5）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
27	論文完成にむけた個別指導（6）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
28	最終仕上げ	論文としてふさわしい構成になっているかどうかを確認しながら、最終的な仕上げを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマに関する文献を空き時間に探し、計画的に読んでいくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
特に定めない

【成績評価の方法と基準】
論文の内容 100%

【学生の意見等からの気づき】
互いの学修を助けあうような雰囲気を醸成していきたい。

【Outline and objectives】
In this class, the students are going to write on graduation thesis as a compilation of their studies at the university.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

廣川　進

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他** ｜ 配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成の方法と手順を理解し、獲得し、実際に論文を完成させる。

【到達目標】
学生が卒業論文として研究するテーマを選び、そのテーマについて調査、文献調査、文章の推敲、討論、等々をとおして、自らの主張としての論文を完成させ、大学卒業にふさわしい知的探求者へと成長することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業での発表の際に必要なフィードバックを行う
卒業論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、スキルを蓄積していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文作成に取り組む意義と準備すべき点について説明する。
2	研究方法の概説① 理論と実証の研究手法の違い	理論研究、実証研究という二つの研究手法の特徴と性格について概説する。
3	研究方法の概説② 研究方法の手順	理論研究、実証研究それぞれの手順の概要を説明する。
4	研究方法の概説③ 文献の探し方	前回の続きに加えて文献の探し方を紹介する。
5	テーマの設定① 問題意識	執筆者の問題意識を整理する。
6	テーマの設定② テーマの洗い出し	問題意識から、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③ 発表	テーマを報告し、他者の批判に応え説明する。
8	先行研究の調査	洗い出したテーマに関する先行研究を広く調査し、そこに示されている知見と残された課題を識別する。その上で、先行研究に何が足りないか、いかなる課題や問題が残されているかを把握する。
9	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、先行研究のレビューと批判、検証仮説の作成、データ収集方法および分析方法など、計画する。
10	小論文の執筆	課題、論点など明確にし、いくつかの点について、実際に論文を書き、書くことの意味を実感する。
11	レポートの発表①	小論文、レポートをもとにプレゼンの練習を一人ずつ行う（前半）
12	レポートの発表②	小論文、レポートをもとにプレゼンの練習を一人ずつ行う（後半）
13	レポートの発表③	小論文、レポートをもとにプレゼンの練習を一人ずつ行う （まとめ）
14	まとめ	前期の振り返り
15	後期のガイダンス	後期のゼミの進め方のガイダンス
16	研究計画の再検討	研究テーマ・課題、検証すべき仮説、用いる研究手法を再検討し、研究計画を再検討する。
17	調査データの収集と整理① データベース化	それぞれの研究計画に従いつつ、量的データ、質的データを収集し、データベース化を行う。
18	調査データの収集と整理② 調査の読み込み	調査を一定読み込み、自分の研究テーマに照らしてその意味を検討する。
19	調査データによる検証仮説の検討① 収集したデータと仮説作成	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。

20	調査データによる検証仮説の検討② 収集したデータと仮説作成	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。
21	分析の実施①	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。（前半）
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。（後半）
23	論文執筆	実際の論文執筆体制に入る。
24	論文のリファイン	ゼミで論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
25	論文の完成① 通読して齟齬がないかのチェック	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
26	論文の完成② 互いに読み合わせして文章校正する	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
27	論文のブラッシュアップ	おたがいの論文へのコメント交換
28	後期のまとめ	後期の振り返りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３年生からのゼミ活動に熱心に取り組み、卒業論文作成のイメージと課題意識を培っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
論文完成に至るまでの研究への取り組み（20 %）、および論文の内容（80 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の探究したいテーマを重視して､研究計画を作っていく指導を行う。

【Outline and objectives】
This course will help you to write your graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

松尾　知明

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独自のテーマを追究して、多文化共生と教育に関する卒業論文を完成させる。多文化社会と教育に関連する調査研究を進めることを通して、多文化共生の実現に向けた方策やあり方の一端を検討して、そのための示唆を得る。

【到達目標】
･自分の興味・関心に基づき、多文化共生と教育に関するテーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。
･調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、演習内で指導を行う。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文にまとめる。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の考え方・進め方について
2	テーマの検討	調査研究の構想
3	テーマの設定	テーマと調査研究の立案
4	先行研究の収集	先行研究の進め方
5	先行研究の検討	文献リストの発表と質疑
6	先行研究の整理	文献リストの発表と質疑
7	リサーチクエッチョンと研究計画の検討	リサーチクエッチョンの設定
8	リサーチクエッチョンと研究計画の構想	リサーチクエッチョンに応える研究計画の構想
9	データの収集の考え方	データの収集と整理の考え方・進め方
10	データの収集	進捗状況の報告と質疑
11	データの収集と検討	進捗状況の報告と質疑
12	データの整理	進捗状況の報告と質疑
13	中間発表①前半	発表と質疑
14	中間発表②後半	発表と質疑
15	進捗状況の報告と計画の見直し	研究活動の振り返り
16	データ分析の考え方	データ分析の考え方・進め方
17	データ分析の方法	進捗状況の報告と質疑
18	データ分析の実際	進捗状況の報告と質疑
19	データ分析の見直し	進捗状況の報告と質疑
20	データ分析の完了	進捗状況の報告と質疑
21	卒業論文の執筆①論文とは	卒業論文の執筆の考え方・進め方
22	卒業論文の執筆②アウトライン	進捗状況の報告と質疑
23	卒業論文の執筆③論文の表現	進捗状況の報告と質疑
24	卒業論文の執筆④論文の展開	進捗状況の報告と質疑
25	卒業論文の執筆⑤校正	卒業論文の推敲の考え方・進め方
26	卒業論文の執筆⑥仕上げ	進捗状況の報告と質疑
27	卒論発表①前半	プレゼンと質疑
28	卒論発表②後半	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30 %）、論文の形式（30 %）や内容（40 %）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進められるように留意する。

【Outline and objectives】
Graduate theses on multicultural symbiosis and education are completed by setting up and exploring individually selected themes. Through conducting research projects related to multicultural society and education, how to actualize multicultural coexistence is discussed and implicated.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

上西　充子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の完成に向けて、自らの問題意識に即した研究課題の設定、論文の構成、先行研究の調査、データの収集と分析、インプリケーションの捉え方等、段階的に指導を行います。卒業論文で自らの問いを納得のいく形で追及できるようにすることが目的です。

【到達目標】
自らが明らかにすべき問いを立てることができる。
研究課題を絞り込み、先行研究への適切な言及と適切な研究方法によって、その研究課題を明らかにすることができる。
読み手に説得的な論述を行った卒論を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記の授業計画に従って、演習内で指導を行います。秋学期には適宜個別指導を並行して行います。フィードバックはその都度、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（1）	卒論の意義について説明する
2	ガイダンス（2）	卒論執筆スケジュールと心構えについて説明する
3	卒論構想の発表（1）	各自の問題意識を発表し、議論する
4	卒論構想の発表（2）	各自の問題意識を深める
5	研究方法の概説（1）	研究方法について説明する
6	研究方法の概説（2）	量的調査法に基づく文献を検討する
7	研究方法の概説（3）	質的調査法に基づく文献を検討する
8	研究課題の設定（1）	各自の問題意識を深め研究課題を絞り込む
9	研究課題の設定（2）	研究課題を文章化する
10	先行研究の調査（1）	先行研究の探し方を学ぶ
11	先行研究の調査（2）	収集した先行研究を検討する
12	先行研究の調査（3）	先行研究から得られる知見を理解し、分析の視点から学ぶとともに、残された課題を認識する
13	研究計画の策定（1）	研究課題に即した研究計画を策定する
14	研究計画の策定（2）	調査方法を具体的に検討し、調査・執筆スケジュールを検討する
15	調査・分析結果の発表（1）	調査結果を整理して発表する
16	調査・分析結果の発表（2）	調査結果の分析方法を改めて検討する
17	調査・分析結果の発表（3）	調査結果の分析を発表する
18	調査・分析結果の発表（4）	調査結果から得られた知見を検討する
19	調査・分析結果の発表（5）	調査結果から得られた知見を文章化する
20	章立ての検討	論文全体の構成案を検討する
21	執筆内容の検討（1）	課題設定の執筆内容を検討する
22	執筆内容の検討（2）	先行研究の検討の執筆内容を検討する
23	執筆内容の検討（3）	調査結果の執筆内容を検討する
24	執筆内容の検討（4）	まとめの執筆内容を検討する
25	執筆内容の検討（5）	文献リストの執筆内容を検討する
26	論文の発表とリファイン（1）	論文を発表し、寄せられたコメントを検討する
27	論文の発表とリファイン（2）	コメントを踏まえて論文を修正する
28	卒論発表	提出した卒論の要旨を発表し、その内容と意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献を読み込む。
データの収集と分析を行なう。
卒論の完成に向けて、執筆を進める。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第２版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
先行研究の論旨の的確な把握、引用や記述のルールの順守、分析方法の的確さ（40 %）、文章の明確さ、論理構成の的確さ（40 %）、課題設定の独創性、知見の独創性（20 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題の絞り込みが難しいと感じる学生が多いように見受けられます。先行研究の収集・分析と並行しての研究課題の絞り込みを早期からサポートしていきます。

【Outline and objectives】
To the participants, step-by-step instruction will be provided to write their senior theses.
The objective of this course is to acquire skills to investigate their own theme.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

梅崎　修

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生を対象に、キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
学術論文のための論文作成方法を学ぶ。具体的には、調査から意味解釈や因果関係の推測、さらには検証ができる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は論文の書き方を指導し、秋学期は論文に具体的コメントを行う。個別指導が中心であるが、春学期に 1 回、秋学期 1 回、発表会を行う。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のスケジュール確認	卒論執筆の年間スケジュールを確認する。
2	卒論テーマ報告（１）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
3	卒論テーマ報告（２）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
4	卒論テーマ報告（３）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
5	卒論テーマ報告（４）	1 人 30 分 ×2 名で卒論テーマを発表し、議論する。
6	調査方法講義（ヒアリング調査）	卒業論文で使える方法論について講義する。
7	調査方法講義（観察法）	卒業論文で使える方法論について講義する。
8	調査計画発表（５）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
9	調査計画発表（６）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
10	調査計画発表（７）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
11	調査計画発表（８）	1 人 30 分 ×2 名で調査計画を発表し、議論する。
12	論文構成	論文構成の書き方を講義。
13	図書館と情報検索のやり方	情報検索の方法を講義。
14	先行研究のまとめ方	先行研究を整理する方法を講義。
15	相談	調査計画の個別相談を受ける。
16	調査結果の報告（９）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
17	調査結果の報告（10）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
18	調査結果の報告（11）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
19	調査結果の報告（12）	1 人 30 分 ×2 名で調査結果を発表し、議論する。
20	調査結果の分析・解釈（１）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
21	調査結果の分析・解釈（２）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
22	調査結果の分析・解釈（３）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
23	調査結果の分析・解釈（４）	1 人 30 分 ×2 名で分析・解釈を発表し、議論する。
24	発表方法	プレゼンテーションの方法を講義する。
25	議論の方法	質問、批判の方法を学ぶ。
26	卒論発表会（１）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。
27	卒論発表会（２）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。
28	卒論発表会（３）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に調査、執筆を行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
作品の完成度を 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成だけでなく、論文の発表方法も教授し、簡潔でわかりやすい発表ができるようにする。

【Outline and objectives】
I will provide support to fourth graders for writing their graduation thesis and producing academically valuable papers.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

木村　琢磨

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「企業経営と人材活用」に関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。
　自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得することを目指す。

【到達目標】
卒業論文の完成を到達目標とし、リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者各自が 1 本の論文を完成させるため、各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告のスケジューリングは、受講生を複数のグループに分けて設定し、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、論文作成はスケジュール通りに進むものではないので、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。報告内容に基づき授業内で個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	参考論文の輪読 (1)	仮説検証型の論文を読み、仮説検証型研究の方法を理解する
第 2 回	参考論文の輪読 (2)	仮説探索型の論文を読み、仮説探索型研究の方法を理解する
第 3 回	研究計画の作成方法	研究を計画的に進めるための計画の立て方を理解する
第 4 回	リサーチ・クエスチョンの設定方法	論文のテーマ設定、テーマの改訂を行うための考え方を理解する
第 5 回	先行研究の調査方法	先行研究となる論文・調査の参照の方法、まとめ方・分析方法について理解する
第 6 回	仮説設定の方法	仮説検証型研究における仮説の設定方法を理解する
第 7 回	質的調査法 (1)	インタビュー調査の実施方法の説明
第 8 回	質的調査法 (2)	参与観察・観察調査の実施方法の説明
第 9 回	量的調査法 (1)	アンケート調査の実施方法の説明
第 10 回	量的調査法 (2)	公開データの分析方法の説明
第 11 回	先行研究の調査結果発表 (1)	第１グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 12 回	先行研究の調査結果発表 (2)	第２グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 13 回	先行研究の調査結果発表 (3)	第３グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 14 回	調査計画の決定 (1)	第１グループ、第２グループ。９月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第 15 回	調査計画の決定 (2)	第２グループ、第３グループ。９月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第 16 回	第１次調査結果の発表 (1)	第１グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 17 回	第１次調査結果の発表 (2)	第２グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 18 回	第１次調査結果の発表 (3)	第３グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 19 回	論文の全体構成の検討 (1)	第１グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第 20 回	論文の全体構成の検討 (2)	第２グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する

第 21 回	論文の全体構成の検討 (3)	第３グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第 22 回	第２次調査結果報告 (1)	第１グループ、第２グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第 23 回	第２次調査結果報告 (2)	第２グループ、第３グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第 24 回	論文の草稿作成 (1)	第１グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 25 回	論文の草稿作成 (2)	第２グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 26 回	論文の草稿作成 (3)	第３グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 27 回	最終プレゼンテーション (1)	第１グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる
第 28 回	最終プレゼンテーション (2)	第２グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間が使えるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【参考書】
渡辺知明（2015）『文章添削の教科書』芸術新聞社
井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成法 (第 2 版)』慶應義塾大学出版会
そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
・卒業論文の水準（70%）、口述試験（30 %）
・卒業論文の評価基準：
テーマの重要性（20 点）、論理性（20 点）、調査方法・分析の妥当性（20 点）、独創性（10 点）の４要素の合計点で評価する。
・口述試験の評価基準
論文の正確かつ明瞭な説明（10 点）、的確な質疑応答（20 点）
※卒業論文の評価要素４つのうち独創性以外の３要素すべてにおいて 10 点以上であること、および口述試験が 15 点以上であることを単位認定の最低要件とする。

【学生の意見等からの気づき】
文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない（参考図書を読んで各自行うこと）。論文指導は研究内容に関することに集中して行う。

【その他の重要事項】
オフィスアワー： 火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
This course is designed to complete the undergraduate thesis project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

酒井　理

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他** ｜ 配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、自分たちが手がけたマーケティングに関わるプロジェクトを論文にします。
現状を把握するための分析、実際の問題を解決するための実践のプロセスを通して、仮説設定と検証実験による学術的なアプローチを学びます。

【到達目標】
卒業論文の完成が最終目標です。アンケート調査、インタビュー調査などで集めたデータを使用した実証的な研究方法によって論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
必ず実証データを使用して研究を進めてもらいます。アンケートでデータを集めても結構ですし、消費者へのインタビューや街頭観察でデータを収集することでも結構です。さらに企業訪問してインタビューを行うのも推奨します。とにかく、実際に現場に出向いて自分でデータを集めて現象について考察することを求めます。自分の足で現場に出向いてデータを直接集めます。
学生の提出された課題のフィードバックは、毎回、授業時の指導としておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
2	テーマ・仮説の設定 1	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
3	テーマ・仮説の設定 2	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
4	テーマ・仮説の設定 3	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
5	文献サーベイ 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
6	文献サーベイ 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
7	文献サーベイ 3	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
8	リサーチデザイン 1	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
9	リサーチデザイン 2	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
10	リサーチデザイン 3	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
11	リサーチ結果報告 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
12	リサーチ結果報告 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
13	リサーチ方法の改善 1	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
14	リサーチ方法の改善 2	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
15	オリエンテーション	秋学期の進め方について意見交換を行います。
16	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
17	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
18	個別指導 1	各自執筆と個別指導を行います。
19	個別指導 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
20	個別指導 3	各自執筆と個別指導を行います。
21	中間発表 1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
22	中間発表 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
23	個別指導 1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
24	個別指導 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。

25	個別指導３	論文執筆の途中経過の報告を行います。
26	研究成果の発表１	最終的に完成した論文の内容を発表します。
27	研究成果の発表２	最終的に完成した論文の内容を発表します。
28	研究成果の発表３	最終的に完成した論文の内容を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。フィールド（現場）に出向いて研究を進めることを強く推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
各自の研究成果である卒業論文の評価が１００％です。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【その他の重要事項】
学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will make a paper of marketing projects which we have conducted.
We will learn academic approaches based on hypothesis setting and verification experiments through analysis to understand the current situation and practice process to solve problems in a "real" world.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

坂爪　洋美

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の学習の集大成として、自らの興味関心に基づき研究テーマを設定し、テーマに基づく調査の実施、調査結果の検討を通じて、卒業論文を完成させます。

【到達目標】
卒業論文作成上の到達目標は以下の通りです
（1）興味関心を研究テーマとして構築できるようになる
（2）研究テーマに関連する先行研究をレビューしまとめられるようになる
（3）調査を設計し実施できるようになる
（4）調査結果の分析ができるようになる
（5）分析結果をふまえ論文を執筆できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期については論文執筆に進め方ならびに調査の実施に関するレクチャーが中心になる。後期は調査実施状況に応じた個別指導が中心となる。
毎回提出されたレジュメに対して、個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマについての検討（1）	各自の興味に基づき研究テーマを抽出する
第 2 回	研究テーマについての検討（2）	各自の興味に基づき研究テーマを精査する
第 3 回	論文の書き方について理解する（1）	卒業論文の構成と書き方について講義と実習を行う
第 4 回	論文の書き方について理解する（2）	論文を読みつつ、論文の基本的な書き方について学習する
第 5 回	先行研究のレビューを理解する（1）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第 6 回	先行研究のレビューを理解する（2）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第 7 回	先行研究のレビューを理解する（3）	先行研究のまとめ方をレクチャーし、集めた資料をまとめる
第 8 回	調査計画を立案する（1）	研究テーマを仮説として構築する
第 9 回	調査計画を立案する（2）	研究テーマを仮説として構築する
第 10 回	調査計画を立案する（3）	仮説のブラッシュアップを図る
第 11 回	調査票の作成（1）	仮説検証に必要な調査票を作成する（1）
第 12 回	調査票の作成（2）	仮説検証に必要な調査票を作成する（2）
第 13 回	中間報告（1）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 14 回	中間報告（2）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 15 回	中間報告（3）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 16 回	夏休みの報告	夏休み中の進捗について報告する
第 17 回	分析方法を学ぶ（1）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 18 回	分析方法を学ぶ（2）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 19 回	分析方法を学ぶ（3）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 20 回	結果をまとめる（1）	分析結果を論文としてまとめる方法について講義を行った上で、各自結果をまとめる
第 21 回	結果をまとめる（2）	結果を論文としてまとめる
第 22 回	考察の進め方を学ぶ（1）	考察の進め方をレクチャーした上で、各自考察の進め方を検討する
第 23 回	考察の進め方を学ぶ（2）	各自考察をまとめる
第 24 回	論文の書き方（1）	論文の書き方についてのレクチャーを行い、各自これまでの成果を論文としてまとめる

第 25 回	論文の書き方（2）	論文として書き上げたものについて検討する
第 26 回	論文の書き方（3）	論文として書き上げたものについて検討する
第 27 回	論文発表（1）	論文を発表しコメントをもらう
第 28 回	論文発表（2）	論文を発表しコメントをもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成は各自が主体的に行うものである。授業は進捗の確認と進捗のサポートが中心であることから、何よりも主体的・積極的な準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
各自のテーマに合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の完成度に基づいて評価します。
具体的には、①問題設定の明確さ 20%、②先行研究の充実度 20%、③調査結果の適切な分析 20%、④仮説に基づいた考察 20%、⑤文章の明確さ 20%、です。

【学生の意見等からの気づき】
調査の実施時期を前倒しにし、余裕を持ったスケジュールとします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.
This course provide the student with knowledge of how to seek facts and how to plan, carry out and present work as well as theoretical and practical specialization within a industrial/organizational psychological subject area.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

佐藤　厚

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他** ｜ 配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒論作成を演習及び学部での学びの総決算として位置づけて指導します。参加者各自の研究テーマを設定し、関連文献の収集とレビュー、実証的データの収集と分析に基づき、論理一貫性のある論旨を展開しながら、説得力ある結論を導く文章の作成および作成能力の獲得を目標とします。

【到達目標】
各自の卒論テーマに関連した文献レビューを幅広く行い、内容を理解してもらう。
また先行研究の知見と自分の考えを区別して論述する力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。
春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。
合宿をはさんで、秋学期は、文章全体の章別構成の明確化と説得力ある文章の作成、および論文の完成を目標とします。
・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。
　なお、授業形式について、対面授業を想定していますが、大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒論執筆の意義、執筆のプロセスなど
2	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（1）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
3	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（2）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
4	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（3）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
5	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（3）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
6	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（4）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
7	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（5）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
8	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（6）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
9	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（7）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
10	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（8）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
11	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（9）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
12	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（10）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
13	卒論骨子の発表とコメント（1）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
14	卒論骨子の発表とコメント（2）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう

15	テーマ設定、章別構成、構造化された文章の書き方について	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる際の留意事項を理解させる
16	論旨、章別構成の明確化と執筆（1）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
17	論旨、章別構成の明確化と執筆（2）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
18	論旨、章別構成の明確化と執筆（3）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
19	論旨、章別構成の明確化と執筆（4）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
20	論旨、章別構成の明確化と執筆（5）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
21	論旨、章別構成の明確化と執筆（6）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
22	論旨、章別構成の明確化と執筆（7）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
23	論旨、章別構成の明確化と執筆（8）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
24	論旨、章別構成の明確化と執筆（9）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
25	論旨、章別構成の明確化と執筆（１０）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
26	論旨、章別構成の明確化と執筆（１１）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
27	執筆と推敲（1）	文章化し可能な限りの推敲を促す（1）
28	執筆と推敲（2）	文章化し可能な限りの推敲を促す（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・系統的な文献の収集と読み込みが必要です。
・執筆にむけた一定の執筆時間の確保が必要です。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、授業時に指示します。

【参考書】
各自の関心に応じて適宜、文献を指示します。

【成績評価の方法と基準】
・毎回のゼミでの報告への取り組みと論文の到達水準、完成度で評価します。
・報告を含む出席点 40 点、卒業論文 60 点とします。
・通常の対面授業を想定して行います。大学の方針によりオンラインに変更の場合の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
中間段階での到達点を明確化し、リアクションペーパー等で自らの進捗評価と課題を意識してもらう。

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get deep kowledge and sharpen skill about these theme through setting theme,collecting information about theme, and writing logical academic sentences.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

武石　恵美子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。キャリアデザイン学の視点から自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の学びの集大成とする。

【到達目標】
卒業論文執筆により、自らの問題意識をもとに課題を設定し、その課題解決のために実証的な方法によって論証を行い、課題に対する結論を導く能力の開発を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は、春学期は論文の書き方等の指導を講義形式で行い、秋学期は個別指導を中心に進め論文の完成を目指す。
課題等の提出・フィードバックは各授業の中で個別に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	論文テーマの発表	論文の構想、テーマを報告し、研究にあたっての問題意識を明確にする。
2	論文の書き方の基礎	卒業研究とは、論文の書き方の基礎。
3	論文の書き方の事例	具体的な論文を読みながらポイントを解説する。
4	研究方法の解説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。
5	研究の背景の明確化	各自の研究テーマに関する現状や課題等の背景を明確にする。
6	研究の意義の明確化	各自の研究テーマについて、背景を踏まえた研究の意義を明確にする。
7	研究計画の策定	研究計画について説明する。
8	研究内容の決定	研究計画を策定して、具体的な内容を詰める。
9	先行研究のサーベイ	テーマに関連する先行研究を広く調査する方法を解説する。
10	先行研究の検討	先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	実証のやり方	実証のための方法について解説する。
12	実証方法の検討、具体化	実証のための方法を検討し、実証のための方法をより具体的に決定する（調査対象、内容等の決定）。
13	データ等の収集	データを収集する。
14	春学期のまとめと総括	各自の論文の経過報告を行い、総括する。
15	中間報告会	中間報告を行う。
16	中間報告会の講評	中間報告の講評を行う。
17	現状把握のデータ整理	現状についてのデータ収集とその整理を行う。
18	現状分析	現状についてのデータ収集とその分析を行う。
19	データの解釈	データの解釈を行う。
20	仮説の検証、論証	現状分析を踏まえた仮説検証の方法を知る。 自分の研究に照らして仮説の検証、論証を行う。
21	論文執筆	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
22	論文執筆とフィードバック	執筆部分についてのフィードバック行う。
23	論文の修正	執筆部分についてのフィードバックを踏まえた修正を行う。
24	論文発表	論文を発表して意見を聴く
25	論文発表からの検討	発表に対する意見を踏まえて内容を検討する。
26	論文の修正	論文の修正を行う。
27	論文完成	論文提出に向け、論文を完成させる。

28	卒業論文発表会	2,3,4 年生合同ゼミにおいて、卒業論文の発表および質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆のための文献研究や調査等を行う。卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが何より重要であり、当然であるが、授業に出席するだけでは論文は執筆できない。本授業の準備学習・復習時間は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個人のテーマに応じて適宜指定する。

【参考書】
個人のテーマに応じて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
論文の内容を総合的に評価する。
卒業論文については、問題意識の設定、先行研究サーベイの的確さ、現状分析を踏まえた結論と考察が論理的に導かれていることを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
進行に関して互いの報告会を行い、情報を共有しつつ、互いの問題意識から触発を受けるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
研究の内容によってパソコンが必要になる。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will write the graduation thesis about carrier design studies. They will examine own article theme and complete learning of 4 years.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

中野　貴之

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】
　一定水準以上の論文として、卒業論文を仕上げることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義と発表とを組み合わせて行う。卒業論文の構想、草稿については、議論の上、「朱」を入れるなど随時フィードバックを行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第 2 回～第 4 回	研究方法の概説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
第 5 回～第 7 回	テーマの設定	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
第 8 回～第 12 回	先行研究の調査	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
第 13 回～第 14 回	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
第 15 回～第 16 回	調査データの整備	調査データの収集、データベース化を行う。
第 17 回～第 18 回	検証仮説の検討	検証仮説等について再検討を行う。
第 19 回～第 20 回	分析の実施	仮説およびデータを用いて分析を行う。
第 20 回～第 23 回	論文執筆	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
第 24 回～第 26 回	リファインの作業	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
第 27 回～第 28 回	論文完成	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に、3 年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み、および論文の内容を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていきます。

【Outline and objectives】
In this lesson, I will tell you how to make a academic paper. Specifically, you will learn about the planning and writing of the paper.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

松浦　民恵

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

【到達目標】
①論文の問いが設定できるようになること
②調査を企画・設計し、実施できるようになること
③調査結果の分析・解釈ができるようになること
③分析結果を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は研究計画書や調査に関する相談、秋学期は分析や執筆に関する相談を行う。
授業計画はアンケート調査を実施する場合を想定して記述しているが、テーマや調査方法に応じて進め方は変更する。
なお、フィードバックは卒論指導や発表の都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文についてのオリエンテーション
第 2 回	論文執筆に向けた解説	卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第 3 回	問いの検討（1）	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討（第1グループ）
第 4 回	問いの検討（2）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第2グループ）
第 5 回	問いの検討（3）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第3グループ）
第 6 回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第 7 回	研究計画（1）	研究計画の提示と検討（第1グループ）
第 8 回	研究計画（2）	研究計画の提示と検討（第2グループ）
第 9 回	研究計画（3）	研究計画の提示と検討（第3グループ）
第 10 回	3年生共同研究・4年生卒論研究計画の共有	研究の進捗状況の共有
第 11 回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第 12 回	調査票の作成（1）	問いに答えられる、仮説を検証できる調査票の作成
第 13 回	調査票の作成（2）	調査票の作成の続き
第 14 回	調査の実施	調査をスタートする
第 15 回	オリエンテーション	①夏休み合宿の振り返り ②今後の進め方についての意見交換 ③オリエンテーション
第 16 回	調査の進捗報告	調査の進捗報告（全員）
第 17 回	分析の相談（1）	調査の分析方法に関する相談（第1グループ）
第 18 回	分析の相談（2）	調査の分析方法に関する相談（第2グループ）
第 19 回	分析の相談（3）	調査の分析方法に関する相談（第3グループ）
第 20 回	分析	各自分析を進める
第 21 回	論文骨子作成（1）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第1グループ）
第 22 回	論文骨子作成（2）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第2グループ）
第 23 回	論文骨子作成（3）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第3グループ）
第 24 回	論文の推敲（1）	論文をお互いに推敲する
第 25 回	論文の推敲（2）	論文をお互いに推敲する（続き）
第 26 回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第 27 回	論文発表（1） ＜2・3年生との合同＞	論文の発表と質疑（第1グループ）
第 28 回	論文発表（2） ＜2・3年生との合同＞	論文の発表と質疑（第2グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくことになります（授業は進捗確認と必要に応じたアドバイス中心）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
取り組みの進め方（30 %）、卒業論文の内容（40 %）、口述試験等の発表・質疑（30 %）によって評価します。
卒業論文の内容は、以下の観点から評価します。
①問いの立て方（自己の関心が絞られているか、独創性があるか等）
②先行研究レビュー（十分にサーベイがなされているか等）
③調査の企画・設計・実施・分析（適切な手順、方法か等）
④文章の展開（論理的な説得力があるか等）

【学生の意見等からの気づき】
スケジュールをできるだけ前倒しにしていきたいと考えております。また、完成してからでなく、研究フレームワークがある程度見えてきた段階で、ビジネスパーソン等との対話の機会を設けることを検討します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】
演習（ビジネス）3・4年生（春5限・秋6限）とは別に卒論指導を行うことがありますが、演習（ビジネス）3・4年生（春・秋）にも出席してください。
秋学期の2年生との合同ゼミは5限スタートになります。
演習の時限が内容によって変則的になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。

【Outline and objectives】
Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

荒川　裕子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化やアート、趣味、生き甲斐、地域コミュニティといった観点からキャリアデザインにアプローチし、論文を作成します。問題提起（研究テーマの設定）、先行研究のサーベイ、論文の構成（章立て）、ヒアリングやアンケート、文献などによる調査のしかた等を段階的に学んでいき、最終的にアカデミックな論文を完成させることを目指します。

【到達目標】
大学における四年間の学びの集大成として、アカデミックな形式にのっとった論文を執筆します。自分自身の関心領域や問題意識を明確にし、仮説を組み立て、それを論証していくために必要な資料やデータを収集し、説得力のある文章にまとめていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各自が自らのテーマにそって個別に研究を進めると同時に、適宜、教室において論文作成の経過報告を行い、他の受講生たちとのディスカッションを通じて考察を深めていきます。必要に応じて、教員による個別指導も複数回実施します。学生へのフィードバックは適宜授業内に時間を設けて行うとともに、学習支援システムでも共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文とは何か、について説明する。
第 2 回	研究方法の概要①	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する（チーム１）。
第 3 回	研究方法の概要②	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する（チーム２）。
第 4 回	研究テーマの設定①	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（チーム１）。
第 5 回	研究テーマの設定②	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（チーム２）。
第 6 回	研究テーマの設定③	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（チーム３）。
第 7 回	先行研究の調査①	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく（チーム１）。
第 8 回	先行研究の調査②	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく（チーム２）。
第 9 回	研究計画の策定①	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（チーム１）。
第 10 回	研究計画の策定②	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（チーム２）。
第 11 回	研究計画の策定③	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（チーム３）。
第 12 回	中間報告①	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する（チーム１）。
第 13 回	中間報告②	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する（チーム２）。
第 14 回	中間報告③	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する（チーム３）。
第 15 回	調査の実施とデータの集積①	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく（チーム１）。
第 16 回	調査の実施とデータの集積②	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく（チーム２）。
第 17 回	仮説の検討①	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（チーム１）。
第 18 回	仮説の検討②	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（チーム２）。
第 19 回	仮説の検討③	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（チーム３）。
第 20 回	論文の組み立て①	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（チーム１）。
第 21 回	論文の組み立て②	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（チーム２）。
第 22 回	論文の組み立て③	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（チーム３）。
第 23 回	論文の執筆①	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（チーム１）。
第 24 回	論文の執筆②	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（チーム２）。
第 25 回	論文の執筆③	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（チーム３）。
第 26 回	リファインの作業①	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う（チーム１）。
第 27 回	リファインの作業②	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う（チーム２）。
第 28 回	論文の完成	論文の提出に向けて書式等を整え、最終的な仕上げを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。また、ときどきの発表に向けて、スライドやレジュメの作成等の準備作業を行うことも求められます。こうした準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリント資料を配布します。
また、一年次に履修した基礎ゼミのテキストやノートを適宜活用するのが望ましいです。

【参考書】
授業中に適宜提示します。各自のテーマにそった文献の紹介も適宜行います。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢： 50 %
論文の完成度： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】
Students write a paper on the theme concerning culture, art, local community and so on. They learn the whole process necessary for the research for a paper, such as setting a theme, surveying previous researches, performing hearing and questionnaire investigations, etc. Also, they have to report the progress of their research in the classroom and discuss with other students.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

金山　喜昭

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
卒業論文の作成を目標とする。4 年間の学業の集大成として位置づけ、卒業後のキャリア形成にとってのコア形成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒業論文の準備と中間報告・論文を完成させる。課題等に対するフィードバック方法としては、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前年研究成果発表①	小論文を発表する。
2	前年研究成果発表②	小論文を発表する。
3	前年研究成果発表③	小論文を発表する。
4	テーマの設定①	小論文のテーマを検討する。発表。
5	テーマの設定②	小論文のテーマを検討する。発表。
6	テーマの再検討	発表を基にして再度テーマの妥当性について再検討して発表する。
7	卒論作成のための準備作業①	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
8	卒論作成のための準備作業②	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
9	卒論作成のための準備作業③	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
10	卒論作成のための準備作業④	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
11	卒論作成のための準備作業⑤	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
12	卒論作成のための準備作業⑥	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
13	卒論作成のための準備作業⑦	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
14	夏休みの課題を確認する	卒論作成に必要な夏休みの作業を確認する。
15	卒論作成のための準備作業⑧	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
16	卒論作成のための準備作業⑨	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
17	卒論作成のための準備作⑩	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
18	卒論作成のための準備作業⑪	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
19	卒論作成のための準備作業⑫	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
20	卒論作成のための準備作業⑬	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
21	卒論作成のための準備作業⑭	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
22	卒論作成のための準備作業⑮	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
23	卒論作成のための準備作業⑯	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
24	卒論作成のための準備作業⑰	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
25	卒論提出	卒論提出前の最終確認。
26	卒論面接	卒論に対する質問やコメントをする。
27	卒論発表①	ゼミ生（3 年生を含む）に卒論を発表する。
28	卒論発表②	ゼミ生（3 年生を含む）に卒論を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、卒論に必要とされる調査をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】
随時、資料などを配布する。
個別に指導する中で、参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（10 %）
討論を含む授業への積極的参加（20 %）
卒業論文（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

齋藤　嘉孝

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の完成を最終目標とする。そのために必要な学問的知識や技術、視点などを学ぶ。各自がそれぞれのテーマで取り組むことになるが、共通するテーマとして「家族」に関するものを選ぶこととする。

【到達目標】
卒業論文の執筆を目標とする。論文を書き上げるのであって、レポートやエッセイではないことに注意したい。学術的な論理やエビデンス、文章法などが必要となるが、それらの習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒業論文を作成するため、各段階ごとに指導する。先行研究の読み込み方や引用のしかた、データの収集や分析方法、および社会や政策への提言の書き方等について、具体的に取りあげる。履修者は各自で学習していき、その進展に応じて指導を行う。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の概要や意義等について
2	研究方法１	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法について学ぶ
3	研究方法２	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についてより深く学ぶ
4	研究方法３	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についての学びを洗練させる
5	テーマ設定１	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考え始める
6	テーマ設定２	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考える
7	テーマ設定３	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかをより深く吟味する
8	先行研究の探索１	テーマに関連する先行研究を調査し始め、それらの知見と残された課題を識別する
9	先行研究の探索２	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する
10	先行研究の探索３	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題の識別を深める
11	先行研究の探索４	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題を整理する
12	先行研究の探索５	テーマに関連する先行研究をさらにより広く調査し、それらの知見と残された課題の整理を洗練させる
13	研究・調査計画の策定１	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等を計画する
14	研究・調査計画の策定２	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等の計画を洗練させる
15	データ収集１	調査データの収集・入力・整理等の準備をおこなう
16	データ収集２	調査データの収集・入力・整理等を始める
17	データ収集３	調査データの収集・入力・整理等を実際におこなう
18	データ収集４	調査データの収集・入力・整理等の作業をまとめる
19	データ分析１	検証仮説を再検討し、データを分析し始める
20	データ分析２	検証仮説を再検討し、データを分析する
21	データ分析３	検証仮説を再検討し、データ分析を深める
22	データ分析４	検証仮説を再検討し、データを分析結果を解釈する
23	論文執筆１	論文における形式・書式・文章作成等を学び、実際に執筆する
24	論文執筆２	論文における形式・書式・文章作成等を学び、執筆内容を深める
25	報告およびディスカッション１	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を作成する
26	報告およびディスカッション２	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を洗練させる
27	論文完成１	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等をおこなう
28	論文完成２	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等を洗練させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
２年次からのゼミ活動やこれまでの各授業等において、熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】
The aim of this course is to complete an academic paper. Learn necessary academic knowledge, skills and perspectives along with each student's theme. The individual theme must be chosen among the topics concerning families.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

佐藤　恵

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
この授業では、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、卒業論文を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自の論文のテーマは自由です。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（3）卒業論文を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ゼミ論（卒論のベース）における発見のシェア、②卒業論文作成に向けた中間発表・全体ディスカッション、③卒業論文執筆です。
進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週の卒論ゼミの時間以外に、休日出校（休日出校は春学期・秋学期とも各２日程度［土休日］）を予定しています。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション
2	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定
3	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討
4	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の検討結果を発表
5	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討:質的調査（インタビュー法、観察法、ライフストーリー法）や文献研究
6	研究方法の決定、調査内容等の検討	調査対象、調査時期、調査内容について発表と指導
7	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表に向けた準備：研究における問いという観点から
8	研究の中間とりまとめ（2）	中間発表に向けた準備：仮説構成という観点から
9	研究の中間のとりまとめ（3）	中間発表に向けた準備：調査の方法という観点から
10	調査研究データの分析（1）	収集したデータの整理
11	調査研究データの分析（2）	収集したデータの分析
12	論文の構成・考察に関する検討	論理整合性、独自性の検討
13	論文の結論に関する検討	問いに対応したかたちでの結論の提示
14	春学期総括	春学期授業内容を総合的にまとめ、振り返る
15	秋学期オリエンテーション	論文執筆・完成に向けたオリエンテーション
16	中間発表会（1）	問題意識の明確化を中心に
17	中間発表会（2）	データの読解を中心に
18	中間発表会（3）	論文のストーリーラインを中心に
19	中間発表会（4）	結論を中心に
20	調査の実施状況の確認（1）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ収集の側面）
21	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ分析の側面）
22	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（1）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討
23	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（2）	研究方法・研究テーマに即した分析と解釈になっているか検討
24	論文のブラッシュアップ（1）	論文の構成に留意して
25	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意して
26	論文のブラッシュアップ（3）	データ読解の掘り下げ方に留意して
27	論文の最終チェック	論文の構成の確認：各章のつながり、ストーリーラインの観点から
28	年間総括	1 年間の授業内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究を進める上で必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表および論文執筆に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
論文内容（７０％）、平常点（３０％）。
論文内容については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、卒業論文の達成度の状況を基準とします。
平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】
Based on their respective seminar essays, the participants of the graduation thesis seminar sociologically analyze their own choice of themes and prepare graduation theses through several interim reports and discussions taking place during the course.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

田中　研之輔

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座は、①ライフキャリアに関する理論整理、②方法論の選定と検討、③質的調査の実施と分析、④執筆を通じて、個人研究論文を仕上げていくことを目的としています。

【到達目標】
①ライフキャリアに関する理論レビューができるようになります。
②質的調査に基づいたアカデミックライティングの基礎がみにつきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本ゼミの主要テーマは、「人生 100 年時代のライフキャリアを理論的、経験的に分析する」です。現代都市東京は、疑いもなく、文化・経済・政治の集積都市として世界的に注目されています。しかし、東京に身を置くわれわれですら、東京の全貌を捉えることは難しいことです。また逆に、東京で生活しているからこそ、東京がみえにくいのだともいえるかもしれません。本ゼミでは、ライフキャリア論の理論的視座、フィールドワークの認識論、インタビュー方法論を学びながら、それぞれの身体資本を最大限に活かしうる「現場」で参与観察（可能ならば、観察的参与）を実施していくための実践的サポートをしていきます。 一筋縄ではいかない「現場」の選択、コミットメント、のプロセスそのものをゼミの中で議論し共有していきましょう。その意味で、本ゼミは、ゼミ生の個人プロジェクトではなく、ゼミ生の集合的な協働プロジェクトとしてフィールドワークを位置づけています。また、大学から社会への移行とその後のライフキャリア戦略を実践的に学ぶ機会でもあります。フィードバックは、卒論への個別フィードバックを全員に対して、定期的に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマ設定「ライフキャリア、労働・情報・現代社会論・都市社会論」から個人テーマを選定、検討	個人研究論文の関心テーマの絞り込みを行う
2	卒論テーマの候補選択	個人研究テーマの候補を３つに絞る
3	卒論テーマの選定	３つの候補から一つに絞る
4	卒論テーマに関する関連文献の検討	主要先行研究の検討を行う
5	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築①	卒論テーマに関する理論的視座を構築する
6	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築②	卒論テーマに関する理論的視座を構築し、精査する
7	先行研究に関する検討会①	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い検討する
8	先行研究に関する検討会②	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い、精査する
9	研究対象の選定	研究対象を具体的に選定する
10	研究方法の整理	研究方法を整理する
11	インタビュー法の検討	インタビュー法の検討を行う
12	プレインタビューの実施	模擬インタビューを実施する
13	フィールドワーク法の検討	フィールドワーク法の検討を行う
14	フィールドワーク法のプレワーク	フィールドワーク法を模擬的に実施する
15	調査の設計	調査スケジュールを具体的に検討する
16	調査の開始	研究対象への調査を行う
17	調査の中間報告	調査状況の報告と確認を行う
18	理論整理・方法論の記述	理論整理と方法論に関する記述を行う
19	理論・方法論の記述内容の検討	理論・方法論の記述内容の検討を行う
20	調査データの収集と分析	調査データを収集し、分析する
21	調査データの体系化と考察	調査データの体系化を行い、考察を加える
22	調査データの分析と記述	調査データの分析と記述をするめる
23	調査データの考察と結論	調査データの考察と結論を導き出す
24	調査データの考察と結論の記述	調査データの考察と結論を記述する
25	卒論全体の記述を検討する	卒論全体の記述の精度を高める
26	卒論研究発表会①	研究報告 15 分　質疑応答 15 分の研究発表会を実施する （前半組）
27	卒論研究発表会②	研究報告 15 分　質疑応答 15 分の研究発表会を実施する（後半組）
28	卒業論文集の制作	完成させた卒業論文集をまとめ、デジタル論集を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英文課題&理論整理論文を毎週、読み続け、議論にそなえる。
計画的に質的調査を実施し、論文を執筆していきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎週、電子版英文資料を共有サイトにアップします。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25 %）、各段階での課題（25 %）、卒業論文（50 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
補足論文の検討と個人研究報告会をさらに充実化させる。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods and academic writing as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

趙　宏偉

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：集・他　｜　配当年次：4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の課題研究、教員による指示・指導

【到達目標】
字数 2 万字以上、合格の卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業中の指導、授業外の個別指導、授業支援システムやメール等を通しての指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明	質疑応答
第 2 回	卒業論文の課題発見①	指導
第 3 回	卒業論文の課題発見②	指導
第 4 回	卒業論文の課題発見③	指導
第 5 回	卒業論文テーマの確定①	指導
第 6 回	卒業論文テーマの確定②	指導
第 7 回	卒業論文テーマの確定③	指導
第 8 回	卒業論文テーマの課題研究①	指導
第 9 回	卒業論文テーマの課題研究②	指導
第 10 回	卒業論文テーマの課題研究③	指導
第 11 回	卒業論文テーマの課題研究④	指導
第 12 回	卒業論文テーマの課題研究⑤	指導
第 13 回	卒業論文テーマの課題研究の成果発表①	指導
第 14 回	卒業論文テーマの課題研究の成果発表②	指導
第 15 回	総括①	講評
第 16 回	卒業論文の原稿作成①	指導
第 17 回	卒業論文の原稿作成②	指導
第 18 回	卒業論文の原稿作成③	指導
第 19 回	卒業論文の原稿作成④	指導
第 20 回	卒業論文の原稿作成⑤	指導
第 21 回	卒業論文の原稿の中間発表①	講評
第 22 回	卒業論文の原稿の中間発表②	講評
第 23 回	卒業論文の完成稿作成①	指導
第 24 回	卒業論文の完成稿作成②	指導
第 25 回	卒業論文の完成稿作成③	指導
第 26 回	卒業論文の完成稿作成④	指導
第 27 回	卒業論文の完成稿作成⑤	指導
第 28 回	卒業論文の提出①	指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時指導、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指導

【参考書】
随時指導

【成績評価の方法と基準】
課題発見力に 20 点、思考と研究力に 30 点、卒業論文の内容の創造性に 40 点、文筆力に 10 点、合計 100 点満点で総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一人で悩まずに、常に教員と議論しましょう。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【就業力効果】
この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
Teach research on issues of graduation thesis.　Presentation by students and discussion.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

安田　節之

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次に執筆・提出したライフキャリア研究またはプログラム評価研究に関するゼミ論をもとに卒業論文を完成させることを目的とする。

【到達目標】
・ライフキャリアまたはプログラム評価に関する卒業研究を論文としてまとめあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミ論執筆の段階では，先行研究のレビューやデータ収集・分析などに個人差があると予想されるため，ゼミ全体での報告（中間発表）やディスカッションでの学びを各自の卒論にする。またゼミおよびサブゼミでの個人の卒論指導を通して，研究報告としての論文の質を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	卒業研究および卒業論文の意義や卒論執筆・提出の流れについて確認する。
2	問題と目的および先行研究の確認①	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。先行研究に関しては，適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
3	問題と目的および先行研究の確認②	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。先行研究に関しては，適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
4	問題と目的および先行研究の確認③	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。先行研究に関しては，適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
5	研究方法①	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
6	研究方法②	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
7	研究方法③	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
8	研究方法④	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
9	研究方⑤	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
10	研究方法⑥	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
11	研究結果⑦	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
12	研究結果⑧	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
13	研究結果⑨	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
14	研究結果⑩	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
15	研究結果⑪	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
16	研究結果⑫	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
17	追加データ収集の検討①	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば，追加データの収集計画を立てる。
18	追加データ収集の検討②	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば，追加データの収集計画を立てる。
19	追加データ収集の検討③	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば，追加データの収集計画を立てる。
20	中間報告①	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う。
21	中間報告②	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う。
22	考察（ディスカッション）①	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
23	考察（ディスカッション）②	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
24	考察（ディスカッション）③	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
25	論文完成①	問題・目的，先行研究レビュー，研究方法と結果の分析，考察の全体を確認し，卒論完成・提出にむけた作業を行う。
26	論文完成②	問題・目的，先行研究レビュー，研究方法と結果の分析，考察の全体を確認し，卒論完成・提出にむけた作業を行う。
27	成果報告①	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う
28	成果報告②	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆については各自のペースで進めてもらう形で結構ですが，個人の卒論指導やゼミ内でのディスカッション（中間報告）を通しての学びやアドバイスを十分に反映させた卒論にしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の完成度（60%），卒業研究への取り組み（20%），授業への積極的な貢献度（20%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループでのディスカッションの時間と個人の卒業論文の指導のバランスをとる。

【Outline and objectives】
This seminar focuses attention on completing an individual thesis that is based on issues related to life-designing problems and/or program evaluation.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

福井　令恵

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考え、独自のテーマを追究して、卒業論文を完成させる。自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の集大成とする。

【到達目標】
自分の興味・関心に基づき、テーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。また、調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、演習時に指導を行う予定である。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は適宜個別指導を行い、フィードバックをする。進捗状況をもとに各自が研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方について、説明する。
2	文献研究（1）	発表と討論を行う（前半）。
3	文献研究（2）	発表と討論を行う（後半）。
4	先行研究の検討（1）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（前半）。
5	先行研究の検討（2）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（後半）。
6	リサーチクエスチョンと研究計画（1）	リサーチクエスチョンと研究計画の策定（前半）。
7	リサーチクエスチョンと研究計画（2）	リサーチクエスチョンと研究計画の策定（後半）。
8	リサーチクエスチョンと研究計画（3）	研究テーマ、リサーチクエスチョンの発表をし、今後の計画を提出する。
9	データの収集と整理（1）	データの収集（前半）。
10	データの収集と整理（2）	データの収集（後半）。
11	仮説の検討	その時点で得られているデータや先行研究をもとに仮説の検討をする。
12	中間発表（1）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（前半）。
13	中間発表（2）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（後半）。
14	総括	まとめ、夏の研究計画について検討する。
15	進捗状況の報告と見直し	研究活動の報告。
16	データの蓄積・整理・分析（1）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（前半）。
17	データの蓄積・整理・分析（2）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（後半）。
18	論文の組み立て	明確な章立ての確認。
19	卒業論文の執筆（1）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（第１グループ指導・フィードバック）。
20	卒業論文の執筆（2）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（第２グループ指導・フィードバック）。
21	卒業論文の執筆（3）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（第３グループ指導・フィードバック）。
22	卒業論文の執筆（4）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（第 1 グループ改定版提出・フィードバック）。
23	卒業論文の執筆（5）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（第２グループ改定版提出・フィードバック）。
24	卒業論文の執筆（6）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（第３グループ改定版提出・フィードバック）。
25	卒業論文の見直し（1）	論文全体を書きあげ、見直しをする（見直し前半）。
26	卒業論文の見直し（2）	論文全体を書きあげ、見直しをする（見直し後半）。
27	卒業論文の完成	卒業論文の完成。
28	卒論発表	ゼミでの卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を読み、先行研究を検討し、調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢： 50 %
論文の形式・内容： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to write a high-quality thesis. Students learn the necessary process to complete their research paper such as how to collect data and gain the ability to persuade the reader logically with evidence and thought. In this course, students will report on the progress of their research and discuss with other students. Individual guidance will be carried out several times as necessary.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

熊谷　智博

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
卒業論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち春学期は問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。秋学期は調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個別指導を中心に展開する。担当教員と学生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。卒業論文の執筆過程で、中間発表会において報告が求められる。本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、テーマによっては変更がありうる。授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討①	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討②	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討③	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討②	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	先行研究の検討③	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討①	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討②	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討③	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導①	調査の実施について適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導②	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導③	調査の実施について適宜指導を行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 15 回	オリエンテーション	中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 16 回	調査の実施状況の確認①	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 17 回	調査の実施状況の確認②	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 18 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導①	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 19 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導②	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 20 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導③	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 21 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導④	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 22 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導⑤	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 23 回	論文執筆の助言、指導①	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 24 回	論文執筆の助言、指導②	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 25 回	論文執筆の助言、指導③	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 26 回	論文の最終チェック①	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第 27 回	論文の最終チェック②	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第 28 回	論文の最終チェック③	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、卒業論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
論文の内容を総合的に評価する（100%）。
卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、出席と報告が基本要件である。
卒業論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】
学生の問題意識に合致した指導体制の推進およびそのための中間発表会での学生、教員からのコメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
社会心理学、グループダイナミックス、紛争解決。
＜研究テーマ＞
集団間紛争の心理過程について研究しています。最近は集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。
＜主要研究業績＞
熊谷智博（2019）. 第 3 章　集団間の紛争はどのように悪化するのかー キャンプ実験を例に　日本心理学会監修　大渕憲一編　紛争と和解を考える：集団の心理と行動　誠信書房　pp.46-72.
Tomohiro Kumagai (2017). Social Psychological Factors of Peace-Building. Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society (pp.101-108). GRM program, Doshisha University.
熊谷智博 (2016). 第 15 章：集団間紛争とその解決および和解　大渕憲一監修　紛争・暴力・公正の心理学　北大路書房　pp.192-203.

熊谷智博（2014）. 第 9 章：集団の中の個人、第 10 章：集団間関係. 脇本竜太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著　基礎からまなぶ社会心理学　サイエンス社　pp.153-192.
熊谷智博（2013）. 集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討　社会心理学研究, 29, 2. 86-93.
熊谷智博･大渕憲一　監訳（2012）紛争と平和構築の社会心理学:集団間の葛藤とその解決　北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

【Outline and objectives】
In this course, I instruct how to use preceding studies, to make hypothesis, and to plan survey for a master thesis.

OTR400MA

キャリアデザイン学総合演習

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**3〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学の学習成果の振り返りと公開
①経営者、弁護士や会計士などの士業、医者、政治家を含む社会人を前に自己の学びをテーマとした上映やプレゼンテーションを行う。
②上記の目標を達成するために、キャリアデザイン学部での学びをテーマとした映像を制作する。

【到達目標】
①キャリアデザイン学部での多様な学びを振り、スライドやビデオにまとめる力を身につける。
②実社会で通用するプレゼンテーション力や映像制作力を身につける。
③メディア・リテラシーの「アクセス―分析―創造―振り返り―行動」の力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は次の方法で進める。
・ディスカッションを中心としたグループ学習
・ゲストを招いた特別講義
・士業コミュニティである「A コモンズ・ミーティング」に参加する
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・レポート等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、レポートに対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面で実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 1	授業の内容と方法の紹介
第 2 回	課外活動の解説	「A コモンズ・ミーティング」の紹介（外部講師）
第 3 回	グループワーク 1	映像制作の方向性の検討
第 4 回	グループワーク 2	映像制作企画の検討 (1)
第 5 回	グループワーク 3	映像制作企画の検討 (2)
第 6 回	発表準備 1	外部講師による講評およびアドバイス
第 7 回	発表準備 2	映像制作企画の修正
第 8 回	発表準備 3	映像制作（ロケハン）
第 9 回	社会人特別授業	特別講師による社会人講座
第 10 回	映像撮影 (1)	学内外での撮影
第 11 回	映像撮影 (2)	学内外での撮影
第 12 回	映像編集 (1)	映像の編集と修正
第 13 回	映像編集 (2)	映像の編集と完成
第 14 回	発表会	これまでの授業を振り返り、上映会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
士業コモンズ・A ミーティングについては以下の Web サイトを参考にすること。https://www.a-commons.com/
服装、名刺の制作、社会人としての基本的なマナーの習得についても指導します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありません。必要に応じて、議論に必要な資料を配布します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加、プレゼンテーションの内容、振り返りレポートを元に評価を行う。授業及び課外活動への参加は 30%、プレゼンテーションの内容 40%、振り返りレポート 30%の配分となる。

【学生の意見等からの気づき】
キャリアをテーマとしたドラマ制作を実施したが、質の高い作品ができた。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、iPhone 等、映像を制作するための機器。

【その他の重要事項】
ディスカッションやワークショップへの継続して参加すること。
映像制作の経験がなくても、役者や脚本、監督などさまざまな役を担うことによって履修することができる。キャリアデザインの学びの集大成として、積極的な履修をお勧めする。

【Outline and objectives】
To review your learning at collage and make a presentation material or movie
To participate a outside meeting and make a movie about your career and learning

LANe100MA
国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）

Robert　Durham

単位数：**1 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
During this SPRING Semester/Pandemic, we will be using 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom.
Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.
Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】
The goal of this Spring course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.
Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.] Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 2 回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 3 回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第 4 回	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.

第 5 回	”How are you?”/ ”How are you doing?”	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as ”How’s it going?”
第 6 回	Further practice, re: ”How goes it?”	More spoken English pairwork practice, re: ”How are you doing?”
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第 8 回	”How often do you _____?”	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第 9 回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 10 回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 11 回	Video/ News activity, with questions about that video clip. ”What are your hobbies?”	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. / Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第 12 回	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
第 13 回	Speaking examination about all of the topics we studied during the semester.	Speaking examination, re: all of the topics studied during the semester.
第 14 回	”What are your plans for the Summer Break?”	Pairwork, to ask & answer about students’ plans, re: Summer Break.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT ”ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don’t work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

–

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).
IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE ’LATE’ IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

–

【学生が準備すべき機器他】

Students will need ’ONLINE Learning’ equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]
Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE ’Romaji’ gmail account; & please test them WELL, long before we meet.
Please set up your FREE gmail address with a ’Romaji’ name such as ’KenTanaka@gmail.com’, so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, ’Romaji’ gmail address: it’s easy.]
Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at tonydur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of ’small talk’ & good ’EQ’ [’kokoro no chinoshisu’].
If you’re not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering ”I don’t know”.
* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE ’LATE’ IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

This SPRING course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.
Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE ’Romaji’ gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.
Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）

Robert　Durham

単位数：**1 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
During this Fall Semester/Pandemic, we will be using 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom. Please prepare your computer, FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.
Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】
The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.
Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes; and sometimes via e-mail. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
第 2 回	Introducing yourself, in spoken English. Pricing items in English; & answering questions about prices in English. PLUS: "Students will introduce themselves to each other in modern English, via Online video/audio 'chat'.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第 3 回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第 4 回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.
第 5 回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
第 6 回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/ Which...?/ How...?)	Students will learn how to verbally ask others, and to reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第 7 回	"What would you do, if _____ ?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第 8 回	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
第 9 回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第 10 回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第 11 回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第 12 回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
第 13 回	Exam, re: all topics that students learned and practiced during the Fall 2021 semester.	Speaking exam: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in the Fall 2021 semester.
第 14 回	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	Students will be asked to write down adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in [ONLINE] class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】
–

【成績評価の方法と基準】
Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).
IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】
–

【学生が準備すべき機器他】
Students will need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]
Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.
Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]
Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at tonydur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】
Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk'.
If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".
* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
This Fall course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.
Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.
Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA
国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）/Foreign Language Exercise （English Ⅲ）
※ GO 科目

Kregg Johnston

単位数：1 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・3 ｜ 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法をを基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】
This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	pp.9-17 DVD Episode 1 Prepare info. speech quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	pp18-27 DVD Episode 2 Prepare layout speech grid
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	pp28-38 DVD Episode 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	pp.40-50 DVD Episode 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	pp.51-56 DVD Episode 5 Prepare explanations for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5
Week 8	The Story Message Organization of a speech	pp57-61

Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	pp62-68 DVD Episode 6 Prepare storyboard for product speech
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	pp.69-86 DVD Episode 7 Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	pp.87-95, DVD Episode 8 Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2) : Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review material in book, Prepare for end of section quizzes , Prepare information and visuals to make speeches in class 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】
Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】
Quizes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%
*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】
More practice on eye contact and use of visual aids.

【学生が準備すべき機器他】
OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA
国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）/Foreign Language Exercise （English Ⅳ）
※ GO 科目

Kregg Johnston

単位数：**1 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・3** ｜ 配当年次：**1～4 年**
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・スキル（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方など）を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】
In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered , develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.
Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Unit 2a Culture shock Preview key words & lecture structure	Ice Breakers Introduce topic Preview vocabulary Lecture topic and organization Listen to lecture and outline main points
Week 2	Unit 2a culture shock Review lecture contents & check understanding	Finish lecture & outline Practice summarizing from outline Discuss lecture topic Review for Quiz
Week 3	Quiz and review Unit 2a Discussion on lecture theme	Unit 2a quiz Begin Unit 2b
Week 4	Unit 2b Third-Culture Kids Preview key words & lecture structure	Preview vocabulary Defining key terms Listen to lecture and outline main points
Week 5	Unit 2b Third-Culture Kids Review lecture contents & check understanding	Finish lecture & outline practice summarizing from outline Discuss lecture topic Get research assignment for presentation on culture shock/differences
Week 6	Quiz and review Unit 2b Discussion on lecture theme	Unit 2b quiz Speeches on Culture shock/differences Begin Unit 3a
Week 7	Unit 3a New diets Preview key words & lecture structure	Preview vocabulary Signal Phrases Listen to lecture and outline main points

Week 8	Unit 3a New diets Review lecture contents & check understanding	Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Discuss lecture topic Review for 3a quiz
Week 9	Quiz and review Unit 3a Discussion on lecture theme	Unit 3a quiz Begin 3b Food Addictions Preview vocabulary
Week 10	Unit 3b Food Addictions Preview key words & lecture structure	Expressing opinions Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Get research assignment for presentation on diet & health
Week 11	Unit 3b Food Addictions Review lecture contents & check understanding	Presentations on health and diet Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline
Week 12	Quiz and review Unit 3b Discussion on lecture theme Introduce Unit 4a	Unit 3b quiz Discuss lecture Begin 4a High/Low Context communication Preview vocabulary
Week 13	Unit 4a High/Low context Review key words & lecture structure	Quiz Unit 4a Summarizing discussions Listen to lecture and outline main points
Week 14	Unit 4a High/Low context Review lecture contents & check understanding Quiz 2a-4a	Quiz Unit 4b Discussion on communication styles

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【参考書】
Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【成績評価の方法と基準】
Quizes-55%
Homework-15%,
Participation 10%
Presentations 20%

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on expressing opinions and responding to other's opinions

【学生が準備すべき機器他】
【教室必要備品】OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA
国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）/Foreign Language Exercise （English Ⅴ）
※ GO 科目

Kregg Johnston

単位数：**1 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・3** ｜ 配当年次：**1～4 年**
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】
After taking this course, the students should have learned the following:
1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences , and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.
Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.
Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer reivew
第 5 回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第 7 回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第 8 回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第 10 回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs

第 11 回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第 12 回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework exercises contained in the course handouts
Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Handouts and reading material will be provided by the lecturer

【参考書】
http://my.vocabularysize.com/
http://quizlet.com
www.englishgrammar.org

【成績評価の方法と基準】
Participation in class: 10%
Two in-class quizzes on the homework: 20%
Three submitted writing assignments: 50%
Final in-class writing test: 20%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on prewriting activities and effectively supporting topic sentences & thesis statements, paraphrasing & citing outside sources.

【学生が準備すべき機器他】
Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

梅崎　修、上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。
学生の間に、働く現場の最新情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】
働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。2021 年度は対面を予定しておりますが、コロナウィルスの感染状況に応じてオンライン・リアルタイム（Zoom を利用）での開講となる可能性もあります。具体的なオンライン授業の方法などは第 1 回の授業で説明します。受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講をしてください。
ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。
授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合役員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。

5	【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える
6	【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く人が健康で安心して暮らすための課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。
7	【ケーススタディ④】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、働く人の雇用や生活はどうなるのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等について考える。
8	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む事例から考える。
9	【ケーススタディ⑥】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた取り組み事例から考える。
10	【課題への対応①】 国際労働運動の役割 ～グローバリゼーションへの対応	進行するグローバリゼーションに労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み、労働分野の開発協力活動などの事例を聴き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。
11	【課題への対応②】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みから考える。
12	【課題への対応③】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
13	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。
14	【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席（コメント内容含む）が 50 %、レポートが 50 %。
出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【Outline and objectives】
This course is provided by RENGO, the Japanese Trade Union Confederation.
Every time, the guest lecturer who is active in a labor union will lecture on labor circumstances and the industry trend. This class will be the very valuable opportunity when students can understand the latest information about the work place.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅰ

鈴木　美伸

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**土・1** ｜ 配当年次：**3～4 年**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。
この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。
企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部 (発揮）ともいえます。

【到達目標】
修得すべき７つのチカラ
１．社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
　⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
　⇒ 社会規範となる倫理観
２．他者を説得できるロジカルシンキング
　⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
　⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
　⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
３．他者を動かすコミュニケーション力
　⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
　⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
４．組織を動かすコミュニケーション力
　⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
　⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
５．組織を活性化するリーダーシップ
　⇒ モチベーション・マネジメント
　⇒ ４つの状況対応型リーダーシップ
６．社会で未知の道を拓くチカラ
　⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
　⇒ 自分自身の２０代のキャリアプランの作成
７．社会を生き抜くための実践知
　⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
　⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレーンストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	商社事例研究－１ 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	商社事例研究－２ 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディ－１ 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディ－２ 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒ ３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ ３０点
・グループワークでの貢献度　⇒ ３０点
・期末テスト　⇒ １０点
上記配点は原則として加点方式で行います。
授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。
この他に、1000～2000 字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
ＰＣは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】
法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】
The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木　美伸

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・1　｜　配当年次：3〜4 年

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。
未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。
同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。
アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】
どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の８つの力を修得します。
１．事実をベースに語る提言力　（事実と意見を峻別する）
２．３つの分析手法力　（時間・空間・実験分析）
３．知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
４．問題解決の視点力　（What? Why? How?）
５．構造分析の要素考察力
６．マクロとミクロの視点を統合力　（定量と定性調査力）
７．一次情報に触れる取材力　（但、百聞一見を盲信しない）
８．上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	８つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには （ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－１ 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ ２１世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20 代、30 代、40 代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究－２ パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート＆プレゼンテーション－１ 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究－３ 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画語学力と提案力 （ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワークショップ （一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート＆プレゼンテーション－２ 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会学的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ｉ」の履修が望ましいですが、
　事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
　但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒ ３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ ３０点
・グループワークでの貢献度　⇒ ３０点
・期末テスト　⇒ １０点
上記配点は原則として加点方式で行います。
授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。
この他に、1000〜2000 字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。
大学用意のＰＣを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】
法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

EDU100MA

教職入門

児玉　洋介

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
今日の学校教育の抱える様々な課題、教師に対する様々な期待などを視野に入れながら、中等教育（中学高校）に焦点を当てて、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務」を主たる要素に授業を構成する。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、毎回の授業での課題コメント（WEB 提出）を次回授業で活用しながら、授業内容への主体的な関わりを大切に授業をすすめたい。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と４年間の学びのイメージ	本講座の授業計画の概要、進め方。教員養成制度のしくみと、教師になるために学ぶべき内容の概略。
第 2 回	教師という職業の特徴	「教師像」と、教師に寄せられる期待を小説等を題材に考えながら、教師という職業世界に接近する。
第 3 回	教職の歴史	近代学校制度と教職観の変遷をたどりながら、今日の教員に求められる期待と役割を考える。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教職の専門性の捉え方、専門性を獲得していく手立て、そのための教員の育成と現職研修のしくみ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	今日の学校現場での教師の実生活と、ライフステージ。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教員の「勤務の特殊性」とは何か。教員の働き方をめぐる困難な課題とその改善に向けたとりくみ。
第 7 回	職務の全体像	専門職として「教育をつかさどる」仕事と、学校という組織を集団的に運営する校務の分掌。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業をつくる。授業から学ぶ。カリキュラムをデザインする。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	いじめ、非行、不登校など、生徒の発する困難な諸課題ともかかわりながら、生徒を育み、生徒と生きる教師。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	「学ぶ」こと、「働く」ことの意味を問いながら、生徒自身の内に進路を拓く力を育む。
第 11 回	職務内容④：学級経営	一年間の学級のあゆみを通して、生活や行事のなかでの学級の変化や成長を見る。

第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校の教育力、学校が創り出す文化の源となる教職員の共同。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	子どもの貧困、学力格差、不登校、非行など、広がる子どもの課題に対応するための連携・共同。
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	人権教育、インクルーシブ教育、主権者教育など、広がる教育課題と、転換期の学校にあって、学び続ける教師。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業にかかわる課題コメント（300 字程度）の作成（3 日以内に学習支援システムから提出）、２回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示　文部科学省）
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、毎回課題コメントを提出）に対する評価（５０％）と、授業のテーマに即した 2 回の課題レポートに対する評価（５０％）とを総合的に見る。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
学生自身が自らの学校生活を通じて抱いてきた問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業だが、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】
講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。各回授業ごとの課題コメント（300 字程度）を入力するために、スマホや PC などの端末が必要（提出は講義後 3 日以内）。また、課題レポート（2 回）は word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

天野　一哉

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**1〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。
リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
新型コロナウィイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	４年間の学びをイメージする
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第 4 回	職業としての教師としての成長	研修・免許更新、服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌

第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第 11 回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第 12 回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第 13 回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第 14 回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的 専門書 (教育史を含む) の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテー マに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】
天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）、高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月）、
生徒指導提要（平成 22 年 3 月）　※いずれも PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題： 40 %、定期試験： 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】
春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

高野　良一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。
なお、原則は対面授業ですが、コロナ感染症等の状況では変更、ZOOM との併用もあり得ます。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：免許・養成・採用の制と４年間の学び	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第 2 回	教職の捉え方（特徴）	受講生の教職像、教職アイデンティティ、教職の３要素
第 3 回	教職の歴史	戦前の教師、戦後①「二十四の瞳」、戦後②学園ドラマの中の教師
第 4 回	教師の成長と学び	「学び続ける教師」、「反省的実践家」、教師養成「改革」
第 5 回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第 6 回	教育指導の全体像	教育指導の４分野、教師の指導文化、教員評価
第 7 回	特別活動と部活の指導：職務内容①	「教育課程」としての特別活動、課題活動の部活、指導とハラスメント
第 8 回	職務内容②：教科指導（道徳を含む）	学習指導要領改訂、教科の変更点、「特別の教科」の道徳
第 9 回	職務内容③：生徒・生活指導	生徒指導の日本的特質、校則指導、いじめ指導
第 10 回	職務内容④：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業指導から進路指導へ、キャリア教育
第 11 回	職務内容⑤：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第 12 回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第 13 回	多様な関係者との連携	「チーム学校」、コミュニティ・スクール、親・住民の学校参加
第 14 回	まとめ：「学び続ける教師」	「学び続ける教師」、教職履修の計画化、修了試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
藤本典裕『新版（改訂二版）教職入門：教師への道』図書文化社
学習指導要領、生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題： 30 %程度、修了試験： 70 %程度を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内発言やコメントペーパーなどを通じて、学生の意見などを授業に反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

寺崎　里水

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：1〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。
①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解すること。
②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかが理解できること。
③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行います。
教職課程の入門科目として位置付けられており、指定された教科書をもとに講義を行うほか、個々人やグループでワークをしたり、課題レポートを提出したりしてもらいます。
課題提出やそのフィードバックは授業内と学習支援システムの両方を通じて行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：4 年間の学びのイメージ	職業を選択するということ、教職を選択するということ
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第 11 回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第 12 回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第 13 回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第 14 回	教職の方向性	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された課題をすることが予習になるように講義内容を考えています。必ず課題を終わらせ、提出したのちに、授業に参加してください。
教科書の内容すべてを授業内で扱えるわけではないので、授業で触れた章はもちろん、関連文献・資料として紹介されたものを各自で読んだり調べたりしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　※ PDF でダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。
具体的には、提出課題の内容： 50 %、試験： 50 %で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する場面があるので、インターネットに接続し、必要な資料をダウンロードしてプリントアウトしたり、重要だと感じた内容を自身でノートにまとめることが必要です。ネットに接続できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいので推奨しません）が必要です。

【その他の重要事項】
教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教育原理

筒井　美紀

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業形式】
・2020 年度は履修者が 50 人未満 (40 数名) だったので、2021 年度は原則対面実施対象の科目となりましたが、履修者数や教室容量、コロナ状況を総合的に考慮し、zoom によるオンライン授業に切り替える可能性もあります。
・第 1 回の授業では、教室に来て下さい。
【授業の進め方】
授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、「予習のための Questions」に対する自分の解・考察をノートに書いたうえで授業に臨むこと。なお、授業終了時に毎回の課題が出されるので、授業支援システムに解・考察を書き込んで提出のこと。課題へのフィードバックは次回授業冒頭で行なう。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキスト序章を下敷きとする
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（プラトン『国家論』とジョン・デューイ『哲学の改造』を下敷きに。テキスト第 1 章第 1・2 節、第 4 章第 1 節）
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（エミール・デュルケイム『フランス教育思想史』を下敷きに。テキスト第 1 章第 3 節）
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？（フィリップ・アリエス『子供の誕生』を下敷きに。テキスト第 4 章第 1 節）
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？（ルソーとコメニウスを取り上げる。テキスト第 2 章第 1〜3 節）
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？（助教法・ベル＝ランカスターシステムを取り上げる。テキスト第 3 章第 1〜3 節）
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第 3 章第 4 節）

第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？（エレン・ケイ『児童の世紀』とジョン・デューイ『子どもとカリキュラム』を下敷きに。テキスト第 3 章第 4 節）
第 9 回	発達と学習	「こども」から「おとな」へと人はどのように発達してゆくのか？（エリック・エリクソン『ライフサイクル、その終焉』を下敷きに。テキスト第 4 章第 2〜3 節）
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校給食か手作り弁当か？ ——公教育と家庭・養育の関係性とその歴史的変遷
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	知識伝達型授業か知識活用型授業か？ ——児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第 12 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	PISA 型学力と各国の教育コンテクスト
第 13 回	個性・能力・学力と教育思想	集団教育か個別教育か？ ——「否定」の困難を中心に
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	教育の基礎的諸概念を中心に総まとめ。筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する－－自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】
・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出の課題 24%（2×12 回）, 期末論述試験 76%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion on the current educational issues

EDU100MA

教育原理

天野　一哉

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**1〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】
教育の基本的諸概念、教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の “教育原理” を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning) の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。
学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテー ションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。
リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。 新型コロナウィイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題 等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション
第 2 回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 3 回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 4 回	「教員」「学校」とは何か	教育制度の成立 解説とグループ・ディスカッション
第 5 回	教育史①	世界の教育史の概観
第 6 回	教育史②	日本の教育史の概観
第 7 回	教育思想①	世界の思想の概観
第 8 回	教育思想②	日本の思想の概観 家庭/家族
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	ゲスト①	現役教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話

第 11 回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価
第 12 回	プレゼンテーション①	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 13 回	プレゼンテーション②	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 14 回	総まとめ	全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する』法政大学出版局

【参考書】
天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、※いずれも文部科学省 HP より最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100 字以上省察」：40 %、レポート（またはプレゼンテーション）：60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】
春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修を推奨する。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.
Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育原理

飯窪　真也

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。フィードバックは次回の授業時に行います。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第 9 回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。

第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
授業への参加姿勢 30%，リアクションペーパー 30%, 授業内論述試験 40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育原理

澤里　翼

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリットデメリットについて考えます
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校を「監獄」とする見方について考えます
第 9 回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察します
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます

第 14 回　総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり　小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低１回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（各回提出してもらうリアクションペーパー）10 %
小テスト　10 %
授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション）　40 %
期末レポート　40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
・授業に出席の際にはマスクの着用をお願いします。
・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.
Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹　丘

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・1**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣.
勝野正章・村上祐介（2020）『新訂　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会.
小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社.
青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会.
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房.
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会.

藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター.
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店.
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版.
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき，一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる.

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹　丘

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・1**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う.
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣.
勝野正章・村上祐介（2020）『新訂　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会.
小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社.
青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会.
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房.
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会.

藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター.
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店.
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版.
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき，一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる.

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

仲田　康一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を原則とする。リアクションペーパーを各回配り、フィードバックとする。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第 2 回	世界の教育改革	新自由主義・新保守主義の改革
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後の憲法・教育基本法体制と学校教育体系とその変質
第 4 回	教育行政のしくみ	教育行政の構造と原則・計画行政の功罪
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程法制、教育課程の編成と実施、教科書と補助教材、教科書検定について
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育を受ける権利の保障をめぐる論点の確認〜特に貧困・格差等
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校制度・運営・教職員配置・組織構造
第 8 回	学級経営	日本の学級制度の意義や特殊性をめぐって
第 9 回	学校と教員の評価	standardization と accountability による教育改革
第 10 回	教員の成長と同僚性	教師の働く場としての学校・教師の権利と地位・同僚性のあり方
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、学校の助成/統制の問題など
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校安全法制
第 13 回	「チームとしての学校」	学校における多/他職種の連携について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校支援ボランティア・学校協議会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料の再読、意見の言語化。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず、授業時に参考となるものを適宜示す。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学 (改訂新版)』学文社
小川正人・勝野正章『改定版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（４０％程度）、定期試験 (６０％程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの記入を求めたがが、それを読む限り時事に触れるトピックは関心が高く、メディアで語られていることを場合によっては相対化することが学生の関心を呼んでいたため、今年度もそうした問題を敏感に取り入れるよう心がける。

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

高野　良一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。
なお、授業は原則的に対面ですが、コロナ感染症等へ対応で変更、ZOOM との併用になることもあります。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の１～３条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教行法と学校
第 5 回	教育内容行政	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政と無償制	無償制、国庫負担金・補助金、「受益者負担」、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	教師・学校の危機管理・安全対策	危機管理・安全対策「元年」、学校保健安全法、３・１１の教訓
第 13 回	「チームとしての学校」	「チーム学校」政策、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、「働き方改革」
第 14 回	学校と地域の連携	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員が必要に応じて指定する。

【参考書】
本図愛実・末冨芳編著『新・教育の制度と経営【三訂版】』学事出版
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（30 %程度）、定期試験 (70 %程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに不慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながら、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU200MA

教育課程論

飯窪　真也

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは次回の授業時に行います。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

黄　郁倫

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史的変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という 3 つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方について理解する。

【到達目標】
21 世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂なのポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第 9 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 10 回	教育課程と指導計画 (1)	指導計画のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画 (2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 12 回	教育課程と指導計画 (3)	教科・領域の横断
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめ	日本のおける特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.

EDU200MA

教育課程論

飯窪　真也

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは次回の授業時に行います。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

飯窪　真也

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーに対するフィードバックは次回の授業時に行います。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

川津　貴司

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。
フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 10 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 13 回	カリキュラム評価	ＰＤＣＡサイクルとカリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解したか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（５０％）、発表の内容（３０％）、最終レポート（２０％）をもとに総合的に評価する。
定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生のニーズを考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育方法論

岩本　俊一

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらにまた教育法方論の基本的な問題である生活指導と学習指導の関係について、我が国のカリキュラム体系と関連づけて考察する。
上記講義内容に関する理解を助けるため、我が国の学校における教育課程の概要及び具体的な実践例等、諸資料を適宜配布する。そのさい、情報機器、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。
　課題等を課した場合には、課題締切後の授業冒等、適宜フィードバックの機会を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ねらいと概要
第 2 回	教育方法と教師の専門性	・教師の専門性について考える
第 3 回	教育方法の基礎的理論	・児童生徒の学びと学習理論について考える。
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	・新学習指導要領と資質・能力の育成について論じる
第 5 回	教育の内容と学習活動	・単元の学習活動の構想 ・教育の内容と学習活動
第 6 回	学習活動と学習環境	・学習活動と学習環境について論じる ・学習環境としての学校について考える。
第 7 回	教育目標の明確化	単元学習活動における目標及び設定について論じる
第 8 回	学力と評価の観点	・評価の考え方・進め方について論じる
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	・主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第 10 回	個に応じた指導の工夫	・個に応じた指導について考える
第 11 回	情報機器及び教材の活用	・情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第 12 回	発問や板書などの指導技術	発問や番所などの指導の基本的技術について論じる
第 13 回	教育評価	・評価の考え方・進め方について論じる
第 14 回	授業のまとめ、テスト	・ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に内容をまとめる等、復習を通じて理解を深めるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、参考文献などは適宜授業内において指示する予定である。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験 100 %で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力を育てる授業デザインや教育方法について検討するとともに、その知見をもとに単元指導計画を効果的にデザインする。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
2	教育方法と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法の基礎的理論	学びと学習理論
4	主体的・対話的で深い学び	思考力を育む
5	個に応じた指導の工夫	一斉指導から個に応じた指導へ
6	新学習指導要領と教育方法	資質・能力の育成に向けて
7	教育の内容と学習活動	単元と指導計画、学習活動の構想
8	学習活動と学習環境	学習活動の構想
9	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
10	学力と評価の観点	評価規準の設定
11	情報機器及び教材の活用	学びのツール
12	教育評価	評価の考え方・進め方
13	発問や板書などの指導技術	授業を実践する
14	まとめ	授業の振り返り、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の組み立て方を工夫をする。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

黄　郁倫

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims at cultivating students‘ theoretical knowledge necessary for engaging in the practice of education through introducing the method of education from three viewpoints: "learning", "teacher", and "class." It is hoped that through this class students will learn basic concepts, ways of thinking, as well as methods and techniques to design a class.

EDU200MA

教育方法論

黄　郁倫

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。また、振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims at cultivating students‘ theoretical knowledge necessary for engaging in the practice of education through introducing the method of education from three viewpoints: "learning", "teacher", and "class." It is hoped that through this class students will learn basic concepts, ways of thinking, as well as methods and techniques to design a class.

EDU200MA

教育方法論

川津　貴司

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・6　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。
フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	教育方法と教師の専門性	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びと学習理論
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	教育の内容と学習活動	活動的な学びの組織化
第 6 回	学習活動と学習環境	環境づくりの視点
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	学力と評価の観点	評価規準の設定
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	対話の重要性
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個性を生かす方法
第 11 回	情報機器及び教材の活用	情報機器の効果的な使用法
第 12 回	発問や板書などの指導技術	授業事例から学ぶ
第 13 回	教育評価	評価の際の留意点
第 14 回	授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回テキスト（課題）を読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、単元指導計画を効果的に作成することができるか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（５０%）、発表の内容（３０%）、最終レポート（２０%）をもとに総合的に評価する。
定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生のニーズも考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

FRI200MA

図書館演習

坂本　旬

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】
(1) ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
(2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
(3) ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。新型コロナ感染症流行が続く場合、Zoom を用いたオンライン授業とする。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面で実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方を解説する
3	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
4	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
5	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見通しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・教師の能力	実践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
12	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
13	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
14	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ

22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
23	コア・モジュール 7 情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程専用授業支援システム (HULiC) を用いた事前学習および宿題をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』(日本語版・英語版)
右のサイトからダウンロードできる。http://amilec.org/

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業でも十分なディスカッションを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業用コンピュータを使用する。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】
実習として映像制作（デジタル・ブックトーク）を行う。

【授業中に求められる学習活動について】
A,B,C,D,E,F,G,H

【Outline and objectives】
Exploration of the new image of libraries in modern society and an understanding of media information literacy.
(1) To understand the basic concept of media information literacy of UNESCO.
(2) To be able to practice based on the media and information literacy curriculum.
(3) To be able to conceptualize the image of public libraries and school libraries based on UNESCO's media and information literacy principles and movements.

FRI200MA

図書館演習

村上　郷子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**土・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行うことによる、と公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】
春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京 23 区中央立図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。
秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。
春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。
アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (1)
3	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (2)
4	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (1)
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (2)
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (1)
7	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (2)
8	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (1)
9	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (2)
10	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
11	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
12	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③
13	学生による研究発表①	2 つのテーマについて、発表する。
14	学生による研究発表②	2 つのテーマについて、発表する。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意

22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル (予備)	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。
秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。
授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HuliC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE も積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期 15 %＋秋学期 20 %＝合計 35 %）
（2）個人の課題・アンケート＋個人の覆面調査など（25 %）
（3）課題研究に関する報告書＋学期末レポート（40 %）
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 10 回以下）のものは、「（1）グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline and objectives】
In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

FRI200MA

図書館演習

丹　一信

単位数：4 単位 ｜ 開講セメスター：年間
曜日・時限：火・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては,【その他の重要事項】を必ず確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）
なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。
図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。
1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】
春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定３級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。
秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することが第一目標です。また図書館の実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行います。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何か、理解に至ることが到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。演習中心の進め方となります。
秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。
演習形態が中心となりますが、社会情勢が許せば、図書館見学も行う予定です。
毎回リアクションペーパーを配布し、皆さんからの自由な質問等に解答します。
履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。
また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関①	データと情報 ・一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類 ・データベース、ポータルサイト
第 5 回	情報資源と情報サービス機関②	・情報資源の組織化 ・情報サービス機関と情報サービス
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類①	ネットワーク情報資源の検索 ・ネットワーク情報資源の種類 ・検索エンジン、深層ウェブ
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類②	ネットワーク情報資源の検索演習 ・図書、雑誌について
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類③	ネットワーク情報資源の検索演習 ・雑誌記事、新聞記事
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類④	ネットワーク情報資源の検索演習 ・Web アーカイブ、デジタルアーカイブ
第 10 回	知的財産権①	知的財産権の概要について
第 11 回	知的財産権②	著作権について
第 12 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて①	・ネットワーク社会の諸問題 ・コンピュータの基礎知識
第 13 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて②	・インターネットの基礎知識 ・セキュリティに関する知識

第 14 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ デジタルアーキビスト などの情報専門職について学びます。
第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	専門図書館①	専門図書館の概要
第 17 回	専門図書館②	専門図書館の具体例から学習します。
第 18 回	事例研究①	専門図書館の一つである企業内図書館について学びます。
第 19 回	事例研究②	COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスが図書館に与えた影響について、グループごとに討議し考察します。
第 20 回	パスファインダーの制作①	パスファインダーの概要
第 21 回	パスファインダーの制作②	テーマの設定について
第 22 回	パスファインダーの製作③	図書、雑誌の記述
第 23 回	パスファインダーの製作④	新聞および新聞記事について
第 24 回	パスファインダーの製作⑤	雑誌記事について
第 25 回	パスファインダーの製作⑥	Web 上の情報資源、その他の情報資源について
第 26 回	検索技術者検定 3 級①	検索技術者検定 3 級試験解説
第 27 回	検索技術者検定 3 級②	検索技術者検定 3 級過去問解説 2017～2019
第 28 回	総まとめ	制作課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。
また**第 22 回図書館総合展、2021 年 11 月 9 日～11 日の３日間 開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。**
（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化によりオンライン開催に変更もあります）
また当科目は検索技術者検定 3 級受験及び合格を目標としています。＜＝こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく第 2 版 : 検索技術者検定 3 級公式テキスト. , 樹村房, 2020, ix, 147p.
ISBN　9784883673407

【参考書】
(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑. , 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
提出物（６０％）および平常点（４０％）　単に出席しているだけではなく、授業への積極的な参加が望ましいです。

【学生の意見等からの気づき】
少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
PC
Hulic
https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】
「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。
初回授業には必ず出席してください。必須です。
新型コロナウイルスの影響により、変更が生じた場合は、別途お知らせします。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】
The outline of the lesson is as follows.
1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

FRI200MA

図書館演習

丹　一信

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2～4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては,【その他の重要事項】を必ず確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）
なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。
図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。
1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】
春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定３級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。
秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することが第一目標です。また図書館の実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行います。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何か、理解に至ることが到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。演習中心の進め方となります。
秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。
演習形態が中心となりますが、社会情勢が許せば、図書館見学も行う予定です。
毎回リアクションペーパーを配布し、皆さんからの自由な質問等に解答します。
履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。
また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関①	データと情報 ・一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類 ・データベース、ポータルサイト
第 5 回	情報資源と情報サービス機関②	・情報資源の組織化 ・情報サービス機関と情報サービス
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類①	ネットワーク情報資源の検索 ・ネットワーク情報資源の種類 ・検索エンジン、深層ウェブ
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類②	ネットワーク情報資源の検索演習 ・図書、雑誌について
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類③	ネットワーク情報資源の検索演習 ・雑誌記事、新聞記事
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類④	ネットワーク情報資源の検索演習 ・Web アーカイブ、デジタルアーカイブ
第 10 回	知的財産権①	知的財産権の概要について
第 11 回	知的財産権②	著作権について
第 12 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて①	・ネットワーク社会の諸問題 ・コンピュータの基礎知識
第 13 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて②	・インターネットの基礎知識 ・セキュリティに関する知識

第 14 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロデジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	専門図書館①	専門図書館の概要
第 17 回	専門図書館②	専門図書館の具体例から学習します。
第 18 回	事例研究①	専門図書館の一つである企業内図書館について学びます。
第 19 回	事例研究②	COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスが図書館に与えた影響について、グループごとに討議し考察します。
第 20 回	パスファインダーの制作①	パスファインダーの概要
第 21 回	パスファインダーの制作②	テーマの設定について
第 22 回	パスファインダーの製作③	図書、雑誌の記述
第 23 回	パスファインダーの製作④	新聞および新聞記事について
第 24 回	パスファインダーの製作⑤	雑誌記事について
第 25 回	パスファインダーの製作⑥	Web 上の情報資源、その他の情報資源について
第 26 回	検索技術者検定 3 級①	検索技術者検定 3 級試験解説
第 27 回	検索技術者検定 3 級②	検索技術者検定 3 級過去問解説 2017～2019
第 28 回	総まとめ	制作課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。
また**第 22 回図書館総合展、2021 年 11 月 9 日～11 日の３日間 開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。**
（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化によりオンライン開催に変更もあります）
また当科目は検索技術者検定 3 級受験及び合格を目標としています。＜＝こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく第 2 版 : 検索技術者検定 3 級公式テキスト. , 樹村房, 2020, ix, 147p.
ISBN　9784883673407

【参考書】
(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑. , 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
提出物（６０％）および平常点（４０％）　単に出席しているだけではなく、授業への積極的な参加が望ましいです。

【学生の意見等からの気づき】
少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
PC
Hulic
https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】
「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。
初回授業には必ず出席してください。必須です。
新型コロナウイルスの影響により、変更が生じた場合は、別途お知らせします。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】
The outline of the lesson is as follows.
1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

FRI200MA

図書館サービス概論

丹　一信

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2～4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館サービスの意義や理念を理解し、図書館における実践事例などについて基本的な知識を習得します。図書館サービスは公共図書館だけのものではなく、全ての館種においてなされるものです。現在の図書館サービスの抱える課題について理解し、グループディスカッションを通じて、問題解決への方策を検討します。

【到達目標】
図書館サービスの種類や内容などについて、理解を深めます。
単に講義だけではなく、図書館サービスおける先駆的な事例をもとに、「自分が担当であったならば、どうする？」というディスカッションを通じて、深い理解への到達を目指します。
将来、図書館のサービス担当者となった時に、司書として主体的な判断ができることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆時点では、教室での対面授業を仮定しています。講義形式の進行予定です。更にグループごとのディスカッションやリアクションペーパーのコメントを取り上げながら授業を進めます。
リアクションペーパーについては、毎回、配布します。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 図書館サービスとは	ガイダンス（授業の概要、進め方） 図書館サービスの概要や位置づけ、理念について学びます。
第 2 回	図書館サービスの種類	「司書および司書補の職務内容」にみる図書館サービス、図書館サービスの時代による変遷などを学びます。
第 3 回	図書館サービスとネットワーク	・図書館システム ・全域サービスと図書館システム ・図書館間相互賃借と図書館ネットワーク ・広域利用制度 について学びます。
第 4 回	閲覧サービス	・閲覧とはなにか ・ 閲覧の利用形態とスペース活用 ・閲覧におけるさまざまな問題 を考えます。
第 5 回	資料提供に関するサービス	資料提供サービスの概要と種類、貸出サービス（利用者登録、貸出、返却、督促、予約、リクエストなど）
第 6 回	貸出しサービス	貸出サービスの概要と種類、現状と課題について
第 7 回	情報提供サービス	レファレンスサービスや読書相談サービスとカレントアウェアネスサービスなどについて、事例研究を交えながら学びます。またアウトリーチサービスについても学びます。
第 8 回	地域支援サービス	地域支援サービスの概要、歴史、子育て支援やコミュニティへの支援など
第 9 回	図書館サービスと著作権	図書館と著作権との関り、権利制限規定などについて、実例をもとに考えます。
第 10 回	障害者サービス	障害者サービスとはなにか、障害者サービスを積極的に実施している図書館の事例を参考に、学びます。
第 11 回	高齢者サービス	高齢者への図書館サービスの概要と実践例について

第 12 回	集会・文化活動	集会文化活動その歴史と意義について学びます。 講演会・フォーラム・講座・ワークショップ 児童文学講座・読書ボランティア講座・フォーラム、読書会・講演会・展示会・コンサート・映画会・その他の活動について
第 13 回	児童サービス	特色ある児童サービスについて
第 14 回	事例研究	海外の図書館の事例を通して、図書館サービスについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習として、テキストの関連するページをよく読む。
身近な大学図書館や公共図書館を直接利用したり、各図書館のホームページのコンテンツを見て、図書館サービスのよい点や課題について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『図書館サービス概論』　小黒浩司著　ミネルヴァ書房　2018　本体 2,800 円＋税
ISBN ： 9784623083961

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）　期末課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】
実際の図書館における事例紹介は授業の理解を促しました。今年度も実例をあげながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン
司書課程授業支援システム「Hulic」を用いて、資料の配布、レポート提出を行います。

【その他の重要事項】
対面授業の実施が困難となった場合には、授業内容に変更が生じます。各自、学習支援システム等からのお知らせに注意してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, you understand the significance and way of thinking of library services and master basic knowledge. We will also learn about practical examples at the library. Library services are conducted not only in public libraries but in all libraries. Understand the challenges of the current library service and consider ways to solve problems by group discussion.

FRI200MA

情報サービス演習【通年】

田中　順子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**金・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。
学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術　① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術　②論理演算
4	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術　③トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方（2）	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習（4）	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習（6）	統計の検索
14	情報検索基礎演習（7）/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なことを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

FRI200MA

情報サービス演習【通年】

田中　順子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**土・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。
学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術　① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術　②論理演算
4	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術　③トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方（2）	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習（4）	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習（6）	統計の検索
14	情報検索基礎演習（7）/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なことを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

FRI200MA

情報サービス演習

菅原　真悟

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**月・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。
1．情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2．発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】
利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようになる。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。
・発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。
・図書館の情報サービスについて調査し発表する課題を課す。
・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板上でも個々にフィードバックする。
・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。
・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC の使い方。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索（基礎）。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索（応用）。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。

第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第 28 回	発表会 (2) 新しい発信型情報サービス	新しい発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システム（https://hoppii.hosei.ac.jp/）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(http://lc.i.hosei.ac.jp/) も使います。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内演習への参加　30%
小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%
グループまたは個人発表　30%
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
情報サービスについての理解を深めるために、演習やグループ学習の時間を増やします。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
Purpose and Goal
1. Learn how to search information sources (databases).
2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

FRI200MA

図書館情報資源概論

小黒　浩司

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】
図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。
最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
なお、新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源とは何か	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第 2 回	図書館情報資源の類型	『日本目録規則　1987 年版改訂 3 版』の類型に従って、図書館情報資源の概略を説明する。
第 3 回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第 4 回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第 5 回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第 6 回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第 7 回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第 8 回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第 9 回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第 10 回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第 11 回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第 12 回	出版流通 1	日本の出版流通の現状を、メディア別に概説する。

第 13 回　出版流通 2	日本の出版流通の現状を、流通過程から概説する。
第 14 回　まとめ	試験・まとめ。新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL などを掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。
ただし新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性があるので、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】
Learn the characteristics of various library information resources.

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**土・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート　1
7	メディアの発展史②（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命 (2) 印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート　2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論 (選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など

13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA　図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座　8）
志保田務［ほか］編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30 %)、（2）2回の小レポート（30 %)、（3）学期末試験（40 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】
Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes.　In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
　マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
　毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。
　アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞)、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート　1
7	メディアの発展史②（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命 (2) 印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート　2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論 (選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など

13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA　図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座　8）
志保田務［ほか］編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30 %)、（2）2回の小レポート（30 %)、（3）学期末試験（40 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】
Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

FRI200MA

図書館情報資源特論

小黒　浩司

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】
図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。
最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。
なお、新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の電子化	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	マイクロ資料	図書館におけるマイクロ資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウィルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL などをなどを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。ただし新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】
　新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性があるので、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】
Learn about information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査を行い、評価をする。インターネット調査には、職員へのメール等によるインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。
　プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、 調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、 調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30 %）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（3）個人のレポート（40 %）
全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】
Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査を行い、評価をする。インターネット調査には、職員へのメール等によるインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。
　プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。
　アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、 調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、 調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30 %）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（3）個人のレポート（40 %）
全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】
Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

FRI200MA

読書と豊かな人間性

有吉　末充

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における読書教育についての今日的課題と教育行政の動きを知る。読書教育について、そのねらい、発達段階に応じた方法について学び、学校図書館ができることを考える。学びの基礎であり、読書の世界の入り口である本そのものを知る。

【到達目標】
読書の効果と指導の重要性を学び、学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。学校図書館が行うべき活動とその方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
子どもの読書の効果、発達段階をどう考えるか、読書指導のねらいと方法の既存のものを比較検討し、そのあり方を考える。同時に学校図書館における多様な読書材、さまざまな本を知る。毎時間、本紹介の発表の時間を設ける。さらに本の魅力を伝えるための工夫、心構え、方法を学ぶ。読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを学ぶ。1 回はゲスト講師による実演を味わう。授業内課題に対しては受講生同士の討論や講師からのコメントによって授業内容の理解を深めていく。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書と豊かな人間性とは	読書教育をどうとらえるか
第 2 回	読書とは何か	メディアの発達と物語需要の変化 推薦本のプレゼン「この本オススメ！」（2 回以降毎回行う）
第 3 回	読書の効果	なぜ読書は必要か、読書が及ぼす効果
第 4 回	子どもの読書をめぐる状況（1）	文部科学省の施策、子どもの読書に関する法律など
第 5 回	子どもの読書をめぐる状況（2）	OECD 学習到達度調査
第 6 回	読書と発達段階	読書の発達段階と指導
第 7 回	読書教育を考える（1）	朝の読書　読書感想文コンクール
第 8 回	読書教育を考える（2）	日米比較　フィンランド・メソッド
第 9 回	本の面白さを伝えるために（1）	読み聞かせ　ブックトーク
第 10 回	読書指導の実際	ゲスト講師による読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク
第 11 回	本の面白さを伝えるために（2）	展示、パスファインダー
第 12 回	図書館見学	図書館でのサービス方法の調査
第 13 回	本の面白さを伝えるために（3）	読書ののアニマシオンと表現教育
第 14 回	発展的指導の方法	読書指導プランの中間発表　まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この本オススメ！」の発表や課題のために児童や YA 向けの本（絵本や児童文学を含める）に対する調査が必要になる。学校図書館、公共図書館の児童コーナーや YA コーナー、書店に行く機会を作る。準備・復習時間は、各 2 時間を標準をする。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『鍛えよう！ 読むチカラ　学校図書館で育てる 25 の方法』　桑田てるみ監修　「読むチカラ」プロジェクト　明治書院　2012
『読み聞かせ　この素晴らしい世界』　ジム・トレリース　亀井よし子訳　高文研 1987
『読書と豊かな人間性　新版』　朝比奈代作　米谷茂則　放送大学教育振興会　2015

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度、本紹介の発表「この本オススメ！」、レポート課題など。
平常点（授業時の発言など授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %
課題（「この本オススメ！」の発表、見学レポート）：30 %

読書指導の最終課題： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
実践的な内容を取り上げるよう心がける

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や連絡に授業支援システム HULiC を使用する。必ず登録を行うこと。

【その他の重要事項】
本科目は司書教諭資格取得のための科目であるが、司書教諭資格を必要としない読書や読み聞かせに関心のある学生も受講できる。

【Outline and objectives】
読書の効果と指導の重要性を学び、学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。学校図書館が行うべき活動とその方法を学ぶ。

FRI200MA

情報メディアの活用

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】
(1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
(2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
(3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
(4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。新型コロナ感染症流行が続く場合は、Zoom を用いたオンライン授業とする。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
この授業は、基本はオンラインとし、受講者数や各授業回の内容に応じて、対面で実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディア・リテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程用授業支援システム (HULiC) を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』(法政大学出版局)2014 年

【参考書】
ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』
右のサイトからダウンロードできます。http://amilec.org/
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』(2021 年)

【成績評価の方法と基準】
小テスト 50%、提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業になっても積極的にワークショップを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコンなどの映像制作可能な情報機器。新型コロナ感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】
授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline and objectives】
To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians
To produce digital storytelling video about books and reading life

FRI200MA

情報メディアの活用

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・1　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における情報メディア全般の特性を理解し、基本的なメディア情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
司書教諭に必要なメディア情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。
　アンケート調査やプレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法－ 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるブレインストーミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作（その１）、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作（その２）、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作（その３）広報誌の校正
12	学校図書館からの情報発信④	プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作を行う。課題をしっかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】
・山本 順一・気谷 陽子著『情報メディアの活用』、放送大学教育振興会、三訂版、2016

・五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語―図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】
課題（40 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30 %）、個人のプロジェクト作品（30 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身についているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】
授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline and objectives】
Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.

CUM100MA

ミュージアム資料論

田中　裕二

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・1　｜　配当年次：1〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」「公開」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】
博物館を、「資料」という観点から理解することを目ざす。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通した教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。提出されたレポートはコメントを付して返却すると共に、授業内で取り上げ課題とコメントを共有する。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です。レポート課題作成のため若干の入館料が発生する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】
授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）： 50 %
期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は完全オンラインだったため、コミュニケーションが取りにくかったが、今年度はオンデマンドと対面のハイブリッドを予定しており、活発な意見交換を期待したい。

【Outline and objectives】
Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

CUM100MA

ミュージアム教育論

渡邊　祐子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**水・1** ｜ 配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】
実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動に必要とされる基礎的能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義と演習によって構成されます。また、授業内での発表や調べ学習の他、場合によってはリアクションペーパーの提出があります。提出された課題等に対しては、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第 2 回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育”（museum education）とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第 3 回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第 4 回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び（object-based learning）について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第 5 回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第 6 回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践実例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第 7 回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第 8 回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第 9 回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第 10 回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第 11 回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第 12 回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。（前半）
第 13 回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。（後半）
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。

授業外の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
J.H. フォーク・L.D. ディアーキング『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %と、期末試験 50 %（グループ発表及び試験）を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度のため、特にありません。

【Outline and objectives】
In this class, you will learn the philosophy and learning theory of museum education. And also you will deepen your understanding of the educational role and significance of museums through concrete examples of museums at home and abroad.

CUM100MA

ミュージアム教育論

山下　治子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土・3** ｜ 配当年次：**1〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】
①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。
　リアクションペーパーなどによる感想や質問などについては、授業のなかで紹介したり、答えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。 美術館での学び、ワークショップ
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。 自然史系博物館での学び①
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。 特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。 自然史系博物館での学び②
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考として、『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】
雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。
『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【成績評価の方法と基準】
（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート (30%) ＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

EDU200MA

社会教育演習

久井　英輔

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
社会教育実践分析に必要な基本的視点、知識を学ぶための文献講読を行う。また、その視点、知識を活用して、実際の社会教育実践の現場（社会教育施設など）での実地調査を実施し、調査結果をもとに受講者各自でレポートを作成・発表する。
（授業の目的・意義）
文献講読、実地調査、レポート作成を通じて、社会教育士、社会教育主事に求められる実践的な研究能力（地域社会で行われている社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言をおこなう）を獲得する。

【到達目標】
社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関する基本的な視点と知識を得る。また、これらの視点・知識を生かして、実際の社会教育事業に対して客観的把握と実践的提言を行える力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半は、社会教育実践の分析に必要な基本的な視点、知識について、文献講読（発表・討論）を通じて学ぶ。後半は、社会教育施設等での実地調査や、既存の社会教育実践分析の事例の検討を踏まえて受講者各自で実践分析のレポートを作成し、それを基に討論を行う。学生の文献講読発表、実践分析レポート発表などに対しては、発表後の授業内での討論や授業後のアドバイス（対面、メールなど）等の形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育実践分析の概観①	演習の実施方法につい 問題関心を共有する
第 2 回	社会教育実践分析の概観②	学習活動としてみたときの社会教育の位置づけについて、概観する。
第 3 回	社会教育実践分析の概観③	社会教育実践の歴史的展開について、概観する。
第 4 回	社会教育実践の場を知る①	社会教育施設の体系と各種施設の役割について、文献講読を通じて理解する。
第 5 回	社会教育実践の場を知る②	公民館およびそれに類似する施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 6 回	社会教育実践の場を知る③	青少年教育施設、女性教育施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 7 回	社会教育の制度を捉える①	多様な社会教育のとりくみとその中における社会教育行政の位置づけについて、文献講読を通じて理解する。
第 8 回	社会教育の制度を捉える②	社会教育行政の仕組みとその課題について、文献講読を通じて理解する。

第 9 回	社会教育の制度を捉える③	社会教育における行政・施設職員や支援者の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 10 回	社会教育における連携を探る①	社会教育行政と多様な主体の間で行われる連携の概要について、文献講読を通じて理解する。
第 11 回	社会教育における連携を探る②	社会教育行政と学校教育の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 12 回	社会教育における連携を探る③	社会教育行政と住民自治活動、地域振興活動の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 13 回	実地調査の構想発表①	社会教育施設の実地調査に際して、各受講者が具体的な問題関心を発表する。
第 14 回	実地調査の構想発表②	社会教育施設の実地調査における具体的な調査項目について、各受講者が自身の問題関心に基づいて発表する。
第 15 回	社会教育施設・実践の実地調査①	社会教育施設を訪問し、事業の見学、施設経営に関する職員からの説明を受ける。
第 16 回	社会教育施設・実践の実地調査②	社会教育施設を訪問し、事業、施設経営に関して、職員に対するインタビュー調査を行う。
第 17 回	実践分析の方法論①	公民館のとりくみに関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 18 回	実践分析の方法論②	青少年教育施設または女性教育施設のとりくみに関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 19 回	実践分析の方法論③	社会教育施設経営に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 20 回	実践分析の方法論④	社会教育職員、支援者の専門性に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 21 回	実践分析の方法論⑤	社会教育行政事業と学校教育との連携に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 22 回	実践分析の方法論⑥	社会教育行政事業と住民自治活動・地域振興活動との連携に関する既存の実践分析を講読し、批判的に検討する。
第 23 回	調査レポート作成の進捗状況発表①	社会教育施設経営のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 24 回	調査レポート作成の進捗状況発表②	社会教育行政、職員の専門性のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 25 回	調査レポート作成の進捗状況発表③	社会教育行政と多様な主体との連携のあり方をテーマとする受講生がレポート作成の進捗状況を報告し、内容を検討する。
第 26 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論①	社会教育施設経営のあり方をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。
第 27 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論②	社会教育行政、職員の専門性のあり方をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。
第 28 回	社会教育実践の調査レポート発表・討論③	社会教育行政と多様な主体との連携をテーマとする受講生が最終的なレポート報告を行い、内容についてディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業の前に課題の講読文献を予め読んでおくこと。
・各回の文献発表担当者は、丁寧な要約と、ディスカッションの論点となるコメントを用意すること
・調査レポートの作成は基本的に授業時間外となるので、計画的な執筆を心がけること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
鈴木眞理、伊藤真木子、本庄陽子編『社会教育の連携論：社会教育の固有性と連携を考える』学文社、2015 年
鈴木眞理、井上伸良、大木真徳編『社会教育の施設論：社会教育の空間的展開を考える』学文社、2015 年
鈴木眞理、稲葉隆、藤原文雄編『社会教育の公共性論：社会教育の制度設計と評価を考える』学文社、2016 年

【成績評価の方法と基準】
社会教育実践に関する個人レポート　40 %
文献講読発表　30 %
討論への貢献度　30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「社会教育演習」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための科目である。

【Outline and objectives】
In this course student are needed to read texts, make presentation, and discuss the topics for learning basic knowledge and viewpoints indispensable to analyses on social education activities. Students are also needed to conducting surveys on social education activities, mainly in social education facilities, and to write reports utilizing data of the survey.
This course aims to help students acquire proper abilities of practical research for social education advisers and supervisors (ability to grasp the characteristic of each social education activity and its background, and to make realistic proposals for the activity) by reading texts, conducting surveys, and writing reports.

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅰ

鈴木　悌遍

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域と企業　と「職場における学び」の関係性について学ぶ。
授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。
つぎに会津若松市とランドセル業界の変遷を解説する。2 つの変遷を踏まえた上で、具体的な事例としてランドセル会社羅羅屋による「職場における学び」について学ぶ。
その後ランドセル業界以外の地域企業の事例を示す。
学期後半では学生各位が興味を持った地域企業について調べ、発表、学生同士で議論を行い、理解を深める。
希望者にはランドセル工場見学の実習を行う。

【到達目標】
・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。
・そのために、ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。
・また特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。
・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。
・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう。
毎週提出してもらうリアクションペーパーに対してはできる限り次回の授業までにフィードバックし、また授業内でも取り上げる。
学期末の発表に対しては個々へのフィードバックし、授業内でも講評する。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを学期の講義内容の説明とともに学ぶ。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育 1	企業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域の資源と企業と社会教育 2	地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 4 回	地域の資源と企業と社会教育 3	社会教育の視点から、地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 5 回	地域と企業と社会教育 1	ランドセル会社羅羅屋を素材に、地域の産業の移り変わりと地域の社会教育の変化について学び、議論する。
第 6 回	地域と企業と社会教育 2	地域企業の事例研究 1（地域企業の事例について学び、議論する）
第 7 回	地域と企業と社会教育 3	地域企業の事例研究 2（地域企業の事例について学び、議論する）
第 8 回	地域と企業と社会教育 4	地域企業の事例研究 3（地域企業の事例について学び、議論する）
第 9 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 4（地域企業の事例について学び、議論する）
第 10 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 5（地域企業の事例について学び、議論する）
第 11 回	地域企業と社会教育 1	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 1）
第 12 回	地域企業と社会教育 2	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 2）
第 13 回	地域企業と社会教育 3	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 3）
第 14 回	まとめ	それまでの授業内容を踏まえて、「地域企業と社会教育」の関係、社会教育士・社会教育主事・地域学習コーディネーターの役割を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
準備とは、学期末の発表に向けた時間。復習とは授業内容についての個々の振り返りとリアクションペーパーを書き、提出することである。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業内の発表やコメントペーパー等（80%）、発表用レポート（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
座学のあとにグループワークをおこない、講師の一方的な授業進行は行わない。

【その他の重要事項】
外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を経営。
実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について講義を進める。
講義を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努る。
授業で使用したスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。
提出してもらったリアクションペーパーには可能な限り返信する。

【Outline and objectives】
In this lecture, students will learn about the relationship between local communities, companies and “learning in the workplace”.
The case study is Raraya, which produces Japanese traditional school bag (called “Randoseru”) company in Aizuwakamatsu.
Afterwards, other local companies case studies will be introduced.
In the second half of the semester, students will conduct case studies and make presentations.
Fieldwork will be conducted for those who are interested.

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木　美貴

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりを調べ報告することや、社会教育プログラムを作る作業も行う。また、私たちの暮らしと身近な自然に関係が深い生物多様性条約やラムサール条約の精神と社会教育との関係、日本各地で実践されている自然の恵みを活用した暮らしや地域づくりと、それを支える知恵や技の具体例、交流・力量形成・教育・参加・気づき (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA) の実践例等を取り上げる。

【到達目標】
①人々の暮らしは自然の恵みに依存して成り立っていること、②日本各地には身近な自然を保全しながら暮らしや地域づくりに役立てるための知恵や技 (文化と技術) が数多く蓄積され、現在も発展されていること、③それらをふまえて行われている社会教育実践の実際の姿、④社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力、以上 4 点を理解することが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりについて調べ報告することや、社会教育プログラムを作り、発表・ディスカッションする作業も行う。また、毎回の授業の最後に、授業の感想・質問などを記入して提出する。この内容については、次回の授業の最初に取り上げる。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス、身近な自然を活かした暮らし	授業の内容、進め方、成績評価基準など、この授業について説明する。身近な自然を活かした暮らしについて考える。
第 2 回	私たちの暮らしと自然の恵み	飲み水や海産物・農作物などの食料等、自然の恵みによって、私たちの暮らしが支えられていることを考える。
第 3 回	私たちの暮らしと自然を活かした地域づくり・まちづくり	身近な自然を活かした地域づくり・まちづくりについて、具体例を調べ・報告し、クラス内でディスカッションする。
第 4 回	私たちの暮らしと生物多様性条約・ラムサール条約	暮らしを支える、水田や干潟、湖沼などの「湿地」、多様な生物の保全や活用を支える二つの国際条約とその構造について考える。
第 5 回	二つの条約と「交流・力量形成・教育・参加・気づき」=CEPA	ラムサール条約を中心に、保全や活用を支える CEPA の役割や実際の活動を考える。
第 6 回	CEPA と「社会教育」	二つの条約の CEPA と「環境教育」「持続可能な開発のための教育 (ESD) 」との関係、「社会教育」「生涯教育」との関係を考える。
第 7 回	社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力	社会教育主事や社会教育士に求められる、課題を解決するための学習支援の能力について考え、クラス内でディスカッションする。
第 8 回	自然の恵みの文化① (保全・再生)	新潟の「渇普請」などに即して、保全や再生にかかわる活動を考える。
第 9 回	自然の恵みの文化② (ワイズユース)	「ふゆみずたんぼ米」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる活動を考える。
第 10 回	自然の恵みの文化③ (CEPA)	ふるさと絵屏風やワークショップ等の事例に即して、CEPA にかかわる活動を考える。
第 11 回	これからの社会教育と身近な自然を活かした「地域の活性化」	自然を身近に感じ、地域の活性化につなげるための社会教育について考える。
第 12 回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る①	「生きもの調査」や世代間を結ぶワークショップ等の身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作るための手順を考える。
第 13 回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る②	①で考えた手順に即して、自分が行いたい社会教育プログラムを実際に作る。また、互いのプログラムに評価する手法を考える。
第 14 回	社会教育プログラムの発表会・まとめ	実際に作った社会教育プログラムを発表し、互いに評価し合う。また、授業全体を振り返り、この授業への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自然の恵みと自分との関わりを観察しておくこと。自分にとっての身近な自然を 1 つ探し、そこを活かした地域づくりやまちづくりの事例がないか、調べること。自然にかかわる大人を対象とした社会教育プログラムを作成するため、関心のある事例を調べること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『湿地の文化と技術 33 選〜地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合 2012 年　授業内で配布

【参考書】
生物多様性条約とラムサール条約の本文及び決議、『干潟生物調査ガイドブック〜東日本編』、環境省『日本のラムサール条約湿地』『ラムサール条約湿地とワイズユース』パンフレット等　必要に応じて授業内で配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50%）と作成した社会教育プログラムの発表（50%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝えるようにしている。生物多様性について身近に感じられるよう、ビデオ等を使った授業を行っている。

【Outline and objectives】
Focusing on lectures and videos, we will also investigate and report on community development that makes the most of the nature around us, and create social education programs. Also, biodiversity that is closely related to our lives and the nature around us. The relationship between the spirit of the treaty and the Ramsar treaty and social education, living and community development utilizing the blessings of nature practiced in various parts of Japan, specific examples of wisdom and techniques that support them, and practical examples of CEPA (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness) will be taken up.

法政大学
HOSEI University